平成 25 年第２回定例会会議録

平成２５年　第２回菊池市議会定例会会期日程表（会期１８日間）

月　　日	曜日	区　分	日　　程
６月　７日	金	本 会 議	開会宣告・開議・会議録署名議員の指名・会期の決定・議案上程・提案理由説明
６月　８日	土	休　　会	（市の休日）
６月　９日	日	休　　会	（市の休日）
６月１０日	月	休　　会	議案調査
６月１１日	火	本 会 議	質疑・委員会付託・一般質問
６月１２日	水	本 会 議	一般質問
６月１３日	木	本 会 議	一般質問
６月１４日	金	本 会 議	一般質問
６月１５日	土	休　　会	（市の休日）
６月１６日	日	休　　会	（市の休日）
６月１７日	月	委 員 会	常任委員会　（総務文教　第１委員会室） （福祉厚生　第２委員会室） （経済建設　第４委員会室）
６月１８日	火	委 員 会	
６月１９日	水	委 員 会	常任委員会　（経済建設　第４委員会室）
６月２０日	木	休　　会	議事整理
６月２１日	金	休　　会	議事整理
６月２２日	土	休　　会	（市の休日）
６月２３日	日	休　　会	（市の休日）
６月２４日	月	本 会 議	委員長報告・質疑・討論・採決・閉会宣告

平成２５年　第２回菊池市議会定例会会議録（目次）

６月７日（金曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第１号…… 21
２．本日の会議に付した事件…… 22
３．出席議員氏名…… 24
４．欠席議員氏名…… 25
５．説明のため出席した者の職氏名…… 25
６．事務局職員出席者…… 26
７．開　会…… 27
８．開　議…… 29
９．日程第１　会議録署名議員の指名…… 29
10．日程第２　会期の決定…… 29
11．日程第３　議案第５２号から議案第５７号まで一括上程・説明・質疑・討論・採決…… 30
12．日程第４　議案第５８号から議案第７８号まで一括上程・説明…… 35
13．日程第５　報告第４号から報告第１０号まで一括上程・報告・質疑…… 57
14．日程通告　散会…… 60

６月　８日（土曜日）　休　会
６月　９日（日曜日）　休　会
６月１０日（月曜日）　休　会

６月１１日(火曜日)　本会議　　頁

１．議事日程第２号…… 63
２．本日の会議に付した事件…… 63
３．出席議員氏名…… 63
４．欠席議員氏名…… 64
５．説明のため出席した者の職氏名…… 64
６．事務局職員出席者…… 64
７．開　議…… 65
８．日程第１　質疑…… 65
９．日程第２　委員会付託…… 79
10．日程第３　一般質問…… 81

（１）東　裕人君質問…… 81
「施政方針について」…… 81
○市長　江頭　実君答弁…… 82
東　裕人君再質問…… 84
○市長　江頭　実君答弁…… 85
東　裕人君再々質問…… 87
○市長　江頭　実君答弁…… 88
（２）東　裕人君質問…… 90
「小学校閉校後の地域の課題について」…… 90
○教育長　倉原久義君答弁…… 91
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 91
東　裕人君再質問…… 91
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 93
東　裕人君再々質問…… 94
○市長　江頭　実君答弁…… 94
昼食休憩…… 96
開　議…… 96
（１）怒留湯健蓉さん質問…… 96
「市長の政治姿勢について」…… 96
○市長　江頭　実君答弁…… 97
怒留湯健蓉さん再質問…… 99
○市長　江頭　実君答弁…… 100
怒留湯健蓉さん再々質問…… 100
○市長　江頭　実君答弁…… 101
（２）怒留湯健蓉さん質問…… 102
「前市政の評価とその継承について」…… 102
○市長　江頭　実君答弁…… 103
怒留湯健蓉さん再質問…… 105
○市長　江頭　実君答弁…… 105
怒留湯健蓉さん再々質問…… 107
○市長　江頭　実君答弁…… 108
（３）怒留湯健蓉さん質問…… 110
「障害者総合支援法と子ども・子育て関連三法の成立を受けて」…… 110
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 110

怒留湯健蓉さん再質問…… 111
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 112
怒留湯健蓉さん再々質問…… 113
○市長　江頭　実君答弁…… 113
休　憩…… 114
開　議…… 114
（１）荒木崇之君質問…… 114
「市議会議員の税情報の開示について」…… 114
○市長　江頭　実君答弁…… 116
荒木崇之君再質問…… 117
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 118
休　憩…… 118
開　議…… 118
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 119
荒木崇之君再々質問…… 119
○市長　江頭　実君答弁…… 120
（２）荒木崇之君質問…… 121
「女性職員の昇進について」…… 121
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 122
荒木崇之君再質問…… 122
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 122
荒木崇之君再々質問…… 123
○市長　江頭　実君答弁…… 124
（３）荒木崇之君質問…… 125
「泗水図書館の開館時間の延長について」…… 125
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 126
荒木崇之君再質問…… 126
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 126
荒木崇之君再々質問…… 127
○市長　江頭　実君答弁…… 127
休　憩…… 130
開　議…… 130
（１）工藤圭一郎君質問…… 130
「教育行政について」…… 130

○教育部長　中村鉄男君答弁…… 131
工藤圭一郎君再質問…… 132
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 133
（２）工藤圭一郎君質問…… 134
「行政運営について」…… 134
○市長　江頭　実君答弁…… 136
工藤圭一郎君再質問…… 138
○市長　江頭　実君答弁…… 139
（３）工藤圭一郎君質問…… 140
「施政方針について」…… 141
○市長　江頭　実君答弁…… 141
11．日程通告　散会…… 145

６月１２日（水曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第３号…… 149
２．本日の会議に付した事件…… 149
３．出席議員氏名…… 149
４．欠席議員氏名…… 150
５．説明のため出席した者の職氏名…… 150
６．事務局職員出席者…… 150
７．開　議…… 151
８．日程第１　一般質問…… 151
（１）泉田栄一朗君質問…… 151
「生活保護受給者の自立支援について」…… 151
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 152
泉田栄一朗君再質問…… 152
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 152
泉田栄一朗君再々質問…… 153
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 154
（２）泉田栄一朗君質問…… 154
「小学校の農業教育について」…… 154
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 155
泉田栄一朗君再質問…… 155
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 156

泉田栄一朗君再々質問…… 157
○市長　江頭　実君答弁…… 157
（３）泉田栄一朗君質問…… 159
「各種事業の進捗状況について」…… 159
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 160
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 161
泉田栄一朗君再質問…… 161
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 162
○市長　江頭　実君答弁…… 163
泉田栄一朗君再々質問…… 163
○市長　江頭　実君答弁…… 164
（４）泉田栄一朗君質問…… 165
「施政方針について」…… 165
○市長　江頭　実君答弁…… 165
休　憩…… 167
開　議…… 167
（１）中山繁雄君質問…… 167
「人・農地プランについて」…… 167
○経済部長　平野國臣君答弁…… 167
中山繁雄君再質問…… 169
○経済部長　平野國臣君答弁…… 169
（２）中山繁雄君質問…… 170
「生活保護行政について」…… 170
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 170
（３）中山繁雄君質問…… 171
「企業誘致について」…… 171
○経済部長　平野國臣君答弁…… 172
中山繁雄君再質問…… 173
○市長　江頭　実君答弁…… 174
（４）中山繁雄君質問…… 175
「合併浄化槽について」…… 175
○建設部長　松野浩一君答弁…… 176
昼食休憩…… 176
開　議…… 177

（１）大賀慶一君質問…… 177
「生活保護受給者対策について」…… 177
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 178
大賀慶一君再質問…… 179
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 181
大賀慶一君再々質問…… 182
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 183
○市長　江頭　実君答弁…… 183
（２）大賀慶一君質問…… 184
「施政方針について」…… 184
○市長　江頭　実君答弁…… 184
大賀慶一君再質問…… 185
○市長　江頭　実君答弁…… 187
大賀慶一君再々質問…… 188
○市長　江頭　実君答弁…… 189
休　憩…… 190
開　議…… 190
（１）中原　繁君質問…… 190
「政治姿勢について」…… 190
○市長　江頭　実君答弁…… 191
（１）城　典臣君質問…… 193
「施政方針について」…… 193
○市長　江頭　実君答弁…… 195
（２）城　典臣君質問…… 197
「子どもの医療費について」…… 197
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 198
城　典臣君再質問…… 199
○市長　江頭　実君答弁…… 199
（３）城　典臣君質問…… 200
「小学校跡地利用について」…… 200
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 201
○建設部長　松野浩一君答弁…… 202
城　典臣君再質問…… 202
○市長　江頭　実君答弁…… 203

休　憩…… 204
開　議…… 204
（１）隈部忠宗君質問…… 204
「本市のグランドデザインについて」…… 205
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 206
隈部忠宗君再質問…… 206
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 207
隈部忠宗君再々質問…… 208
○市長　江頭　実君答弁…… 208
（２）隈部忠宗君質問…… 209
「農業の活性化について」…… 209
○経済部長　平野國臣君答弁…… 210
隈部忠宗君再質問…… 210
○経済部長　平野國臣君答弁…… 211
隈部忠宗君再々質問…… 212
○経済部長　平野國臣君答弁…… 212
○市長　江頭　実君答弁…… 213
（３）隈部忠宗君質問…… 214
「本市の歴史をどのように活用するか」…… 214
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 214
隈部忠宗君再質問…… 215
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 215
隈部忠宗君再々質問…… 215
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 216
○市長　江頭　実君発言の申し出について…… 216
９．日程通告　散会…… 217

６月１３日（木曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第４号…… 221
２．本日の会議に付した事件…… 221
３．出席議員氏名…… 221
４．欠席議員氏名…… 222
５．説明のため出席した者の職氏名…… 222
６．事務局職員出席者…… 222

７．開　議…… 223
８．日程第１　一般質問…… 223
（１）坂井正次君質問…… 223
「新市建設計画について」…… 223
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 224
○市長　江頭　実君答弁…… 224
坂井正次君再質問…… 225
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 226
坂井正次君再々質問…… 227
○市長　江頭　実君答弁…… 227
（２）坂井正次君質問…… 228
「庁舎の基本構想・基本計画について」…… 228
○市長　江頭　実君答弁…… 230
坂井正次君再質問…… 231
動議提出…… 231
休　憩…… 232
開　議…… 232
○市長　江頭　実君答弁…… 233
（３）坂井正次君質問…… 233
「日本一づくり構想について」…… 233
○市長　江頭　実君答弁…… 234
（４）坂井正次君質問…… 235
「児童の安全について」…… 235
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 235
（５）坂井正次君質問…… 236
「償却資産税について」…… 236
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 236
坂井正次君再質問…… 236
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 237
（６）坂井正次君質問…… 237
「施政方針について」…… 237
○市長　江頭　実君答弁…… 237
昼食休憩…… 239
開　議…… 239

（１）樋口正博君質問…… 239
「庁舎整備基本計画について」…… 239
○市長　江頭　実君答弁…… 240
（２）樋口正博君質問…… 241
「新市建設計画について」 …… 242
○市長　江頭　実君答弁…… 243
（３）樋口正博君質問…… 243
「企業誘致について」…… 244
○市長　江頭　実君答弁…… 245
（４）樋口正博君質問…… 247
「施政方針について」…… 247
○市長　江頭　実君答弁…… 249
休　憩…… 251
開　議…… 251
（１）岡﨑俊裕君質問…… 251
「施政方針について」…… 252
○市長　江頭　実君答弁…… 253
岡﨑俊裕君再質問…… 254
○市長　江頭　実君答弁…… 254
（２）岡﨑俊裕君質問…… 255
「県営花房中部畑地帯総合整備事業（担い手育成型）について」…… 255
○経済部長　平野國臣君答弁…… 256
○市長　江頭　実君答弁…… 256
岡﨑俊裕君再質問…… 257
○経済部長　平野國臣君答弁…… 258
○市長　江頭　実君答弁…… 258
岡﨑俊裕君再々質問…… 258
○市長　江頭　実君答弁…… 259
（１）坂本昭信君質問…… 259
「菊池テクノパークについて」…… 259
○経済部長　平野國臣君答弁…… 259
（２）坂本昭信君質問…… 260
「災害復旧について」…… 260
○建設部長　松野浩一君答弁…… 260

（３）坂本昭信君質問…… 260
「施政方針について」…… 260
○市長　江頭　実君答弁…… 261
坂本昭信君再質問…… 262
○市長　江頭　実君答弁…… 262
休　憩…… 264
開　議…… 264
○坂本昭信君発言の申し出について…… 264
（１）葛原勇次郎君質問…… 264
「施政方針について」…… 264
○経済部長　平野國臣君答弁…… 265
○市長　江頭　実君答弁…… 266
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 267
葛原勇次郎君再質問…… 267
○市長　江頭　実君答弁…… 269
（１）森　清孝君質問…… 271
「自治公民館について」…… 271
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 271
森　清孝君再質問…… 272
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 273
森　清孝君再々質問…… 274
○市長　江頭　実君答弁…… 274
（２）森　清孝君質問…… 275
「ゴミ処理について」…… 275
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 276
（３）森　清孝君質問…… 277
「施政方針について」…… 277
○経済部長　平野國臣君答弁…… 279
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 279
森　清孝君再質問…… 280
○市長　江頭　実君答弁…… 282
９．日程通告　散会…… 283

６月１４日（金曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第５号…… 287
２．本日の会議に付した事件…… 287
３．出席議員氏名…… 287
４．欠席議員氏名…… 288
５．説明のため出席した者の職氏名…… 288
６．事務局職員出席者…… 288
７．開　議…… 290
８．日程第１　一般質問…… 290
（１）柁原賢一君質問…… 290
「街づくりについて」…… 291
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 291
○経済部長　平野國臣君答弁…… 292
柁原賢一君再質問…… 293
○市長　江頭　実君答弁…… 294
（２）柁原賢一君質問…… 295
「ＴＰＰの菊池市に及ぼす影響について」…… 296
○経済部長　平野國臣君答弁…… 296
柁原賢一君再質問…… 297
○健康福祉部長　宮本誠一君答弁…… 297
柁原賢一君再々質問…… 298
○市長　江頭　実君答弁…… 299
休　憩…… 300
開　議…… 300
（１）水上彰澄君質問…… 300
「ＴＰＰについて」…… 301
○市長　江頭　実君答弁…… 302
（２）水上彰澄君質問…… 302
「下水道事業について」…… 302
○建設部長　松野浩一君答弁…… 303
（３）水上彰澄君質問…… 303
「庁舎について」…… 303
○市長　江頭　実君答弁…… 304
（４）水上彰澄君質問…… 304
「堆肥舎について」…… 304

○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 305
水上彰澄君再質問…… 306
○市長　江頭　実君答弁…… 306
昼食休憩…… 306
開　議…… 306
（１）森　隆博君質問…… 306
「菊池市安心・安全宣言の取組状況について」…… 306
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 307
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 308
森　隆博君再質問…… 309
○教育長　倉原久義君答弁…… 310
○市民環境部長　下田俊一君答弁…… 311
（２）森　隆博君質問…… 312
「菊池市機構改革について」…… 312
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 313
○市長　江頭　実君答弁…… 313
（３）森　隆博君質問…… 315
「施政方針について」…… 316
○市長　江頭　実君答弁…… 318
休　憩…… 319
開　議…… 319
（１）木下雄二君質問…… 319
「道路整備について」…… 320
○建設部長　松野浩一君答弁…… 320
（２）木下雄二君質問…… 321
「農業振興について」…… 321
○経済部長　平野國臣君答弁…… 321
木下雄二君再質問…… 322
○市長　江頭　実君答弁…… 322
（３）木下雄二君質問…… 323
「職員研修について」…… 323
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 324
木下雄二君再質問…… 324
○市長　江頭　実君答弁…… 324

（４）木下雄二君質問…… 325
「小川基金について」…… 325
○教育部長　中村鉄男君答弁…… 326
○市長　江頭　実君答弁…… 326
（５）木下雄二君質問…… 327
「小水力発電について」…… 327
○市長　江頭　実君答弁…… 328
（６）木下雄二君質問…… 329
「ポケットパーク足湯について」…… 329
○市長　江頭　実君答弁…… 330
（７）木下雄二君質問…… 331
「環境問題について」…… 331
○市長　江頭　実君答弁…… 331
休　憩…… 332
開　議…… 333
（１）東　英俊君質問…… 333
「施政方針について」…… 334
○経済部長　平野國臣君答弁…… 335
○市長　江頭　実君答弁…… 336
○教育長　倉原久義君答弁…… 337
○建設部長　松野浩一君答弁…… 339
東　英俊君再質問…… 340
○市長　江頭　実君答弁…… 342
○教育長　倉原久義君答弁…… 344
（２）東　英俊君質問…… 344
「庁舎建設について」…… 344
○市長　江頭　実君答弁…… 345
（３）東　英俊君質問…… 346
「公務員倫理規定について」…… 346
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 346
東　英俊君再質問…… 347
○総務企画部長　野口祐成君答弁…… 347
○市長　江頭　実君答弁…… 347
９．日程第２　議案第７９号及び議案第８０号まで一括上程・説明・質疑・

委員会付託…… 348
10. 日程通告　散会…… 353

６月１５日（土曜日）　休　会
６月１６日（日曜日）　休　会
６月１７日（月曜日）　常任委員会（総務文教・福祉厚生・経済建設）
６月１８日（火曜日）　常任委員会（総務文教・福祉厚生・経済建設）
６月１９日（水曜日）　常任委員会（経済建設）
６月２０日（木曜日）　休　会
６月２１日（金曜日）　休　会
６月２２日（土曜日）　休　会
６月２３日（日曜日）　休　会

６月２４日（月曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第６号…… 357
２．本日の会議に付した事件…… 358
３．出席議員氏名…… 359
４．欠席議員氏名…… 359
５．説明のため出席した者の職氏名…… 359
６．事務局職員出席者…… 360
７．開　議…… 361
８．日程第１　各常任委員長報告…… 361
・総務文教常任委員長報告…… 361
・福祉厚生常任委員長報告…… 366
・経済建設常任委員長報告…… 369
委員長報告に対する質疑…… 372
討　論…… 374
（１）東　裕人君討論…… 374
（２）怒留湯健蓉さん討論…… 376
（３）森　隆博君討論…… 379
（４）怒留湯健蓉さん討論…… 379
（５）荒木崇之君討論…… 381
（６）東　裕人君討論…… 381
（７）工藤圭一郎君討論…… 382

（８）森　清孝君討論…… 382
採　決…… 383
休　憩…… 383
開　議…… 383
９．日程第２　議事第５号　選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙…… 383
10．日程第３　議案第８１号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 384
11．日程第４　議案第８２号から議案第８４号まで一括上程・説明・質疑・討論
・採決…… 386
12．日程第５　議案第８５号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 388
13．日程第６　議案第８６号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 389
休　憩…… 390
開　議…… 390
休　憩…… 391
開　議…… 391
14．日程第７　議案第８７号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 392
15．日程第８　議案第８８号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 393
16．日程第９　報告第１１号から報告第１８号まで一括上程・報告…… 395
17．委員会の閉会中の継続審査並びに調査について…… 402
18．追加議事日程（第６号の追加１）…… 403
日程第１　議員提出議案第２号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 403
休　憩…… 412
開　議…… 412
日程第２　意見書案第２号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 413
日程第３　報告第１９号　上程・報告・質疑…… 414
19．閉　会…… 415

第　１　号

６ 月 ７ 日

平成２５年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第１号

平成２５年６月７日（金曜日）午前１０時開議

第１　　会議録署名議員の指名

第２　　会期の決定

第３　　議案第５２号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（平成２４年度菊池市一般会計補正予算　第１１号）

議案第５３号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（平成２４年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算　第３号）

議案第５４号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（平成２４年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算　第５号）

議案第５５号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市税条例の一部を改正する条例）

議案第５６号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）

議案第５７号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（和解及び損害賠償額の決定について）

一括上程・説明・質疑・討論・採決

第４　　議案第５８号　菊池市長等の給与の特例に関する条例の制定について

議案第５９号　菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について

議案第６０号　菊池市総合計画策定条例の制定について

議案第６１号　菊池市総合計画外部評価委員会条例の制定について

議案第６２号　菊池市庁舎等整備市民検討委員会条例の制定について

議案第６３号　菊池市特定用途制限地域における建築物等の制限に関する条例の制定について

議案第６４号　菊池市行政、文化、教育拠点特別用途地区建築条例の制定について

議案第６５号　特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第６６号　菊池市ひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第６７号　菊池市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第６８号　菊池市立体育館条例及び菊池市営グラウンド条例の一部を改正する条例の制定について
議案第６９号　平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）
議案第７０号　平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第１号）
議案第７１号　平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号）
議案第７２号　平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）
議案第７３号　平成２５年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）
議案第７４号　平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号）
議案第７５号　平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）
議案第７６号　平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）
議案第７７号　平成２５年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）
議案第７８号　財産の譲渡について
一括上程・説明

第５　報告第　４号　繰越明許費繰越計算書について
報告第　５号　継続費繰越計算書について
報告第　６号　専決処分の報告について（公用車車両事故）
報告第　７号　専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）
報告第　８号　専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）
報告第　９号　専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）
報告第１０号　専決処分の報告について（市道管理瑕疵）
一括上程・報告・質疑

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

第１　会議録署名議員の指名
第２　会期の決定
第３　議案第５２号　専決処分の報告及び承認を求めることについて

（平成２４年度菊池市一般会計補正予算　第１１号）

議案第５３号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（平成２４年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算　第３号）

議案第５４号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（平成２４年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算　第５号）

議案第５５号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市税条例の一部を改正する条例）

議案第５６号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）

議案第５７号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（和解及び損害賠償額の決定について）

一括上程・説明・質疑・討論・採決

第４　議案第５８号　菊池市長等の給与の特例に関する条例の制定について

議案第５９号　菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について

議案第６０号　菊池市総合計画策定条例の制定について

議案第６１号　菊池市総合計画外部評価委員会条例の制定について

議案第６２号　菊池市庁舎等整備市民検討委員会条例の制定について

議案第６３号　菊池市特定用途制限地域における建築物等の制限に関する条例の制定について

議案第６４号　菊池市行政、文化、教育拠点特別用途地区建築条例の制定について

議案第６５号　特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第６６号　菊池市ひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第６７号　菊池市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第６８号　菊池市立体育館条例及び菊池市営グラウンド条例の一部を改正する条例の制定について

議案第６９号　平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）

議案第７０号　平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第１号）

議案第７１号　平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号）

議案第７２号　平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算(第１号)
議案第７３号　平成２５年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）
議案第７４号　平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号）
議案第７５号　平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）
議案第７６号　平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）
議案第７７号　平成２５年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）
議案第７８号　財産の譲渡について
一括上程・説明

第５　報告第　４号　繰越明許費繰越計算書について
報告第　５号　継続費繰越計算書について
報告第　６号　専決処分の報告について（公用車車両事故）
報告第　７号　専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）
報告第　８号　専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）
報告第　９号　専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）
報告第１０号　専決処分の報告について（市道管理瑕疵）
一括上程・報告・質疑

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒木	崇之 君
２番	柁原	賢一 君
３番	工藤	圭一郎 君
４番	城	典臣 君
５番	大賀	慶一 君
６番	岡﨑	俊裕 君
７番	水上	彰澄 君
８番	東	英俊 君
９番	東	裕人 君
１０番	泉田	栄一朗 君
１１番	森	清孝 君
１２番	中原	繁 君

１３番	樋　口　正　博　君
１４番	中　山　繁　雄　君
１５番	怒留湯　健　蓉　さん
１６番	坂　本　昭　信　君
１７番	隈　部　忠　宗　君
１８番	葛　原　勇次郎　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	坂　井　正　次　君
２１番	森　　隆　博　君
２２番	山　瀬　義　也　君
２３番	境　　和　則　君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――○―――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江　頭　　実　君
副市長	永　田　明　紘　君
総務企画部長	野　口　祐　成　君
市民環境部長	下　田　俊　一　君
健康福祉部長	宮　本　誠　一　君
経済部長	平　野　國　臣　君
建設部長	松　野　浩　一　君
総務企画部統括審議員	西　浦　一　義　君
七城総合支所長	岩　下　利　昭　君
旭志総合支所長	水　上　菊　也　君
泗水総合支所長	松　岡　千　利　君
財政課長	小　川　秀　臣　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	伊　藤　道　俊　君
市長公室長	倉　原　良　則　君
教育長	倉　原　久　義　君
教育部長	中　村　鉄　男　君
農業委員会事務局長	松　永　隆　則　君
水道局長	原　　和　徳　君
監査事務局長	宮　村　公　男　君

―――――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――――

事務局職員出席者

事務局長	城　主一君
議事課長	宮川啓子さん
総務審議員	徳永裕治君
議会係	吉里文子さん

○議長（山瀬義也君）　全員起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開会

○議長（山瀬義也君）　ただいまの出席議員は２３名です。定足数に達していますので、ただいまから平成２５年第２回菊池市議会定例会を開会します。

ここで、日程に先立ちまして諸般の報告をいたします。

去る４月４日に第２５１回熊本県市議会議長会が阿蘇市で開催されました。会務の報告及び九州議長会の提出議案に、水俣市提出の国民健康保険財政の健全化について、熊本市提出の中九州地域の交通網の整備促進について、上天草市提出の自治体病院の医師確保対策及び財政支援措置の充実強化については、全会一致で採択をされました。

また、４月２５日に鹿児島市で九州市議会議長会理事会、第８８回九州市議会議長会定期総会、５月２１日には第４２回全国温泉所在都市議会議長会総会、第２５２回熊本県市議会議長会、２２日は第８９回全国市議会議長会定期総会が、それぞれ東京都において開催されました。その概要は、事務局備え付けの書類によりご承諾いただきたいと思います。

次に、監査委員から、平成２５年２月から４月分の一般会計、特別会計並びに企業会計に関する例月出納検査報告があっておりますので、ご報告いたします。なお、詳細については、事務局に備え付けの書類によりご承諾をいただきたいと思います。

ここで、５月２２日に開催されました、第８９回全国市議会議長会定期総会において、中原繁君が市議会議員として２０年、坂本昭信君、中山繁雄君が市議会議員として１０年、それぞれ市政の発展に務められた、その功績に対し、全国市議会議長会より表彰の栄に浴くされました。心からお喜びを申し上げます。

ただいまから、表彰状の伝達を行います。受賞者の方々は前にお進みください。

表彰状

菊池市

中原　繁殿

あなたは市議会議員として二十年の長きにわたって市政の発展に尽くされその功績は特に著しいものがありますので第八十九回定期総会にあたり本会表彰規程によって特別表彰をいたします

平成二十五年五月二十二日

全国市議会議長会

会長　佐藤　祐文

表彰状

菊池市

坂本　昭信殿

あなたは市議会議員として十年市政の振興に努められその功績は著しいものがありますので第八十九回定期総会にあたり本会表彰規程により表彰いたします

平成二十五年五月二十二日

全国市議会議長会

会長　佐藤　祐文

表彰状

菊池市

中山　繁雄殿

あなたは市議会議員として十年市政の振興に努められその功績は著しいものがありますので第八十九回定期総会にあたり本会表彰規程により表彰いたします

平成二十五年五月二十二日

全国市議会議長会

会長　佐藤　祐文

○議長（山瀬義也君）　ここで、都合により、副議長と交代します。

○副議長（隈部忠宗君）　九州市議会議長会定期総会におきまして、山瀬議長が九州市議会議長会理事として、会務運営の重責にあられました。その功績に対しまして、九州市議会議長会より、感謝状を授与されました。伝達をいたしますので、議長は前にお進みください。

感謝状

山瀬　義也殿

あなたは九州市議会議長会理事として会務運営の重責にあたられその使命達成に尽くされた功績は誠に顕著なものがありますよって第八十八回定期総会にあたり深甚なる感謝の意を表します

平成二十五年四月二十五日

九州市議会議長会

会長　仮屋　秀一

○副議長（隈部忠宗君）　誠におめでとうございました。

ここで、議長と代わります。

○議長（山瀬義也君）　受賞されました皆さんには、本席から重ねてお祝いを申し上げます。誠におめでとうございました。

以上で、諸般の報告を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

午前１０時０９分　開議

○議長（山瀬義也君）　これから、本日の会議を開きます。本日の議事日程は、お手元に配布のとおりです。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（山瀬義也君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第８１条の規定により、水上彰澄君及び東英俊君を指名します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第２　会期の決定

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第２、会期の決定についてを議題とします。お諮りします。本定例会の会期につきましては、去る５月３１日の議会運営委員会におきまして、本日から６月２４日までの１８日間とすることに結論をみておりますが、

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって会期は、本日から６月２４日までの１８日間と決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第３　議案第５２号から議案第５７号まで

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第３、議案第５２号から議案第５７号までを一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　おはようございます。江頭実でございます。

私は、このたびの市長選挙におきまして、市民の皆様をはじめ各方面の方々からの力強いご支援とご支持をいただき、市政を担当させていただくこととなりました。本日、市長として市議会議員の皆様、市民の皆様に、初めての議会に際してのご挨拶を申し上げできますことは、まことに光栄であり、大きな喜びであるとともに、改めてその責務の重大さを痛感しているところでございます。よろしくご指導、ご協力のほどお願い申し上げます。

さて本日、平成２５年第２回菊池市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、本会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。本定例会の会期につきましては、先ほどご決定いただきましたように、本日から６月２４日までの１８日間の日程でご審議をお願いするものでございます。よろしくお願いいたします。

はじめに、先ほど全国市議会議長会より、永年勤続表彰の栄に浴されました中原繁議員、坂本昭信議員、中山繁雄議員に対しまして、心から敬意を表し、お祝いを申し上げます。また、山瀬義也議長におかれましては、九州市議会議長会からの感謝状が贈呈されましたことに、重ねてお祝いを申し上げます。今後ともぜひ健康にご留意いただきまして、ますますのご活躍を期待するものでございます。

まずは、ただいま上程されました議案第５２号から議案第５７号につきまして、ご説明申し上げることといたしまして、私の市政運営にあたっての所信につきましては、後ほど述べさせていただきたいと思っております。

それでは、議案第５２号から議案第５７号について、ご説明申し上げます。議案第５２号から議案第５７号につきましては、地方自治法第１７９条の規定に基づき専決処分いたしましたので、報告し、承認を求めるものでございます。

内容の詳細につきましては、総務企画部長が説明をいたしますので、慎重ご審議

の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　おはようございます。

それでは、議案第５２号から議案第５７号までの専決処分、６議案につきまして、一括してご説明をいたします。

専決処分の報告及び承認を求めることについてでございます。提案理由といたしまして、地方自治法第１７９条第１項の規定に基づき、専決処分を行いましたので、同条第３項の規定により、議会に報告し、承認を求めるものでございます。

４ページをお開きください。議案第５２号、平成２４年度菊池市一般会計補正予算（第１１号）でございます。専決日は、平成２５年３月２９日でございます。今回の補正は、予算総額から１億２，７２６万５，０００円を減額し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ２７４億５，２８５万６，０００円とするものでございます。

まず、歳入につきましては事項別明細により、主なものをご説明いたします。

１２ページ、１３ページをお開きください。款１市税、項１市民税、目１個人、節１現年課税分の６，９１２万８，０００円の減額は、普通徴収分の最終見込み額が予算額より下回りますので、今回減額するものでございます。款２地方譲与税及び款３利子割交付金、款６地方消費税交付金、款７ゴルフ場利用税交付金、款８自動車取得税交付金、款１０地方交付税につきましては、平成２４年度の交付額の決定に伴う補正でございます。

１４ページ、１５ページをお開きください。款１４国庫支出金、項１国庫負担金、目３民生費国庫負担金、節３児童福祉負担金の４，４７２万７，０００円の増額及び項２国庫補助金、目２総務費国庫補助金、節１総務管理費補助金の４，９８１万円の減額につきましては、事業費の確定に伴い予算の調整を行うものございます。

１６ページ、１７ページをお開きください。款１８繰入金、項３基金繰入金、目１財政調整基金繰入金の３億２，３６４万２，０００円の減額及び款２１市債につきましては、各事業費が確定したことに伴い財源調整を行うものでございます。

次に、歳出について、事項別明細により、主なものをご説明いたします。

１８ページ、１９ページをお開きください。款３民生費、項１社会福祉費、目１社会福祉総務費、節２８繰出金の１億４，９５２万５，０００円の減額は、国民健康保険事業特別会計の補正に伴う繰出金の減額によるものでございます。款４衛生費、項１保健衛生費、目４環境衛生総務費、節２８繰出金の２，３３１万５，０００円の増額につきましては、簡易水道事業等特別会計の国庫補助対象事業費確定に伴う財源不足額の繰り出しによるものでございます。

戻っていただきまして、８ページをお開きください。第２表、繰越明許費の追加でございます。伊坂小ヶ原線道路改良工事につきましては、相続登記及び抵当権抹消等において、関係機関との調整に不測の日数を要するため、繰り越すものでございます。

次に、第３表、地方債の変更につきましては、今回の補正により、補正後の限度額を４３億９，９００万円とするものでございます。

以上、議案第５２号の説明とさせていただきます。

次に、２８ページをお開きください。議案第５３号、平成２４年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）でございます。専決日は、平成２５年３月２９日でございます。今回の補正は、予算の総額から１億２，８９７万９，０００円を減額し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ６８億９，００６万８，０００円とするものでございます。

まず、歳入につきまして、事項別明細により主なものをご説明いたします。

３６ページ、３７ページをお開きください。款３国庫支出金及び款４療養給付費交付金につきましては、平成２４年度の交付額が確定したことにより補正を行うものでございます。

３８、３９ページをお開きください。款６県支出金につきましては、平成２４年の交付額が確定したことによるものでございます。款９繰入金、項１他会計繰入金、目１一般会計繰入金、節７国保財政調整繰入金の１億３，８３８万９，０００円の減額は国・県からの交付金等の増額により、法定外で繰入金が不要となったことによる減額でございます。款９繰入金、項２基金繰入金、目１財政調整基金繰入金の４，３１４万円の減額は、医療費等の支出額が少なかったことにより、基金からの繰入を減額するものでございます。

次に、歳出について、事項別明細により主なものをご説明いたします。

４０ページ、４１ページをお願いいたします。款２保険給付費、項１療養諸費、目１一般被保険者療養給付費、及び目２退職被保険者等療養給付費の節１９負担金補助及び交付金の合計額８，５９８万５，０００円の減額は、インフルエンザ等の流行がなく、医療費が見込みより少額となったことによるものでございます。

４２ページ、４３ページをお開きください。款２保険給付費、項４出産育児諸費、目１出産育児一時金、節１９負担金補助及び交付金の５１７万７，０００円の減額は、出産件数が見込みより少なかったことによるものでございます。

以上、議案第５３号の説明とさせていただきます。

５２ページをお開きください。議案第５４号、平成２４年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第５号）でございます。専決日は、平成２５年３月２９日で

ございます。今回の補正は、予算の総額から３２０万８，０００円を減額し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ３億８，３３１万６，０００円とするものでございます。

次に、５８、５９ページをお開きください。歳入及び歳出につきましては、それぞれ九州北部地区簡易水道建設事業費及び簡易水道施設災害復旧事業費が確定したことにより補正を行うものでございます。

５４ページをお願いいたします。地方債補正につきましては、旭志北部地区簡易水道建設事業費が確定したことにより、補正後の限度額を１億４，９８０万円とするものでございます。

以上、議案第５４号の説明とさせていただきます。

次に、６１ページをお開きください。議案第５５号、専決処分の報告及び承認を求めることについてでございます

開けていただきまして、６２ページが専決処分書でございます。専決第６号、菊池市税条例の一部を改正する条例。専決日は平成２５年４月１日でございます。

内容につきましては、６３ページから６６ページをご覧ください。地方税法の一部改正により、菊池市税条例の一部を次のように改正するというものでございます。

それでは、別冊の新旧対照表、１ページから１４ページでございます。下線部分が改正箇所でございます。主な改正内容といたしましては、住宅ローンの控除対象期間を平成２６年１月１日から平成２９年末まで４年間延長、その期間のうち平成２６年４月１日ら平成２９年末までに住宅を取得した場合の控除限度額を所得税の課税総所得金額等の現行５％、最高９万７，５００円を７％、最高１３万６，５００円に拡充するものでございます。そのほか、ふるさと寄附金に係る寄附金税額控除の見直しとして、地方公共団体に対する寄附金のうち２，０００円を超える額について、個人住民税、所得税及び復興特別所得税を合わせて一定限度まで全額を控除することができるよう平成２６年度からの各年度分の個人住民税に係る寄附金税額控除の特別控除額を復興特別所得税の軽減分だけ縮減されるものでございます。

議案書の６６ページにお戻りください。附則にありますとおり、条例の施行日は平成２５年４月１日となっております。ただし、下記の各号に上げる規定は、各当該各号に定める日から施行することとなっております。

以上、議案第５５号の説明とさせていただきます。

次に、６７ページをお開きください。議案第５６号、専決処分の報告及び承認を求めることについてでございます。

開けていただきまして、６８ページが専決処分書でございます。専決第７号、菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例。専決日は平成２５年４月１日でご

ざいます。

内容につきましては、６９ページをご覧ください。菊池市国民健康保険税条例の一部を次のように改正するもので、このたびの改正理由といたしましては、地方税法の一部改正に伴うものでございます。

それでは、別冊の新旧対照表の１５ページから１９ページをお開きください。主な改正内容といたしましては、国民健康保険者であった者が国民健康保険から後期高齢者医療制度に移行する場合について、国民健康保険税の軽減判定所得の算定の特例期間を延長するものでございます。また、特定世帯に係る世帯別平均割額を、最初の５年間、２分の１減額する現行措置に加え、その後３年間、４分の１を減額する措置を講ずるものでございます。

議案書の６９ページにお戻りください。附則にありますとおり、条例の施行日は平成２５年４月１日となっております。ただし、附則第２２項の改正規定は、平２６年１月１日から施行することとなっております。

以上、議案第５６号の説明とさせていただきます。

次に、７１ページをお開きください。議案第５７号、専決処分の報告及び承認を求めることについてでございます。

開けていただきまして、７２ページが専決処分書でございます。専決第１１号、盗難事件に係る和解及び損害賠償額の決定について。専決日は平成２５年４月９日でございます。事件発生日は平成２４年９月８日、相手方及び事件の概要、決定事項は記載のとおりでございます。損害賠償の額は、３万８，０４３円でございます。

以上、議案第５２号から議案第５７号の説明とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で議案の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第５２号から議案第５７号までの６議案については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより、採決します。採決は一括して行います。

議案第５２号から議案第５７号までの６案件については、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、以上の６案件については、原案のとおり承認することに決定しました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第４　議案第５８号から議案第７８号まで

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第４、議案第５８号から議案第７８号までを一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、ただいま上程されました議案第５８号から議案第７８号の提案理由の説明を申し上げますが､本日は私の初めての議会でありますので、提案理由の説明に先立ちまして、まず私の市政運営の基礎となる所信並びに施政方針を述べさせていただきます。

まず、私たちの生活を取り巻く状況を振り返りますと、世界経済の先行きは依然として不透明な情勢ながら、一時期の危機的な状況は和らぎまして、回復に向かい始めております。しかし、国によってはバラつきが生じ、回復のスピードは三極化しつつあり、特に欧州の回復が遅れている状況にあります。このような状況のもとで、平成２４年１２月に発足した安倍内閣は、日本経済再生に向けた緊急経済対策を策定し、日本経済再生に向けて大胆な金融政策、機動的な財政政策、そして民間投資を喚起する成長戦略のいわゆる三本の矢により、長引く円高、デフレ不況から脱却し、雇用や所得の拡大を目指す政策を打ち出しました。現在、これらの取り組みにより為替相場での円安傾向、株価上昇など、デフレ脱却への兆しが現れつつあります。しかし、その一方で物価上昇だけが先行し、所得水準が低いまま国民生活の改善に繋がらないのではないかという懸念もささやかれております。

こうした情勢下、地方を取り巻く環境は経済の低迷、人口の減少、少子高齢化などに歯止めがかからず、依然として厳しい状況にございます。一方で、地方分権の流れの中で、地方自治体には地域の特性を生かした創意工夫と、自らの地域を自らの手で持続可能に経営していくということが強く求められております。こうした中、私は去る４月１４日の市長選挙におきまして、多くの市民の皆様のご支持を得て市長に当選させていただきました。菊池に新しい風を起こすという熱い思いを胸に、

市民の皆様、議会の皆様とともに新しいまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

それでは、次に私の菊池市の将来ビジョンに関する所信を述べさせていただきます。

まず、世界の大きな潮流として、人々の価値観が変わり、今や自然というものが最も価値を生み出す時代を迎えております。菊池市は素晴らしい自然の素材がたくさんある宝の山ですが、この宝の山がこれまで上手く生かしきれておりません。菊池の自然力を活かして、そこに企業的な経営方法や新しい考え方と発想を盛り込んで、菊池市自体を魅力的な商品にしていくのです。こうした考えを基本に、菊池市の自然の恵みを守り、自然を活かして、そして穏やかな発展を続けていく安心安全の癒しの里、これが私たちが目標とする未来像です。その未来像を実現するためには、多くの課題をクリアしていかなければなりません。

現在、本市が持つ課題を総括しますと、次の３つに整理されると考えます。

１つ目は、経済の低迷です。地方都市の多くは中心市街地の衰退が進んでおり、本市においても例外ではありません。観光業、商業は不振が続き、若者の就職難、人口減少、高齢化などに伴う経済低迷の悪循環が続いています。経済の元気を取り戻すことが何よりも急務と言えます。

２つ目は、財政基盤の構造変化です。平成２６年度が普通交付税の合算算定の期限であり、平成２７年度から平成３１年度までの５年間で、段階的に交付税が減額されることになります。そして、現状よりも大幅な歳入減少となり、市政運営に大きな支障が生じることが危惧されております。これまで以上に合併の本来の目的である行財政の効率化に努める必要があります。

３つ目は、新しい市の一体感の醸成です。庁舎問題を発端に、市民の一部に感情的しこりが残ることとなりました。問題の根底には、旧４市町村間での不公平感も影響しているものと思われます。今後さらに４地域間での相互信頼感の醸成に努める必要があります。

こうした様々な課題を解決し、ふるさと菊池市をよりよい形で次の世代に引き継いでいくために、経済活性化の仕組みづくり、効率化の仕組みづくり、そして公平公正の仕組みづくり、この３つの仕組みづくりを行ってまいります。

まず１つ目は、経済の活性化の仕組みづくりです。まずは経済の立て直しが一番の課題です。世界的な大きな潮流は、健康志向であり、自然回帰であります。このような観点からすれば、菊池市の持つ素晴らしい自然力は手付かずの宝の山と言えます。この特性を活かして、農業と観光を今後の経済活性化の車の両輪と位置づけてまいります。そこに、企業的な経営手法や、外部とのネットワークなどを活用し

て親交を図っていきます。

具体的には、まず農業です。安心安全の品質イメージと、インターネットによる販売を戦略的に組み合わせ、高品質、高付加価値化を図り、より儲かる農業を目指します。仮の名称ではありますが、菊ネットというようなインターネットショップを立ち上げ、一定の品質基準、菊池基準を策定しまして、そこでブランドイメージをつくっていく、そのような販売戦略と宣伝方法の工夫について検討してまいります。

次に、観光です。自然や歴史、文化資源などの豊富な素材を活用して、心に訴える様々な仕掛け、仕組みを通じて、癒しの里のイメージを構築していきます。特に森の中のまち、さくらの里、あるいはホタル王国など、これらを具体的な手がかりとして進めてまいります。こうして菊池ファンとも言うべきリピーター、いわゆる固定客を増やすことで賑わいが生まれ、そして経済活動につながっていくわけでございます。それがまた農業との相乗効果にもつながってまいります。

また、こうした自然力を生かした戦略を支えるためには、環境保全への取り組みが不可欠であります。今後、産廃問題やごみ処理問題の決着を図るとともに、中期的には小水力などの自然エネルギーを活用して、自然の恵みを生かした循環型社会のモデル地方都市を目指してまいります。

２つ目は、効率化の仕組みづくりです。行政コストを下げることが合併の大きな狙いであり、より一層の効率化を進めてまいりますが、その際に、行政サービスの品質の維持改善が前提となることが言うまでもありません。まず、庁舎等の整備については、合併協議会で確認された本庁支所方式と、それから議会で承認議決された経緯を尊重して進めてまいります。しかし、無理、無駄が起きないよう市民の皆様の意見を聞きながら、計画の精査を併せて行います。

次に、窓口業務や公共施設の資産運営のあり方などについても見直しを行ってまいります。また、市政への市民の皆様の参画を促す手法を取り入れ、市民の皆様が主体となった自立的で効率的な社会、いわゆる新しい公共、そういった考え方も取り入れてまいります。そうすることによって、行政コストを抑えられるだけではなくて、市民の心に強い郷土愛と誇りが生まれるものと考えます。

３つ目は、公平公正の仕組みづくりです。市政への市民参画を進めるために、何よりも情報の公開、共有、そして双方向の意見交換の仕組みが必要と考えております。具体的には、様々な運営ルールの見直しや市民の皆様にわかりやすく伝える市政の見える化を進めてまいります。市民一人一人が主役になる仕組みをつくるためには、市長と語る会などの機会を増やし、市民の声を聞く仕組みを具体化してまいります。また、重要な問題については、市民の皆様の声を聞く市民政策会議などの

設置についても検討し､市民の皆様への説明責任を果たしていく考えでございます。

以上、３つ仕組みづくりを通じて、課題の解決に取り組んでまいりますが、さらに菊池の価値を永続的に高めていくために、教育の振興に努めて、人材の育成を積極的に図ってまいります。人材育成というものは、私たちの永遠の最重要課題であり、自分で考え行動する、そういった知恵と気概と郷土愛を持った人材の育成、教育の強化というものに力を注いでまいります。そのほかにも、課題を解決していく上で、特に行政運営にあたって重要な視点になりますので、申し述べます。

１点目は、市民目線ということです。常に市民目線で考え行動し、スピードと品質を意識して、市民の皆様が満足する、そういったサービスの提供に努めてまいります。

２点目は、連携力です。各種経済団体、企業、市民団体、４つの地域、他の市町村、メディアなど、様々な外部との連携、ネットワーク化を図ってまいります。

３点目は、発信力です。菊池の良さ、魅力が外部にまだアピールできておりません。例えば、日本一のさくらの里や、日本一のホタルの王国など、発信力のある企画を立案して全国への情報発信に努めてまいります。特に来年は、桜シンポジウムの開催や菊池温泉湧出６０周年、あるいは合併１０周年などの様々な企画を重ね合わせ、菊池のＰＲを強力に推進してまいります。

４点目は、活力、チャレンジということです。上下左右、風通しのよい声の上がる職場を目指して、新しいことへのチャレンジを大いに推奨してまいります。

このようなことを市民の皆様及び職員と共有し、さらなる職員の意識改革と資質の向上、並びに市民の皆様と一体となった市政運営に努めていきたいと考えております。

まとめになりますが、菊池の自然の恵みを守り、自然を活かして穏やかな発展を続けていく安心安全の癒しの里、これが早期に実現できるように、議員の皆様はじめ市民の皆様のご理解を賜りますとともに、ご指導ご協力をお願いして、私の所信表明とさせていただきます。

続きまして、平成２５年度の予算編成方針について述べさせていただきます。今定例会に提案しております、平成２５年度６月補正予算は、当初予算が義務的経費中心の骨格予算であったため、新規及び政策的経費並びに投資的経費などのいわゆる肉付け予算として計上しております。予算編成にあたりましては、問題意識の共有化を図りながら、公平公正を基本に、住民ニーズや必要性を重視して、所信表明で申し上げました今後の目標に向けた骨太ビジョンを実現すべく編成したところでございます。併せて、後世への負担を強いらないよう留意しつつ、緊急性や実効性の高い事業を優先に、新市建設計画に基づきまして各種の事業に取り組んでまいり

ます。この結果、一般会計補正予算の総額は３６億６，６１２万５，０００円となり、当初の骨格予算と合わせた補正予算後の予算は２４４億７，８１２万５，０００円となり、前年度当初予算と比較しますと６億６，９１２万５，０００円の増額となっております。

それでは、平成２５年度の施政方針について、私の掲げた選挙公約に沿った７つの施策について述べてまいります。

まず、第１点目は、稼げる農業づくりでございます。今日の農業を取り巻く環境は、かつてない厳しい状況にございます。ＴＰＰへの正式参加表明に伴う農業への甚大な影響の懸念に加えまして、生産者の高齢化、それと後継者問題、それに伴う耕作放棄地の増加など、多くの構造的な問題が存在しています。一方、安全安心の食材を求めるニーズはますます高まっております。

このような状況の中、担い手の確保育成策のみならず、本市の自然力や地域特性を生かした魅力ある農畜産物を発信し、付加価値を高めていかねばなりません。農畜産物の販売拡大を図るための新たな仕組みとして、菊池産品のインターネットショップの具体化に着手してまいります。今年度中は、開設に向けた様々な調査な諸準備が中心となります。これと並行しまして、安心安全のブランドイメージを構築するために、農産物に関する独自の安全基準である菊池基準の制定について、関係機関とも連携を図りながら具体化してまいります。また、ブランド戦略の一環として、ＪＡ、観光協会、商工会など、関係機関と協働して一体的効果的なＰＲの方法を見直します。さらに、六次産業化を促進するための情報支援体制についても検討してまいります。地域農業対策については、担い手の確保、育成や家族経営協定を推進するとともに、新規に市内の農地を借りた認定農業者に対する補助事業を継続して実施します。さらに、新規就農者や優れた農業後継者の育成支援を行うとともに、ＵターンやＩターンなどの都市部からの就農希望者の農業参入を支援するために、農業未来学校の設置についても検討してまいります。生産基盤の整備に関しましては、水田及び畑地帯の区画整理や農道、用排水路等の整備を継続して実施してまいります。さらに、耕作放棄地の増加や担い手不足等により、農業農村の持つ多面的機能が低下した地域においては、中山間地域等直接支払制度事業や農地・水保全管理支払事業の活用により、農地・農業用水等の資源の保全活動を支援してまいります。林業振興につきましては、特産物であります椎茸等、特養林産物の生産体制の確立や、林道の整備により、林業経営の活性化を図り、森林の持つ多面的機能の維持増進に努めてまいります。

第２点目は、癒しの里づくりによる観光戦略でございます。近年、旅行者の価値観や行動形態が大きく変化しており、自然の中で癒しを求める自然回帰、あるいは

健康志向型というのが世界的に大きな潮流になっております。こうした底流の変化に着目し、本市の特性である自然力を生かした癒しの里のイメージを構築し、心に訴える様々な仕掛け、仕組みを通じて固定客となる菊池ファンを増やすことで滞在型観光への展開を図ってまいります。

その具体的な施策として､新たに３つの長期プロジェクトに着手してまいります。１つ目は街中の空き地を緑化し、癒しの空間づくりを行う森の中のまちプロジェクト、２つ目は桜の里親制度などによる日本一のさくらの里プロジェクト。３つ目は昔のように市内どこでもホタルが飛び交うようなまちを目指す日本一のホタル王国プロジェクト、この３つであります。本年度は、そのための調査や準備作業を行ってまいります。特に来年度は、全国桜シンポジウムの開催や菊池温泉の湧出６０周年、あるいは合併１０周年を迎えるなど、全国に菊池の名をアピールする絶好の機会でございます。このチャンスを最大限に活用するために、観光協会、商工会など各種団体と連携して、観光戦略会議というものを発足し、全市一体となった観光戦略の立案やＰＲ活動に努めてまいります。また、アウトドアスポーツによる滞在型観光ニーズを取り込むために、中山間地域を中心に、いわゆるフットパスやサイクリングロードを計画的に整備していきます。今年度はその基礎調査に着手してまいります。

さて、７つの施策の第３点目は、産業振興と新しい仕事、市場づくりでございます。企業誘致につきましては、県が分譲を進めております菊池テクノパークについて、周辺自治体と緊密な連携を取りまして、積極的な企業進出のＰＲ活動とトップセールスを行い、企業誘致の推進を図ってまいります。田島工業団地、林原・蘇崎工業団地につきましては、必要に応じて物流業も対象に含めるなどの柔軟な対応により、早期完売を目指してまいります。

商工業の振興につきましては、昨年度に発行いたしました市内共通商品券、めぐるん券のさらなる普及や魅力あるきらりと光る繁盛店、これを育成して、商店街全体の賑わいを創出して、商店街の売り上げの向上、地域経済の活性化を図ってまいります。また、商工会等の関係団体と連携し、後継者育成や空き店舗を利用した新規就業者への助成、融資制度の充実、それから利子補給等を通じて、経営安定のための施策を講じてまいります。さらに、光ブロードバンドが整備されている中山間地域において、例えば空き家などを利用してＩＴ関連の事業者に定住してもらうなど、新しい形の業務誘致についても検討してまいります。

７つの項目の第４点目は、教育と子どもの健全育成でございます。安心安全の給食としまして、今後、経済部で進めてまいります菊池基準、これを満たした地域の食材を安全安心な給食食材として活用できるよう検討してまいります。食育の推進

につきましては、幼・保・小・中の連携教育による食育の推進、さらには旧市町村単位で地区食育推進委員会を設置し、小中学校が連携した食育の推進を実践してまいります。その施設面につきましては、学校給食施設整備事業により、菊池地区の自校方式調理場６校の共同調理場を隈府小学校に建設いたします。また、旭志地区では旭志小学校を拠点とし、旭志中学校に配送する計画としております。その結果、菊池、七城、泗水の３つの共同調理場と旭志小学校、菊池北中学校、２の自校方式施設の計５つの施設となりまして、全調理施設をドライ方式にすることで、より衛生的な学校給食の提供を目指すとともに、全ての施設に栄養職員を配置して、衛生管理面を向上させ、より安全安心な学校給食を提供してまいります。

学校教育の充実としましては、快適な教育環境の整備と学力の向上、学校生活の充実を図るために、小中学校全ての普通教室と利用頻度の高い特別教室に空調設備を整備してまいります。そのほか、老朽化や使用に支障をきたしている学校施設については、順次改修工事を行ってまいります。

また、本市独自の施策として、小中学校に配置しております補助教員等は、昨年度よりさらに増員して、補助教員３１名、特別支援教員支援員が２６名、学校看護師１名を配置することで、特別支援学級や通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒への学習指導補助介助等を行い、児童生徒の着実な基礎学力の定着向上に努めてまいります。

社会教育の充実としましては、公民館主催講座の充実をはじめ、出前講座や生涯学習まちづくりフェスティバルを実施して、市民の皆様に広く学習の機会や情報を提供し、生涯学習によるまちづくりを推進してまいります。また、泗水地区におきまして、地域のまちづくり拠点となる交流施設、これは仮の名称でございますが、地域交流センターの整備を進めてまいります。

スポーツの振興につきましては、総合型地域スポーツクラブの菊池“ゆ”ったりスポーツクラブ、これの加入を推進し、子どもからお年寄りまでがいつでもどこでもいつまでも、気軽にスポーツができる環境の整備を進めていきます。また、熊日菊池桜マラソンや全日本ジュニアボート選手権大会などの各種イベント大会の誘致を強化し、地域経済の活性化にもつなげてまいります。さらには、新しい菊池市の一体感を醸成するためには、市民が一堂に集まり、汗を流し、語り、そして話題を共有する場が必要不可欠であります。まずは、本年１０月にミニバレーとグラウンドゴルフによる大会を実施して、今後とも市民全員が楽しめて、ワクワクするようなスポーツ大会を計画したいというふうに考えております。

さて、５点目は、開かれた効率的な市政でございます。市民の皆様の声を市政に反映するため、市長との意見交換会として、仮の名称ですが、市長と語る会を開催

したり、あるいは市政モニター制度の確立に向けた検討を行いたいというふうに考えております。また、特に重要な問題につきましては、市民の皆様のご意見を聞く、これも仮の名称でございますが、市民政策会議、または各施策に応じた審議会や委員会を設置してまいります。また、行政情報の発信につきましては、近年、インターネットの活用が欠かせないものとなっております。本市におきましても、ホームページのリニューアルはもとより、いわゆるソーシャルネットワーキングサービスなど、新しいメディアを活用した戦略的な情報発信を進めてまいります。さらにまた、行財政改革への取り組みとしまして、事務事業の効率化と市民サービス向上のために、第二次行政改革大綱に沿って、簡素で効率的な行政運営と、市民視点の行政サービスの充実というものを推進してまいります。今後は、各種業務の電子申請の活用や民間委託等も視野に入れた窓口業務改善の検討、それから特別養護老人ホームつまごめ荘の総点検、並びに昨年公立幼稚園民営化検討委員会から答申されました公立幼稚園の民営化などを中心に取り組んでまいります。

また、庁舎等の整備につきましては、これまでの経緯を十分に踏まえて、行財政の効率化や機能的な行政環境を整備するため、本庁支所方式への移行に取り組んでまいります。また、設計業務については庁舎と複合的に整備する図書館及び公民館を備えた生涯学習センターの検討について、ぜひ市民のご意見を反映させるために、菊池市庁舎等整備市民検討委員会の設置やワークショップを開催してまいります。

そのほかに市営プールの移転につきましては、現状施設の稼働状況や、市民の皆様のご意見等を踏まえまして、事業費や維持管理コスト等を考慮しながら検討してまいります。

第６点目でございます。自然環境の保全と活用ということです。まず、産廃問題につきましては、本市と九州産廃株式会社との間で締結しました環境保全協定書及び一部変更協定書基本合意書を遵守して、最終処分場や溶融キルン式焼却処理施設の閉鎖に向けた協議を重ね、地域の環境保全、処理施設の早期終了など、市民の皆様の産廃問題に対する不安を払拭するよう問題解決に努めてまいります。

次に、ごみ処理につきましては、菊池郡市２市２町が広域で運営しております菊池環境保全組合において、新環境工場建設がただいま進められております。本市としましては、現在、泗水地域のみがこの菊池環境保全組合に加入しておりますが、菊池市全域がその処理区域に加入することがごみ処理経費の削減や処理の効率化の面で最善であると考えております。その実現に向けて関係機関と協議してまいります。

循環型社会の構築という点につきましては、地球温暖化防止などの環境保全意識の高揚や市民のクリーンエネルギー利用を積極的に推進していくために、引き続き、

県内トップクラスであるところの住宅用太陽光発電システムの設置補助を行い、エネルギー施策に率先して取り組んでまいります。また、本市の豊富な水資源を活用した小水力発電について、庁内での検討委員会を立ち上げていきたいというふうに考えております。

さて、第７点目、支え合う安心安全な社会でございます。安心安全の癒しの里を実現するためには、予防医療の充実などにより、誰もが健康に暮らし、安心して子育てのできる環境づくりを行い、また障がいのある方や高齢者を共に支え合う、そういった豊かな社会にすることが必要でございます。

まず、子育て支援につきましては、子ども医療費の助成に加え、今年度から県より権限委譲された未熟児医療に対する助成窓口を開設し、なお一層の充実を図ってまいります。

また、保育士の処遇改善に取り組む保育所や改築などを実施する社会福祉法人に対して、引き続き支援を行ってまいります。

健康づくりと医療の充実につきましては、生活習慣病やガン等の早期発見、早期治療とともに、ライフステージごとの健康づくり事業を推進いたします。また、妊婦の健康保持や乳幼児の健全育成を支援するために、妊婦検診費用の助成や、乳幼児検診等の充実に取り組みます。さらに、予防接種事業につきましては、ヒブと小児用肺炎球菌、子宮頸がんワクチンの定期接種化に伴い、接種費用を全額助成し、保護者の負担軽減と接種率の向上を図ってまいります。障がい者福祉につきましては、障がいのある方やそのご家族が地域の中で安心して暮らしていくことができるよう、一人一人のニーズに応じた適切な障がい福祉サービスの提供の充実を行ってまいります。

また、高齢者福祉につきましては、第５期菊池市老人福祉計画及び介護保険事業計画に基づき、高齢福祉サービスの提供体制の充実や老人クラブ等の活動を支援してまいります。さらに、認知症の高齢者を地域で支えるため、地域包括支援センターと地域の連携体制を強化するとともに、地域の関係者と連携しながら高齢者に関する相談支援体制を充実してまいります。

生活困窮者の支援としましては、生活保護に至る前の段階から早期に支援を行うことにより、就労などで社会的、経済的自立が可能になるように支援するために、生活困窮者自立促進モデル事業に取り組みます。

また、本年度、地域福祉計画の見直しを行いまして、各地域においてのサロン活動や見守り活動を推進し、地域住民による支え合いの輪を広げていきます。さらに、災害時要援護者支援システムについては、日常の見守り活動や災害時においての要援護者の支援が図られますよう改修を行い、高齢者や障がいのある方などが安全で

安心に生活できる地域づくりを目指します。

さらに、交通弱者対策としましては、利用者の利便性や財政負担の軽減を視野に入れながら、便利カーやあいのりタクシーの運行を地域の実情に合わせてただいま行っておりますが、路線バスの維持、あいのりタクシーの区域設定などについて、もっと効率的な仕組みを構築するための利用状況調査を行ってまいります。

防災対策につきましては、皆様の記憶にも新しい昨年の九州北部豪雨災害、これは菊池市におきまして甚大な被害をもたらしました。災害発生時の緊密な情報伝達連携が図れますよう、今年度中に防災計画と組織体制の見直しを検討してまいります。また、実効性のある災害防災訓練を実施するとともに、自主防災組織の設置拡充を図ってまいります。さらに、防災行政無線デジタル整備事業を実施し、これまで以上に適確迅速な情報交換を可能とするため、旧４地域の施設統合を行ってまいります。

さて次に、今年度取り組むその他の主な事業について、述べてまいります。

本市の最上位計画として位置付けられる総合計画は、平成１７年度から平成２６年度の１０カ年を計画期間として運用を行っております。合併協議において策定された新市建設計画をもとに、本市が目指す将来像の実現に向け、主要施策として具体化し、様々な事業に取り組んでおります。平成２７年度以降の総合計画については、現在の本市の取り組みを検証し、市民の皆様からのご意見をいただきながら、本年度より計画策定に着手いたします。また、主要事業について事業実施の必要性、活動内容の有効性、執行内容の効率性などの観点から、内部での事業評価を行うとともに、施策レベルでも評価を実施していきます。また、外部からの客観的な視点や透明性を確保するため、外部評価委員会を設置して効率的な行政運営を図ります。地域コミュニティ活動の推進につきましては、引き続き、コミュニティ助成事業や地域づくり推進事業により、各地域の皆様やＮＰＯなどの地域づくり団体が自ら考え自ら実践する取り組み、あるいは人材育成など、活力に満ちた地域づくりを支援してまいります。

また、閉校となりました学校施設につきましては、地域の核である学校が無くなることにより、地域の活力が低下することが懸念されるわけでございますので、学校跡地の適切な管理を行っていくとともに、地域住民の方々の意見を尊重しながら、できるだけ早い時期に活用方針をお示ししたいと考えております。

またさらに、歴史文化資源の掘り起こしを九州大学大学院と連携し調査研究を行っておりますが、昨年度は歴史的建物３カ所４件の国登録有形文化財登録申請を行い、国の文化審議会より文部科学大臣に対して登録するよう答申がなされました。今年度も引き続き登録候補の建物調査を行ってまいります。また、市独自の事業と

しまして、菊池遺産の認定を行っており、これらの事業で新たな地域資源を掘り起こし、市民参画によるまちづくり活動と歴史文化のまちとして、市の内外へＰＲすることで地域振興につなげてまいります。

人権意識の高揚につきましては、公平公正の仕組みの基本であるわけですので、力を入れてまいります。同和問題をはじめとする、あらゆる人権問題を解決するために、全ての市民の皆様が人権について理解と認識を深め、お互いの人権が尊重できるような、差別のない明るいまちづくりを目指してまいります。

男女共同参画の推進において、本市では平成２２年に男女共同参画都市宣言を行い、性別に関わりなくお互いに人権を尊重し、その個性と能力を十分に発揮することのできる男女共同参画社会の実現に向けて活動しております。今後も市民講座や市民フォーラム、情報誌発行や出前講座、あるいはさらに広報紙などを活用した啓発を実施してまいります。また、施策などの企画立案、決定過程に参画する女性の増加を図り、より多様な視点で新たな発想や組織の活性化が生み出されるように、審議会等への女性登用率３５％を目標に推進してまいります。

国際交流につきましては、今年度もこれまでの韓国や中国の社会情勢や外交姿勢に配慮しながら、市民レベルの交流を推進してまいります。また、外国人観光客誘致を推進するとともに、本市在住の外国人との多文化共生に向けた環境づくりに取り組んでまいります。また、地域間連携では、本市の歴史、文化等の縁がある地域と交流を推進することで、文化、物産、スポーツなど、新たな賑わいを創出するまちづくりを目指してまいります。今後も姉妹都市の宮崎県西米良村、友好都市の岩手県遠野市に加え、鹿児島県龍郷町と市民を主体とした交流を促進し、地域振興を図ってまいります。

最後に、都市基盤と生活環境の整備について申し上げます。道路整備につきましては、基本計画を策定し、地域振興や災害に強く、また交通の利便性の向上を図る幹線道路網の整備及び安心安全な道路と快適な市民生活を確保する生活道路の整備を図ります。特に、国道３２５号、３８７号の整備に関しては、引き続き国、県等と連携を図り推進してまいります。また、橋梁長寿命化計画を策定し、定期的な点検と損傷状態及び地域性を考慮した対策順序に沿って修繕を行い、道路網の安全性、信頼性を確保します。

住環境の整備につきましては、豊かな自然環境の中で生き生きと暮らせる活気のあるまちづくりを目指し、住民ニーズに合った身近な公園を確保するため、富の原地区に整備しました憩いの森公園に続きまして、桜山公園整備に取り組んでまいります。市営住宅につきましては、公営住宅長寿命化計画により、老朽化した朝日東団地の建て替え事業を市道及び公園の整備と総合的に行うことで、入居者のみなら

ず地域の住環境の向上にも取り組んでまいります。また、他の老朽化した公営住宅についても、適切な住環境を維持するため、葉山団地の改修工事を継続して実施するとともに、本年度から北宮団地の改修工事にも着手してまいります。

水道事業につきましては、ライフライン施設として安心安全かつ安定的に提供することが求められております。上水道事業では、神来・桜山地区などで老朽化した配水管の敷設替えや、桜山配水池の更新に取り組み、水道施設の耐震化に努めてまいります。また、資源の有効利用や経費削減を図るために、漏水調査も継続して実施してまいります。簡易水道事業につきましては、旭志北部地区の配水池等の整備を本年度完了し、平成２６年３月から水道水の供給を開始いたします。今後共、水道未普及地域の解消に努め、公衆衛生の向上を図ってまいります。

下水道事業につきましては、使用開始後、約３０年を経過した菊池市浄水センターの改築更新を行うための実施設計を行います。また、桜山地区の下水道管渠の整備や集合処理区域外における市設置型合併処理浄化槽整備で、市全域の生活排水処理対策を推進してまいります。

以上、市政に対する私の所信と施策の大綱を申し述べました。本市の限りある財源を緊急性、実効性の高い事業を選択することにより、重点的に配分した予算編成を行っております。また、経済活性化の仕組みづくり、効率化の仕組みづくり、公平公正の仕組みづくりの３つの仕組みづくりに取り組んで、将来を見据えたまちづくりを推進してまいります。

議員の皆様におかれましては、後ほど十分にご審議をいただきますようお願いを申し上げ、私の施政方針とさせていただきます。

それでは、上程されました議案第５８号から議案第６８号までの条例関係１１議案について、ご説明を申し上げます。

議案書その１をお願いいたします。議案第５８号、菊池市長等の給与の特例に関する条例の制定について。議案第５９号、菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について。議案第６０号、菊池市総合計画策定条例の制定について。議案第６１号、菊池市総合計画外部評価委員会条例の制定について。議案第６２号、菊池市庁舎等整備市民検討委員会条例の制定について。議案第６３号、菊池市特定用途制限地域における建築物等の制限に関する条例の制定について。議案第６４号、菊池市行政、文化、教育拠点特別用途地区建築条例の制定について。議案第６５号、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について。議案第６６号、菊池市ひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について。議案第６７号、菊池市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例の制定について。議案第６８号、

菊池市立体育館条例及び菊池市営グラウンド条例の一部を改正する条例の制定について。

以上、新たに制定する条例７議案、改正する条例４議案でございます。

次に、議案第６９号から議案第７７号について、ご説明を申し上げます。

議案書その２をお願いいたします。議案第６９号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）から、議案第７７号、平成２５年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）の９議案につきましては、先ほど施政方針で内容の一部をご説明申し上げましたように、今年度の政策的経費を計上いたしました、いわゆる肉付け予算及び４月の人事異動に伴う人件費の組み換えによる補正でございます。

続きまして、議案第７８号について、ご説明申し上げます。

議案書その１、１０３ページをお願いいたします。議案第７８号、財産の譲渡については、水源小学校跡地の活用にあたり、地域経済の発展に資するため、財産を譲渡するものです。

以上、上程されました議案の概要についてご説明申し上げましたが、内容の詳細につきましては、総務企画部長が説明をいたしますので、議員各位におかれましては、慎重審議の上、ご賛同賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（山瀬義也君）　ここで、暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１１時１８分

開議　午前１１時２７分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　議案の説明の前に、議長よりお許しをいただきましたので、説明資料の新旧対照表の訂正をお願い申し上げたいと思います。

訂正につきましては、お手元に配布いたしております正誤表のとおりでございます。新旧対照表をお願いいたします。修正箇所といたしましては、新旧対照表の２３ページから始まる議案第６８号、菊池市立体育館条例及び菊池市営グラウンド条例の一部を改正する条例、新旧対照表でございます。修正箇所は３カ所ございます。全て水源小学校に関して削除をお願いするものでございます。

まず、新旧対照表の２３ページでございますが、右の欄の改正案別表、第１表の表をご覧ください。下から３行目の菊池市立水源体育館の項を削るよう訂正をお願

いいたします。

次に、２５ページをお願いいたします。先ほどと同様に、右欄の改正案別表、第１の表をご覧ください。同じく下から３行目の菊池市立水源グラウンドの項を削るよう訂正お願い申し上げます。

次に、２６ページをお願いいたします。同様に、右欄の改正案の別表第２をご覧ください。施設名の欄の上から５行目、菊池市営水源グラウンドを削るよう訂正をお願いいたします。

以上、３カ所について別紙正誤表により訂正をお願いするものでございます。なお、訂正後の新旧対照表は、後ほどお配りいたしますので、よろしくお願いいたします。申し訳ありませんでした。

それでは、議案第５８号から議案第７８号まで、一括してご説明いたします。

議案その１の７３ページをお開きください。議案第５８号、菊池市長等の給与の特例に関する条例の制定についてでございます。

開けていただきまして７４ページが今回制定する条例でございます。現在、国においては、平成２４年４月から平成２６年３月までの２年間、我が国の厳しい財政状況及び東日本大震災に対処する必要性にかんがみ、一層の歳出削減が不可欠であることから、国家公務員の人件費を削減するため、国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律を定め、内閣総理大臣はもとより、一般職の職員の給与を削減しております。今回の菊池市長等の給与の特例に関する条例の制定は、その国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律を踏まえ、地方公務員についても必要な給与の減額措置を講ずるよう平成２５年１月２４日に閣議決定されたことを受け、本市の特別職の給料についてもこれに準じた取り扱いをするために条例を制定するものでございます。具体的な内容につきましては、平成２５年７月から平成２６年３月までの９カ月間、市長及び副市長並びに教育長の月例給をそれぞれ一律１０％引き下げるものです。

附則といたしまして、この条例の施行日は、平成２５年７月１日となっております。

以上、議案第５８号の説明とさせていただきます。

次に、７５ページをお開きください。議案第５９号、菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定についてでございます。

開けていただきまして、７６ページから７７ページが今回制定する条例でございます。条例制定の趣旨につきましては、先ほど、菊池市長等の給与の特例に関する条例の制定の部分で説明しました内容と同様で、本市の一般職の職員の給与等についても、国家公務員の給与減額措置を踏まえて、これに準じた取り扱いをするため、

特例条例を制定するものでございます。内容につきましては、国家公務員が給与の減額を行ったため、１０３．３と高くなった本市のラスパイラル指数を、概ね１００の数字になるように改正するものでございます。まず、第１点目が、一般職の職員の月例給を、それぞれの職務の級ごとに給与月額を２％から６％引き下げるものでございます。２点目は、管理職手当を一律１０％引き下げるものです。減額の期間につきましては、菊池市長等の給与の特例に関する条例と同様で、平成２５年７月から平成２６年３月までの９カ月間でございます。

附則といたしまして、この条例の施行日は、平成２５年７月１日となっております。

以上、議案第５９号の説明とさせていただきます。

次に、７９ページをお開きください。議案第６０号、菊池市総合計画策定条例の制定についてでございます。提案理由といたしましては、総合的かつ計画的な市政の運営を図るため、市の総合計画を策定することに関し、条例を制定するものでございます。

開けていただきまして、８０ページが制定する条例でございます。内容といたしましては、第１条で趣旨、この条例は総合的かつ計画的な市政の運営を図るため、本市の総合計画を策定することについて必要な事項を定めるものとしております。そのほか、第２条から定義、総合計画策定審議会の諮問、議会への議決、基本計画及び実施計画の策定、公表、総合計画等の整合などを定めております。

附則といたしまして、この条例は、公布の日から施行することとしております。

以上、議案第６０号の説明とさせていただきます。

次に、８１ページをお開きください。議案第６１号、菊池市総合計画外部評価委員会条例の制定についてでございます。提案理由といたしましては、執行機関の附属機関として設置する委員会については、地方自治法第１３８条の４第３項の規定により、条例を制定するものでございます。

開けていただきまして、８２ページが制定する条例でございます。内容といたしましては、第１条で、目的として、菊池市総合計画の主要事業に対し、市民の満足度や進捗状況等についても内部での施策評価に対する客観性及び透明性を確保するため、菊池市総合計画外部評価委員会を設置するとしております。

以上、議案第６１号の説明とさせていただきます。

次に、８３ページをお願いいたします。議案第６２号、菊池市庁舎等整備市民検討委員会条例の制定についてでございます。提案理由といたしましては、執行機関の附属機関として設置する委員会については、地方自治法１３８条の４第３項の規定により条例を制定するものでございます。

開けていただきまして、８４ページが制定する条例でございます。内容といたしましては、第１条で、菊池市の庁舎等整備に関し、市民の意見及び提案を反映させるため、菊池市庁舎等整備市民検討委員会を設置するとしております。

以上、議案第６２号の説明とさせていただきます。

次に、８５ページをお開きください。議案第６３号、菊池市特定用途制限地域における建築物等の制限に関する条例の制定についてでございます。提案理由といたしましては、都市計画法に基づく都市計画特定用途地域において、住環境を特に乱す恐れのある特定の建築物及び工作物の用途を制限し、良好な環境の形成及び保持に資するため条例を制定するものでございます。

開けていただきまして、８６ページから８９ページが制定する条例でございます。内容といたしましては、第１条で、この条例は建築基準法第４９条の２の規定に基づき、都市計画法第８条第１項第２号の２に掲げる特定用途制限地域内における特定の建築物及び工作物の用途の制限について、必要な事項を定めることにより、合理的な土地利用を図るとともに、良好な環境の形成及び保持に資することを目的とするとしております。

以上、議案第６３号の説明とさせていただきます。

次に、９１ページをお開きください。議案第６４号、菊池市行政、文化、教育拠点特別用途地区建築条例の制定についてでございます。提案理由につきましては、都市計画法に基づく都市計画特別用途地区の行政、文化、教育関連施設について、建築物の建築の制限の緩和及びその敷地または構造に関し制限し、周辺住環境への配置を図りながら、今後の機能充実を図るため条例を制定するものでございます。

開けていただきまして、９２ページから９３ページが、制定する条例でございます。内容といたしましては、第１条で、この条例は建築基準法第４９条第２項及び第５０条の規定に基づき、菊池市行政、文化、教育拠点特別用途地区内における建築物の建築の制限の緩和及び建築物の敷地または構造に関する制限に関し、必要な事項を定めることにより、当該地区内における市民サービスの向上、文化、教育活動の充実を図ることを目的としております。

以上、議案第６４号の説明とさせていただきます。

次に、９５ページをお開きください。議案第６５号、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。提案理由といたしましては、公平委員会委員に識見委員を追加し、報酬を年額から日額へ改め、菊池市総合計画策定審議会委員、菊池市総合計画外部評価委員会委員及び菊池市庁舎等整備市民検討委員会委員を追加するため条例の一部を改正するものでございます。

開けていただきまして、９６ページが一部を改正する条例でございます。

別冊の新旧対照表の２０ページをお願いいたします。改正部分としましては、下線部分でございますが、内容といたしましては、公平委員会委員を事案の審議や判断においては公正中立性とともに専門性も必要なことから、公平委員会委員の選任において、識見委員の追加を行い、併せて報酬を年額報酬から勤務日数に応じた日額報酬へ改めるものでございます。その他の特別職として、菊池市総合計画策定審議会委員、菊池市総合計画外部評価委員会委員、菊池市庁舎等整備市民検討委員会委員を追加するものでございます。

以上、議案第６５号の説明とさせていただきます。

次に、９７ページをお開きください。議案第６６号、菊池市ひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。提案理由といたしましては、父または母が配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の規定による保護命令を受けた児童を支給対象に加えるため条例の一部を改正するものでございます。

開けていただきまして、９８ページが改正する条例でございます。

新旧対照表の２１ページをお願いいたします。改正部分としては下線部分でございますが、内容といたしましては、第２条第１項中第９号を第１０号とし、第５号から第８号までを１号ずつ繰り下げ、第４号の次に、次の１号を加えるものでございます。（５）父又は母が配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律第１０条第１項の規定による命令（母又は父からの申し立てにより発せられたものに限る。）を受けた児童を追加するものでございます。

以上、議案第６６号の説明とさせていただきます。

次に、９９ページをお願いいたします。議案第６７号、菊池市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。提案理由といたしましては、都市計画法に基づく都市計画用途地域において、近隣商業地域及び商業地域の建築物を制限し、適正な建築物の立地と周辺地区の環境保全を図るため条例の一部を改正するものでございます。

開けていただきまして、１００ページが改正する条例でございます。

それでは、新旧対照表の２２ページをお願いいたします。改正部分として下線部分でございますが、内容といたしましては、第３条中、「基づく準工業地域内における特別用途地区に係る都市計画の決定の告示をした区域」を「（同法第２１条第２項において準用する場合を含む。）の規定より告示した都市計画に定める特別用途地域」に改めるものでございます。

以上、議案第６７号の説明とさせていただきます。

次に、１０１ページをお開きください。議案第６８号、菊池市立体育館条例及び菊池市営グラウンド条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。提案理由といたしましては、菊池市立小学校の一部統廃合に伴い、河原体育館、迫水体育館、龍門体育館、河原グラウンド、迫水グラウンド及び龍門グラウンドを社会体育施設へ移管したため、条例の一部を改正するものでございます。

開けていただきまして、１０２ページが改正する条例案でございます。

それでは、新旧対照表の２３ページから２６ページをお願いいたします。改正部分としましては下線部分でございますが、内容といたしましては、第１条、菊池市立体育館条例、別表第１（第２条関係）に、菊池市立河原、迫水、龍門体育館の名称、位置を加え、別表第２（第１０条、第１１条関係）では、体育館使用料の菊池市立迫間体育館から菊池市立泗水第２体育館までの施設名を削除しております。それ以下につきましては、先ほど冒頭でご説明した内容になっております。

以上、議案第６８号の説明とさせていただきます。

次に、１０３ページをお開きください。失礼しました、申し訳ございません。議案その２をお願いいたします。議案その２の１ページをお願いいたします。議案第６９号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）について、ご説明申し上げます。

２ページをお開きください。今回の補正は、予算の総額に３６億６，６１２万５，０００円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ２４４億７，８１２万５，０００円とするもので、市長選挙に伴い、当初予算が義務的経費を中心とした骨格予算であったため、新規及び政策的経費、投資的経費などの肉付け予算として計上いたしております。例年ですと、今回の肉付け後の予算総額が当初予算となるわけですが、昨年度の当初予算総額２３８億９００万円と比較しますと、６億６，９１２万５，０００円の増、２．８％の伸びとなっております。

まず、歳入につきまして事項別明細の主なものをご説明申し上げます。

１２ページ、１３ページをお願いいたします。款１４国庫支出金、項２国庫補助金、目７土木費国庫補助金２億８，６３１万５，０００円の主なものは、節２道路橋りょう費補助金の社会資本整備総合交付金１億９，６２０万２，０００円で、妻越泗水線、泗水中央線の道路改良事業及び橋りょう補修、長寿命化、狭あい道路整備事業に対する国庫補助金でございます。その下の節４都市計画費補助金の社会資本整備総合交付金、泗水地区都市再整備事業８，７１１万３，０００円は、永・富の原線をはじめとする道路改良事業が主なものです。款１５県支出金、項２県補助金、目３民生費県補助金、１億６４９万１，０００円の主なものは、節３児童福祉費補助金の安心子ども基金特別対策事業補助金５，７１５万円と、保育士等処遇改善臨時特例

事業補助金４，０２７万８，０００円で、市内の民間保育園の施設整備及び保育士の処遇改善にかかる補助金となっております。目４衛生費県補助金９，８００万円は、管理型最終処分場立地交付金で、産業廃棄物最終処分場の立地地域における生活環境改善を目的とした県の補助金でございます。

１４ページ、１５ページをお開きください。款１６財産収入、項２財産売払い収入、目１不動産売払い収入３，６３２万８，０００円は、節１土地売払収入１，８９３万円と、節２建物売払収入１，７３９万８，０００円で、水源小学校跡地の財産処分に伴うものでございます。款１８繰入金、項３基金繰入金、目１財政調整基金繰入金７億２，９２１万円は、今回の補正予算の財源として繰り入れるものでございます。

１６ページ、１７ページをお開きください。款２１市債につきましては、目８消防債の防災行政無線デジタル整備事業として緊急防災減債事業費債１０億３，１５０円をはじめ、合併特例債など総額２３億４，１８０万円を各事業の財源として充てるものでございます。

次に、歳出について、事項別明細の主なものをご説明いたします。２０ページから２１ページをお開きください。款２総務費、項１総務管理費、目３文書広報費、節１３委託料２９８万２，０００円は、本市の情報発信の基盤となるホームページのリニューアルを行うものでございます。目７財産管理費、節１３委託料のうち、公共施設点検委託料５００万円は、今後の公共施設のあり方を検討するため、ライフサイクルコストの算定に必要な点検費用でございます。節１５工事請負費１，４２９万３，０００円の主なものは、本庁舎地下室の不要となった空調施設撤去費及び３階議場の傍聴席への車椅子用リフト設置等の整備費用でございます。目８企画費、節１３委託料の主なものとして、平成２７年度からの菊池市総合計画の策定業務委託料５１０万３，０００円を計上いたしております。

２２、２３ページをお開きください。目９地域振興費、節１９負担金補助及び交付金の主なものとして、地域のまちづくり推進事業に対する行政区及び団体に対する単独補助金である、地域づくり推進補助金６１０万円を計上いたしております。

次に、２４、２５ページをお願いいたします。款２総務費、項１総務管理費、目１５安全対策費、節１５工事請負費１，２３２万円は、市民の安心安全を守ることを目的に、ガードレール、カーブミラー及び防犯灯を設置するための工事費でございます。

次に、２８、２９ページをお開きください。款３民生費、項１社会福祉費、目２社会福祉施設費、節１５工事請負費１，３９４万７，０００円は、西部市民センターの屋根、玄関、外壁等の大規模修繕費でございます。

３２、３３ページをお開きください。款３民生費、項３児童福祉費、目５児童福祉施設費、節１５工事請負費８，２５６万１，０００円は、保育ニーズに対応するため、菊之池保育園の大規模改修に係る工事費、節１９負担金補助及び交付金は、市立保育園、旭志の北合志保育園の施設整備への補助金８，５７２万５，０００円と保育士の人材確保対策の一環として、処遇改善への補助金の３，９３３万９，０００円でございます。

次に、３４、３５ページをお開きください。款４衛生費、項１保健衛生費、目４環境衛生総務費、節１９負担金補助及び交付金の太陽光発電施設設置費補助金１，１２５万円は、省エネ環境エネルギー対策を目的とした個人の住宅用太陽光発電システム設置費用に値する補助金でございます。目５環境対策費、節２５積立金１億４，８００万円は、主に事業目的に充当した管理型最終処分場立地交付金相当分を環境整備基金として積み立てるものでございます。

次に、３６、３７ページをお願いいたします。款５農林水産業費、項１農業費、目３農業振興費、節１９負担金補助及び交付金１，７２５万７，０００円は、各種団体及び認定農家の規模拡大、担い手育成施設園芸対策等の各種事業に対する補助金でございます。目６畜産業費、節１９負担金補助及び交付金１，２０６万円は、家畜導入や新ブランド牛確立など、畜産関連事業に対する補助金でございます。目７ブランド推進費、節１３委託料１，３３５万円の主なものとして、農林畜産物の販売拡大を目的とした新たな取り組みであるインターネットショップ構築事業委託料として２００万円を計上いたしております。

３８、３９ページをお願いいたします。款５農林水産業費、項１農業費、目８農地費３，６３１万１，０００円のうち、主なものは泗水地区における農道１５路線の整備及び原材料費支給１，６００万円でございます。

４０ページから４１ページをお願いいたします。款５農林水産業費、項２林業費、目２林業振興費、節１９負担金補助及び交付金２，５５０万円は、森を育てる間伐材利用推進事業補助金１，１００万円など林業の仕業集約化及び経営安定を目的とした、林業関連事業への補助金でございます。

４２、４３ページをお願いいたします。款６商工費、項１商工費、目２商工業振興費の主なものは、節１９負担金補助及び交付金３，５９９万５，０００円で、うち菊池市商工会の育成活性化補助金として２，３０４万９，０００円を計上いたしております。目４観光費、節１５工事請負費２，４６４万円は、七城温泉ドーム及びリバーサイドパークの改修工事費１，５００万３，０００円と泗水孔子公園の改修工事費９６３万７，０００円でございます。

次に、４４、４５ページをお開きください。款６商工費、項１商工費、目４観光

費、節１９負担金補助及び交付金２，３７４万５，０００円のうち、来年４月に本市で開催されます全国桜シンポジウムの開催準備負担金として２０２万５，０００円を計上いたしております。次に、款７土木費、項２道路橋りょう費、目２道路橋りょう新設改良費につきましては、妻越泗水線をはじめ市道１１路線の工事に伴う経費として総額９億５，９８５万３，０００円を計上いたしております。

続いて、４６、４７ページをお願いいたします。目３道路橋りょう維持費につきましては、橋りょう長寿命化修繕計画策定や測量設計、不動産登記に係る委託料、市道の舗装、側溝整備に係る工事請負費、工事施行に伴う公有財産購入費及び保証金を合計しました総額２億８，９３１万８，０００円を計上いたしております。

次に、４８、４９ページをお願いいたします。款７土木費、項４都市計画費、目４公園費、節１５工事請負費９，４９７万７，０００円の主なものは、菊池公園内散策路の舗装、修繕及び老木の伐採や不用枝の剪定による植栽整備など、全国桜シンポジウムに向けた菊池公園の整備工事費３，２７４万３，０００円、七城地区の鴨川公園の大型複合遊具等の修繕工事費３，５９０万円、前川公園の水車等の水辺整備工事費２，６００万円でございます。

次に、５０ページから５１ページをお願いいたします。款８消防費、項１消防費、目３消防施設費２，５２５万５，０００円の主なものは、節１５の防火水槽の設置撤去に係る工事請負費４９０万円と、節１８積載車３台及び小型動力ポンプ７台の購入に係る備品購入費１，９１２万９，０００円でございます。目４防災管理費１０億５，４５６万７，０００円の主なものとしまして、節１３委託料の防災行政無線の統合及びデジタル化整備工事費の１０億３，１５８万３，０００円及び全国瞬時警報システムの自動起動システム整備業務委託料８４０万円でございます。

次に、５２、５３ページをお開きください。款９教育費、項２小学校費、目１学校管理費、節１５工事請負費７，２０２万４，０００円の主なものは、泗水東小学校の経年劣化による屋根、外壁等の校舎改修工事費７，０２７万４，０００円でございます。

次に、５６、５７ページをお願いいたします。款９教育費、項５社会教育費、目５文化施設費、節１５工事請負費２億４，２２７万円は、老朽化による文化会館の空調及び音響設備等の改修工事費２億１，９５０万３，０００円と、雨漏りによる泗水ホール防水工事２，２７６万７，０００円でございます。

以上が、歳出の主なものでございます。

戻っていただきまして、６ページをお願いいたします。第２表の継続費でございます。款８消防費、項１消防費の防災行政無線デジタル整備事業につきましては、平成２５年度から平成２６年度の２カ年度事業となるため継続費を設定し、事業費

総額を１５億２，３７１万９，０００円、年割額を平成２５年度１０億４，０３９万８，０００円、平成２６年度４億８，３３２万１，０００円とするものです。

次に、第３表、債務負担行為でございます。総合計画策定業務委託及び菊池市子ども子育て支援事業計画策定業務委託につきましては、２カ年間の事業委託となるため、債務負担行為として設定するものです。期間及び限度額は、記載のとおりでございます。

右側の７ページをご覧ください。第４表、地方債補正でございます。上段につきましては辺地対策事業として１，０５０万円、緊急防災減債事業として１０億３，１５０万円を追加するものでございます。下段につきましては、今回の補正に伴い公共事業等及び合併特例事業を変更し､限度額の総額を２３億１，３５０万円とするものでございます。

以上、議案第６９号の説明とさせていただきます。

次に、６７ページの議案第７０号、平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第１号）から、１２７ページの議案第７６号の平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）までの特別会計の補正予算につきましては、４月の人事異動に伴う人件費の補正のみとなっており、当初予算に計上しました各特別会計の人件費総額と同額となっておりますので、説明は省略させていただきます。

次に、１３７ページをお開きください。議案第７７号、平成２５年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）でございます。

１３８ページをお願いいたします。今回の補正は、収益的支出、水道事業費用において６６７万８，０００円を減額し、総額を４億１，６２６万１，０００円とし、資本的収入で企業債を５，０００万円増額し、資本的支出で建設改良費を１億５，９１９万８，０００円増額し、３億２４万４，０００円とするものでございます。また、これらの補正に合わせまして、債務負担行為や企業債などを補正するものでございます。

以上、議案第７７号の説明とさせていただきます。

それでは、議案その１に戻っていただきまして、議案その１の１０３ページから１０４ページをお開きください。議案第７８号、財産の譲渡についてでございます。提案理由といたしましては、水源小学校跡地の活用にあたり、地域経済の発展に資するため財産を譲渡したいので、地方自治法第９６条第１項第６号の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。譲渡する財産の内容の土地につきましては、所在が菊池市四町分字免兎原、地番、地目、地籍については表の記載のとおりでございます。譲渡価格は１，８９３万円でございます。また、建物につきまして

は所在が菊池市四町分字免兎原１０３０番地、建物の種類、構造、床面積につきましては、表の記載のとおりでございます。建物の譲渡価格は１，７３９万８，０００円でございます。合計の土地が１万８，１７２㎡、建物が２，２２７㎡、譲渡価格総額が３，６３２万８，０００円でございます。譲渡の相手方は記載のとおりでございます。

以上、議案第５８号から議案第７８号までの説明とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で、議案の説明が終わりました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第５　報告第４号から報告第１０号まで一括上程

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第５、報告第４号から報告第１０号までを一括議題とします。提出者の報告を求めます。

総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　それでは、報告第４号から報告第１０号までの７議案につきまして、一括して説明をさせていただきます。

議案その１の１０５ページをお開きください。報告第４号、繰越明許費繰越計算書についてでございます。平成２４年度から平成２５年度への明許繰越を行いましたので、地方自治法施行令第１４６条の第２項の規定により、議会へ報告するものでございます。

開けていただきまして、１０６ページから１０８ページまでが平成２４年度繰越明許費繰越計算書でございます。

１０６ページから１０７ページ、一般会計２７件ございまして、繰越総額は３１億８，２１２万２，０００円となっております。

開けていただきまして、１０８ページ、特定環境保全公共下水道事業特別会計が２件で、１億５，２４７万１，０００円の繰越額となっております。個々の事業内容につきましては数が多いため省略させていただきますが、繰り越しの主な要因につきましては、国の経済対策に伴う補正予算により、年度内の完了が見込めないもの、事業内容の協議に不測の日数がかかったことや事業用地の取得が遅れたことなどとなっております。

以上、報告第４号の説明とさせていただきます。

次に、１０９ページをお開きください。

報告第５号、継続費、繰越計算書についてでございますが、平成２４年度中に継続費の設定を行った事業について、地方自治法施行令第１４５条１項の規定により、議会に報告するものでございます。

開けていただきまして、１１０ページの平成２４年度菊池市継続費繰越計算書でございます。庁舎等整備設計業務委託事業及び朝日東団地建替事業の繰越総額は３億８６万円となっております。平成２４年度の年割額にかかります歳出予算額のうち年度内に執行できなかったものは、規定により継続年度の終わりまで逓次繰越して使用することができるため、繰り越すものでございます。

以上、報告第５号の説明とさせていただきます。

次に、報告第６号、専決処分の報告についてでございます。

１１２ページをお願いいたします。専決第１号の専決処分書でございますが、車両事故による損害賠償にかかる額の決定について専決処分を行ったものでございます。専決日は平成２５年３月２５日でございます。事故発生日は平成２５年１月２９日、相手方につきましては記載のとおりでございます。事故の概要としましては、菊池北宮のガソリンスタンド内において、給油して帰る際、ガソリンスタンドを出るため後退しようとしたところ、後方確認不足により、給油中であった相手方車両の右フロントフェンダーに接触し、損害を与えたものでございます。よって、過失割合により損害額を負担するものでございます。損害賠償の額として１１万９，９８８円でございます。その他の決定事項につきましては、記載のとおりでございます。

以上、報告第６号の説明とさせていただきます。

次に、１１３ページをお開きください。報告第７号、専決処分の報告についてでございます。

１１４ページをお願いいたします。専決第８号の専決処分書でございますが、市営住宅家賃及び明渡しの請求にかかる訴えの提起について、専決処分を行ったものでございます。専決日は平成２５年４月１日でございます。当事者は、記載のとおりでございます。事件の概要としまして、被告は市営住宅を不法占拠し、家賃を滞納しているため、菊池市営住宅管理条例第４１条第１項に基づき、建物の明渡し及び滞納家賃の支払い並びに損害賠償を求めるものでございます。家賃滞納額は５５万４，８２０円でございます。請求の趣旨は、記載のとおりでございます。

以上、報告第７号の説明とさせていただきます。

次に、１１５ページをお願いいたします。専決処分の報告についてでございます。１１６ページをお願いいたします。専決第９号の専決処分書でございますが、市営住宅の賃料相当損害金及び明渡しの請求にかかる訴えの提起について、専決処分を行ったものでございます。専決日は、平成２５年４月１日でございます。当事者は、記載のとおりでございます。事件に概要といたしまして、被告は市営住宅に入居している名義人の実子であり、平成２１年における判決を受け、建物を明渡す旨の誓約を菊池市と交わしたが、その後も退去が確認できず、強制執行を実施したが、裁

判所執行官の判断のもと、強制執行することはできないため、被告に対し、誓約による建物明渡し、債務に基づいて建物の明渡し及び遅延損害金を求めるものでございます。遅延相当損害金は６１万２，６００円でございます。請求の趣旨は記載の通りでございます。

以上、報告第８号の説明とさせていただきます。

次に、１１７ページをお願いいたします。報告第９号、専決処分の報告についてでございます。

１１８ページをお開きください。専決第１０号の専決処分書でございますが、連帯保証債務履行請求にかかる訴えの提起について、専決処分を行ったものでございます。専決日は平成２５年４月１日でございます。当事者は、記載のとおりでございます。事件の概要としまして、被告は平成２０年３月、建物明渡し等請求訴訟における判決を受け、平成２０年７月に建物明渡しの強制執行を実施した住宅入居者の連帯保証人であるため、被告に対し保証債務の履行請求を行ったところ、保証債務は不存在であると主張したので、保証債務の履行を求めるものでございます。請求額は４１万８，３４０円でございます。請求の趣旨は、記載のとおりでございます。

以上、報告第９号の説明とさせていただきます。

次に、１１９ページをお願いいたします。報告１０号、専決処分の報告についてでございます。

次の１２０ページをお願いいたします。専決第１２号の専決処分書でございますが、市道の管理瑕疵にかかる額の決定について専決処分を行ったものでございます。専決日は平成２５年５月７日でございます。事故発生日は平成２５年３月２７日でございます。相手方につきましては、記載のとおりでございます。事故の概要は、菊池市隈府地内の市道立町北原線を走行中、ボルト固定部が破損し、路面から脱着していたレインシュレイターと相手方車両が接触。タイヤを破損する損害を与えたものでございます。損害賠償の額は、８万１，９００円でございます。決定事項は、記載のとおりでございます。

以上、報告第４号から報告第１０号までの説明とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で、報告を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

お知らせします。

会議を来る１１日の午前１０時から開き、質疑、委員会付託、一般質問を行います。

議案に対する質疑を行う方は、事務局備え付けの様式により、その要旨を具体的に記載し、１０日の正午まで、事務局に提出をお願いします。

本日は、これにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後零時１９分

第　２　号

６ 月 １１ 日

平成２５年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第２号

平成２５年６月１１日（火曜日）午前１０時開議

第１　質疑
第２　委員会付託
第３　一般質問

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　質疑
日程第２　委員会付託
日程第３　一般質問

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒　木　崇　之　君
２番	柁　原　賢　一　君
３番	工　藤　圭一郎　君
４番	城　　典　臣　君
５番	大　賀　慶　一　君
６番	岡　﨑　俊　裕　君
７番	水　上　彰　澄　君
８番	東　　英　俊　君
９番	東　　裕　人　君
１０番	泉　田　栄一朗　君
１１番	森　　清　孝　君
１２番	中　原　　繁　君
１３番	樋　口　正　博　君
１４番	中　山　繁　雄　君
１５番	怒留湯　健　蓉　さん
１６番	坂　本　昭　信　君
１７番	隈　部　忠　宗　君
１８番	葛　原　勇次郎　君

１９番	木　下　雄　二　君
２０番	坂　井　正　次　君
２１番	森　　隆　博　君
２２番	山　瀬　義　也　君
２３番	境　　和　則　君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――○―――――――――――――――

説明のため出席した者

市　　長	江　頭　　実　君
副　市　長	永　田　明　紘　君
総務企画部長	野　口　祐　成　君
市民環境部長	下　田　俊　一　君
健康福祉部長	宮　本　誠　一　君
経　済　部　長	平　野　國　臣　君
建　設　部　長	松　野　浩　一　君
総務企画部統括審議員	西　浦　一　義　君
七城総合支所長	岩　下　利　昭　君
旭志総合支所長	水　上　菊　也　君
泗水総合支所長	松　岡　千　利　君
財　政　課　長	小　川　秀　臣　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	伊　藤　道　俊　君
市長公室長	倉　原　良　則　君
教　育　長	倉　原　久　義　君
教　育　部　長	中　村　鉄　男　君
農業委員会事務局長	松　永　隆　則　君
水　道　局　長	原　　和　徳　君
代表監査委員	宮　川　貞　雄　君
監査事務局長	宮　村　公　男　君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

事務局職員出席者

事　務　局　長	城　　主　一　君
議　事　課　長	宮　川　啓　子　さん
議　会　係　長	松　原　憲　一　君

○議長（山瀬義也君）　全員起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（山瀬義也君）　これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第１　質疑

○議長（山瀬義也君）　それでは、日程に従いまして、日程第１、質疑を行います。

ここで、申し合わせ事項について申し上げます。質疑は、一括質疑として３回までとなっております。質疑は、提出議案に対して疑義を質すものであり、一般質問と違って、自己の意見を述べることはできません。

発言の通告があっておりますので、質疑を許します。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　おはようございます。日本共産党の東裕人です。

質疑を行います。一括して、まず、議案第５９号、菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について、お尋ねをします。これは、国家公務員給与の削減分と同様の地方公務員給与の削減を前提に、地方交付税を削減することを地方に押し付けた、地方交付税法改悪に対応する条例です。国会の衆議院総務委員会の審議では、あくまで要請、強制ではない、地方の自主性で判断を、と総務大臣は述べており、ペナルティはありません、とも繰り返し答弁をしています。地方６団体からは、給与削減を前提にした地方交付税の一律削減、それに伴う給与引き下げ要請という過去に例を見ないやり方に対し、あってはならない、断じて行うべきではないと反発の声が上がっています。

そこで伺います。強制でもない、ペナルティはない、市長会、議長会など地方６団体も一斉に反対の声を上げる、そういうことを本市がやる理由、これは何ですか。なぜ減額するのか、お聞きしたいと思います。

それから、期限としては今年の７月１日から来年の平成２６年３月３１日までとしていますが、では、４月１日以降、必ず元に戻すのか、明言できるのかどうか、お聞きしたいと思います。

次に、議案第６２号、菊池市庁舎等整備市民検討委員会条例の制定について、お

尋ねをします。４点お聞きします。

まず１点目、この庁舎問題の到達をどう認識しているのか。２点目、この条例案は、その到達を踏まえたものなのかどうか、お答えいただきたいと思います。３点目、到達を踏まえたものであるとするなら、この委員会に与えられる権限はどの範囲までか、お答えいただきたいと思います。４点目、この条例を見てみると、所掌事務がありますが、この委員会の所掌事務は、これまでの到達を超えるものになることはないかどうか、お聞きしたいと思います。

次に、議案第６９号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算について、その補正予算のうち、歳入、款１６財産収入、項２財産売払収入、目１不動産売払収入、予算書で言うと１４ページ、１５ページでありますが、これは次の議案第７８号で言う、水源小学校売却をする、それに対応する額を計上した不動産売上と、収入であります。土地の問題は後ほど述べますが、この建物は全体の体育館とか校舎、管理棟、その他建物全体の評価額から、業者が、これは要りませんと言って業者が必要とない施設を撤去する費用、これを差し引いて１，７３９万８，０００円を計上しています。このことは、５月２０日の議会の月例会で報告をしてあるとおりであります。議案７８号に、この売却物件がそれぞれ掲載しています。倉庫がいくらとか、倉庫がとか、物件が掲載されていますが、これを計算すると売却物件から全員協議会で説明された撤去費用を差し引くと、この議案７８号で上がっている今度の譲渡物件は、全員協議会での説明と８００万円合わないわけです。行政の説明どおりに計算をすると売却価格が８００万円安くなっています。これはなぜか、まずお尋ねをしたいと思います。

次に、議案第７８号、財産の譲渡についてです。これも水源小学校を売却する、その処分についての議案であります。この売却、今回の議案は、５月２０日の報告どおりの額で議案として出てています。この水源小学校の土地は、水源小学校という公有財産全体の評価額、全体の２，７２５万円から、業者が里道を挟んで、パネルで言えば青い部分、業者がここは要りませんと言っている不要な土地、この８３２万円を差し引いて１，８９３万円で水源小学校全体を売るという議案であります。建物は先ほど言いました。この７８号では、この土地の譲渡の問題で疑義があるので、まず伺います。この土地の譲渡のやり方、全体の評価額から業者が要らないという土地を差し引いて全体の評価額とする譲渡のやり方、あり方、その価格が適正だと思っているのかどうか、まずはじめにお尋ねをします。

以上、１回目の質疑を終わります。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問の第１点目、議案第５９号、菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について、なぜ減額するのかというご質問でございました。平成２５年１月に開かれました、国と地方の協議の場において、平成２５年度の予算編成にあたり、地方公務員給与について、国家公務員と同様に７．８％削減するようにと、財務大臣からの要請があっております。そのことを踏まえ、国としては地方の行革の努力や定員削減の実績については評価をするがと、ラスパイレス指数で全体を見れば、まだ給与水準は地方が国を上回っているということで、今回の地方公務員給与の削減要請を行っておるわけでございます。今回は国からの要請ではありますが、実は背景として東日本大震災を契機として、防災減災事業に国家的に積極的に取り組む、そのための財源としての位置づけでございます。また、ペナルティはありませんが、地方財政計画上は実質的に交付税が削減されておりまして、この給与削減を行わないと行政サービスにしわ寄せが生じる懸念があり、本市や県内の他の自治体においても、まさに苦渋の判断をせざるを得ない状況にあるということから、今回の議案第５９号を上程しておる次第でございます。期限につきましては、条例に明記してあるとおり、あくまで平成２５年７月から平成２６年３月までの特例であるということでございます。

引き続きまして、第２点目についてお答えいたします。ご質問は、議案第６２号、菊池市庁舎等整備市民検討委員会条例の制定について、その設置の意味合い、あるいは到達地点を踏まえたものかと、こういうご質問がございました。今回の所信表明で述べさせていただいていますとおり、庁舎等の整備につきましては、これまでの市議会での承認、議決された経緯を尊重しながら進めてまいります。しかしながら、当然、無理無駄が起きないように、市民の皆様の意見を聞きながら計画の精査を行うということを考えております。特に図書館につきましては、本年３月、市議会定例会において図書館建設への市民参加に関する請願というものが採択されております。また、庁舎等整備基本構想・基本計画のパブリックコメントにおいても多くの意見が出され、市民の関心が高いものというふうに思っております。今後、庁舎等整備基本設計等の業務を進めるにあたりまして、昨年度策定しました基本構想・基本計画を踏まえた上で、市民の方のご意見を反映させながら、より良い計画となるよう、菊池市庁舎等整備市民検討委員会の設置を提案させていただいておるところでございます。菊池市庁舎等整備市民検討委員会の役割としては、庁内の作業部会や専門部会で協議を重ねて作成されました基本設計の素案を、まさに市民の目線で検討していただくということになります。整備内容や規模、配置等について、委員の方々の意見を集約して案づくりに反映していくように考えております。当然のことながら、市議会をはじめ４地区の地域審議会等への説明と意見聴取

も並行して進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　おはようございます。東議員の質疑にお答えいたします。

まず、８００万円の差額ということでございますが、今回、水源小学校の財産譲渡の議案を提案させていただいておりますが、評価額より減額した額で提案をさせていただいております。その減額分が約８００万円で、その根拠として、プール等の解体費用に相当する額で、５月の月例会では説明をさせていただいたところでございます。

それと、譲渡は適正かというご質疑でございますが、土地の鑑定額は小学校の土地５筆を一団の土地として評価し、算出した額でございます。業者の事業計画における土地、建物購入予算と市の鑑定額に大きな開きがあったため、協議を行った際に業者より建物の建っている部分のみの購入ができないかと相談があったため、市としましては、草刈等で維持管理費のかかる法面や原野も譲渡した方が将来の経費負担が軽減されるために、法面等の４筆の土地代を計算し、減額の根拠としたものでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　議案第５９号、６２号については、今、答弁もありましたが、私の質疑も含めてですね、総務委員会でしっかり検討いただいて、とりわけ職員の人件費の問題については賛否両論、いろんな角度からの議論が今起こっている最中でありますので、慎重に審議いただきたいというふうに思っています。庁舎整備等市民検討委員会の条例についてもお願いしたいと思います。

２回目にお聞きしますのは、議案第６９号、７８号の水源小学校の建物の売却、土地の売却、財産の譲渡の問題について、２回目のお尋ねをします。

まず、建物の説明で、今答弁で８００万円合わないのはプールの撤去費用だというふうに言われました。では、そのプールの撤去費用というのは、予算上、どこに出てくるのか、どこで計上されるのか、されているのか、お尋ねをします。

それから、７８号の土地の問題ですが、先ほど説明もありましたが、業者が要らないという土地も現況が法面であろうが原野であろうが公有財産であります。しかも、今、法面、原野、そういう説明もありましたが、地図を見ればわかりますが、

校庭もしっかりかかっているわけですね。里道を挟んで有償、無償というふうに分けて今回上げていると。そういうグラウンドも入っている土地、その土地の評価額を全体の評価額から差し引いて売る。先ほども言いましたが、差し引いた額を譲渡価格として財産の譲渡という議案にするのは、私は実際の市の公有財産、資産の増減、評価額から考えると、これは適正ではないというふうに考えます。今回の案件は、差し引きして計上するのではなく、業者が必要としない用地も付け足して、タダであげる。すなわち、この問題の本質は、有償譲渡プラス無償譲渡の形態であるというふうに考えます。そうすると、議案は財産の譲渡、この議案は有償譲渡と無償譲渡の２つあるべきだと思います。今回の議案は、そもそも公有財産の処分のあり方としてよろしくないと考えますが、どう思われますか。

それから、不動産鑑定の結果をもとに今回評価額が算出されています。ということは、当然これまでの予算の中に不動産鑑定委託料というのが計上されているはずです。そして、それを議会で議論しているのが普通だと思います。それは、今回の平成２５年度の補正予算では、この水源以外の河原、迫水、龍門の３つの小学校の不動産鑑定委託料が今回の補正予算で計上されているのを見ればわかるように、これが、今回の議案が私は正解だと思います。ところが、この水源小学校の不動産鑑定委託料が２４年度当初予算にも、その後の補正予算にも、どこにも計上をされていない。調べてみると、平成２４年度当初予算、菊池ゆめ元気づくり戦略委託料、こういう委託料から流用しているというのがわかりました。この元気づくり委託料については、当初予算の際に菊池の知名度向上、ＰＲのための委託料というふうに総務委員会では当時説明をされているものであります。学校跡地の不動産鑑定委託に適用するとは、この１年間総務委員会でも議会全体でも審議されないまま支出をされた不動産鑑定委託料です。さらに言えば、この鑑定委託料の支出は、契約書がありますが、２月２０日に、この元気づくり戦略委託料から別件の庁舎等整備用地不動産鑑定業務委託という、元気づくり委託料から別件の契約をまず２月２０日に行って、その後、その委託契約に３月８日、水源小学校の不動産鑑定の委託の追加を行う、こういう契約でありました。この契約書も、本来であれば水源小学校の契約の場所については水源地区とか、あるいは委託業務名は水源小学校不動産鑑定委託業務どうのこうのというならわかりますが、業務名は、あくまで庁舎等整備用地不動産鑑定委託契約と。場所は隈府地内というものの隈府を消して菊池地内というふうに変えただけ。そういう変更の契約になっているわけで、これは通常ありえないのではないかというふうに思います。そして、そういった予算の流用や契約などの処理も疑問ですが、そうした支出は３月７日から１２日に掛けて行われた３月議会の総務委員会でも審議する機会があったにもかかわらず、それもない。私はそう

いう不動産鑑定委託料の支出は適正ではないと考えますが、代表監査委員はどう考えますか。

また、適正でない不動産鑑定委託料支出に基づく契約、そしてその結果としての不動産鑑定評価額が、果たして適正と言えるのかどうか、代表監査委員の職責上、可能な範囲で考えを聞かせていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　東議員の再質疑にお答えいたします。

撤去費用は予算書のどこに計上しているのかというようなお話でございますが、撤去費用は土地を更地として利用する場合、建物が有効利用を阻害しているため、建物解体費用を減額する建付原価の考えを適用し、減額の額の根拠としたもので、予算書の上での計上はしておりません。

それと、もう一つお尋ねの無償譲渡、有償譲渡、分けて提案すべきではないかというようなお話だと思いますけども、先ほどちょっと答弁いたしましたけども、今回の土地の鑑定額につきましては、小学校の土地５筆を一団として評価し算出したものでございます。

以上、お答えいたします。

（「いや、あり方として妥当かどうか、適正かどうかという点では。一団として処理したのはわかりますけど、適正だと思われますか、という質疑です」と呼ぶ者あり）

○総務企画部長（野口祐成君）　あり方としては、この進める中においては適正と思って判断したところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　代表監査委員、宮川貞夫君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞夫君）　議案第７８号、財産の譲渡にかかる不動産鑑定委託料につきまして、お答えいたします。

不動産鑑定委託料の支出の適正の適否についてでございますが、ただいま東裕人議員からご説明がございましたように、本件不動産鑑定委託料を菊池ゆめ元気づくり戦略委託料から支出しているということと、さらに庁舎等整備用地不動産鑑定委託業務の契約変更で行っているということでございますが、この件につきましては、平成２４年度の決算に係ることでございますので、市長からの審査請求に基づく決算審査の中で不動産鑑定評価額が適正かどうかも合わせて、坂本監査委員とともに関係書類を確認し、慎重に審査してまいりたいと考えております。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　最後ですが、まず建物の話ですけれども、今、プールの解体費用８００万円のお話がありました。５月２０日の全員協議会の説明では、建物全体の評価額から撤去費用、例えば倉庫が５万円、更衣室が２８万円、これだけかかりますよ等々、撤去費用を差し引いた額を譲渡価格とする旨の説明がありました。そのときに併せて、できるだけ減額をしたい、そういう答弁もありました。今回、聞き取りの中でも値引きするために撤去費用を算出したということが言われました。実際、撤去するかどうかもわからないということもわかりました。そうすると、議会で説明をされた中身と違うのではないかというふうに思っています。全体の評価額から値引きをするために、撤去するかどうかわからない撤去費用を不動産鑑定までさせて差し引く、これが適正なのかどうなのか。そして議会には、あたかも撤去費用はただちに発生するかのように説明をしながら、実際には存在しない撤去費用を差し引いて計算して、全体の評価額とするのは、そしてそれを計上するのは、どう考えても適正ではないと考えますが、代表監査委員の考えを、これもなかなか難しいとは思いますが、職責上、答えられる範囲でお答えいただきたいと思います。

それから、土地の問題ですが、先ほどの説明では私は不十分だと思うので、委員会でも慎重審議されるとは思いますが、検討すべきだと思います。

最後に、この土地の譲渡の問題でお聞きします。この財産の譲渡の提案理由に、地方自治法第９６条第１項６号の規定に基づきというふうにあります。これは、適正な対価なくしてこれを譲渡もしくは貸し付けることをする場合、議会の議決が必要だというものです。ほかにも財産の処分についての地方自治法の上での規定があるわけです。財産に関する議会の権限が規定されているのは、執行部だけでは、行政サイドだけでは、こういう処分、市民の財産を処分する際に、適確な、公平な、適正な判断が十分できない恐れがあるから法律上、そう規定をしているわけです。そして、議会の議決が必要なんですけど、その議決の前提として、譲渡の必要性、妥当性を審査を経た上で議決をすると、こういうふうになっています。

そこでお尋ねしますが、この議決の前提である譲渡の必要性、妥当性についての審査、あるいは議論は、これまでの議会や委員会でなされているのかどうか。していないとすればいつするのかお聞きします。

２点目に、この議決事件である本件について、議決を前提に会社と何らかの譲渡手続きが進んでいたりとか、そういうことはないとは思いますが、あるのかどうか。

３点目に、菊池市の公有財産取扱規則は、第２９条で価格を適正にするため、菊

池市公有財産評価委員会設置を定めています。これ、設置しているのかどうか。設置しているのであれば、いつしたのか、お尋ねをします。

○議長（山瀬義也君）　代表監査委員、宮川貞夫君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞夫君）　この歳入予算は、議案第７８号、財産の譲渡について呼応するところがありますので、議案第７８号とセットで考える必要があるかと思います。評価額から差し引いて価格を決定していくことにつきましては、地方自治法第９６号第１項第６号に基づき、適正な対価なくしてこれを譲渡することから、今回、議案として上程されていると考えます。本件につきましては、評価額から差し引きを行っているということであれば、その差し引きの根拠が適正であり、かつ十分な説明がなされるべきと考えます。なお、議案の内容に対する意見及び考えを述べることにつきましては、議会の審議前でございますので、代表監査委員としての意見は差し控えさせていただきます。本定例会の委員会及び本会議の中で十分議論されることを期待いたします。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　水源小学校の財産譲渡案件につきましては、議案としては今回が初めての提案になります。今回の企業進出は、本市や地元にとりましても大変有益なものであり、機会を逃さないよう進めている点はございますが、４月、そして５月の月例会でも経過の報告をさせていただいておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

また、議会へ財産譲渡等の議決事項を提案する場合、原則として仮契約を行い、相手方、契約目的を特定し、明らかにしておくべきとされていますので、５月３０日付で議会の議決等と文科省の財産処分手続きの承認を条件とした仮契約を行ったところでございます。また、公有財産評価委員会につきましては４月１９日に開催いたしております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　次に、荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　こんにちは。

議案第６５号、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例一部を改正する条例の制定について、６９号は、条例に伴う予算です。お尋ねいたします。

議案その１、９５ページ、９６ページをお開きください。今回の条例の改正では、公平委員会の中に識見委員を入れるとのことですが、合併して８年経った今、なぜ識見委員を入れるということを提案されたのでしょうか。また、県下１３市と県を私は公平委員会の報酬を調べましたが、どこも識見委員と区別して報酬を定めているところはありませんが、これは適法ですか。

１回目のお尋ねといたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　荒木議員の質疑にお答えいたします。

公平委員会につきましては、委員３名で構成され、そのうち１名の委員につきまして、本年７月７日までが任期となっており、新たな委員の選任が必要となります。本市公平委員会の業務状況でございますが、平成１７年３月の市町村合併以降、平成２２年度までは勤務条件に関する措置要求、不利益処分に関する不服申し立て等がありませんでしたが、平成２３年度から職員の苦情、提案が上がるなど、処理すべき事案が出てきております。このような中で、その審査手続きにおいては民事訴訟等に準じたものとなっておりますので、適正な事務処理を行うため、今後、法的専門性を有する識見者を委員に迎えることとし、条例改正を行うものでございます。年額報酬から日額報酬への変更につきましては、公平委員会委員に識見者を入れることに伴い、本市としての識見委員の報酬に合わせる必要がございます。また、地方自治法第２０３条の２第２項では、条例で特別の定めをした場合を除き、行政委員等の報酬は勤務日数に応じたものとなっております。公平委員会委員の勤務は、非常勤で、先に述べました勤務条件に関する措置要求、不利益処分に関する不服申し立て等のあるなしによりまして大きく勤務日数が変わってまいりますので、より勤務実情に応じた報酬支給とするため、日額報酬に変更するものでございます。公平委員会の設置につきましては、第三者的組織がいいのではないかとの質疑でございますが、それにつきましては、現在、熊本市を除く１３市のうち７市は単独設置で６市は熊本県にその事務を委託しております。委託している６市のほとんどは旧町村時代からの委託継続によるものでございます。本市におきましても平成１７年の合併に際し、県に委託を依頼いたしましたが、県よりこれ以上の受託はできないとして、単独設置をしたところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　再度お尋ねいたします。

今のご答弁では、２３年から難しい案件が上がってきたから、識見者を入れて、そして審議をしたいということであります。ちょっとおかしいと思いますので、質疑いたしますが、地方自治法第９条第１項では、公平委員は人格が高潔で、中略しますが、事務の処理に理解がある、かつ人事行政に関し識見を有する者とあります。それを長が選任すると定められておりますが、今の公平委員は、じゃ識見者じゃないんですか。お尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　再質疑にお答えいたします。

先ほどもお答えいたしましたが、現在の委員さんがというお話でございますけども、中身的に、先ほど言いましたように内容が変わってきたものですから、その分に対しては識見者の一人をその中に加えて、またよりよき方向にしてもらうような意味での提案でございます。

以上、お答えいたします。

（「部長、識見者か識見者じゃないか、それをお答えください。今の人は」と呼ぶ者あり）

○総務企画部長（野口祐成君）　今の人は識見者でございます。ただ、その中でも、よりまた専門的な方をお迎えしたいということでございます。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　今の方が識見者であれば、識見者を新たに入れる必要はないと思うんですね。

再度お尋ねしますが、全員が識見者ということであれば、金額に差をつけるのはおかしいと思います。例えば、お一人の方が２万円、あとの方が３，８００円とすれば、２万円の方に自ずとウェイトがかかってしまいます、日額が違うなら。ということを考えれば、全員が日額２万円か、全員が日額３，８００円でないとおかしいと思いますが、どうお答えされますか。３回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　今回は、１名の方が、先ほど申し上げましたけど変わられるということで、その分での１名の方の委任をするものでございます。

それと、金額につきましては、その１名の方につきましては弁護士を想定しておりますので、その中におきまして、弁護士は費用基準というのがございますので、そういう部分に合わせて、そこで差額が生じているものと判断しております。

以上、お答えいたします。

（「議長、答えになっていないような気がしないですか。全員２万円にするか、３，８００円にするかということをお尋ねしておりますけど」と呼ぶ者あり）

○総務企画部長（野口祐成君）　全員２万円にするということではございません。今回予定している方の分というか、先ほど言いましたように、弁護士の先生を予定しておりますので、それにつきましてが通常の弁護士報酬、費用に合わせた分の、また先ほどもちょっと申し上げましたけども、その中でも、委員の中でも特に別な部分というとあれですけども、そういう中で、より知識のある方と判断しております。そのことを受けて２万円という形で判断をしております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）次に、怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　私は、市長の施政方針について質疑をいたします。

施政方針はペーパーにしますと１３ページにわたり、膨大な、そして多岐にわたっておりました。市長の向こう４年間の市政のバックボーンになるものと思って、関心を持って聞かせていただきました。その中で、市長がおっしゃいますところの市民目線で素朴な疑問を出させていただきますので、質疑ですから簡潔に申し上げますから、骨格の部分を簡潔にお答えください。

ペーパーで言いますと２ページの総論の中の、中期的には小水力等の自然エネルギーを活用し、自然の恵みを生かした循環型社会のモデル地方都市を目指すとございますが、この構想は脱原発を、卒原発を基本理念とした構想と受け止めていいのでしょうか。これが１点目です。

２番目に、ペーパーで４ページの安心安全の癒しの里構想に市長は養生園保健組合の副組合長でもいらっしゃいますので、本市の国民健康保険事業の状況等を念頭において、もう一歩踏み込んだ予防医療の里の構想が先行して、市民の中で専門家も交えて模索されておりますが、これがドッキングできると、合わせられると考えていいのでしょうか。

３点目が、これ７ページになりますが、学校給食施設整備事業について、隈府小学校における２，０００食構想をほぼ追認する旨が述べられておりますが、これで食育の目的が果たされるとお考えになったのでしょうか。

４点目に、これは同じページ、７ページですが、児童生徒に対する特別支援授業の補助教員、特別支援教育支援員、看護師等、本年度は市独自の雇用としてさらに充実していただきましたことを、まずありがたく感謝いたしますが、ところでこの目的は、児童生徒の着実な基礎学力の定着向上に努めることとございますけれど

も、市長はこの事業の目的を基礎学力の定着向上としてのみお考えでしょうか。それとも、学力の保証とともに、この事業はノーマライゼーション社会構築への重要な過程であるとのご認識でしょうか。

５点目、これは１１ページになりますが、審議会等への女性登用率３５％を目指すとございますけれども、これも大変力強く、嬉しいところですけれども、民間の範にたるべき市役所の女性管理職のことに触れてございませんようです。それはなぜでしょうか。構想があれば、その育成と登用等についてお聞かせください。

以上、５点、よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、江頭でございます。ただいまの怒留湯議員の質疑にお答えいたします。

まず、第１点目、自然エネルギー構想についてでございますけれども、施政方針の中では、小水力発電等に関して述べておりますが、原発云々について特段考えた上でのことではございません。原発に対する私なりの考えというのはもちろんございますけども、私の今担当しております行政の範囲外でもございますのでですね、本議会の場と時間を使ってちょっと私の個人的な心情等々はですね、差し控えさせていただきたいと思っております。

２番目に、安心安全の癒しの里構想でございますけども、この言葉には２つの意味合いを託しておりましてですね、１つ目は、こころの時代を迎えた今、菊池の自然力を活かして魅力的な癒しの里を創り上げて、賑わいを創り出して経済の活性化につなげようというのがまず一番目の狙いでございます。もう一つは、観光客だけではなくてですね、住んでいる住民の方々がこの地に暮らしてよかったと心から満足できる本当の意味での癒しのふるさとをつくる。これは当然、心だけではなくてですね、体も含めた、つまりみんなが健康で暮らせるようなそういうふるさとというものを念頭においておりますので、ご質疑のあった健康それから医療、こういったふうな文脈のつながりは必ず将来出てくるものだというふうに考えております。

それから、３番目の学校給食施設整備事業に関しての食育に関するご質疑でございますけども、今回もう既に共同調理場という方向で進んでおるわけでございますけども、ここにおいて食育というものができるのかというご質疑であったかと思いますが、実は既に給食センター方式をとっております泗水給食センター、それから七城給食センターにおきましては、そこから配送しています七城地域、泗水地域の各小中学校においてですね、例えば七城における米づくり、それから泗水における梅づくりなどの大変よい食育を実践されているなというふうに承知しておるところ

でございますので、今回整備予定の新しい共同調理施設もですね、同様の食育が大きな問題なく実践できるんではないかなというふうに考えております。

付言しますと、施政方針にも述べたとおりですね、今後地区ごとに食育推進委員会というものを設置して、小中学校が連携した食育の推進を実践してできるように邁進してまいる所存でございます。

それから４番目の、独自雇用の補助教員の目的といってよろしいでしょうかね、というご質疑でございましたけれども、そもそもこの補助教員、特別支援員というのは市が独自で配置しているものでございますけども、そもそもの狙いはですね、単に学力向上が目的で配置しているものではございませんで、実はそれぞれの学級に在籍されている何らかの障害を持った児童生徒の方々、この方々はやはり個別ないろいろな特殊な事情がございますので、その方々と一律ではなく、個別に向き合ってしっかりと接しながら、その子どもさんの特性を踏まえた学習面における支援をやっていかなきゃいけない。そのことがまず第一義的な目的でございます。ただ、そのことに寄り添う独自の特別支援員等々がいることで、これによって先生が他の生徒さんにまたきっちりと向き合って学習指導も行うことができるという、いわばそういう２つの狙いを持ったものということでございます。

それから５番目の、市役所における女性管理職の育成、登用についてということでございます。まず、全般的に私は施策などの企画立案、決定過程に参画する女性の増加を図りたいと。つまりそうすることで、いろんな多様な視点が生まれますので、いろんな新しい発想とかですね、組織の活性化が生み出されるんではなかろうかと、そう思っております。審議会等への女性登用率は確かに３５％という目標を打ち出しておりまして、実は改めて市役所の中におけるそういった数値目標は特段つくっておりませんけども、当然これは、基本的な考え方でございますので、女性職員の管理職の登用といったことも引き続き、適材適所ということを基本に、男女の区別なく行っていきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　ほぼご自分のお言葉でお答えくださったと受け止めました。

最初のエネルギー政策については、地方議会の限界があるということは私も存じておりますので、これから自然エネルギーの開発とか省エネルギーの技術革新は進んでいくと思われますので、本市もその潮流に乗ってですね、共に信頼にたるエネルギー政策を市長に期待して、１回目の答弁でこれで結構です。

それから、安心安全癒しの里についても、その両面があるということをおっしゃってくださいまして、既に民間でも模索が始まっておりますので、その辺をおつなぎして、よりその市長の構想が豊かになることを期待して、お進めいただきたいと思います。

それから、学校給食整備事業については、３月の議会で補正であれが通りましたので、本当に今難しいことでございますが、果たされるということでございましたけれども、先の議会で私は、ほかの方も質問しましたが、ハンバーグなどの手づくりは困難であり、既製品、半調理品も増えてくるであろうという答弁があっておりますが、このことについてはご承知だったでしょうか。これは２回目のご答弁お願いしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　質疑はあくまでも疑義を質すものでありまして、一般質問とは違いますから、自己の意見を述べることはできません。注意して発言をお願いします。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　はい、わかりました。

ご承知であったろうかということです。

それから４番目の、特別支援事業については、学力の定着向上にみならず、子どもたちが思いを共有するということも狙いの一つであるというご答弁でありましたので、これが現場で生かされているように期待して、これもこのご答弁で結構です。

それから、女性の管理職の登用については、民間では女性の登用率を６％から７％に上げるというようなことを言っておりますが、公務員の職場においてもそれが求められていると思いますので、民間のご経験であります市長にそれを期待して、ご一緒に考えていきたいと思いますので。

３番目の給食のところにお答えができますならば、お願いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　給食センター構想にからみまして、今の例でいきますとハンバーグ等々がなかなかできなくなるんではないかということは、最近、耳にしたことはございます。それ以上の知識は今のところは持ち合わせておりません。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　はい、ありがとうございました。正直におっしゃってく

ださいました。

学校給食について、もう１点ですね、ご存知であったかどうかをお伺いします。市内の納入業者が参入しにくくなるという答弁もあっておりましたが、このことはご承知だったでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　お答えいたします。

正確にはちょっと今わかりません。実はこの食育のことを検討する際にですね、今の主な納入業者のことを分析したことはございますけども、どういうふうな団体があるかということは分析したんですけども、ちょっと市内、市外、どういう分類であったかというのはちょっと今記憶がございません。どうぞお許しください。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第２　委員会付託

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第２、委員会付託を行います。

議案第５８号から議案第７８号までについては、お手元に配付しております議案付託表のとおり、それぞれの所管の各常任委員会に付託します。

各常任委員会は、付託されました案件を十分審査いただきますよう、お願いします。

平成２５年　第２回菊池市議会定例会議案等付託表

付託委員会	議案番号	件名
総務文教常任委員会	議案第５８号	菊池市長等の給与の特例に関する条例の制定について
	議案第５９号	菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について
	議案第６０号	菊池市総合計画策定条例の制定について
	議案第６１号	菊池市総合計画外部評価委員会条例の制定について
	議案第６２号	菊池市庁舎等整備市民検討委員会条例の制定について
	議案第６５号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第６８号	菊池市立体育館条例及び菊池市営グラウンド条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第６９号	平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）
	議案第７８号	財産の譲渡について
福祉厚生常任委員会	議案第６６号	菊池市ひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第６９号	平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）
	議案第７０号	平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第７６号	平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）
経済建設常任委員会	議案第６３号	菊池市特定用途制限地域における建築物等の制限に関する条例の制定について
	議案第６４号	菊池市行政、文化、教育拠点特別用途地区建築条例の制定について
	議案第６７号	菊池市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第６９号	平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）
	議案第７１号	平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号）
	議案第７２号	平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第７３号	平成２５年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）

付託委員会	議 案 番 号	件　　名
	議案第７４号	平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第７５号	平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第７７号	平成２５年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時５７分

開議　午前１１時０６分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第３　一般質問

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第３、一般質問を行います。

ここで、申し合わせについて申し上げます。質問の順序は通告順です。質問時間は、答弁を含めまして６０分以内です。通告事項以外の質問並びに関連質問はできません。質問は一問一答方式で、質問事項に対し３回までとなっています。

発言の通告があっておりますので、これより順次質問を許します。

はじめに、東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　あらためまして、おはようございます。日本共産党の東裕人です。通告に沿って一般質問を行います。

まず、施政方針についてです。４月の市長選挙で新しい市長が誕生しました。まずは江頭市長、おめでとうございます。新市長を迎え、初めての一般質問でもありますので、この機会に、昨年も述べましたが、私の議員としてのスタンスも改めて述べて、市長の施政方針について質問をします。

施政方針は、菊池市がこの１年間、どのような事業に取り組むのか、地方自治法が掲げる住民の福祉の増進、この任務実現のために一体何をするのか、市長の考えを示したものであります。また、激しい市長選挙を経て誕生した新しい市長が、市政の焦点についてどういう認識を持ち、またどういう構えで施政運営していくのか、その基本方向が端的に現れたものであると考えています。それを受けて私自身、議員として何をすべきか。よく言われるチェックアンドバランス、監視と均衡

という機能を働かせるにとどまらず、どこでアクセルを踏み、どこでブレーキをかけるのか、常に考え議論しながら、求められる議会議員の役割を果たしていきたいと考えています。また、スタンスとしてはこれまで同様、何でも賛成、あるいは何でも反対という立場はとっていません。よいことは一緒に進める、悪いことは断固反対を貫くという立場で、また監視役にとどまらず、一致点での協働、協働の力で政治を前に動かす、この立場で合併９年目、新市長を迎えた平成２５年度も引き続き奮闘したいと考えています。

さて、本市は平成１７年３月に合併をし、今年９年目を迎えました。合併前後から今日に至る懸案事項であった新庁舎問題は、平成２３年、１年近く掛けて議会で議論し、一番の争点であった庁舎の位置についての問題は基本的に解決をしました。ところが、この庁舎問題を発端に、だまされた、信頼関係はもうない、こういう運動が起こりました。この運動は今年２月に収束をし、団体も解散したと報じられていますが、この間生まれた住民対立や地域間対立は、依然、深刻な影響を及ぼしています。これは簡単に解消できるものではありません。実際、昭和の大合併で同様の対立が生じたある自治体では、４０数年、今日までその対立を引きずったままであるという、そういう事例もあるほどであります。こうした対立や困難を解決し生じた停滞を打ち破り、全市的立場で市政を前に進めることが早速新市長に問われえてくると思います。大変であると思いますが、これは乗り越えなければならない課題であります。

そこで、幾つか市長の認識、構えを伺います。

１つは、新庁舎問題での今日の到達点をどう認識しているのか。２点目に、１年間にわたって行われた運動による対決困難をどう解決していくのか。３点目、この対立による停滞をどう打ち破って市政を前に進めようとしているのか。４点目、合併自治体である本市に起こったこうした対立や停滞は、結果のその良し悪しは別にして、自治体のあり方をしっかり考える機会ともなったというふうに思います。そういう点では、私は意義はなくはないと考えています。しかし、だからといって自体を逆行させるような議論や地域間対立を激化させる類の議論、あるいは市長が変わったんだけんチャラにするような振る舞い、そういう議論は放置できません。これまで繰り返し求めてきた合併検証、そしてそこから導き出されるであろう、これからの基礎自治体のあり方を行政自身、掴むべきではないかというふうに考えていますが、どう思われますか。まずはじめにお聞きします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今４つほどのご質問をいただいたと思います。

最初に、庁舎問題、到達点に対する理解ということでございました。庁舎問題につきましては、市議会をはじめ地域審議会等々、これまで多くの方々が多くの時間と議論を重ねられて、その結果、今の現在に至っているんだということで認識しております。所信表明におきましても述べさせていただいたとおりですね、これまでのそういった議論の積み重ね、その結果としての議会における議決の内容、それからそこに至る経緯、こういったものを尊重しながら進めてまいりたいと思います。当然、実際のユーザーである市民の方の意見を伺いながら、ただ決まったからということではなくて、そこに新たな目を入れて、無理・無駄が起きないようにということで、合理性ですとか機能性を考慮して、検証はきちんとやっていきたいというふうに思っております。

それから２点目、独立運動による対立・混乱をどう解決するのかという趣旨かと思います。それから３点目、この対立による停滞をどう打ち破っていくのかということは、多少関連しておると思いますので、一つの文脈の中でお答えさせていただきたいと思っていますが、実はこの分離・独立運動というのは、今回の市長選挙におきましてはですね、それ自体、私は大きな争点とはあえてしていないわけですが、分立というもの自体は、実はもう全国でも例のないことだというのは私も認識しておりましてですね、いろいろと本当にゴタゴタして、非常に市民の方々も痛みとか苦しみを覚えた過程であったわけですね。その結果、何とか今の合併を前に進めようじゃないかという到達点に至っているわけでございますから、この経験を無駄にしないということが一番だと思います。ですから、私たちがこの間、いろんな苦しみの中で学んだ貴重なレッスンをですね、今後の行政運営に前向きに活かしていかなきゃいかんなというふうに考えております。これを解決していくのは、一朝一夕ではないというふうに確かに認識をしておりましてですね、やはりその一体感を早く醸成していくことが一番でございますけども、なかなか近道というものはない中でですね、やはりその心の垣根をなるべく低くするという意味では、例えばスポーツ大会等を通じて融和の第一歩としたいということで提案しておるわけでございますけど、当然それ以外の方法はたくさんあろうかと思いますので、議員の皆様はじめですね、市民の皆様からのご提案、お知恵もお借りしながら、これから４地域の一体感の醸成に努めてまいりたいというふうに考えております。

それから最後の、基礎自治体のあり方についてのご質問でございますけども、一般的によく聞きますのは合併後、大体１０年間というのは新市の基盤づくりだということを言われておることでございます。先ほど申し上げましたようにですね、ですから今は産みの苦しみの時期なのかなというふうに思っております。ですから、これまで実施してきた様々な施策を検証してですね、特に私、大きな課題と思って

いますのは、これまでのいろいろな問題、混乱の根底にあったのはやはりコミュニケーションの不足といったようなことが大きかったなというふうに思っておりますので、そういったことをレッスンとして次の改善策につなげるなどの努力を行って、とにかく１日も早く市政を安定させて、合併してよかったなと思われる市にすることが重要であるというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　今の答弁の中で、私が非常に大事だなと思ったのは、やはりこの独立運動で起こった対立とか混乱、停滞の問題で生じた市民の痛みや苦しみを無駄にしないと言われたのは、僕は非常にそこは大事な部分だなというふうに率直に思って聞いたところです。それが基本かなというふうに思います。また、この問題、やっぱり簡単には解決しない問題ではあるし、解決に向けては根気がいる仕事で、もちろん市長一人で解消できる問題ではないというふうに思います。市長はじめ議会議員、職員さん、市民の方々、やはり全市的にどうすれば前に進むのか、解決の道筋を探求していく、そういう問題なのかなというふうに今の答弁も聞いて思いました。一方で、昨年一年のそういう運動や対立を体験した市民が選んだ市長だからこそ、できることもあるはずだと思います。今一度、この市長選の結果も含めてその意味を市長も我々自身も考える必要があるんじゃないかなというふうに思います。

次に、市政の焦点として、やはり私は市民の暮らしの問題、これは避けては通れない、暮らしの課題をどう解決するのかという問題が市長、新しい市政に問われてくると思います。賃金が安くて暮らしていけない、市内に働く場所がない、もう経営が成り立たない、こういう市民の暮らしの声は本当に切実で、文字通り待ったなしの現状があるわけです。また、高すぎる国保税をはじめ、重税が住民を苦しめて、税負担はもう限界、負担能力を超える重税の解消というのも急務です。行政自身はこれまで市民の税負担は限界です、こういうふうに繰り返し口にしながら、ずっと解決できないままきている現状は、やはり行政の責任が問われるし、首長の姿勢、構えが問われる問題でもあると思います。

そうした市民の暮らしの問題で市長に幾つかお尋ねをします。細かい話ではありませんが、一つ目は、今の５万数千の市民の暮らしの実態、課題を市長はどう認識していますか。二点目、市民のリアルな声、暮らしの実態を掴む努力をされているのかどうか。そしてその現状に市長は正面から向き合う構えに立っているのかどうか。三点目に、施政方針を聞いていると、率直に言って今の厳しい状況のもとで必

死に生きている多くの市民の切実な声や暮らしの願いに、新市長が私はこう答えますと、そういう姿勢がなかなか伝わらなかったというふうに思います。それは施政方針で言えばどこら辺で対応される問題なのか、お聞きしたいと思います。四つ目に、こうした暮らしの実態、福祉の願い、思い、市民の切実な思いの棚上げとか先送りというのは、もう許されないというふうに思います。これは政治姿勢が問われる問題でもあります。市長はどう考えますか。五つ目に、これはなかなか難しい、簡単には答えがでない問題だとは思いますが、今のこういう現状を解決する処方箋を市長が何らか持っているのかどうか。

五つ、暮らしの問題で市長の基本的な考えや構えについてお尋ねをします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま五つほどのご質問があったと思います。

まず１点目に、市民の皆さんの暮らしの実態をどう認識しているかということでございますけども、この菊池市を取り巻く環境は、経済の低迷、それから人口の減少、少子高齢化など、歯止めがかかっておりません。依然として大変厳しい状況にあるというふうに認識しております。特に商店街の空き店舗の状況を見ますとですね、その厳しさというものが、もう端的にそこに現れているなというふうに感じるわけですけども、さらにたまたま選挙が終わってまだ間もない時期でもございますから、私はその間に非常に多くの方々と話をさせていただきました。そうしましたら、やはり非常に多くの市民の皆さんからもですね、生活が厳しいという生の声や、特に若者の働く場が少ないと。そのためにどうしても若者は町を離れる、お年寄りだけが残される、経済に活気がなくなる、そういった悪循環に至っているのかなというふうに感じておりまして、そういう意味では大変深刻な実態になっているなというのが私の正直な気持ちでございます。

それから２番目に、こういった市民の皆さんの声を掴む努力をしているかということですが、これまでの選挙戦の過程でですね、やったような形で本当はやっていきたいわけですが、公務がありますので私のできる範囲のベストを尽くしていきたいと思っておりまして、やはり生の声を聞く機会を極力つくっていきたいと思っておりますので、こういった暮らしの声というものをですね、従来、市長への手紙というものがございますけども、これは紙の上での話でございますから、この生の声を聞くためにですね、市長と語る会というふうなことで計画しておりまして、これは具体化していきたいというふうに思っております。もう７月をめどにですね、早速、要するに議会が終わりましたら具体化をしていきたいというふうに思っておりますので、さらに多くの声に耳を傾けたいというふうに思っています。

それから三番目に、市民の願いにこう答えますと、これはいろんな切り口があろうかと思いますので、それからいろんな方がいろんな様々な願いをお持ちだと思いますので、私がこれまで受けた中で一番感じていることということでお話をしますとですね、大体市民の多くの方に共通するのは、この菊池市をとにかく変えてほしいと、とにかく変えてくれという訴えがもう大半なんですね。それを大きく分類しますとですね、一つは、やはりおっしゃっていることの一つは、地域経済にも活気がほしいと、まちに活気がないということ。それから市政の有り様という意味でですね、もっと市民を向いた政治をしてほしいと。私が一番やっぱり心に残っていますのは、この二つからくるところの菊池市をとにかく変えてほしいと、こういう願いであろうかというふうに理解しております。ですから、私はまずとにかく経済に元気をつけさせないと、この市は前に進めないというふうに考えているものですから、経済の活性化ということで、一番この成功の角度が高そうなですね、かつ将来につながりそうなという意味で農業と観光の振興ということを申し上げてきておるわけでございますので、先ほど申し上げた、市長と語る会など生の声に触れながら、市民目線の政治を実現していきたいと。まずは、ともかくこういう経済の活性化でもって応えていきたいというふうに考えております。

それから、棚上げ先送りはもうできない状況だというのは、私も全く同様でございます。特に市民の皆様には、重税感と言いましょうかね、いうのは否定できないものがあるんではないかと思っております。この税負担というのはやはり、税金が上がっているというよりは、どうしてもこの経済の停滞というのが長く続いておりましたので、所得が伸びていない。実質的には所得が減っているような状態であろうかと。そういう中で、総体的に市民の皆さんの負担感が増加しているんだというふうに理解しております。ですから、これを解決するためには、やはり何よりも市民の所得向上が第一だというふうに考えます。ですから、やっぱりこの施政方針でも述べております経済の活性化、そのための鍵になります農業と観光業、これを柱とする経済の立て直しをいち早くやらなきゃいかんという思いをさらに強くしている次第でございます。

さらにですね、本市は依存財源の割合が非常に高いものですから、この入りを増やすことは今言ったようなことで、当然としましてですね、この財政面もやはり工夫が必要だと。特に今後、地方交付税が大幅な減少が見込まれておりますので、一方ではこの経済の活性化に力を入れながらもですね、行財政の改革、それから遊休資産の売却などを含めた市有財産の有効活用ですとか、それから企業誘致ですとかですね、あるいは細かいところではふるさと納税のＰＲ等々、こういったことの自主財源の確保に努めていきたいというふうに考えております。

そういったことで、施政方針の中ではまだまだ十分とは言えません。ですから、これを皆様のお知恵を借りながらですね、より具体的なものを増やしていって、その中で暮らしの向上を図るための最善の方法というものをなるべく早期に具体化していきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　今、暮らしの課題をどう解決するのかという問題での答弁もありました。その中で、地域経済に活気をと、市民の所得向上をというお話もありました。

そこで、今の答弁も踏まえてですね、暮らしの課題の問題での、一言で言えば地域産業政策について全体としての考え方をお尋ねしたいと思います。

３月に県が公表した市町村民所得推計によれば、平成１５年から平成２２年の７年間でこの菊池市内で働く人たちの賃金は５９億円減っています。個人企業所得４４億円減少しています。ですから、合算でこの７年間で菊池全体の市民の懐から単純に計算して１００億円を超える所得が減っているわけですね。これだけ市民の懐から所得が減れば、先ほどの答弁でもありましたけど、当然、消費は減るし、個人企業では再生産に必要な新たな資本投下はできない、地域経済の循環は弱くなるばかりだと思います。こういう現状を直視して、市民の懐を温めるために、やはり自治体として市長もいろいろ施政方針の中で、いろんな分野で政策を打ち出されていますけれども、やはり自治体として打てる手、これは思い切って打つべきであろうというふうに思います。

そこで、先ほども所得向上という話もありましたが、市民の所得向上の具体的イメージについて、何かあれば市長の考えを伺いたいと思います。

それから、地域産業政策としては、もちろん企業誘致頼みだけではやはり限界があると思います。よそもやはり企業誘致で、よその自治体も頑張っている。誘致合戦だけでは、それはもう相手次第と。それ頼みだけではやはり、一向に前に進まないのではないか。企業誘致はもちろん努力しながらも、地域で、この菊池の地域で産業を起こす知恵と努力が必要だし、今ある現存する産業、商業、いろいろ伸ばす努力も求められていると思います。いずれにせよ、基幹産業である農業と合わせて、経済循環の核である中小企業をどう支えていくのか、これも自治体の果たす役割は非常に大きなものがあると考えています。

そこで、市長の地域産業政策についての基本的な考え方、個別の施策ではなくて、全体的な考え方をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今、３点ほどご質問いただいたと思います。所得向上のためのイメージ、それから企業誘致によらない産業の創出といいましょうか、それから３番目に、これも産業振興ということですね。概略申し上げますと、最初の市民の所得向上のイメージということでございますが、先程来から申しているようにですね、やはり経済の活性化ということで成功の角度というのをやっぱり考えなきゃいけないと思っているんですよ。そういう意味でも、やはり今の大きな時代の流れとかいうのを展望したときにですね、やはりこの自然力というのは非常に今、価値を生み出す源でありますので、そこに着目していきたいと。そうすると、答えは意外と足元にあってですね、やはり菊池市の本来の得意分野であるはずの農業、観光業、ここを柱にして、特に新しい販売手法であるとか、新しい企業のやり方であるとか、そういったものを組み合わせて、ミックスしていくことで新しい戦略が描けるんじゃないかというふうに考えておるわけでございます。その根底にあるのは、やはり経済活動を生み出すためには人々のいろんな交流だとか関心だとか、こういうものを創り出していかなきゃいかん。ですから、賑わいとか発信とかいうことで、菊池市の存在をもっともっと増やしていかにゃいかん。そうしますと、そのためには魅力のあるまちづくりをですね、これはまちというのは街部ということじゃなくて、市全体を含めたまちづくりですね、地域づくりと言いましょうか、結局ここに突き当たってくるんですね。ですから、そのことを一つのイメージ感として、端的に言えば非常に孫の世代まで睨んだ地道な、長期的な取り組みをしていこうということで、必ずやこの経済の活性化につながるはずだ。当然、そういう長期の策と合わせて、短期的な策もやっていかなきゃいけませんので、そのためには特に施策の中で具体的な手法というのもですね、例えばインターネットであるとか、それから観光についてもいろいろなスポーツ型の滞在型の観光基地にしていこうとか、そういったふうな手立て、手がかりをお示ししておりますので、それに向けて具体化をしていきたいと思います。

それから、特に企業誘致だけでは限界があるんではなかろうかというご指摘については、実は私も全くそう思っているんですね。ともすれば、この地域立て直しの中で出てくるのは、すぐ企業誘致、企業誘致と、あるいは工場と、こういってくるわけなんですが、今、日本全体を冷静に見回しますとね、やはり長期的にはこの日本の中で従来同様に製造業をやっていくのは、いろんな人件費なんかを考えたときに、やはり限界があるということで、既に中国、あるいは東南アジアに向けて、工場自体がもう外へでて行っているわけでございますから、大きな視点で考えれば、

工場というのは日本からある意味では少し減っていくような方向感すら感じるわけでございます。そういう中で、企業誘致頼みということになると、非常にこれはご指摘のとおり、心もとないところが出てくるわけでございます。もちろん企業誘致は企業誘致で基礎部分としてやっていかなきゃいかんわけですから、やはりそれ以外の力というのを付けていかなきゃいかん。そういう意味では、いつ来るかわからないものを待っているんではなくて、自らの手で産業を起こしていく、それは菊池の持っている菊池らしさとかですね、菊池の素材を使ってやっていくということが、非常に私どもにとってこれから重要な課題だというふうに考えておる次第でございます。そこら辺は今までるる申し上げたことではございますが、そのためにはとりわけ安心安全のブラントイメージをつくるということがですね、先程来から言っている菊池に賑わいを創り出す上での非常な鍵となる言葉だろうというふうに考えております。ただもちろんですね、企業誘致自体は特に今回、間もなく完成します菊池テクノパークというのは、とりわけ立地に優れているというふうに感じておりますので、そこは非常にチャンスがあるんではないかなというふうに考えておりますので、私が民間におった人脈ネットワークが活かせる分野かなとも思っていますので、ここについてはぜひトップセールスでですね、積極的に推進してまいりたいというふうに考えています。

それから、最後のその新しい産業の振興というテーマであったかというふうに理解しますけども、その観光、農業以外にもですね、実はいろんな菊池の自然力を活かしていくことでの新しい産業の可能性があるんではないかというふうに感じておるんですが、それは例えば一つの観光だけをとってもですね、今までのような通過型ではなくて、なるべくここに滞在してもらう。そのためには、菊池の持っている自然力を商品として使っていって、そこに楽しみを創り出していく。ですから、特にスポーツの力ですね、とりわけ菊池の中山間地の持っている自然というのは素晴らしいものがありますので、これを使って今、大きなブームになっていますアウトドアスポーツ、こういったものを開発しながら滞在型観光の基地につくり替えていくといったふうなことに加えましてですね、中山間地に例えば空き家なんか非常に増えてきておるわけでございますけども、実はこういったものは今後、大きく化けていく可能性もあるわけですね。ＩＴ産業が幸い菊池の場合は光通信網が整備されておりますので、ＩＴ産業等におきましてはですね、知識集約型の業務をこういったふうな中山間地の空き家を使って自然の環境の中でやる方がむしろ生産効率性が上がるんだというふうな動きもあるようでございますから、こういったものを適格に掴んでいきたいというふうなことも考えております。そういったことで、新たにですね、やはり創り出す産業、創り出す業務ということが極めて重要だというふう

に私も認識しております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　施政方針について、全体的なお話をお聞きしました。今からですので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。いいことは協力もするし、ダメなのはダメですので、そういうことで次の質問に移ります。

次は、小学校閉校後の地域の課題、跡地利用の問題です。水源小学校、迫水、龍門、河原、この地域の小学校が３月に閉校になりました。涙の閉校式は、ついこの間の話です。その小学校の跡地利用の問題で様々な動きがあって、いろんな憶測も飛び交って不安も広がっています。この問題は、これまで繰り返し述べてきたように、小学校がなくなった地域でどのような地域づくりを進めていくのか、その具体的な政策としての跡地利用、廃校の利活用という位置づけで議論すべきであると思います。

そこで、今回小学校閉校後の地域の課題について、跡地問題に関わる疑問を中心に質問したいと思います。

まず、この問題での議論の到達点についてお聞きします。これまでの中山間地の地域づくりの議論において、小学校統廃合後、閉校後の跡地利用問題での議論は次のとおりであります。

昨年６月議会では、私は小学校の廃止により、子育て世代の定住の条件の一つが事実上なくなったことで、中山間地域の維持、地域づくりをどうするのか、これは廃校の利活用はもちろん、当該地域を中心に急いで議論を起こすべき問題だと強調しました。そして、人口減少時代に行政がどのような地域政策をもって、どういう地域づくりを進めるのか、将来像を示すべきであること。それなしに廃校だけが決まっていくことに対する地域の不安の声を紹介して、考えを伺いました。その際、教育委員会は、賛否両論ある中で苦渋の決断をされた地域の思いを真摯に受け止め、地域づくりに活かしていく、こう答弁しています。また、学校の持つ地域的意義の一つとして、地域コミュニティ活動の拠点としての役割を上げて、地域の思いに答え、地域の活性化につながる跡地利用を検討する、こういうふうに教育委員会は述べています。市長部局は、歴史と伝統ある小学校の閉校を決断した地域の思いを重く受け止め、地域と十分に協議しながら学校跡地のあり方について検討すると答弁し、跡地利用については、地域内発型の活用がいいのではないかと考えていること。地域の意見やアイデアを取り入れた跡地利用を検討していきたい。こういうふうにも述べています。これが１年前、６月議会の議論です。今年の３月議会で

は、４つの小学校が、今まさの閉校となるそのときに開かれた議会の答弁で、教育委員会は、地域の思いや願いに答え、地域活性化や地域コミュニティにつながる跡地利用を進めていると述べています。市長部局は、学校跡地等活用検討会を始めたばかりであり、地域の皆様と一緒になって跡地の活用と地域づくりの課題に対処していきたい。こういうふうに答弁しています。で、跡地利用をめぐる議論の到達は、こういうものであったかと思いますが、まず教育委員会、市長部局ともこういう到達で間違いはないのか、確認したいと思います。どうですか。

○議長（山瀬義也君）　教育長、倉原久義君。

［登壇］

○教育長（倉原久義君）　教育委員会への確認ということで質問があったと思います。

教育委員会では、平成２０年度の学校規模適正化の検討当初から、保護者をはじめ地域の皆様方の多くの意見を拝聴してまいったところです。そういった過程を通して、地域の思いや願いとこれからの地域活性化につながる学校の跡地利用が望ましいと答えてまいったところでございます。

今後は、企画振興課を担当窓口として、地域との連携によります跡地等活用検討委員会の議論を中心に進められていることから、教育委員会としましては、その推移を尊重してまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　学校跡地の進め方としましては、これまで地域の思いを受け止め、地域の皆様と十分協議をしながら進めてまいりますと申し上げております。また、この考え方につきましては、小学校が廃校となりました現在においても同様でございますが、跡地の活用と地域づくりの課題に対しましては、地域の皆様の大切な思いがございますので、ご意見を伺いながら対処してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　到達に間違いはないかということで、今の答弁ですから間違いはないと思います。これは、単なる跡地利用の問題ではなく、地域づくりの課題です。これが跡地問題での議論の到達点であります。では、その到達を踏まえたときに、この間の行政の言動にいくつか疑問があります。

そこで、次の疑問に答えていただきたいと思います。水源小学校跡地の問題、美

少年進出問題について、この問題での疑問に答えてください。１月２２日の月例会で、跡地利用について行政からは閉校式等あるので具体的な活用については４月以降と報告がありました。ところが、４月２２日の月例会では、株式会社美少年という酒造会社が進出を計画していること、そしてその進出先を水源小学校としたことなどが報告をされました。５月の月例会においては、先ほど質疑でも少しお話をしましたが、土地、建物の売却の協議をしていることが報告をされました。執行部から、可能な限り安くして売る、そういう旨の発言もありました。売却をめぐる様々な問題については、先ほど質疑で指摘したとおりであります。これが議会側に報告された経過です。この美少年に関する一連の動きは、公表されただけでも昨年１２月から始まり、今言いましたけど１月２１日には議会には４月以降協議しますと説明しながら、ずっと接触や交渉を続け、３月議会の答弁で、これから地域の皆さんとじっくり協議していきます、そう言いながら、その直後に、その４日後には不動産鑑定の委託をする、そして進出。で、４月２２日に表になる。この一連の経過が全て水面下で進められてきました。

そこで、４点お尋ねします。

１点目、一体何を慌てているのか、お聞かせください。地域の思いに答え、地域住民と十分協議検討する、そして具体化は４月以降ですよ、こう言いながら、なんでこんなに慌てるのか、その理由をお答えください。

２点目、この一連の経過のどこに地域の思いに答えてと、そういう場面があったのか。この美少年の進出の問題で、行政が提示したのは、美少年が進出しますよという説明と、開業、工場が稼働するまでの工程表、企業への質問や回答を記載した文書、そして金額であります。合併後、私もいろんな問題があって取り上げてきました。公立保育園、老人ホームの民営化の問題、学校規模適正化の問題等々、散々議論もし、保護者も地域も行政も担当の職員さんも含めて、みんな苦しい思いをして、結果は別にして今の状況があるわけです。その経過から見ても、こういう乱暴な進め方は今までなかったことであります。この一連の経過の中で、一体どこにその地域の思いに答えてという場面があったのか、お聞きしたいと思います。

３つ目に、地域づくり、地域活性化、いろいろ言われますが、行政の考える地域づくりがこれでは安直すぎると思いますが、どう考えますか。

４つ目に、行政が示した工程表を見ると、１０月の製造開始に合わせるように組まれています。そうしないと、酒造免許の関係でアウトになると。それはあくまで業者の都合であります。地域の課題を業者の都合に合わせて考えるのか、文字通り、これまで執行部が言うように、地域の思いに答える地域政策を考えるのか、行政の考えはどっちですか。

４点、お答えいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　再質問にお答えいたします。

今回の企業進出につきましては、平成２４年１２月から話がございました。菊池市内の旅館跡地などへの移転希望でございましたが、本市としましても商工観光課や都市整備課で対応を行ってきたところでございます。しかしながら、都市計画の用途変更等の理由から、市街地への移転が困難となり、閉校いたしました４小学校の検討に入られた結果、水源小学校への進出を要望されたところでございます。

一方、企業の進出は経済情勢、労働環境などの影響により、絶え間なく動いており、誘致側のタイミングや条件面での合意が必要となってまいります。そのタイミングや条件面をお互いが協力しあい、クリアすることで、企業進出が実現できるものと思っております。

また、賛成の総意に至るまでには、今回の企業進出の際に行いました２回の水源小学校跡地等活用検討会や、それ以前に行っております地区長や区長との協議を合わせますと、５回にわたって地元の皆様のご意見を丁寧に伺ってきたところでございます。この中で、主なご意見としましては、検討会設立時の協議では地域活性化につきましては、既に水源交流館があるので、小学校跡地については市に一任したい、検討会は不必要ではとの意見もございました。また、株式会社美少年の誘致のご相談をしましたときには、とてもいい話なので企業には来ていただいて頑張ってもらいたい、水源地区をＰＲしてほしいなどの賛成意見を多数いただいたところでございます。このようなご意見を地域の思いと捉え、誘致を進めているところでございます。

なお、要望としまして、地元雇用や地元農産物の活用、地元との連携などを伺っておりますので、事業者のほうに伝え、協力の意向をいただいているところでございます。

また、隣接には、地元の皆さんが大切にされているきくちふるさと水源交流館がございますので、相乗効果による観光客の増加など、地域活性化を期待しているところでもございます。

今回の企業の進出は、学校跡地活用の選択肢の中の一つではございますが、先ほども述べましたとおり、地元の皆様も望んでおられ、また酒造所の創業は総合計画に掲げます、豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまちに方向性が合致し、地元のおいしいコメや、きれいな水のイメージをＰＲできる産業でありますので、地元、市、企業が協力しあい、進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　今答弁ありましたけど、廃校の利活用の問題で、売るのを前提にすると、あるいはどこかとってくれんかなという議論を前提にすると、売却先だけしか議論にならなくなるわけで、そうなってくると、行政がこれまで言ってきたような地域づくりなんていう議論は、地域では起こらないわけですね。で、この地域をどうするのか議論の到達も踏まえないで、地域政策のないまま廃校の売却先探しに走るのは、私は本末転倒だと思います。これは、水源地区の跡地問題にとどまらない問題で、迫水、龍門、河原地域から、今、水源地域がどうなろうとしているのか、水源小学校がどうなろうとしているのか、非常に注目をされているわけです。水源小学校以外でも、今既にいろんな噂が飛び交っています。誰が買うだろうか、次は迫水だろうか、河原だろうか、そういう話も現に起こっているわけです。地域づくりと言いながら、これではもう一気に住民のあきらめが蔓延しかねません。市長は、いろいろ施政方針でも言われました。一つ一つ、なるほどなと僕も思います。地域づくり、地域資源、宝の山、市長が言われるこういう一つ一つが、これからの施策でやっぱり試されるということもですね、市長自身、やっぱり今後認識すべきだろうというふうに思うわけです。廃校式の涙もかわかないうちに、業者の都合に合わせるかのように慌てて売却、しかも安売りを進めようとする姿勢は、江頭流ではないと私は考えていますが、市長はどう思われますか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　水源小学校の事案に対する、あるいは事案を一つの契機とする私のその地域、特に小学校跡地ですね、これの活性化の展望についてということで理解いたしました。

まず私、着任してまだ１カ月半ぐらいでございますので、早く定着させたいとは思っているもののですね、江頭流というのはまだ実は確立はしていないんでございますけども、ただ、お話を聞いていますとね、やはり戦略的にやってほしいという期待感が込められた言葉だろうかなというふうに私はありがたく受け止めさせていただきました。私も、おっしゃるとおり、そのことをいつも肝に銘じておりましてですね、やはり常に広い視野で、中期的視点に立って物事を見て判断していきたいというふうに思っておりますので、今ご指摘のあったこの小学校廃校についても、地域の意見を聞きながら、そして地域の特性を生かしながらですね、地域の発展につながるような、住民も喜ぶような、そういうふうな、かつ長期的に永続するよう

な、そういう観点でやはりものを見ていくべきだと私は思っております。と同時にですね、江頭流ともし申し上げてよければ、タイミングというものは物事は必ずありますので、このタイミングの重要性というのも非常に私は大事にしなきゃいかんだろうというふうに思っております。今回につきましては、酒造業の方のほうから実はそういうニーズが舞い込んできたということで、じゃあその戦略が先だったかと言われるとですね、確かにこれから練りましょうという矢先ではございましたから、まだきちっとした戦略が先にあったわけではなくて、個別の企業ニーズのほうが先に入ってきたということは確かでありましょう。ただ、そこで右左で思考停止的にやったのかといいますと、これはその検討時点では私はいなかったわけでございますけども、あとで私なりに検証したところですね、この酒造業というものがこの水源地区のいろいろな今後の展望ですとか、それから持っている特性ですとかね、そういったものを照らし合わせたときに、やはり自然力を活かす、やはり水がどうしても必要でございますし、菊池のお米ということとのつながりも出てきますので、非常にそういう意味での神話性があると。それから、何よりもやはり菊池はそうやって農業をこれから育成していこうという矢先でございますが、農というのは要するに食でございますね。したがって、このお酒というのは、もう正しく食文化を代表するものでありますから、水どころ、米どころ菊池と銘打つときに、実はお酒がないというのは非常に僕はさみしいことだなと、常々実は思っておりましてね、そういったものがむしろ向こうから偶然とは言いながら、飛び込んできたということでは、後付けではあるもののその戦略の中できちっと整理できて、位置づけられる話であるなというふうには考えております。なぜこんなに急ぐことになったんだろうかということになればですね、確かに先方の都合があるのは確かでございますけども、一度こういったふうな、自分たちの持っているその戦略的な大きな流れに沿うものであればですね、特にこのお酒のようなものというのは、なかなかそんなにしょっちゅう引き合いがあるというものではなかろうと思いますので、大きな判断として、このチャンスを活かすということは、本事案においては総合的に考えればこの施行できるものではなかろうかなというふうに私は今、感じておる次第でございます。

それから、その広がりという意味ではですね、先ほどグラウンドのところが少し話題になっておりましたが、実はこのグラウンドというところでですね、これは先方の社長さんたちともお話させていただいたんですが、お酒というと、やっぱりどうしても人が集まりますしね、自然もあるところですから、さらなる発展の余地があるねと。例えば、お酒と言えば食ですから、正しくそのブランドを利用して、一つここに是非将来的に食の場を考えてくれませんかと。例えば小さなレストランを

作るとかですね、そういったところで、例えばそういうことで、また人が増えてきますし、交流の場にもなりますし、住民にとってもいろいろな使い勝手も増えてくるのかなというふうに思っておりますので、まず戦略があるべきだというのは、もうおっしゃるとおりでございます。ただ一方で、今回については、大きな方向感の中ではですね、共用できる、むしろ非常にいいものが入ってきたなという気もします。ですから、もう一つの軸としての出てきたチャンスは確実に、着実にものにするというのも、ある意味では私はこれからモットーにしたいと思っておりますので、結果から見るとですね、普段、市役所の仕事というのは遅い遅いといつも言われるんですけど、本件は本当に、早い早いって少し褒めてあげたくなるようなところも無きにしも非ずというふうに個人的には思っております。

そういうことで、じっくり考えながら、チャンスが来れば機動的に動くと。これを言わば私のこれからの江頭流と言えば江頭流かもしれませんが、そういうふうに念じながら進めていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　時間もありませんが、これは早いからと言って褒められる事案ではないので、それは議会の権能・役割もあるわけですから、執行部の皆さんはしっかり考えていただきたいと思います。

災害対策については、時間もありませんが、昨年の豪雨災害を受けて、いろんな教訓があると思いますので、今年、万全に備えていただきたいと思います。

終わります。

○議長（山瀬義也君）　ここで、昼食のため暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後零時０７分

開議　午後１時０６分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　これより、一般質問をいたします。３つのテーマでお願いをしておりますので、順次進めてまいります。

最初に、市長の政治姿勢について伺います。

江頭市長におかれましては、今般の改選で大変立派なご成績でご当選を果たさ

れ、誠におめでとう存じます。得票された数は、多くの市民の皆さんの信頼と期待を裏付ける数に違いありません。最高の執行権者である首長が変わるということは、市民の皆さんにとっても我々議会にとっても非常に重要な節目であると思われます。私はそういう自覚に立って、政治家として初めての議会に臨まれる市長に対して、その政治家としての基本的なご所見を、憲法論と行政運営についてお伺いしたいと思います。

今日、かってない状況で、各会、角層において憲法論議が盛んですが、特に国会での発言には無関心ではいられません。それは、我々国民は、市民は、今回上程の条例の例のように、国策の下に置かれているため、直接その影響を受けることになるからです。そういう意味で、国会における憲法論議は、決して我々の暮らしに遠い話ではないと思われます。憲法改正の草案も公表されていますし、そういう背景においては、近現代史の論議や従軍慰安婦の論議等々が物議を醸していますが、それは置くとして、ここでは直接市民生活への関わりが懸念される次の事項について、ご所見を簡潔でようございますのでお聞かせください。

まず、憲法に関わる国民投票を規定した９６条、これについては市民の中には現行の３分の２条項が過半数となれば、国民投票がより現実味を帯びてくるとして、そうなれば我々市民も当事者になるということなどが危惧される声が聞かれますが、こういう状況を市長はどう受け止めておいでになるのか。これについては、先ほどの原発のお答えのように、地方議会の限界としてコメントが難しいということであれば、少なくともこの状況に共感を覚えられる市長であるかどうかをお聞かせください。

次に、蛇足とは存じますけれども、企業経営と行政運営の共通点、もしくは相違点についてお考えをお聞かせください。企業経営と行政運営、両者はいずれも組織を率いるものですが、その内実は本質的に違います。どのように位置づけて本市の運営にあたられるでしょうか。

まず、この２つを最初の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、ただいま怒留湯議員さんのほうから質問をいただきました２点でございます。１つは憲法論議について、もう１つは企業経営と行政運営と、こういったことではなかったかと思います。

第１点目でございますけども、私なりの憲法に対する見方、憲法感というのはもちろん私のこの人生経験を通じてですね、それなりのはあるわけでございますけども、私もこの市行政に付託を受けて、その範囲内で本日この本議会での説明をさせ

ていただいているものですから、その私の憲法感というものを制した時にですね、後々、市民の方々等に無用の影響を与えるということを私は避けたいと思っておりますので、この場での私の明確な個人的なスタンスはちょっと控えさせていただきたいと思いますが、その大まかな立ち位置といいましょうかね、どのように見ているかということについては、多少、一般的な言い方にはならざるを得ませんけども、やはり憲法というのは、大元になる最高法規でありますので、みだりに変えてはいけないところがまず基本であろうかと思いますが、一方で、社会情勢というのはどんどん変化していきますのでね、やはりその必要に応じた改正というのは、これは全くないということでは、それほど固定的に考える必要はないのではないかとは思っております。ただ、何よりも大事なのは、そういったことを決めるのは、やはり国民の声でありますから、その国民の声がきちっと反映されるような、そういう仕組みを目指すというのがまず基本かなというふうに思っておるところでございます。

２番目に、その企業経営と行政運営ということで、ご質問の趣旨は、組織とは言いながら似て非なるものがあるのではないかと、こういうことかと思います。もちろんそうでございます。ただ、私は厳密に言えばですね、似ている部分と、それから似て非なる部分がやはり両面あると思いますね。そういう中で、組織の有り様として企業のいろんなやり方等が活用できるところは多々あろうかと思いますので、そういったところはですね、そのテーマごとの特性であるとか、その環境等をよく考えながら実態に合ったやり方に変えながら工夫をして取り入れていくというのがあるべき姿かなと。何が何でも民間方式を入れるとか、これはかえって危険なこともあろうというふうに考えております。例えば、効率的な組織運営に関わるいろんなノウハウとかですね、人事運営に関わるところというのは、民間のやり方の一部を、そういう知恵を活かせる部分はあるだろうなと思いますし、特にこれから自治体というのは一つの経営体として、やはり自分たちで力を付けていかなきゃいかんということの観点から見ますと、いろんな情報発信ですとか、あるいは意思決定の方法論ですとかね、こういったところには取り入れることが可能な部分があるのではないかなというふうに考えております。その一方で、会社の場合ですと、どうしても最終的には収益ですとかいうことになるわけですが、一方で、行政という観点から見ますと、高齢者の方がおられたり、障がいをお持ちの方がおられたりですね、いわゆるそういう福祉の分野というものは全く違った観点になろうかと思いますので、こういった意味での配慮ですとか視点というものは、極めて重要になるなと。それから、地域ごとにやはりこの特性が違いますので、一律に何かを判断したりやるということはなかなかミスリーディングにもなろうと思いますので、地域特

性に配慮した、あるいはその公益性というものを念頭に置いたやり方というのは必要だろうと。そういう部分は、きちんと実態に応じてやっていきたいというふうに考えております。ただ、共通して何よりも大事なことはですね、やはり行政の場合でいくと市民目線、企業の場合でいくと、これはお客様目線というんですね。やはり実際の第一線のユーザーの立場に立って、このユーザー、あるときはお客様、こちらでは市民の皆さんの満足度というのは、最終的には一番大事だと思っておりますので、常にその点は心がけてやりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　傍聴者等の皆さん方には、携帯のほうはマナーモードにお願いしたいと思います。

怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　はい。ご答弁ありがとうございました。憲法論議も非常に専門家に聞いても事務局にご相談しても、首長としてのご答弁は難しかろうということでございましたけれども、ギリギリのご答弁をいただきました。やっぱり国民的な論議が不十分であって、論議が未熟な状況においてその９６条が先行するというような今日の状況は、心ある市民は誰でも不安に思っているわけですよね。そういう市民や世論に対する首長としての想像力と言いましょうか、共感が持てるかどうかということが私は重要だと思いますので、ただいまのご答弁はしかと承ったということにしておきます。

それから、企業経営についても非常に明快なご答弁であったかと思います。私が次に聞こうと思ったことについても、踏み込んでご答弁がありました。最初にこういう投げかけをして、私が聞こうと思っていましたのは、確認になりますけれども、おっしゃいましたように、企業の目的はサービス対象が顧客ということで、そこから成績、成果を上げるということですけども、行政運営は全ての市民が顧客で、成果とか成績とか無縁の世界ですよね。で、どのような顧客であろうとも、特にやっぱり困難な状況の人、貧しい人と言いましょうか、そういう人を切り捨てない、等しく救い取ることが至上命題だと、言うまでもない話ですけれども、市長もそうお考えに違いないと思いますが、そこの点だけ確認を２番目にさせてください。

それから、憲法論についてはですね、個人の尊厳と両性の平等をうたった２４条ですね。今日、依然として男女共同参画や女性の社会進出については、根強い抵抗があるのも事実です。国会の論議の中には、母性の強調とか、女性性の家への帰属を主張する論調が跡を絶たないために、市民の中には本市の女性行政の後退を危惧

する声も実はあるんです。本市の男女共同参画推進条例も、この憲法２４条に立脚していることから、市長のご見解が伺うことができますればですね、その点についてもお述べいただくと幸いです。ご無理は申しませんが。２回目の質問です。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　まず、第１点の方でございますが、先ほどちょっと触れた点ではございますが、いわゆる企業の場合と違う、全ての市民を対象とする行政についての心構えというようなことかと理解いたしました。もうそれはおっしゃるとおりでございまして、いろんな方がいらっしゃる中で、最終目的というのはもう全ての市民の方に幸せな市民生活を送っていただくということでございますので、極力皆様に広く参画してもらいながらですね、みんなが幸せになるような市づくりに努めたいと思っております。ただ、どうしてもやはり情報が届かなかったりということで至らぬ点がある可能性はございますので、やはり私が常々心がけていますのは、定期的にやはり現場の声を聞きに行くと、常に耳を傾ける姿勢、このことがやはり一番大事なんであろうと思いますので、こうした姿勢を忘れることなくですね、併せてその情報の公開、共有ということにも意を尽くしていきたいというふうに考えております。

それから、憲法論議の女性の地位に関わることでございますけども、ご念頭にあったのはこの２４条の問題かと思いますが、この２４条の改正内容自体がまだ示されているわけではないものですから、ちょっとなかなか適否も含めてですね、ちょっと今の時点では発言は遠慮させていただければというふうに思っていますので、何とぞご容赦のほどお願いいたします。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　はい、ありがとうございました。

憲法については、最初のご答弁で、最高の法規だというご認識が示されましたので、諸々はそこから派生するということであろうと思います。中身についてはまだ流動的な部分があったりしますので、市民とともに学んでいただく市長であることを望みたいと思います。

行政運営については、私もおっしゃるとおりだと思いますので、及ばずながらご一緒できるところは力を尽くしたいと思ったところでした。

女性行政、憲法論はそうといたしましても、現実の女性の行政については都市部と地方の課題は違いますし、地方においてさえ地域差があるわけですよね。それを

可能な限り高い水準で全国を平準化するために２４条や国の基本法があると思うんですね。私はなぜ今回聞いたかと、市長にお尋ねしたかと言いますと、どんな場合も地方分権、地域主権の理念において、地域のニーズに合った我が菊池市男女共同参画推進条例の堅持と、その進展を我々がやるという気概が双方にもてたらいいなと思って、それが重要だと思ってお伺いしたところでした。

最後に憲法論では、２５条ですね、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を保障した２５条、これについては既に生活保護制度等々が部分的に後退したということがあって、今回の改定においては、一部ですけども野党連合の共同案によって、生活保護申請時における窓口の却下が少なくとも発生しないようにという修正文言がうたい込まれたと聞いています。言うまでもなく、その２５条というのは市民の命と暮らしの根幹に関わる条文として大切にされてきました。市長は、これについてお考えをお述べになることができたらお聞かせください。

それから、行政運営については、別の角度から１点お伺いします。労働関連法の行き過ぎた規制緩和で、労働市場は働く者の側にかつてない厳しさを強いていますが、本市の人事管理の最高責任者として、職員の人事管理についての市長のお考えをお聞かせください。併せて、市長の専権事項である各種委員等の選任に対するご方針をお聞かせください。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　まず第１の点につきましては、いわゆる市民生活に直接影響します２５条の問題、特に生存権、社会福祉、社会保障に関わるような事柄かと存じます。先ほどのようにですね、ちょっと内容についてはやはり私の個人的な私感が影響を与えるといけませんので差し控えさせてはいただきますが、そもそもこの２５条のところの趣旨としましては、怒留湯議員がおっしゃるとおり、社会福祉、社会保障等への支援や推進に関わる極めて重要なものだと私は認識しております。今、経済状況は非常に厳しくなる一方でございまして、当市の財政も実は大変厳しいものがあるわけですが、これから私ども、その合理化を進めて、やはり効率的な行財政運営をやろうという中でも、実は今回の予算を見ていただきますと、実は扶助費のところなんかは、むしろ若干ですが増えているわけでして、それは世相を反映した経済状況ということが背景にあろうかと思いますが、そういったものを私どもはお金というだけで簡単に切り捨てるわけではなくて、そういったところには出来る範囲での配慮をやっていきたというふうに考えた結果がそういう形で現れているというふうにお考えいただければというふうに思います。

それから、人事管理に関する、あるいは人事運営に関する私の基本スタンスという問いかけかと思います。人事管理に関してはですね、もちろん行政特有のものはあるというふうに私も思っておりますが、基本においては行政、民間、企業とも非常に同じような原理原則があるんではないかと感じておりまして、これから申し上げることは私の基本スタンスそのものになるわけですけども、やはり愚直なようですが、人事運営の基本というのは、やはり適材適所、それからその良い人の悪いところではなくて、良いところを伸ばしていく。そしてなるべくその人の持っている中のやる気を引き出してで自発性に訴えていくと。このことのほうが、むしろ大変いい仕事につながるわけですね。そのためには、やはり働きやすい環境、そういうふうな労働条件とか環境に雇用者としては配慮する必要があるというふうに考えております。

それから、各種委員の選定にあたっての男女の構成に関することかと思いますが、これはむしろ私は、先ほど触れたかもしれませんが、いろんな意見を言う場に女性の参加の機会が増えていくのはいいことだというふうに思っていまして、やはり多様な社会というもののほうが実は強いんですね。森でもそうですが、同じ木を植えているよりも、異なった木を植えているほうが実は森が豊かになるという話がございまして、それと同じでやはりいろんな人がいればいろんな見方があるわけですから、年齢の差、それから男女の差によってですね、いろんな異なる見方が入ってくることで、むしろいろんな発想等につながるものだというふうに考えておりますので、まさにこの適材適所等の原則を貫きながらですね、各種委員の選定にあたっても、なるべく女性の参加を歓迎したいというふうに考えておる次第でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　はい。しかと承りました。もう３回ですので、これ以上できませんので、次に進みますが、よろしくお願いします。

２番目は、前市政の評価とその継承についてというテーマでお願いしておりますが、私が通告をしましたリニューアル増設庁舎と産廃問題については、市長は施政方針で既にお答えの一端をお述べになっております。私が通告を出したのはその後でしたので、ここではやや重複もしますが、細かく聞いてまいりたいと思いますので、お許しいただきたいと思います。

新市の庁舎をどうするかという課題は、ご承知のように合併前も合併後も大変大きな懸案でした。様々な角度から模索をされていた中に起きた夕張市の破綻は、今

日の我が国の象徴的な出来事として記憶に新しいところです。厳しい自治体の運営は、全国何処も変わらず、本市においてもこれもご承知と思いますが、否応なくそれまでの計画や政策の見直しを余儀なくされてきました。とりわけ、庁舎の問題は改めて全市的な論議が展開されることになりました。当然、議会においても全員参加の特別委員会を設置するなど、時間も労力も惜しまず、調査・論議を重ねて、そこでの審議議決を経た後、２０１１年１１月２４日の第５回臨時議会の議決へ至ったのでありました。これについてもご承知だと思います。まことに苦難に満ちた長い道のりではありましたが、だからこそ２０１１年１１月２４日の第５回臨時議会の議決は、現在の菊池市民及び将来の菊池市民の最大公約数の方にご理解ご支持いただけるものと私ども議会も多数が確信しておりますが、市長はいかがご認識でしょうか。

それから、産廃について、立地以来、４０年も近くなるんでしょうかね。この産廃問題は、いわば菊池市の喉に引っかかった骨にも例えられるように、地元をはじめ関係者や心ある人々をずっと悩ませ続けています。長い経緯は省きますが、十数年前から産廃反対運動が長い間、行政と対立していた時期がございましたが、それが問われることになり、今度は、市民との共同の理念を基軸にして、原告団、市民、行政が一致した体系を創り出さなければならないという機運がやっと芽生えてきました。そういう折に、今日の解決への道筋をつけることになった。つまり、埋立地を前倒しで閉鎖させるという協定の一部見直し案が提示され、これを受けた地元の皆さんは協議を重ねられた結果、この案を持って解決を図ることしかもはや道はないという地元での結論に至られて、この結論をもって地元はやっと一枚岩に結束されたわけです。これを起点に、本市執行部をはじめ県の努力とともに事態は少しずつ進展し、今日での到達点として議会も承認可決している、その内容は、菊池市と九州産廃は協定に約束された、元号で言います平成３０年までの埋立処分場を、平成２６年をもって閉鎖することで合意をしたと。４年の短縮分と閉鎖保証等、総額約１２億円が必要となるが、その半額は熊本県が拠出すると。市が支払う約６億円については、県からの交付金及び準備をしてきた環境整備基金等を充当し、一般財源からの持ち出しは限りなくゼロに近いと。ときには政争に翻弄された産廃問題であったが、高度な政策と県の超法規的な措置により、ここにたどり着くことができたという到達点の中身でございますが、いかがご認識でしょうか。１回目の質問です。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま２つのご質問をいただいたと思います。１つは庁舎問

題について。それから、もう１つは産廃問題の今の到達点についてと。

まず、庁舎問題でございますけども、これは新市の大きな課題でありましたし、今も大きな課題の １ つであるわけでございます。これまでの経緯につきまして、今、ご説明のあったとおりですね、議会をはじめ地域審議会等から多くの意見が出された中で、整備方針が１１月４日に表明され、今度はその方針に基づいて基本構想・基本計画の委託料の予算を承認いただきましたのが１１月２４日でございますね。それで今度は、この基本構想・基本計画に基づいて、次の段階の基本設計、実施設計委託の予算が昨年の１２月に市議会定例会でご承認いただいたと。そして現在に至っているというわけでございますが、今、こうやって口で申し上げているその間に、まさに今お言葉があった、苦難に満ちた長い道のりがあったということを私なりにですね、実はこの間、一生懸命勉強させていただきまして、十分とは言えないかもしれませんけども、私なりに全体像を掴んでいるというふうに考えております。ですから、私としては今度政権が新しく変わりましたけども、これまでこうやって長い時間、苦しみぬいて積み重なってこられた議会の過程、議論の中身というものを十分に尊重してですね、ただしそこにせっかく目が変わりましたので、無理・無駄がないように、これからそれを実現していく時のその合理性、機能性といったところを考慮しながらですね、さらにそこに市民の皆様のご意見を取り入れながら、フィルターを通しながら検証していきたいと、こういうふうに考えております。

それから２点目の、産廃問題の今の到達点に関する理解ということかと思いますが、この産廃問題もおっしゃるとおり、昭和５６年に本市の柏区ですね、ここに九州産廃さんが産業廃棄物の最終処分場を開始したというのがスタートでございますから、３０年以上の永きにわたっているわけでございます。ですから、この産業廃棄物の処理に関してもいろいろな、これこそ長い苦難の道のりがあったわけでございますから、この処理施設が早期終了するということは、やはり本市の再重要課題の１つというふうに認識しております。そのためにもですね、先ほどの問題と似かよっておりますけれども、これまでいろいろと悩み抜いて、苦しみ抜いて至っているところの今の環境保全協定書、それから一部変更協定書、基本合意書、この内容を遵守してですね、誠意を持って対応してまいりたいというふうに考えております。ですから、今後も議会や市民の皆様のご理解をいただきながら地域の環境保全、それから産業廃棄物処理施設の早期終了に向けて取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　はい。お尋ねしました２点については、十分、歴史的に振り返って研究もされて学習もいただいて、ご認識をいただいているというふうに受け止めました。ぜひ踏襲されるという意味において、さらに発展させていただくことをお願いしながら、庁舎の問題についてはですね、３月議会を前にした議会審議会だったでしょうか。そのときに、当局の方から、これに対する市民からのパブリックコメントとか意見を集約されたものをお示しいただいたわけです。それは、非常に意見の数々を見てみましたが、大変理にかなったいい意見がたくさん出されていたというふうに思いました。市民の関心の高さを改めて思ったところですが、それでは、それらの意見をですね、どういう形態を持って反映させていくのか、今までの到達点をきっちり認識しながら、その上に立ってということでありましょうが、今までのように市民が意見を寄せても、どうせ言っても無駄というような市民離れというのがあったわけですけれども、なんかそれらを具体的に形にする新しい手立てを考えられているでしょうか。今後の計画についてですね。見直しも含めて、微調整もあるというご方針のようですけれども。

それから、産廃問題についてもきっちりお答えいただきました。期待をしたいと思います。いろいろお聞き及び、情報はたくさんもたらされていると思いますけれども、この今申し上げました、到達点を確認したあとも解決への道筋は困難を極めて、地元の皆さんの悲願をよそに、この案は何度も危機にさらされてきました。特に菊池市の一般廃棄物の処理に関して、環境保全組合との関係が危惧される状況に立ち至った経緯は、非常に見過ごせないことだと思います。現在、議長をはじめとして、その関係修復と全市加入への努力が皆さんでなされておりますけれども、先般お示しいただいた予算書とか、それからリサイクルセンターの取りやめとかということも絡みがあると思うんですけれども、市長のこれに対するご所見と言いましょうか、ご方針をお聞かせください。

これが２番目の質問です。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま怒留湯議員の方から２点のご質問をいただきました。１点は、庁舎問題に関する市民の意見の反映の仕方という点。２点目が、産廃の処理に関連して、菊池環境保全組合への取り組みの問題というふうに理解いたしました。

最初の問題でございますが、おっしゃったように、庁舎等整備基本構想・基本計画（案）については、パブリックコメントをいただきまして、それから本年第１回

の議会定例会で採択されました新図書館建設への市民参加に関する請願ということは、これは庁舎及び関連施設の中でですね、特に生涯学習センターの図書館について、市民の皆様の関心の高さが伺える内容であったというふうに思っております。これから先、市民のご意見の反映の仕方としては、この二層に分けて考えておりましてですね、まずこれからこの分科会の中で、庁内でいろいろ具体化する際にですね、ぜひそこにも入って意見を言っていただきたいということで、生涯学習センターの図書館、それから公民館の機能ですとか、それから規模等の検討とかですね、その素案づくりをやっていくわけですが、そこにワークショップを開催して、市民の皆さんのご意見をなるべく取り入れていきたいというふうに考えております。

こうして検討部会の方から、今度はもう一つ上の段階ですね、菊池市庁舎等整備市民検討委員会というものをもう一つつくってですね、これは図書館だけではない、市庁舎全体の話になってまいりますが、そこでもう１回、庁舎整備全般に関して、皆様の、市民の方の意見の反映をしていきたいというふうに考えておるところでございます。

いずれにしても、特に図書館の問題は、最近、武雄市の方で非常にユニークな図書館への取り組みということで世間の話題も集めておりますし、とりわけ皆さんの関心も高いものと思います。これはもうやっぱり、今まで文教都市と言いながら、実は菊池市の中心部にそういう図書館がなかったわけで、何十年に一度の機会であろうと思っていますので、やはり長く親しまれ、愛される図書館にするためにはですね、やはり実際にお使いになるユーザーに方のご意見をなるべく取り入れていきたいというふうに私も考えている次第です。

それから、菊池環境保全への取り組みの姿勢ということでございますが、実はこれと関連する事柄としては、ストックヤードの建設計画というのがあったわけですね。といいますのは、泗水地区に関しましては、今既に広域の方でその地区だけが入っているわけでございますけども、泗水地区以外の不燃物ごみといいますのは、これはどうしても今まで１カ所に集積する施設が必要であると、そういう考え方からですね、いわゆる今区にあります焼却処理施設の解体跡地というのがあったんですが、そこにストックヤードというものを建設する必要があるだろうということで予定しておったわけですが、もう１回ですね、このごみ処理問題というのは非常に市民生活にとっても重要な問題でありますから、中長期的な観点、それから費用対効果の点から再度、慎重に検討した結果、これはストックヤードの建設計画は実は取りやめた方が合理的であると、実は先般、判断したところなんです。実は、これに先立ちましてですね、既に焼却処理施設の解体時に、国からいわゆる循環型社会形成推進交付金という名目でお金をいただいていた分がありまして、途中でこれを

止めることになりますので、約３，１００万円の実は返還金が発生いたします。ですから、それも含めてですね、よく熟慮する必要があったわけでございますけども、それを入れてもなおですね、やはりストックヤードというものを中途半端につくるんではなくて、むしろこの泗水地区だけではなくてですね、本市全域が広域的に同じやり方で、それで菊池郡市がやっている広域ごみ処理の方に入っていくことが、実はコスト面から見ても、それからやはり長期的に安定的にこの運営をするという観点から見てもですね、やはりそれはベストの選択であろうというふうに考えましたので、今般、ストックヤードの建設計画については中止ということにさせていただいた次第でございます。

そういうことですから、これから私どもの向かう目標というのはですね、菊池郡市２市２町が一体となってごみ処理を実施することの中に入っていって、そこでいろんな効果を上げていくということになると思っていますので、その実現に向けてこれから誠心誠意、努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　庁舎については、検討委員会、新しく立ち上げ、条例も出ていますが、そこら辺で最終的なところは委ねるというご答弁であったかと思いますが、これについては先ほどの東議員のお話の中で十分承っておりますので、これで、２０人の検討委員会の中に、今、いろんな、それぞれが要望を出していらっしゃいますので、バランスをとってですね、いい意見が集約できるようなメンバー構成をぜひお願いしたいと思います。

それから、広域の環境保全組合については、全市加入が、私どもも当然そのことを最初から言っていたわけですが、菊池市民の最大の利益のために、それを追求するというご答弁だったというふうに承りました。

それから、庁舎についてはですね、どんどん青写真が立ち上がってくると思うんですけれども、その建物、箱というのは、人権と福利厚生に配慮の行き届いた、市民の共通の家でなければならないと私は考えます。その要件は様々に考えられますけれども、まずは現状に照らしてみて、人権に配慮した各種相談室が非常に不十分ですね、お粗末です。この確保。それから、ワンストップサービスの確立ですね、それから空間とか色合いとか曲線を取り入れるといったような、いわゆる癒しのデザインの導入等も市民は望むところではないかと思うんですね。そういうご配慮をいただけるか。

それから、これはずっとずっと取り上げてきたことですけれども、ユニバーサル

デザイン化、完全ＵＤ化というのは、これについては当事者の意見を聴取するということは議会でもお約束をいただいておりますが、それはもちろん尊重していただけると思いますけれども、新市長の口からもう一度お聞かせください。

それからもう一つ、別の角度ですけれども、職員の執務環境について。この建物はそうでもありますので、労働安全衛生法の観点から、職員の働く環境を考慮すべきだと思われます。それは現在のところ、男女それぞれ更衣室とか会議室とか休憩室等が非常に不十分で、ないに等しい状況ですよね。これについても改善をするというお約束をいただいておりますけれども、当事者たち、つまり職員の皆さんの意見を聴取しながら、そういう整備にもご配慮いただけるでしょうか。これが庁舎についての最後の質問です。

それから、産廃に関わっては一つ、もう既に市長がご準備だろうと思いますけれども、懸念事項というのは溶融キルンの問題ですね。この焼却炉は、裁判の和解後も引き続き市民の有志による監視委員会で見守りが続いております。私もその一人なんですけれども、このキルンは、協定によれば１１月で操業を終えることになっておりますですね。ここで問題なのが、このキルンがこれまで埋立地の浸出水を蒸発させる役割を一部果たしてきたことに照らして、これがなければ浸出水を処理できないので必要だという理屈。当初この理屈を会社側が述べ立て、残念ながら一時期、行政においてもあるいは運動に関わったそこそこの人も、この理念を追認するという自体がありましたが、今日ではその理論は破綻していることをそれぞれが気がついています。どこにも溶融キルンのない埋立地はあって、そこではキルンに頼らない水処理が行われているわけですから、九州産廃だけに必要論が許される道理はないはずです。キルンに頼らない水処理を熊本県も研究指導してくださっていると聞きます。この件に対する市長のご見解と言いましょうか、ご方針、お定まりでありましょうけれども、お聞かせください。

以上、３点目です。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のご質問、１つには、再び庁舎問題に関しまして、設計等の段階におけるいろいろなユニバーサルデザイン等々のいろいろな配慮の問題、それからもう１点は、九州産廃のキルンの考え方についての見解と、こういうことだったと思います。

まずだい１点目でございますけども、先ほどお話があったように、庁舎問題に関しては既にパブリックコメントというのをいただいて、皆様のお考えを吸い上げたわけでございますけども、出された多くの意見の中でですね、特にユニバーサルデ

ザインに配慮した、いわばやさしい庁舎づくりというんでしょうかね、配慮の行き届いたそういうやさしい庁舎づくりですとか、図書館の配置等々についてのご意見が多くて、非常に関心が高いというふうに感じております。これを是非ですね、なるべく具体化するために、先ほどから申し上げいる市民検討委員会ですとか、ワークショップというのは、ぜひ活用していきたいというふうに思っておりますし、特に障がいをお持ちの方等の意見についてはですね、ともすれば私ども健常者の視点だけでは漏れてしまうような視点もあろうかと思いますので、これはこれで、また別途対応していきたい。具体的には、その設計の段階においてですね、いろんなそういう関係団体の方々の意見を反映させていくような機会をつくりたいと思いますし、それから施工の段階においてもですね、例えば細かい蛇口の形状であるとか、そういったことも実は実際の障がいをお持ちの方というのは、また違ったニーズがある可能性もありますので、できれば代表の方等と現地立会をしていただくような形で、あとになって、ああしておけばよかったなというようなことがないようにですね、極力そういうふうな整備に努めてまいりたいというふうに思っております。

それから、職員の働く環境ということですが、当然、職員も市民でございますので、そういったところでやはり意見を同じように聞いていきたいなというふうに思います。

そういうことで、庁舎の整備にあたっては、ともすれば経済性とか利便性、効率性ということで見てしまうわけで、それはそれで当然必要なわけですが、ユーザーにとってのフレンドリーというんですかね、ユーザーフレンドリーとよく言いますが、例えばワンストップサービスの形態であるとかですね、ユニバーサルデザインへの配慮等をデザインも含めて効率的で気持ちのいい執務空間となるように検討を重ねていきたいというふうに思っております。

次に、キルンの問題でございますけども、確かに処分場から出る、染み出る水ですね、浸出水、処理水につきましては、現在、溶融キルン式の焼却施設の焼却炉で処理しておりますので、これは焼却炉はいずれなくなるわけでございますから、この焼却炉がなくなった場合でも処理水を適切に処理できるということは、もうこれ必要不可欠になりますので、その方法についてはですね、今、当市、それから県、会社、三者間で実務レベルの具体的な検討を進めているところでございますけど、十分この件は私としてもきっちりと注視していきたいというふうに思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　はい。ありがとうございました。もう３回ですので、これでできませんが、ご答弁をしっかり記憶して、一緒に解決に向かって進んでいきたいと思います。

３番目に、あと１４分しかありませんのでご答弁も簡潔にお願いしますね。

この４月に従前の障害者自立支援法が障害者総合支援法というふうに名前を変えて内容も変わりましたね。今後はこの新法が障がい者福祉のバックボーンになるわけですけれども、この新法はその理念を日常生活、社会生活の支援が共生社会を実現するため、社会参加の確保及び地域社会における共生、社会的障壁の除去に資するよう、総合的かつ計画的に行われることとしています。また、この新法は市町村を実施主体として、市町村に障がい者等のニーズ把握の努力義務を課した障がい者福祉計画の策定と、当事者や家族の参画を明確にした自立支援協議会の設置等を求めていますが、この準備状況について、お聞かせください。

また、昨年８月でしたか、成立しました子ども子育て３法は、我が国における急速な少子化の進行等々に対して、質の高い幼児期の教育、保育の総合的な提供と、子育て支援の環境整備を推進するために、２年間ぐらい論議をされて法制化されたものです。この制度もまた市町村を実施主体として、ちょっと表現悪いですけど、丸投げをして、地域のニーズに基づき、市町村子ども子育て事業計画を策定して、５年ごとに見直すようになっておりますね。この制度の本格施行は２０１５年となっておりまして、計画策定に向けてのニーズの調査が今年からだったと思いますけども、調査せよというふうになっていたと思うんですが、これに関わる準備の状況、この２つの新法について、お聞かせください。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。

平成２４年６月に地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律が公布され、本年４月１日から、障害者自立支援法が障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律、障害者総合支援法と改称されました。

変更点としましては、障がい者の範囲を見直し、障がい者の定義に新たに難病等により障がいがある者を追加する。また、障がい福祉計画において、障がい者及びその家族の意見を反映させ、定期的な検証と適時適切な見直しを行う。さらに、障がい福祉サービスを受ける際に必要な障害程度区分を、障がいの多様な特性、その他の心身の状況に応じて、必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示す障害支援区分に改める、などがあります。

障害者総合支援法第１条の２には、基本理念として、全ての国民が障がいの有無に関わらず、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるとうたわれています。

市としましては、障害者総合支援法の基本理念に基づき、障がい者及び障がい児並びにその家族等のニーズを調査し、可能な限り具体化することにより、支援を進める方針です。

また、子ども・子育て関連三法の成立を受けての市の体制等につきましては、平成２４年８月の子ども・子育て関連三法の成立に伴い、市町村は平成２７年４月に予定されております、子ども・子育て支援新制度の施行が義務付けられることになっております。

具体的な内容につきましては、現在、国の子ども・子育て会議において協議されており、平成２５年９月には基本指針が公表される予定です。

現在まで、国及び県によりまして明らかにされている市町村の業務につきましては、市町村版の子ども・子育て会議の設置、子ども・子育て支援ニーズ調査、子ども・子育て支援計画書の策定、保育所等の基準及び支給認定条例の制定が義務付けられております。

本市におきましては、子ども・子育て支援ニーズ調査及び子ども・子育て支援計画書の策定につきまして、実施費用を本会議の補正予算案に計上しております。

その他の事項につきましては、国及び県と協議を行いながら、新制度の本格施行に向けて、順次、検討、実施する予定であります。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　法律の説明等は要りませんので、準備の状況を聞いたわけですけどね、法律が本当にころころ変わって、そして実施主体を市町村にするなどと言いながら、実は丸なげですよね。非常にご苦労が多くて、費用も人手もかかると思って、それは大変だろうなと実は思うわけです。でもやっぱりつくらなきゃいけませんのでね、その準備の状況と言いましょうか、体制がどこまで進んでいるかをちょっとお伺いしたところですが、両方ともこれは市単独ではなくて、圏域でやるんですよね、菊池圏域で。ですね。圏域でご協議を進めるということだと思いますが、障害者総合支援法の方は、一歩先に出て、もう施行になっておりますね。そのような進捗状況にあるかと思うんですけれども、この両方にかかる法律については、圏域において、菊池市は非常に先駆的といいましょうか、リーダーシップを発揮してこられたと、私はオピニオンリーダー的な存在であったというふうに思っ

ております。評価をしております。ですから、今回また法律が変わりますけれども、本市においてはもとよりですが、圏域においてもぜひそういう姿勢で臨んでいただきたいというふうに思いますので、次のときに部長で結構ですが、ご決意をお聞きしたいと思います。

障害者総合支援法の改定のポイントにですね、今までの制度の谷間を埋めるとして、今ちょっとお触れになったかと思いますが、障がい者の範囲に難病が加えられましたね。これ１３０あると思うんですけれども、これまでの障害程度区分が、障がいの多様な特性、その他の心身の状態に応じて、必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示す、障害支援区分に改めると。ですよね。それに関しては、障害支援区分の認定が知的障がい、精神障がい者等の特性に応じて行われるように、区分の制定にあたっては適切な配慮を行うことなど、これまでにない高度な事務が求められているということが特徴かと思われます。これらの非常に高度な作業を行うために、自立支援協議会の状況ですね、自立支援協議会ではどのような事務がもう既に行われているのかをお示しください。

そして、時間がありませんので、これについては必要な専門性を持った人たちが必要となってくると思うんですよね。自立支援協議会について、難病などの支援区分等を実務として取り扱うための人ですね、マンパワーの組織状況と言いましょうか、その辺をちょっと教えてください。

それから、子育て支援に関わっては、本市は既に旧法によって次世代育成支援計画を持っていますよね。今度の新しい法は、恒久的な制度をつくれと言っていますが、それで従前の計画との整合性を図りながら、より質の高い計画を策定しなければなりません。そのために必置義務とはなっていませんけれども、設置努力義務として設置することが望ましいとされている地方版子ども・子育て会議を設置して、計画策定の際の調査審議を行うことのみならず、子育て支援施策の実施状況を調査審議するなど、継続的に点検、評価、見直しを行っていく役割などが期待されますが、この子育て会議の設置のご意思はあるでしょうか。

簡潔に、３分ぐらい残しておいてくださいね。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　障害者程度区分についてですが、障害者程度区分とは、障がい者がヘルパーさんの支援やショートステイなどを利用される場合に、その方にとってどのくらいのサービス料が必要か、その支援の必要度を表す区分１から区分６の６段階の区分のことです。この障害程度区分を認定する際の調査項目が介護保険の要介護度を認定する際の調査項目をベースにしているため、身体的な部

分での支援がどの程度必要なのかが中心となり、知的障がい及び精神障がいのある人の障がい特性を反映できていないとの課題が指摘されていました。そのため、障がいの多様な特性や心身の状態に応じて必要とされる、標準的な支援の度合いを総合的に示す障害支援区分に改められることになりました。平成２６年４月からの施行に向けて、国において、モデル事業やソフト開発が進められており、今年度中には調査項目の変更など、市町村で対応が必要な部分について示される予定です。

最後に、自立支援協議会についてですが、障害者総合支援法第８９条の３に基づく自立支援協議会は、障がい者等への支援体制の整備を図るために設置するもので、菊池圏域２市２町で、合同で平成１９年度から協議会を設置しています。協議会では、圏域における社会資源の開発及び改善、関係機関のネットワークの構築、困難事例への対応のあり方等々を協議・検討し、各市町の障がい者福祉サービスに生かしています。協議会のメンバーは、当事者及び家族会、教育、保健、医療、権利擁護、労働雇用、療育、相談支援事業所、障がい福祉サービス事業所などの各分野から選任し、それぞれの専門的かつ具体的な意見や助言をいただいています。障がいのある当事者及び家族会からは、身体・知的・精神の各障がいごとに１名ずつ、計３名の方に委員に就任いただいています。さらに、２５年度からは難病患者団体にも参加いただくよう打診しており、内諾をいただいているところです。

協議会の強化をとのお尋ねですが、協議会本体の下部組織として、専門部会を４つ設けて、協議の議論も活性化させております。

（「部長、結構です。もう一つ聞きたいことがあるので、ありがとうございました。最後に市長にお伺いします」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　申し訳ありません。あと２分ですので、市長に、子育て会議の設置のご意思がおありかどうか、それから当事者に聞くということですね、障がい者権利条約の言う、ナッシング・アバウト・アス・ウィズアウト・アスと、当事者抜きで決めないでという、世界のスローガンについて、市長のご所見をお聞かせください。そして障がい者・児、それから未来そのものである子どもたちに対する熱い思いをお聞かせください。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ちょっと早口になったので必ずしもきちんと理解していないかもしれません。

まず、子育て会議を開催するかどうかということについては実は私、ちょっとま

だきちんとした勉強が終わっておりませんのでですね、そういうニーズがあるんだなと、今承知しましたので、ちょっと１回戻りましてですね、検討させていただきます。

それから最後におっしゃったキャチフレーズがよく聞き取れませんでしたが。

（「はい。英語にご堪能に市長に対して大変ですけども、ナッシング・アバウト・アス・ウィズアウト・アス、当事者抜きで決めない、我々抜きで何も決めないでという、障がい者のスローガンですね」と呼ぶ者あり）

○市長（江頭　実君）　なるほど、ナッシング・アバウト・アス・ウィズアウト・アスですか。なるほど。すみません、私は今初めて聞きましたが、なかなか含蓄のあるいい言葉ですね。

これまた勉強させていただきますので、失礼いたしました。

○議長（山瀬義也君）　ここで、暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後２時０７分

開議　午後２時１６分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　議席番号１番、荒木崇之です。私の信念は、正直に、腹を立てずに、たゆまず励むです。私の報酬は、市民の皆さんから、皆さんの税金からいただいている、これを肝に銘じてしっかり取り組んでまいります。

それでは、通告に従いまして一般質問を行います。

まず始めに、市議会議員の税情報の公開についてです。私は、今回の市議会議員補欠選挙において、多くの方からご意見をいただきました。その中で、一番多かったのが市議会議員の税金滞納疑惑を明らかにしてください。この声です。高齢者の方は、少ない年金から納税され、農業者の方は円安で燃油や飼料が高騰している中、一生懸命働いて納税されています。商業、建設業においても、税金を滞納していれば、公共工事の入札に参加できない。市民の方も滞納状況で差し押さえされるという厳しい罰則があります。

そのような中で、市民の税金から、血税から報酬を得ている市議会議員が、もし仮に滞納している、滞納していたということであれば、憲法第３０条で定められている国民の重要な義務を果たしていないことになります。まじめに納税している市民を愚弄する行為であり、納税に対する市民の信頼を裏切る大きな問題で、到底許

されることではありません。しかし、残念ながら、この税金滞納疑惑は限りなく黒に近い疑惑であります。なぜなら、平成２４年４月２４日の熊日新聞で、１３人の市職員が税を滞納した議員がいると知っていた。税を滞納している議員がいたことが明らかになったと掲載されています。しかし、福村前市長は、２４年第２回定例会の大賀議員、２４年第４回の工藤議員の一般質問において、２４年５月末現在で滞納はなかった、遡って調べる必要はない。現況がいいのであればいいじゃないかという答弁をされております。ということはですよ、１３人の市職員が嘘をついているのか、福村前市長が嘘をついているのかということになります。どちらが真実なのでしょうか。このような税金滞納疑惑を見かねた市内の男性が市議会議員の税情報の開示請求をされましたが、不開示とされ、現在、不開示決定の取消を求めて訴訟を起こされております。江頭市長、おかしいと思いませんか。この男性は、真実を明らかにしようと自分の財産から多額の費用を払って裁判をされているのですよ。しかし、菊池市は市議会議員の税情報を守るために、市民の皆さんの血税で裁判をしておられる。これを聞いた市民はどう思うでしょうか。江頭市長、あなたはどう思われますか。あなたが開示すると言えば、この裁判は終わります。このまま不開示のまま高裁、最高裁と長引けば長引くだけ、情報公開しない菊池市、議員を守り市民は二の次と、全国的に悪評で有名になってしまうんじゃないでしょうか。マスコミも国民の知る権利が勝つか、個人情報保護法が勝つか、大変注目されている裁判であります。実は、平成１９年に上益城郡甲佐町において、議員の税金滞納疑惑が持ち上がり、開示請求に対して甲佐町は開示をされています。なぜ同じ地方自治体で菊池市は不開示、甲佐町は開示なのでしょうか。菊池市は情報を隠蔽していると言われても過言ではありません。皆さん、思い出してください。小泉政権時代に、国会議員の国民年金未納問題が浮上し、国民から厳しいバッシングを受けました。また、菅政権時には、中国船の衝突事件がありました。そのとき、政府は衝突の真相を公開しないまま解決を図ろうとしましたが、勇気ある内部告発により真実が公開され、結果、菅政権は国民からの信頼を失ってしまいました。情報は隠せば隠すほど、市民の心は市政から離れていきます。江頭市長は、先日の施政方針で、市民への情報の公開と共有、いわゆる市政の見える化を掲げておられます。市民が今一番知りたい情報は、市議会議員が税金を滞納していたのか、いるのかです。この情報であります。私は、税情報の開示をすることで、誰か議員をおとしめたいとか、裁きたいとか、そういう考えはありません。真実を市民に提供し、それによって市民が判断すればよいことです。

そこでお尋ねいたしますが、開示請求がされた平成１８年から２３年までの市議会議員の税情報を開示しますか、開示しませんか、お答えいただければお願いいた

します。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のご質問は、いわゆる市議会議員の税の滞納疑惑に関するご質問でございました。

まず、荒木議員さんがおっしゃっておりました、そのやはり議員という立場、公的な立場を考えたときに、やはりその情報公開に関しては、種々言えば一般人と違うんじゃないかと、こういうご趣旨だったと思います。とりわけ議員というのは、その市民を代表しているわけでございますから、その議員の方が万が一にもその税金を滞納しているというようなことがあれば、実はその納税者の方にとってもですね、これは大変ショックなことで、納税意識自体を非常に損ないかねない、極めて重要なことだと思います。それはもう普通の市民感覚からいってもですね、非常にうなずけることであるなというふうに思っております。しかも、私もいろいろなところで申し上げておりますけれども、基本的にはこの行政の情報公開というのはですね、積極的にやっていきたいと。むしろ市民の方と共有しながら、むしろみんなで、みんなに参画してもらってですね、市の問題をみんなで考えていきたいと、こういう基本姿勢でございます。

一方で、その行政というのは円滑な運営のために非常に様々な法律、ルール等々の下で運営をしていかなければなりませんで、私は今おっしゃったことは非常に心情的にはどういう気持ちでそれをおっしゃっているかというのはよく理解できるんですね。ただ一方で、例えば地方税法の第２２条というものを見ますと、これはご存じだと思いますが、税に関する秘密の漏洩に対しては、その２年以下の懲役であるとか、または１００万円以下の罰金というふうな非常に思い罰則が規定されております。

また、実は去年の６月であったと記憶しますけれども、まさにこの情報が非公開であるということについての不服申し立てが去年の６月にもあっておりましてですね、これを受けて菊池市情報公開審査会というのに諮問されまして、この審査会というのは行政専門の大学教授であるとか、弁護士の方等がお入りになった、専門家を入れた会議であるわけですが、ここで３回に渡る審査を受けてですね、その結果出てまいりました答申が、これは去年の秋でございますけれども、不開示という行政の決定は妥当であるという結論が出ているんですね。審査会としての結論でございます。そうしますと、行政としてはですね、まず私個人の立ち位置としては、冒頭に申し上げたように、やはり基本的に情報公開はやっていくべきであるというふうに思っておりますし、とりわけその疑惑の目が議員の方々に向けられたのであれ

ばですね、なおさらそれはもう早く解明していかなきゃいかんだろうと思う立場であるわけなんですが、今言ったようないくつものこの法的な制約、それからその審査委員会でのそのような公的な見解がある中ではですね、行政としてこれを開示していくのはなかなか困難であるというのが、実は今現在の問題なんですね。実は、その今回これまでの経緯を受けまして、議会としてもですね、実はそういうふうな疑惑の目が向けられているということは、これは議会自体としても耐えられないことであるわけですから、先般、毎年１回ですか、各議員の方々から税金をきちんと納めているという証明を皆さんからいただくと、こういうことに決定しているわけでございます。ですから、行政としてはなかなか難しい面があるということはご理解いただきたいと思うんですが、一方で議会に向けられた疑義でもありますればですね、それを払拭するためにそういう証明を出していこうというご決意もなさっているわけでございますから、であれば、その前の年であるとか、あるいはそのさらの前の年であるとかですね、いうところのご自身でこの潔白を立証していただくということは可能じゃないかなということは思っているんですね。ですから、ぜひその、私としてはそういうことはないと強く信じたいわけですが、今そういう疑義を持たれて、当事者としての議会自らですね、そういうふうな事情さいを果たしていただければ、市民も非常に安心できるじゃないかなというふうに思っておりまして、荒木議員さんのその思いとか志ということ自体はですね、私は非常に良とするものでございますので、むしろ荒木さんにぜひそういう意味でですね、頑張っていただければなというふうに感じているのは、私の今率直な感想でございます。

それから、この一連の中でですね、もう一つ付け加えておかねばならないのは、そもそも今回の発端としてはですね、市役所内での税情報に対する不正アクセスであるとか、情報が外へ漏れるとかですね、そういったことがあったやに了解しておりますんですけれども、実はそういうことというのは、これは情報公開以前の問題としてですね、これはあってはいけないことなわけでして、ですからもし今後このようなケースが庁内で万が一起きるようなことがあればですね、これは私は厳罰を持って、本当に厳正に対処していくというつもりでございますので、そこのところは併せて付言させていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　ご答弁では、心情的にはわかるけれども公開はできない、要するに公開はしないということでよろしかったかと思います。

それでは、一つ一つ論破していこうと思います。切り口を変えて質問します。江

頭市長は、この就任されたばかりでこの疑惑については今からいろいろお話を聞かれて取り組まれると思いますので、現在市民の方が訴訟をされていることから、総務企画部の管轄と思います。全経過を知っていて、前税務課長だった野口部長にお尋ねいたします。答弁がありました地方税法第２２条、これは秘密、要は税法によってどこまで公開できるかと、秘密という部分での条文だと思いますが、これはですね、昭和４９年に各都道府県知事に自治税務局長から通達があっております。その中で、一般的に収入額または所得額、税額等は地方公務員法第３４条の１、これは守秘義務ですね、地方税法第２２条の秘密のいずれにも該当するとありますが、滞納者名及び滞納額の一覧等は地方税に関する調査に関する事務に関して知り得た情報ではないので、地方税法第２２条の秘密には該当しないと。要は、滞納者名及び滞納税額の一覧等は、この２２条には該当しないという通達があっております。ご存じだと思います、部長。これはこれで間違いなかったでしょうか。

また、地方公務員法第３４条、これは守秘義務になりますが、私が聞いているのは、職員個人に聞いているんではないんです。市に対して滞納があったか、なかったか、公開してくださいと聞いているので、市職員の個人に聞いているわけではないので、この３４条というのは当てはまらないと思っております。さらに言うならば、福村前市長は、先ほど申しましたように２４年第２回の定例会の大賀議員の質問、２４年第４回の工藤議員の一般質問において、２４年５月末現在で滞納はなかったと、既に開示しているじゃないですか。違いますか、野口部長。情報を開示していますよね。答弁をお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　当然のご質問でございますが、今、私ちょっと担当部長ではございませんけれども、通告外でございますので、答えは控えさせていただきたいと思います。

（「議長、通告内ですよ、これは。議長、通告内です。２２条が該当するのか、しないのかを答えてください。それと、市長が言われたのが開示にあたるのか、あたらないのか、前市長が言われたことが。この２点だけです。２２条をおっしゃったのは、執行部からですよ」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後２時３４分

開議　午後２時５３分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　先ほど議員が言われました昭和４９年１１月１９日の自治省の税務局長からの通達分の内容的な部分をちょっと読ませていただきます。地方公務員法第３４条の第１項の秘密とは、一般に知られておらず、他人に知られないことについて客観的に相当な利益を有する事実で、職務上知り得たものを言うものであり、地方税法第２２条の秘密とは、これらのもののうち地方税に関する調査に関する事務に関して知り得たものを言うものであること。したがって、一般に収入額または所得額、税額等は、地方公務員法第３４条第１項及び地方税法第２２条の秘密のいずれにも該当し、滞納者名及び滞納税額の一覧等は地方税に関する調査に関する事務に関して知り得たものでないので、地方税法第２２条の秘密のは該当しないが、地方公務員法第３４条第１項の秘密に該当するものであること。したがって、滞納者名及び滞納税額の一覧であっても、納税者等の利益を保護し、行政の円滑な運営を確保するため、一般に公表すべきでないことはもちろんであるが、議会の審議の場においても、その開示を求められた場合においても、原則として開示すべきではないものであり、議会から地方自治法第１００条等の規定に基づき、その開示を求められた場合においては、議会の審議における必要性と納税者等の利益の保護、行政の円滑な運営確保の必要性等を総合的に勘案した結果、その要請に応ずべきものと判断したときを除き開示すべきでないものであること。こちらのことを受けまして、情報開示請求におきましても不開示ということで判断をされております。

それと、市長が昨年の６月議会ですか、そのことについてというようなお話でございますけれども、それにつきましては、市長が政治的判断でされたこととお聞きしております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　３回目の質問をいたします。

今の「したがって」からの先ですね、議会の場に応じて要請をされても開示すべきではないとありますが、地方自治法第１００条の規定に基づく、これは１００条委員会をつくれば開示できるということで理解します。

私は、今回の裁判記録を熊本地裁で閲覧しました。菊池市が公開しない理由の一つに、市議会議員の滞納あるいは過去滞納情報の開示をすれば、徴収等の租税行政

に対する協力を得られなくなると、あきれた主張がされています。いいですか。税金は、協力ではなく義務です。憲法第３０条で定められた国民の三大義務の一つなのです。それを協力なんか言っている、税徴収に対する市の認識の甘さに驚くばかりです。江頭市長、福村前市長は、滞納はなかった、開示はしないと政治的判断されました。それなら、江頭市長も政治的判断で開示ができるのではないですか。市民は真実が知りたいのです。市民の信頼に応えるべきてはないですか。もう一度お聞きします。政治判断で開示されますか、されませんか、お答えをよろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のご質問に対してですが、去年の福村前市長が議会においてだったでしょうか、お話なさった経緯については、私直接見聞きしておりませんけれども、私も実はその事実自体は聞いておりましてですね、今回も実は、今おっしゃったような観点で考えました。つまり、あるか、ないかというその方向はともかくですね、前市長がそこでおっしゃったという事実があるんでですね。それはその中身が、いわば右か、左かに関係なく、一回そこで政治判断でお話しなさったということですから、同じことがそれは言えるんではなかろうかと実は私も思ったんですね。ところが、よく子細に調べましたらですね、市民の方から不開示に対しての不服申し立てがあって、審査会が開かれて、というのは実はその後なんですね。６月に、５月末でしたか、ちょっと日にちは正確に覚えておりませんが、福村さんが政治判断でお話しになった後に、実は情報公開の審査会が開かれていまして、結論が出たのは１１月なんですよ。ですから、私が今の時点の立ち位置から同じことをやろうと思ったときに、一つ制約が増えているのはですね、やはり情報公開に関する審査会を開いてもらって、要するに私が単純にその個人的な思いだけで判断するんじゃなくて、やっぱりそこに法的な裏付けとか、客観性とかが必要なわけですから、それを第三者の学識経験者に見てもらった答えが不開示は妥当であると。つまり、開示するべきじゃないという、こういう結論が出ているわけなんですよ。ですから、私はそこは私にとっての大きな与件の変化でして、福村さんがやられたから私が同じようにできるということでは言えないですね。それが私の今回の荒木さんの心情的にはよくわかるけれども、実は行政の立場としてはそれはできないんですと申し上げている理由はそこにあります。

それから、その先ほどただし書きでですね、先ほどの通達の中には１００条委員会等々で総合的に勘案した結果、その要請に応ずべきものと判断したときを除き開示すべきではない。原則、やはり開示すべきではない。ごく例外的に認めることは

あり得ると、そううたっているわけですが、なお書きがございましてですね、なお、開示する場合であっても、議会に対し秘密会で審議することを要請するなど適切な配慮をすることというふうにございますから、極めて例外的な扱いということを念頭においた、前提としたただし書きであるなということは言えようかと思います。

結論としては、今、るる申し上げた事情からですね、私としては今現在情報は開示いたしません。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　３回目ですので、もう質問できませんが、私はこの問題につきましては、今後どんな圧力があっても、誰に何を言われても、真実は一つ、この真実を何年かかっても追求してまいります。

それでは、次の質問に移ります。次に、女性職員の昇進について質問いたします。女性の管理職職員、いわゆる課長級職員が少ないとの質問等は過去にされていますが、私は女性が係長になる年齢について疑問がありますので述べさせていただきます。世界経済フォーラムが毎年発表している女性の社会進出度の評価における日本のランキングは１３５カ国中１０１位で、これは先進国の中では非常に低い水準です。しかし、現在の菊池市職員の男女比はといいますと６対４で、以前に比べて女性職員が多くなりましたし、昨今の新規職員の採用を見てみますと、女性職員が多く採用されているように思えます。ただ、参事級職員までは男女ともに同じ年齢で昇進しているのに、係長に昇進する年齢は男性が４３歳、女性が４８歳と、男性に比べて女性が５年も遅く係長になっています。４８歳から係長、課長補佐、審議員、課長、部長となっていくならば、課長になるのは定年前の５８歳くらいではないですか。そうなると、議会に出らなんからとか、責任ある役職に定年直前に就いてもと、そういう意識になってしまうのではないでしょうか。早期退職を選ばれる方も少なくないと思います。女性の幹部職員が少ない根源は、悪の根源は、係長昇進への遅れではないでしょうか。前回の２４年第１回定例会の怒留湯議員の女性行政についての一般質問において、野口部長は、優秀な人材であれば男女の区別なく積極的に採用や管理職に登用していくと答弁されています。じゃ、それなのになぜ係長昇進に男女で５年に差が付いているのでしょうか。お答えください。この質問につきましては、前福村市長が行ってきた人事ですので、野口企画総務部長、お答えください。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　平成２５年の４月１日、現在における本市の全職員数は４９９名、うち女性は１９８名でございます。女性職員比率は３９．７％となっております。また、技能労務職を除く行政職の総数は４４１名、うち女性は１５５名、行政職における女性職員比率は３５．１％となっております。係長の状況につきましては、係長職の総数は６０名であり、うち女性係長の数は１３名、比率は２１．７％となります。

次に、平成２５年４月１日付け異動に伴う係長登用の男女別の平均年齢は、先ほど荒木議員のほうからお示しされたとおりで、男性で４３歳、女性で４８歳でございます。５年程度の開きがございます。

いずれにいたしましても、今後も男女にかかわらず適材適所の人員配置を基本に、優秀な人材であれば男女の区別なく積極的に登用を行っていきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　想像どおりのお答え、ありがとうございました。優秀な人材であれば男女の区別なく積極的に採用や管理職に登用していく、平成２１年、２４年、怒留湯議員への答弁書と同じお答えですよね。この答弁書は使い回しでしょうか。結局その場しのぎで、答えるだけで、何の改善にもなっておりません。野口部長がいろいろ言われても、結局は福村政権下において男女共同参画条例や男女共同参画を進めるための担当組織をつくられていましたが、名ばかりで、女性を下に見るような人事がなされたということです。それは、係長昇進の差にはっきり出ています。

そこで質問しますが、優秀な人材であれば、男女の区別なく積極的に採用や管理職に登用していくと何度も答弁されているのに、ずっと改善されない理由はなんですか。お答えください。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　合併後の職員採用を見ますと、女性のほうが男性を上回っております。将来的な部分では、女性のほうが増えてくるかなという、そういう予想もございますが、今、何でその率が伸びないかというお話しでございますけれども、退職される方、それと新規採用される方、それとまた係長職の年齢にそれぞれ男性も女性も巡っていくわけでございますけれども、そのときそのとき男女の

その年齢によっての比率もあるかと思いますけれども、優秀な人材と、先ほどちょっと表現的には使いましたけれども、その部分でのあれは、そのとき言ったからといって、じゃその年からぽんと上がるかと、そういうものではないと思っておりますので。

年齢差を縮める、ただ若いからやりますとか、そういうあれじゃないと思います。中においては、当然現段階では男性のほうがそういう年齢制度は大半を占めております。ただ先ほど申しましたように、最近の合併後の採用で見ますと女性のほうが半数を逆に上回っております。その状態がそのまま続いていく傾向になるかもしれませんけれども、それはちょっと将来的な部分でわかりませんけれども、これからいろいろな形で数字としてまた目に見えてくる部分も出てくるかと思います。ただ一概に、今だから何名増やすとか、そういう部分ではなかなか申し上げられませんけれども、年齢的な部分も徐々に改善されていくものと思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　私が聞いているのは、参事職級までは同じ年齢で上がっていくのに、係長級のときに、ずっと年功序列で来ているのにですね、何で係長だけ年功序列じゃないんだということを聞いているわけでありまして、その数がどうこうというのは、私はそのとき係長が全部女性でもいいんです、男性でもいいんです。どちらでも構いません。それはそのときの、その人の能力によって応じるもんですから別に構いませんが、スタート地点が５歳遅れていれば、それは労働意欲の減少につながると思っております。先日、安倍総理は私の一般質問を知ってか、知らずか、女性の社会進出を提唱されました。ノルウェーでは国営会社や上場企業の役員について、最低４０％を女性にする制度を導入しているそうですが、私はこれについては疑問があります。女性枠を設けるのではなく、女性だから、男性だからではなく、平等な競争の下に能力ややる気ある人が昇進する、それが本当の男女平等ではないでしょうか。市役所も係長までは男女関係なく昇進し、それから課長になるのは競争し選ばれた方がなるべきと思っております。係長のスタート時点で５年も遅れれば、女性職員のやる気もなくなってしまうでしょう。ご自分が逆の立場だったらどう思われますか。

そこで、最後に江頭市長に質問いたします。今後も福村前市長のように男女に差を付けた昇進をされるのか、それとも係長までは男女に差を付けることない昇進をされるのか、お尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　女性の登用に関する私の基本スタンスについてということで了解いたしました。

先ほど来、総務企画部長も答弁しておりましたが、既に私は同じような内容を怒留湯議員さんの答弁のときにもお話しさせていただいたんですが、ちょっと一部繰り返しになって恐縮ではあるんですが、女性、男性に関係なくですね、職員の配置、昇進等について、私が重視するものは、やはり適材適所であり、個人の持っている意欲ですとか、能力、個性、そういったものが十分に発揮されるように登用を行っていきたいと思って考えていますので、私、実は前に前職は民間企業の中でも通信業界のほうにおりまして、ここは非常に日進月歩の世界なもんですから、ある意味、時代の最先端にいるんですね。実はそこにおいて、私は男女比率がどうのこうのなんてことをですね、一回も意識したことはないんですよ。むしろ女性のほうが数が多いでしょうね。それから、役付に関しても、かなり、そうですね、女性の役席も多いもんですから、大体ミーティングでこういろいろわいわいがやがややっているときにですね、通信業界のようなところでは、例えばいろんな商品企画とかですね、ユーザーの持っているそのニーズは何なんだろうかとか、こういうところというのは女性の感性がものすごく生かされる部門なもんですから、非常の女性が多いんですよ。それから、広報とかＰＲとかいうところも、女性が持っている感性プラス女性特有の柔らかさとかですね、そういうものが遺憾なく発揮されているものですから、日常において非常にごく当たり前に女性も男性も普通に混じり合っている世界で暮らしてきております。ですから、私にとっては、今ここでですね、改めて、例えば女性だけを意識的にピックアップしていきますよというと、これはアメリカでもアファーマティブ・アクションといいまして、かつて黒人が非常にこの虐げられた時代が確かにございました。それはいけないというんで、ある一定割合で必ずですね、黒人を会社に入れていきなさいとかですね、大学に入れなさいとか、枠があったんですね。実はこの結果、大変な不平等が社会に起きましてですね、能力のない人が大学に入ったりするという逆が起きて、そういうふうな実は試行錯誤の繰り返しの中でですね、今のアメリカの社会というのは大分こう進歩してきているわけなんですが、実はそのアメリカですらも、じゃその今、完全かというと、なかなかやっぱりそういう意味での偏見とかは、まだやっぱりあるのかなという感じはします。ただ、私が冒頭に言った例はですね、要するに、もう仕事は主になってきますとね、もう男がどうの、女性がとうなって言っている暇もないわけですよ。ですから、私としては、その個人の意欲、能力が本当に発揮できるようなですね、そういう労働環境をいち早くつくっていきたいと思っていますし、私は市役

所の登庁初日にですね、もう上下左右、風通しがよく声の上がる職場を目指しているんですというのを申し上げたんですが、まさにそういう職場をつくっていきたいと思っておりますから、そういう中においてはですね、意欲と適正と能力のあった人が、必ずそれはもう頭を出してくるはずですから、そういった目でですね、私としては適材適所の能力、意欲に応じた人事登用をやっていきたいということを申し上げたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　３回目ですので、この件につきましては終わりにしますが、今述べられたことがその場しのぎではなく、実行に移されることを願って、次の質問に移ります。

次は、明るい話題でいきたいと思います。泗水図書館の開館時間の延長について質問いたします。最近もっぱら話題になっている図書館といえば、佐賀県武雄市が運営を大手ビデオレンタル会社に委託して、この４月にリニューアルオープンした武雄市図書館であることは多くの方がご存じだと思います。サービスの内容は、私が申すまでもないと思います。皆さん、ご存じだと思います。年中無休で、朝９時から夜９時まで１２時間開館というだけではないサービスで、武雄市図書館は確かに新しさに満ちています。民営会社が管理する図書館が注目を浴びている中、我が市には地元の本好きの方がＮＰＯ法人を設立して指定管理を行っている泗水図書館があります。非常に全国的に珍しい管理運営ですので、丁寧な接客と対応で地元に愛される図書館です。それを表すように、昨年の九州北部豪雨で浸水被害を受けたとき、市内外から多くのタオルとメッセージが送られてきました。私は幸運にもそのとき職員として、そのタオルの仕分け作業をお手伝いさせていただきましたが、今でも励ましのメッセージ等を思うと熱くこみ上げてくるものがあります。市長が昨今のテレビ取材でおっしゃっていた、地域性に合った理想の図書館ではないでしょうか。

そんな泗水図書館ですが、１点だけ見直さないといけないことがあります。それは閉館時間です。閉館時間が午後６時と早く、まさにお役所時間であります。お勤めの方が仕事から帰って借りにいこうと思っても閉まっていますし、市役所の本庁勤務の方も、間に合わないのじゃないでしょうか。

そこでお尋ねしますが、閉館時間を午後９時まで延長される考えはありますか。また、９時まで延長することでどれぐらいの指定管理料の増額となりますか。こちらは、教育長のほう、お答えください。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　お答えします。

泗水図書館の開館時間につきましては、現在平日は午前１０時から午後６時まで、土曜、日曜日は午前１０時から午後５時までとしております。また、小中学生の利用を図るために、夏季休業期間の８月につきましては、土曜日、日曜日のみ１時間延長をしております。参考までに、泗水図書館の年間利用者の割合を申しますと、平日が全体の６０％、土曜、日曜利用者が４０％となっております。

また、時間延長に伴う経費につきましては、平日の週１日を午後９時まで３時間延長した場合で試算をしますと、指定管理料は現在と比べて人件費、光熱水費等で年間２５０万円程度の増額となり、現在の指定管理料では対応が難しいと思います。なお、大津町立大津図書館、合志市西合志図書館では、平日の週１日を午後８時まで延長して運営を行っております。

今後、アンケート調査を実施し、その結果を分析して、どういった開館形態が一番利用者の利便性が高いのか、検討を行いたいと思っております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　再質問いたします。

大体お答えの中にですね、他市町との兼ね合いというのをよく言われますが、他市に先駆けてやるから話題になるんだと思います。武雄市の図書館は、他がやらないことをやったから話題になりました。そして、指定管理料ですが、平日の延長を１日行うと年額２５０万円、約２５０万円増加するとのことですが、市が直営で運営していたころと比べて指定管理料はかなりの経費削減をされておられます、指定管理にすればですね、かなりの経費削減になっております。大体９００万円ぐらいと理解してよろしいかと思いますが、それならですね、いつ通っても、誰も入ってないポケットパークの足湯の管理費に、あんなものに３００万円使うくらいなら、図書館のサービス向上に使うほうが私は有効的だと考えます。アンケートですが、市民はアンケートをされていることすら知らない方がほとんどです。市長がおっしゃるように、ホームページや菊池市のフェイスブック、あらゆる媒体に掲載されると、より多くの意見が集まると思いますがいかがでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　再質問にお答えをいたします。

今後の取り組みとしましては、まず利用の多い時期のひと月からふた月を掛け、利用者にアンケート調査を実施したいと考えております。その内容は、利用の頻度や希望の開館時間、どのような利用を現在されているかなどの項目をお尋ねし、利用者の動向を収集したいと考えております。その結果を踏まえて、指定管理者や図書館協議会の委員などの関係機関と十分に協議を重ねてまいりたいと思っております。

なお、試験運用を実施する場合は、できるだけ期間を長くとり、事前に広報紙や市のホームページ等で市民の皆様へも周知を図りたいと考えております。

今後も市民に親しまれる図書館を目指して改善、創意工夫に努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　先人たちの知恵の結集である図書館を、より広く開放し、利用してもらうことこそ、倫理観と学力向上につながるものと思っています。ちょうど菊池市では新しく建設する生涯学習センター内の図書館及び公民館について、利用しやすく、親しみやすい施設としていくための市民目線でのワークショップ、意見交換会ですね、を募集されております。たしか、江頭市長の若いころの夢は小説家と言われたのを記憶しております。市長も本には特別な思い入れがあるのではないですか。

そこで、図書館の今後のサービス向上について、江頭市長の思いを、考えを、残り時間全部使って結構ですのでお伝えください。

再々質問といたします。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　図書館に関する私の考えを、それでは申し述べさせていただきます。

今、おっしゃいましたように、私実は無類の本好きでございます。この１年ほどは、実は別のことに集中しておりまして、ほとんど本を読む暇はございませんでした。これから少しずつ本読む時間ができてくるかなと楽しみにしているところでございます。私が実は若いころ小説家になりたかったと言ったのはよく覚えていらっしゃいましたですね。顔から火が出るように今恥ずかしく思っておりますが、それは事実でございます。本好きが講じてですね、本当に自分は本を書いて暮らしたいと思っていた時期がございました。実は、皆さん言っておりませんけれども、もう

一つ夢がありましてですね、小さいときに、今で言う隈府の中町の教育会館のところじゃないかと思うんですが、昔あそこに図書館があったんですよ。本当に古い図書館で、もう茶色になった本しかなかったんですね。私は何を間違えたかですね、突然ふらっと入ったことが１回だけありまして、小学校４年生か５年生のときですね。それで、冒険小説だったと思いますが、もう適当にとった本がおもしろくて、夢中になって読んだ記憶がありまして、その間、当然誰も来ないんですよ。誰も来ないんで、実は閉めちゃったわけですけどもね。恐らく私が唯一と言っていいぐらいの来訪者じゃだったんじゃないかなと思います。そのときに、実は私は小学校４、５年生でしたけど、何の根拠もなくですね、よし、図書館ぐらい僕が大人になったら実業家になってプレゼントしようという青年の大志を抱いたんですね。残念ながらその実業家になりませんで、その夢が実は実現しないまま、自分の心の中にちょうど魚の骨が刺さったようにですね、ちょっと残念に思っていたところ、図らずも実は今回この菊池市長ということに皆さんのご支持いただきましてならせていただきましたところですね、実はちょうど同じタイミングで図書館建設の話が持ち上がっていて、何ていう偶然なんだろうと思いまして、ああ、やっとこれで自分の夢が実現できそうだと。多少その人のお金というか、公のお金を借りるということは少し残念なんですが、じゃ少なくとも中身はいいものにしたいと、少なくともそれに関われるということの喜びを今感じております。そういう中で、いい図書館にしていきたいと思っておりますので、先般、テレビで武雄市の図書館についてどう思いますかということを聞かれまして、私は非常にまず武雄市が取り組んでいらっしゃる取り組みというのは非常に素晴らしいと。たくさんの新しい発想とかですね、アイデアをいただきましたと。２番目には、じゃそれをそのまま菊池市でやるかというと、それはまたちょっと違うと思いますと。そこから非常に参考になるものをくみ取りながらですね、やはり菊池らしい、菊池ならではの図書館というものを模索していきたいと。今何があるかと言われても、それはこれから考えていくわけですけれども。そういうふうに思っております。じっくりやっぱりこれからは考えていきたいと思っている中でですね、やっぱり一回頭を冷やしてしっかり整理しなきゃいかんと思っとるんですよ。それは、図書館とは何ぞやということからやっぱり始めるべきだと。図書館というのは本を読むところでございますね。ただで本が借りれる。簡単に言うと、この貸本機能がまず頭に思い浮かぶわけですが、実はこのもう一つの重要な役割というのは、レファレンス機能とよく言いますけれども、簡単に言うと調べ物ですね、本の中に埋もれて自分の思うままに本の中を探索する人もいれば、ある自分なりの目的を持ってですね、自分ではなかなか買えないような参考書をこう引っ張り出しながら、関連が出てくると、また別の棚から引っ

張ってくるような、そういうレファレンスサービス機能といいましょうかね、調査、調べ物ができる機能、こういうものは非常に大事なわけです。ですから、僕はまだ武雄市の図書館行ってないのでわからないんですが、一部の市民の間からはですね、人が来るのはいいんだけど、なかなかざわざわしてゆっくり調べ物ができないとかですね、座るところが土日はないとかいう声を聞いたりしますので、そういったところはよくバランスを取った運営ということで、そのレッスンといいましょうかね、ヒントをいかなきゃいかんなというふうに思ったりしております。

実は、菊池市ならではというところにもつながってきますが、もう一つ僕はやっぱり図書館というものに重要な役割があると思っておりまして、それはやはりこの地域を創り上げてきた歴史というものがございますね。そうすると、その菊池の場合でいけば菊池一族なんていう名前が必ずすぐ出てくるわけですが、こういったこの歴史とか文化に関わるいろんな文書とかですね、資料がございますが、実はいろんなところに点在している状況ですね。こういったものをやっぱり一つに集めて、保管して、整理して、そしてまた若い世代に発信していくというその、いわば地域の歴史文化拠点みたいな、そういう役割がものすごく大事だと思うんですね。そのことによって、改めて自分たちの住んでいるまちの歴史とか、あるいは偉大さとか、あるいは先人の積み重ねてきたいろんな苦労とかですね、そういうものがわかればわかるほど、一層その郷里に対する愛着とかが増してくると、そういうふうな重要な役割があると思っております。ですから、先ほどお話しがあったように、そういうことを踏まえてですね、何が私たちにとって一番いい図書館なのか、これはそんなに頻繁に建てるわけじゃないですよ。今まで残念ながら何十年もなかったわけで、ここでやっぱり建てるからにはですね、何十年の計で、やっぱり次の世代が、うちのじいさん、ばあさんたちはよう考えていいのをつくってくれたというようなものをですね、やっぱりつくっていきたいと思っています。そのためには、やはり少人数のこの思い込みとかですね、いうことだけではなくて、幅広い知恵を集める必要があると思っておりますので、そのためにぜひともですね、ワークショップと呼んでいますけれども、市民の方々に集まっていただいて、いろいろなご意見をいただきたい。それはもうレイアウトとか、本のその例えばカテゴリーとかいうことだけじゃなくてですね、じゃ武雄市では、例えばお茶を飲みながら本が読めるというのは、これはある意味非常にリラックスした環境で、私なんか非常にいいなと思うんですけれども、そういったことは、例えば可能なのかどうかとかですね、そういったことも含めて、ぜひ何十年の計で議論を積み重ねれればと思います。もちろん、一方ではその経費効率化という時代でもありますので、そこの兼ね合い、バランスはよく考えながらということにはなってきます。

ですから、図書館というのは、さっき言いましたように、単に本を貸し出しするということではなくて、むしろこれからさらにですね、図書館というのは情報を発信するところではないかというふうに思っております。特にこれからせＩＴ化がどんどんどんどん促進してきますから、そういった情報をどんどんＩＴ化していけばいくほどですね、情報のこの、アーカイブと呼んでいますけどね、情報が一つの大きな倉庫の中にこれからしまわれていくわけですよ。それをどううまく整理して、どううまく活用するような形にするか。これは菊池市民にとっての大きな資産になるはずですから、それが私どもにとってはですね、まさにこれからの生涯学習の機会をどんどん広げていきましょうというところの大きな源になってくるわけですね。生涯学習の拠点として。それから、先ほど申し上げた地域の歴史・文化を発信する、その拠点として、ある意味ではこの地域文化の、菊池というところの中心的な文化施設になると思いますので、そういった形で菊池市ならではの図書館というものを皆さんと一緒に考えながら進めていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　ありがとうございました。本当にいっぱい使われましたね。

以上で、一般質問を終わります。ご静聴、ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　ここで、暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後３時３５分

開議　午後３時４４分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　こんにちは。議席番号３番、工藤圭一郎です。通告に沿って一般質問をしたいと思います。

まず、小学校のエアコン設置についてお尋ねします。今回、市内全小学校にエアコンを設置されます。市内の中学校にエアコンが設置されたのが２、３年前だったかと思います。このエアコン設置というのがこの前合志市のほうでもちょっと議論に上がっておりました。金額がちょっと高すぎるというようなお話だったかと思います。私も中学校に設置したときにですね、そういう思いを持った一人です。

そこで、中学校が既に実施済みですので、一教室当たりのエアコンの単価が計算

できているのであれば、要は全工事費を教室で割った金額ですよね、それを教えていただきたいと思います。

そして、次に工事をする期間ですね、これも既に中学校で実施済みですので、なるべく期間を短縮させる努力をしていただきたいなと思っております。

そして、次に中学校に設置した後の学力向上です。やはりこれが最大の目的だったかと思います。その学力が設置した後にどれだけ伸びたのか、そのあたりをお聞かせ願いたいと思います。

最後に、エアコンが設置されて勉強する環境がものすごくよくなりました。しかし、夏休みは相変わらず今までどおり夏休みがあっております。もう夏休みはいらないんじゃないかなというふうに私は思っておりますし、私個人の意見だけではなく、多くの友人の中学生を持つ保護者からもですね、もう学校を開いていただいて勉強を教えていただければ、塾に通わせる回数が少し減るとか、そういうお話を聞きますもんですから、そういう検討がされたのか、そしてこれから小学校に設置する上で小学校でもどういうふうな考え方があられるのかを１回目の質問としたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　お答えします。

本市におきましては、近年の温暖化や大気汚染等に伴い、子どもたちの学習の場、生活の場である学校の環境改善と健康管理を目的として、学校教室の空調整備を進めているところでございます。

まず、平成２２年度に施工いたしました中学校空調整備事業につきましては、市内５中学校の延べ６５の普通教室に設置を行っておりますが、一教室当たりの工事単価実績としましては、約１６２万５，０００円の事業費となっております。また、工事期間につきましては、各学校とも約４カ月程度の期間を要しておりますが、竣工時期につきましては、耐震工事との関連があるところについては１２月まで、それ以外は７月中に完了をいたしております。

なお、今回の整備予定としましては、市内すべての小中学校１５校を対象として、中学校の特別教室並びに小学校の普通教室と特別教室の約２００教室の整備となることから、設計に要する現地調査や電気容量等の調査期間も必要なため、本年度は６月から９月ごろまでの設計期間を見込んでおります。

また、工事につきましては、１１月ごろからと考えておりますが、授業に影響を及ぼすことがないよう、各学校と協議の上、年度末までには竣工する計画といたしております。

次に、中学校の学力状況につきましてお答えをいたします。本市におきましては、全国基準に照らし、確かな学力の育成という目標についての実現状況を客観的に把握し、学習指導の診断的評価と指導効果の統括的評価として活用するため、全国標準学力検査ＮＲＴを実施しております。この調査における中学校５校の標準偏差平均値では、空調整備前の平成２１年度は５０．５でありましたが、整備後の２２年度は５１．６、２３年度が５０．７、２４年度５０．９となっております。また、毎年実施しております熊本県学力調査においても、昨年度の中学２年生においては中学１年生のときの正答率と比較しますと、国語、社会、理科の３教科で知識と活用力、また数学と英語においては活用力で向上が図られ、県平均を上回っております。さらに、中学３年生においては、中学２年生のときと正答率を比較しますと、国語、理科での知識と活用力において、中学２年生のときよりも向上し、ほとんどの教科で県平均を上回っております。

最後に、夏季休業の期間につきましては、年間２００日の授業日数を確保するため、平成２４年度が７月２１日から８月２８日までの３９日間、本年度におきましては７月２１日から８月２５日までの３６日間といたしているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　再質問したいと思います。

まずは、工事費の削減についてお尋ねしたいと思います。やはり今、部長からお答えいただきました一教室当たり１６２万円、やっぱり高いかなという気がします。普通に考えて、一つの学校に行って、何箇所も工事ができるということであれば、移動することが少なくなるので安くなるのかなというふうに考えますし、そこは安くならなきゃいけないじゃないかなと思います。

それと、安くというふうに言ってしまいますと、エアコンもいろんな機械がありますので、いいのから悪いのまで。だから、広さに応じてきちっと企画を決めて、品物を決めて入札をしていただければ、適正なものが安く入るようになるんじゃないかなと思いますし、もう１点、工事期間を短縮するんであれば、逆に言うと地元の、我が町の電気工事屋さんにまで仕事がいけるんじゃないかなというふうに個人的に考えておりますけど、そういうことを使ってでもですね、期間を短くしてあげないと、片一方で勉強している子どもたちがいる中での工事になりますので、やっぱりそこは努力していただきたいなというふうに思っております。

そして、学力向上のほうはですね、多少ごまかしのように聞こえますけれども、

やはりあまり伸びていない。エアコンが付く、付かない、かなりお金はかかっております。やはりここは学力を上げる努力等はされておると思いますけれども、実際の数字で上げていただきたい。そして、保護者側からの意見からすれば、今はもう塾にやらないと高校受験はもうとても苦しいと。ほとんどの子どもたちが塾に通っている。そんな状況をですね、せっかくエアコン付けたんだから、夏休み、冬休みの教室を生かせる何か手立てはできないのか。切実な保護者の願いです。そこあたりを踏まえて、もう一度お答え願いたいと思います。そして、やはりこういう工事をするときにですね、いろんな行政側で工事の発注はあるんですけれども、特にこのエアコンというのは、割とわかりやすい工事ですので、これこそきちっとした形で予算削減ができるんであれば、やはり教育長からはそれをほめて上げていただきたい。そうすることで、職員もしっかり頑張るんじゃないかなというふうに私は思いますので、そこを踏まえてお答えを願いたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　再質問にお答えをいたします。

空調の整備につきましては、国土交通省が定める公共建築工事標準単価積算基準等を基に適正な事業費を算出することになりますが、今回の空調工事におきましては、設置台数も多くなることから、前回のノウハウを生かした事業費の圧縮や工事期間の短縮に努めてまいりたいと考えております。空調機器も家庭用に比べ大型であり、電気系統の整備等も併せて行わなければなりませんので、大幅な工事費削減等は期待できませんが、適正に進めてまいりたいと考えております。

次に、学力向上につきましては、空調整備に係る要因がどの程度かという把握はできかねますが、基礎学力定着向上のための快適な教育環境の確保は整ったものと考えております。今後も施設整備の環境はもとより、事業力向上のための教師の資質の向上と指導力強化に向けた取り組みや、自ら学び自ら考える力の育成、さらにはＩＣＴ教育等の効果的な活用により、全国標準学力検査ＮＲＴで全国平均を、また熊本県学力調査の正答率で県平均をさらに上回るよう学力向上アクションプランを中心とした取り組みの強化を進めてまいります。

夏季休業日につきましては、部活動の充実した取り組みはもとより、児童生徒が地域の中で様々な体験活動に参加したり、家族の一員として行動したりすることで、豊かな心や社会性を育み、課題意識を持って主体的に学習するよい機会と考えております。また、各学校ではこの時期を活用して個別の学習指導や学習教室の開催、保護者との面談や家庭訪問等といった子ども一人一人に向き合う取り組みも行っております。そのほか、本市では教育支援ネットワーク菊池の事業として、小学

校児童への学習支援事業や農業体験事業、中学３年生を対象とした学習指導の拓志ゼミといった活動が実施され、その支援も行っているところでございます。教育委員会としましては、今後もこういった取り組みを継続しながら、学力向上とともに本市が理念とする文武両道、廉恥礼節の確立に向け取り組んでまいりたいと考えておりますので、現段階において夏季休業中の統一した取り組みや夏季休業日の短縮につきましては考えておりません。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　夏休み、冬休み、考えてないという最後のお話しなんですけれども、もしよかったら校長先生あたりからそのお話が上がってきたときには検討していただきたいなと。一斉にじゃなくても、そういう、もしかしたら私が知らない縛りがあって、それはできませんということであればお答え願わないとわかりませんけど、個別にですね、そういうお話があったときには、どんどん積極的にエアコンを使っていい環境で勉強をすすめていただきたいなというふうに思います。

それと、工事費の削減がなかなか難しいだろうというお話なんですけど、ほかの部あたりに相談してみると、いや、こういう手があるよとか、いろいろ出てくるんじゃないかなという気がします。私があまりここで言っても仕方ないので、もうちょっと努力していただきたい。もう少し努力していただかないと、やはり市民の理解はなかなか、なんか予算が通ったんだからそれはいいんじゃないかというふうにやっているんじゃないかというふうに思われがちなんで、そこをよろしくお願いしたいと思います。

次の質問にいきたいと思います。合併検証ですね、合併検証ということを踏まえる上で、泗水町の昨年の運動についてお尋ねしたいと思います。市長、代わられましたのでいろんなところでお話は聞いたり、勉強されて答弁の中でも答えられているのを見て、私はですね、まだまだ理解されてない部分が多いなというふうに判断しますので、私なりのお話をまずしたいと思います。いわれるとおり、発端は本庁舎の位置の変更、それは当然です。合併協議の中で１丁目１番地、これが一番大事な話だったんですよね。その位置の変更、これがあって、その前からいろんな議論があって、凍結だったりとかして、特例債の緩和措置あたりから動き出して、そのときですね、やはり私は何回も議会で言いますけど、議員の全員一致、満場一致で決めてほしかった。そのとき、反対したのは、泗水の議員ですよ。だから、そういう地域の、地域性の反対を押し切って多数決だから今その議会の議決、議論を基に尊重してと市長がおっしゃるけど、そのとき、それだけの議論があって、議会でも

当然です。いっぱい議論がありました。ただ、結局は少数の、せいぜい４人ぐらいが言っている話じゃないか。あとほとんどの議員がそれに納得しているんだから、市長もそう言っているんだから進めていくんだよと。私たちも小さい力でどうにか対抗しようと一生懸命努力しました。地域審議会の話の中に足を運んで、そうすると泗水の地域審議会でも一生懸命議論があって、市長に対して、ここは諮問機関だから、私たちも意見を言わせてください。結局、前の福村市長はですね、自分の方針をただ述べるだけにとどまって、意見は全く聞こうとされなかった。だったら住民説明会を開いてくださいと言われたんですけれども、それでも福村市長は、それもしようとしない。その代わり、後になってしますよとか、全然話がかみ合わなかったんです。だから、そういう本当に大事なところを、まして議会の議員、地域審議会の審議員さん、さらに住民の皆さんに説明をしないまま方向転換をしていく。そら、議会の議決があればということは、あくまでそれに縛られてはいけないという話、私はそういうふうに理解します。やっぱり合併当初の約束で、一番の、それも懸案事項だったことを動かしたということが泗水の運動に始まるんですよ。そういう決め方で進めていくんであれば、私たちは自分たちで物事は決めて進めたい。だから元に戻りたいという話をしだしたんですよね。それがそんなにいけないことだろうか。随分福村市長には言いましたけれども、福村市長は、前市長は、もう右から左に耳が抜けているような状況に私は感じておりました。そして、泗水をよくする会、泗水のことを真剣にもう一回考え直そうという会が立ち上がったんです。その中で、議論していく中で、市長リコール、議会の解散請求、どういった形がいいだろうかという議論をする中でですね、あくまでこれは私たちの思いとして民意の署名を集めようか。法的拘束力のない署名をですね、それを一生懸命みんなで力を合わせて集めました。議会に提出し、市長に提出し、ところがですよ、議会でその署名の信憑性の議論に入って、議会としては不採択と、市長もそれを見て私も議会の考え方を尊重しますと。そういうことじゃないだろうとさんざん言ってきましたけど、住民の民意とは、そういうことじゃないでしょうと。そのときの答えが、いや、こういう問題は全市的な問題だから、全市的な問題じゃないんです。泗水町の町民が決める問題なんです。ただ、とりあえずの手段として署名を出して、それをお願いして、どうにかこういう思いをわかってほしいというところに立った去年なんですね。やはり私は、市民もですね、町民と言ったほうがいいかもしれませんけど、いやという権利もあっていいんじゃないかと。合併してみて、どうもいかんと、本当にみんな議論して、議論をして、どうもこのままじゃいけないと、自分たちの将来が危ぶまれるというところに行きたってしまったんです。まだ終わってないんですよ、市長、本当に。確かに前回の市長選で終わったような話があったのも

事実です。よくする会が解散されたというのも事実です。ただ、泗水の、そのとき署名したみんなはですね、まだ忘れてないんです、消えてないんです、その思いは。だから、そういう思いをですね、どう捉えられるのか。そうすると、何か付け加えで申し訳ないんですけど、花房のその庁舎を建てる予定だった不換地、あれのこともですね、新市長になられましたので、どういうふうな対応をされるか、そこを第１点聞きたいと思います。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　まず、今のご質問ですが、確認させていただいてもよろしいでしょうか。花房台地の調査建設予定地についてのご質問ということで理解してよろしいんでしょうか。わかりました。私のこれまでの泗水の分離独立運動、一連のあれに対する私の見解ということですね。及び、花房の庁舎建設予定地についての今の考え方、方針ということですね。わかりました。

その第１点目でございますけれども、今、ご説明いただいた事項についてはですね、私なりにいろんなところにお話を聞いて、自分なりに整理しているわけでございますけれども、私なりに振り返ってみるとですね、やはりこれから学ぶべきものというのは、合併協議会の確認事項というのは結果的には守られなかったわけですから、しかもそれの説明が非常になかったりですね、欠落してたり、不十分であったりというふうに聞いておりますけれども、その結果、行政に対する信頼が失われたということと、それから庁舎建設場所の変更に対するそのときそのときの市民への説明、とりわけ泗水地区の皆さんへの説明が不十分だったということを主たる要因として独立運動ということに残念ながらつながっていったというふうに理解しているわけですが、例えば行政に対する信頼感が損なわれたことを今となって分析してみるとですね、例えば山鹿のケースがございますけれども、山鹿の最終市庁舎が建つ場所というのは、当初合併時に合意した場所ではないというふうに聞いておりまして、その間、いろんな各位のご努力があって、議論を重ねられて、合意の上で今般の新しい場所に確定したというふうに聞いております。ですから、これはもう歴史にｉｆというのを言ってもしょうがないんですけれども、もしということで言うならば、きちんとした説明、きちんとした会話、意見交換をやりながらですね、もし変えなきゃいけないという状況が生まれたときにはですね、そういうふうなきちんとした会話の段取りを取っていれば、またその違った形で今の市が迎えていたのかもしれないなという気もしております。ですから、私のこの一連の中から新しい首長として私が学ぶべきことというのは、やはり一にも二にもやはりコミュニケ

ーションだなというふうに実は思っておりましてね、もちろんそのほか様々な要因ございますけれども、何につけても、やはり人というものがこの菊池市を構成しているわけですから、やはりその人と人とのコミュニケーションというのが一番の要点だろうというふうに考えております。ですから、そのコミュニケーションのためには、当然地域が違いますので、その考え方とか歴史とか日常とかが違うわけですから、いろんなことを共有していかにゃいかんと思うんですね。そのためには、いろんな情報の公開、共有というのは必要だということは、私は口酸っぱく申し上げているわけなんですが、そういう意味でもですね、こちらから出す一方ではなくて、またこちらから情報を取りに行って、そのためにいろんな市民の意見を吸い上げるための仕組み、市長と語る会等をつくっていかなきゃいかんなというふうに考えた次第なんです。非常に手間はかかりますけれども、これは避けて通れないというふうに私は思っております。

そういう中で、独立問題のそのこれからやっぱり解決を図っていかなきゃいかんということと、それからそれを乗り越えて早く融和を図っていかなきゃいかんということの道筋を考えるとですね、実は今回の選挙というのは、一つの分岐点ではなかったのかなというふうに実は考えておりますね。私、実は様々なところで申し上げていますが、独立運動に至った経緯の中でですね、私は非常に心情的に理解できるところも実は多々あるんですね。そら、さすがにびっくりされただろうとかですね、こら腹も立ったかもしれないなということは、実はいくつかの局面で覚えているんですね。しかし、今となってはその様々な議論を経て合併をすると、いわば一つの船で行こうという道を選んだわけですから、私としてはですね、新しい市に対するこの責任というものを考えますと、やはり問題をいつまでもこれを引きずるんではなくて、そうしますと菊池市だけが私は取り残されるんじゃないかというところを非常に大きく危惧しているんですね。工藤議員にも、もちろんこの市をよくしたいという思いとエネルギーがあふれていらっしゃるからこそですね、今のようなご意見があったんだと思っていますので、そのエネルギーをぜひ前向きの方向に変えていきたいというふうに思っております。そして、市民全体が同じ目標に向かって邁進していくということが、実は融和への一番の近道じゃないかというふうに考えているんですね。その簡単に解決する問題ではないともちろん思っております。容易な道ではないと思っておりますけれども、今終わってないというお話でしたけれども、時間はかかりますが終わらないではなくてですね、どうやって終わらせようかということに向けてこれからお互いの努力をしていかなきゃいかんなというふうに考えております。そのためには、やっぱり力を結集しないことにはですね、このエネルギーは前に進んでいかないと思うんですよ。ですから、このばらばら違う

方向を見ていては船も前に進みませんので、ぜひその工藤議員をはじめですね、その皆様のエネルギーを集めて、一丸となったその推進ができるようになにとぞご協力をお願いしたいというふうに考えております。

以上が私の独立問題等に始まる一連の動きに対する私の今の考えでございます。

それから、花房台地の当初の予定地でございますけれども、これはもうこれまでの経緯等々を鑑みですね、庁舎ということではなくなりましたけれども、引き続き市のほうでこれは買い入れるということは当然の筋であろうというふうに考えております。用途等につきましては、これからまた考えていかねばならんというふうには思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　やはりですね、市長、当事者意識がないというか、泗水の人の身になってということが少し軽いのかなというふうに私の今の市長の答えを聞いてて思うんですけれども、された側、する側、その違い、受け止めるほうもそうですよね。で、私は当然、泗水の人たちを背負って議員として立っておりますので、やはりその思いがある以上はその思いを代弁しなければなりません。

そこで、市長が言われる、先に進むために融和を図ろう、努力してくれと言われるのもわかりますけれども、それも一つのきっかけとして、やはりその泗水の町民の中で一体どれだけの人がそれを本当に望んでいるのか、住民投票をしていただきたい。その答えがはっきり出たのであれば、当然泗水の住民をはじめ、私ももう言うことはありません。それが一つの区切りであろうと思いますし、今回の泗水をよくする会から出された署名に、行政の職員、地方公務員は入っておりません。それは私も署名集めを手伝った経緯がありますので、十分わかっております。しかし、こんなことが起こった以上は、やはり泗水の出身の職員はですね、厳しい状況に立っているんじゃないかといつも心配しております。特にもう解散して終わったということになれば、何だったのか、泗水のお前たちはと言われているんじゃないかなともものすごく心配しております。やはりですね、その思いで、前に進むために思いを終結してくれと言われても、実際それだけのことが泗水町で起こって、全国初で話題にもなってしまって、別にそんなつもりでやったんじゃありませんけど、やっぱり自分たちの思いを伝えたくてそれをやって、はい、もう終わりですよということにはならないんですよ。そんな簡単には気持ちは切り替わらないんですよね。特に１回、信頼が揺らいで、不信感を持った以上は、よほどの努力を積み重ねない限り、それは次に進まない。もともとの地域性、歴史観の違いがある地域が国から後

ろをせつかされてした合併でこういうことが起きたときにですね、そんな簡単に、よし菊池市でやろうというようなことにならない。特に泗水町だからならないんですよ。ご存じのとおり、人口は増えております、泗水町はですね。自分たちでやれるんだという気持ちを持っているんですよ。だったら、どうしてそれを受け入れてもらえないのか、それを聞いてもらえないのか。そんな自由もないのか。まずその原点に返るんであれば、その思いの強さ、思いの数、それを住民投票で確かめていただきたい。だからさっき言うように、それが少なければ、もう当然このことは言いません。でも、今回の選挙と市長が言われたけど、それは私はすべてではないと思っております。確かに今回の市長選でそういう議論が上がったのは事実です。しかし、それで終わってはおりません。だから、私としてはですね、市長も言われるじゃないですか、あと２年で１０年、それから先は交付税が下がっていく、住民サービスを低下させてはいけないというけれども、それは言葉であって、実際苦しくなるじゃないですか。だったら今のうちに少しでも話を聞いていただいて、理解していただいて、何らかの手を打っていただきたい、何かをつくってくれということじゃありません。今言う住民投票なりしていただければ、泗水の住民もけじめがつくんじゃないかと思っておりますけど、それについていかがですか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今、工藤議員のほうからは、独立問題はまだ気持ちの上では終わってないと。だから民意を問うのはいかがかというご提議だったかと思います。泗水地区の方々のご意見を尊重するというのは、これはまず何よりも基本的なことだと思います。ただ、前回既にですね、まさにそれを泗水の方々に問うて、総意を署名という形で問われたわけであるというふうに私は理解しておりますので、その結果を踏まえて、再びそのいろんな議論が重ねられて、先ほどの答弁の中では、苦難な長い道のりという表現がございましたけれども、まさにそういう積み重ねがあった上でですね、今、皆様のご努力でここに至ったんだなということで私は今了解しております。先ほど工藤議員のほうから、これは簡単じゃないぞと、よっぽどの努力をしないと、それは変わらんぞというふうにおっしゃいました。その思いは全く同じなんですよ。だからこそ、私はもうこの、あれだけ苦しい思いをなさってですね、いろんな積み重ねがあって、そして今の結論のところに来たわけですから、これからはもう一つの船で行くんだと。それはもちろん１００％十分に満足するという方はすべてではないと思います。ただみんなを乗せた船なんですね。このみんなを乗せた船で、これでいこうということで総意を、議論を積み重ねての総意がここでできたわけですから、これから私たちがやらなければいけないことというの

は、まさにこのよほどの努力をこれからやっていかなきゃいかんということだと思っているんですよ。ですから、先ほど申し上げたように、とても簡単ではないと思います。それから、時間がかかると思います。でも、だからこそですね、早く、少しでも、一歩でも、半歩でも前に前に進んでいかないと、この菊池市自体が本当に僕は世間から取り残されるんじゃないかと、これは本気で心配しております。合併は実はこれで終わりではありません。これは、私が合併すると言っている意味じゃないですよ。世の中の流れが、さらにさらにやっぱり行政コストの低減を求めて、もっと大くくりの行政体にしようということの議論が具体的に進んでいる時代でございますから、それを踏まえて、その中で生き残るためにもですね、やっぱり私たち自身が早く、強くならなきゃいかん、基礎固めをしなきゃいかん。そういうことを思いますと、苦難な道は、それは私どもにとっては一つのレッスンとしてですね、そこから何を学び取るかという教訓としては大いに意義のあることですが、もう私どもとしてそれだけの苦しい道のりを経て出した結論であるならば、もう私たちの持っている時間とエネルギーは、これからやっぱり前に向けていかないと、これはみんなの乗った船が停滞したり、あるいはそこから小さなほころびが出たりして沈みかねないということを私は本気で心配しているんです。ですから、１０年経つと財政構造ががらっと変わってくるねというお話もされましたけれども、まさにそうなんですよ。だからこそ、もう私たちは待ったなしだと思っております。ですから、この菊池丸をですね、それに備えて、早く頑丈な造りにして、それで前に向かう推進力を創り出していかなきゃいかんと。それが私たち行政、それから議員の皆様の役割だろうというふうに考えております。

私のほうからは以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　江頭市長にはですね、もう少し何か違ったお答えを出していただけるのかなというふうに私は今回の一般質問を準備している中で思っておりましたけれども、やはり無理なのかなと。今のお答えの中の話を聞いていますと、合併当初がそういう話なんですよね。船に乗って、一緒に乗り合っていこうかと。その後、降りようとしているんです。降りるなと言っているんです。降りる権利もないんですかと。そして、広域でこれから枠組みはしていかれると言われるけど、だったら泗水町は泗水町、ちっちゃい自治体で自分たちで辛抱できることは辛抱して運営していきますよと。その代わり決定は自分たちでできるんです。だから、そういうことを泗水の住民のみんなも思ったんです。よそに託すんじゃない。自分たちの意志は自分たちで決定したいんだと。全然違います、市長が言われているのと、

私が言っているのは。もう答えは要りませんけど、このことはまた、追々言っていきます。

次に行きたいと思います。施政方針についてお伺いします。

まず、行財政の効率化とは、具体的にはどのようなことですか。

２点目、４つの地域間での総合信頼感の醸成に努めるとはどのようなことか。合併して８年、４つの地域が一体感を感じるようになるにはまだまだ時間が必要だと考えます。私は、今の話じゃないですけど、２０年、３０年のスパンで考えていくべきだと思っております。まずは、各地域での実情、それを各地域で実感するために、旧町村での体育祭等を続けていくべきだと私は思っております。少子高齢化を市民みんなが実感として感じることができるもの、それが町民体育祭、村民体育祭、市民体育祭、おのおのするとものすごく感じます。そして、それを通して自分たちの地域の、これは町、村、もうちょっと下の小さい部落単位みたいな話なんですけど、そこで課題をみんなで共有して、話し合って、自分たちの地域に子どもが少なくなったとか、そういうことをお互いに共有して、自分たちの地域が本当に衰退している、どうにかしなきゃいけないということに私はつながると思っております。だから、そういうことをやっていただきたい。

３点目、産廃問題について、一部変更協定に伴う解決条件に対する回答についてが丸秘であったとか、泗水のごみを持ち込むことは努力目標だとか、そもそも回答書自体、閲覧してみますと、不自然な感じがしております。それについての考え方をお尋ねします。

４番目、最後に市民の皆さんの協力を求める、これは何回も出てきますね、市長の施政方針に。これまでの市長はですね、前市長ですね、市民の意見を聞くと言いながら、行政側の意見、考え方を伝えて終わっていたように思います。そうしていくうちに、市民の皆さんの信頼を失う結果になったのです。しかしながら、新市長には多くの市民が期待しての投票行動につながったものだと思っております。具体的にどう市民の皆さんの意見を聞き、どう協力していただくのかをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、４つの質問をいただきましたので、順にご説明していきたいと思います。

まず、行財政の効率化という観点であったと思います。今、私どもを取り巻く環境というのは非常に厳しいものがございまして、繰り返しになりますが少子高齢化、それから人口減少時代が到来しているわけでございますけれども、何よりもや

はり一番インパクトが大きいのはですね、あと２年ほどしますと合併１０周年を迎えますので、その１０年経ったところから、いわゆる普通交付税の合併算定替えございまして、合併算定からですね、一本算定のほうに移行するということで、私どもの歳入水準が大きく減額いたします。一方で、増大する社会保障関係費の影響などございまして、それを考えますとこれから大変厳しい状況が続くというふうに予想しております。ですから、市民サービスのその質を落とすということは、極力あってはいけませんけれども、この行財政改革というのは、実は待ったなしだというふうに思っております。そのためには、様々な具体策を講じていく必要がございますけれども、やはり一番大きなポイントになってくるのはですね、私どもが合併の際に計画しておりました本庁支所方式の導入でございます。これが一番行財政改革においては大きなポイントを持ってくるものというふうに思います。これと併せまして、よく経費節減という折りにはですね、例えば鉛筆を最後まで使うとか、トイレットペーパーを短く使うとか、それはそれで貴重なことだと思いますが、やはり構造的な部分を変えていかないことにはなかなかおっつかないわけですね。ですから、今言ったその本庁支所方式による当初狙ったところの効果を早く具体化していかなきゃいかんということと、それから業務の見直しの中もですね、今言ったふうな鉛筆の長さとかそういうことではなくして、もう少し構造的な部分を変えていかにゃいかん。それは、例えば仕事のありよう自体を変える。窓口業務を見直すにしてもですね、今はＩＴの時代で、住民票等の証明書というのは自動交付機というのがかなり普及してきております。こういうものが１台入るだけで、実は人も少なくて済む、場所も少なくて済むんですね。あるいは、その進んだところでは、コンビニ等でそういったところのサービスを受け付けるというようなとこも出てきております。本年５月に可決成立しましたマイナンバー制度の関連法を注視しながらですね、こういうことはやりやすくなる時代を迎えておりますので、一つには抜本的な窓口業務の見直しを図るとかですね、そういったところを行財政の一つの柱としてやっていきたいと思っております。

また、それに伴って公共施設がまだまだあっちこっちに点在しているわけですけれども、これが必ずしも見える化といいましょうか、きちんとまだ管理できてないというふうに認識しております。ですから、ここを早く総点検してですね、公共施設の台帳をつくって、その処分も含めた大きな意味での総点検を行うといった資産運営の見直しも積極的にこれはやっていかにゃいかんというふうに考えております。

それから、第２点の４地域でのその、これは運動会の開催方法とか、そういう関連のご質問と捉えてよろしいですね。ご趣旨としては、その合併する前の、いわゆ

る基礎になるその旧市町村ですね、このそれぞれの地域単位での力が大事じゃないかということをおっしゃったんだと思うんですが、その地域コミュニティといいますのは、市民生活の一番の基礎に当たる部分ですから、これは非常に私は重要だと思います。ですから、これまで同様ですね、そういった地域での活動に対しては、引き続き様々な形での支援を行っていきたいと、これは継続していきたいというふうに考えております。

一方でですね、今度は菊池市全体の活力も上げていかなきゃいけませんので、やはりそのためには地域の活力を上げていくことがまず基礎としてありますけれども、その次にやはり地域間の交流を図ってですね、地域全体のエネルギーを増やしていかにゃいかんと思っております。特に本市のような合併した市というのは、まさにそうした生き残りのために、これからのために合併の道を選んだわけですから、この地域間の一体感というのを早く創り出していく必要があると思っています。そのためにはですね、やはり垣根をいかにして低くして率直な意見交換をするか、そういう円滑なコミュニケーションができる環境を早く創り出すということがまず基礎になると思います。そういう意味ではですね、私は実はスポーツというものは、いわば心の垣根を低くするということで、そして一体感を創り出すという上においては、非常に有効ではないかというふうに考えているんですね。そもそもオリンピックとかそういうもの自体がですね、そういう趣旨で、スポーツを通じて国同士の交友関係をつくっていこうということで始まっているわけですから、そういうことは言うまでもないと思います。ですから、その地域ごとの活動は尊重しながらもですね、極力私たちも常に地域同士の交流ですとか、そういったことを意識してこれから創り上げていかんというふうに思っておりますので、これまでの地域の活動に加えてですね、地域をまたがった横断的な取り組み、それが今回ご提案しているミニバレー大会とか、グラウンドゴルフ大会といったようなことなんですが、例えばなるべくそういったものも混成グループにするとかですね、いったような工夫で一体感を創り出していきたいというふうに考えております。

３点目は、産廃問題であったかと思います。産廃問題につきましては、産廃及びごみ処理問題ですね、という理解でよろしいかと思いますが、このごみ処理問題というのは、私、その本年の最重要課題の一つであるというふうに認識しております。特に九州産廃の問題、それから菊池環境保全組合への加入の問題、この２つが、ある意味では関連性も持っておりますしですね、時限もあるテーマでございますので、急がなければいかんというふうに思っております。この間、市の担当課よりいろいろな経緯説明等を受けまして、自分ながらに今、頭の整理を進めているところでございます。先ほど出てきました１３項目の回答書の件等々につきましては

も、これまでの書面を私なりに一回目を通させていただきました。はっきり申し上げて、その泗水の皆さんのみならず多くの市民の方々、加えてその菊池環境保全組合の方々にですね、おそらく大変不安をお掛けして、ご心配をお掛けして、あるいはまた信頼をなくすようなことにつながったかもしれないなということを私は今認識しております。ですからこそ、今、そのことを真摯に受け止めて、ちょうど私に変わったタイミングでもございますのでですね、本市に対するこの不信感というのございます。この不信感を一つ一つ、本当に丁寧に払拭して、いち早く市全域が広域処理に加入できるように私としては誠心誠意、全力を挙げてやっていく覚悟でございます。

それから、最後に市民の声を聞くということについてのご質問がございましたけれども、そもそも私は何かを伝えるためにですね、この市長と語る会をつくろうと提唱したわけではございません。むしろ、もう心を開いてですね、耳を傾けて、市民の皆さんがどういったことをお考えになっているのか、あるいはどういった不満があるのかですね、これをもう本当に率直に虚心坦懐にお聞きしたいというのが私の願いなんですよ。そこでいろんな希望とか要望というのもあるいは出てくるだろうなというふうには当然思っております。ですから、それを全体として統合していかなければなりませんので、そこで上がってくることをすべて実現に向けられるかというと、そこはよく整理をしながら全体の優先順位を付けながら考えていかなきゃいけないと思いますけれども、まずはやはり、私はこの、先ほどから言うこの苦難の道、これを歩いていくためには、まず私が一番大きな汗をかいていかなきゃ、これは物事は始まらんと思っておりますので、そういう形で進めていきたいと思っております。既にもう調整中ではありますけれども、７月から議会が終わり次第始めたいということで、今いろいろな会合等のアレンジを始めさせていただいたところでございます。また、併せて特に若い世代についてはですね、こういった仕組みに加えて、インターネットを使ったようなＳＮＳとよく呼ばれていますけれども、新しい形でのそのコミュニケーションの道具立てというのが最近ございますので、そういったものも積極的に対応しながやっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　私の一般質問はこれで終わります。

○議長（山瀬義也君）　以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。明日も引き続き一般質問となっております。

本日はこれにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後４時４３分

第　３　号

６ 月 １２ 日

平成２５年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第３号

平成２５年６月１２日（水曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒　木　崇　之　君
２番	柁　原　賢　一　君
３番	工　藤　圭一郎　君
４番	城　　典　臣　君
５番	大　賀　慶　一　君
６番	岡　﨑　俊　裕　君
７番	水　上　彰　澄　君
８番	東　　英　俊　君
９番	東　　裕　人　君
１０番	泉　田　栄一朗　君
１１番	森　　清　孝　君
１２番	中　原　　繁　君
１３番	樋　口　正　博　君
１４番	中　山　繁　雄　君
１５番	怒留湯　健　蓉　さん
１６番	坂　本　昭　信　君
１７番	隈　部　忠　宗　君
１８番	葛　原　勇次郎　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	坂　井　正　次　君
２１番	森　　隆　博　君
２２番	山　瀬　義　也　君

２３番　　境　　和　則　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江頭　実　君
副市長	永田明紘　君
総務企画部長	野口祐成　君
市民環境部長	下田俊一　君
健康福祉部長	宮本誠一　君
経済部長	平野國臣　君
建設部長	松野浩一　君
総務企画部統括審議員	西浦一義　君
七城総合支所長	岩下利昭　君
旭志総合支所長	水上菊也　君
泗水総合支所長	松岡千利　君
財政課長	小川秀臣　君
総務課長兼 選挙管理委員会事務局長	伊藤道俊　君
市長公室長	倉原良則　君
教育長	倉原久義　君
教育部長	中村鉄男　君
農業委員会事務局長	松永隆則　君
水道局長	原　和徳　君
監査事務局長	宮村公男　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

事務局職員出席者

事務局長	城　主一　君
議事課長	宮川啓子　さん
総務審議員	徳永裕治　君

○議長（山瀬義也君）　全員、起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（山瀬義也君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（山瀬義也君）　日程第１、昨日に引き続き一般質問を行います。

はじめに、泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　皆様、おはようございます。泉田栄一朗でございます。

まずはじめに、江頭市長にお祝いの言葉を言わせていただきます。江頭市長、誠におめでとうございます。私も一期の初心に戻り、新たな決意で新しい菊池市をつくるために意見、質問をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。生活保護受給者の自立支援についてでございます。厚生労働省の最近の調査によりますと、生活保護受給者は昨年１１月時点で２１４万７，３０３人にのぼり、過去最高ということでございます。世帯数も１５６万７，７９７世帯、過去最高でございます。受給者の増加で、２０１２年度生活保護費は３兆７，０００億円にのぼる見通しだそうです。この数字は今から１３年前の平成１２年に比べますと５倍増ということになっております。増加の要因としまして、一つは日本人の平均寿命が延び、高齢者世帯が増えているということが挙げられる模様です。また二番目に、高齢者世帯が占める割合が最も多いのですが、一方、働ける世代の増加が急増しているということです。その背景としまして景気の影響で雇用が減少する中、失業者や非正規雇用の労働者が増加し、そのまま生活保護になるケースが多いということで、そういうことが指摘されております。本市においても例外ではないと思います。

はじめに、過去１０年間の本市における生活保護受給者、特に２０歳代以上の推移がどれぐらいあるのか、お知らせ願いたいと思います。まず１回目の質問とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　おはようございます。お答えします。過去１０年間の推移についてのご質問でございますが、合併以前の旧七城町、旭志村、泗水町につきましては、県菊池福祉事務所管轄になります。また、年齢別の統計もとっておりませんので、合併後の生活保護世帯数の推移と、その中で就労可能と思われる母子世帯とその他の世帯数について説明いたします。

本市の生活保護受給者は、平成１８年３月では、２０６世帯２６５名、その中で母子・その他の世帯、すなわち就労可能と思われる世帯の合計は１２世帯で、全体に占める割合５．８％となっております。平成２１年３月では、全体で２２８世帯２８３名、その中で就労可能と思われる世帯は２５世帯で１１％。平成２５年３月では、全体で３２２世帯４７７名、その中で就労可能と思われる世帯の合計は７８世帯で、２４．２％と就労可能と思われる世帯の割合は増加傾向にあります。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　今、お答えの中で合併後、平成１８年度から平成２５年度までということで、お知らせがありました。今、伸び率を見てみますと、世帯数で１１６世帯多くなっております。また人数にしますと２１２名伸びているということで、菊池市も例外ではないと思っております。２０代、５０代の働ける世代が増加していることが問題であると思っております。特に若い世代が生活保護のままでは結婚や子育てなどの将来に対する展望を開くのは難しいのと、社会においても今後の少子化対策や、社会保障制度まで考えるとかなりのマイナスになります。その点からみても、働ける世代の就労支援は緊急課題と言えるのではないかと思います。

本市として就労支援について、どのような考えがあるか質問します。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えいたします。現在、就労支援策としまして、熊本県自立支援プログラム策定実施推進事業で、就労意欲喚起等支援事業、精神障がい者の社会的な居場所づくり等支援事業に取り組み、支援員によるハローワーク等の関係機関との連携による支援を行っています。

また、福祉課内に嘱託職員として、住宅確保・就労支援員１名を配置し、生活保護受給者に対し、仕事先の斡旋などの就労支援を行っております。その他、就労の能力及び意欲はあるが、失業により住宅を喪失する恐れがある生活困窮者に家賃の援助を行いながら就労支援を行い、自立へ導くなどの事業を展開しております。

本年１０月からは、国の生活困窮者自立促進モデル事業として、生活保護に至る

前の段階から早期に就労支援を行い、生活保護に陥ることを防ぐとともに、生活保護受給者に対しても就労支援を行い、自立に導くための事業に取り組む予定です。実施にあたっては、近隣の自治体と共同して実施するほうが、効率的、効果的な事業運営が見込まれることから、合志市、菊陽町、大津町との菊池圏域合同により実施を予定しております。

なお、この事業は平成２７年度から全国のすべての福祉事務所の必須事業となっており、今後とも菊池圏域合同で取り組む予定にしております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　今、お答えの中で、菊池圏域で取り組むと、自治体でやるということで、これも一つ大きな動きかなと思っております。

国の動きも一つ紹介しておきますと、政府は、生活保護法を改正しました。それは、現行制度では働いている収入を得た場合、保護費からその分が減額されていましたが、就労による自立を促すために就労収入の一部をポイント制度のように積み立て、保護廃止時に支給する就労自立給付金を創設するというものです。これが国の今後の施策になるそうでございます。また、他市を紹介しますと、埼玉県では、２０１０年にスタートした企業やＮＰＯと積極的に連携し、家庭訪問などを行う中で、就労・住宅・教育をトータルで支援しております。埼玉県の調査によりますと、生活保護受給者の中で仕事をしても健康上何の問題もない５０歳未満の人が２，８００人いることがわかり、その人たちを対象に民間企業などで働いた経験を持つ支援者が、職業訓練から再就職までを一貫して支援されているそうです。受講者は民間企業などで働き、仕事の内容を実際に現場で学び、こうした支援の結果、２０１１年度は６１８人が就職し、９６人が生活保護から自立したという素晴らしい実績を残しております。

またもう一つ、北海道の釧路市では、本格的な就労に向けた中間的就労として、ボランティア活動に取り組んでもらい、居場所をつくることを考えておられます。支えられる側から支える側に回ったことから自尊心が高まる、との効果があるということです。具体的には、自立生活支援員が動物園や公園掃除、介護職員の業務補助など１８種類のプログラムの中から受給者の希望を聞いた上で、受給者にあったプログラムを実施するという内容です。その結果、生活保護費を一部受給しながらパートなどで就労する人の割合が徐々に増えてきて、生活保護費の削減につながったという例もございます。

そういうことから、今後、わが菊池市もそういうところを見習いながら、本市に

おきまして今後どのようなビジョンで就労支援、自立支援をしていくか、もう一歩考えさせていただければと思いますので、そのお答えがあればお願いしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えいたします。先ほど述べましたように、今後とも住宅確保、就労支援員を活用し、就労支援事業を継続してまいります。また、本年１０月より生活困窮者自立促進モデル事業を開始し、生活保護に至る前の段階から早期に就労支援を行い、生活保護に陥ることを防ぐとともに、生活保護受給者に対しても就労支援を行い、自立に導くための事業に取り組む予定です。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　是非、今まで言った例を参考にしていただきながら、菊池市の独自のものを考えていただければと思っております。

それでは次に、小学校の農業教育について質問をさせていただきます。４年前に一般質問で、小学校の農業教育について質問をさせていただきました。そのとき福島県喜多方市の農業教育特区のことを紹介をさせていただきました。前から一度現地に行ってその取り組みを見てみたいと、そういう思いでおりましたら、今年念願叶いまして、４月に研修に行く機会がありました。喜多方市の人口は、菊池市とほぼ変わらず５万２，０００人程度で、基幹産業が農業であります。ＮＨＫで現在大河ドラマ「八重の桜」の八重が会津出身ということから、全国的に注目を集めているところでございます。喜多方市の小学校で、平成１９年に全国初の農業科の授業が実施され、当初は３校のみで２０３人が試験的に参加したところです。それから、平成２１年度には総合的学習の時間で取り組みが開始され、平成２３年度以降は市内すべての小学校で農業科の学習を行い、教科書もできておりました。昨年、開始から６年目を迎え、市内の全小学校１７校、１，９０９人の児童が全員参加しておられました。今年３月には日本農業賞特別部門で、「第９回食の架け橋賞」において大賞も受賞されておりました。

そこで再度、本市において農業教育の取り組み、総合学習の活用について現状を質問させてください。

お願いします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　お答えいたします。市内小学校の農業体験の取り組み状況につきましては、生活科や総合的な学習の時間において、それぞれの学校で多少取り組みの違いはございますが、すべての小学校で取り組んでおります。全般的には低学年の生活科では、からいもをはじめとするイモ類やたまねぎ、トマト、なすなどの野菜を中心にした栽培を行っており、中学年以上では、学校田を利用した米づくりを行っている学校が多く、苗づくりから梅雨の時期の田植え、夏の草取り、秋の稲刈り、さらには収穫した米を使った料理等の農業体験学習を行っております。

特色のある学校といたしましては、菊池北小学校においては、古代米の赤米の無農薬栽培を行っております。

また、新聞等にも紹介されましたが、泗水西小学校では、学校敷地内に市民から寄贈されました梅の苗木約７０本を植栽し、児童が収穫した上で、梅干に加工して給食に活用されております。

そのほかにも、花房小学校では収穫した米を支援米としてカンボジアに発送し、七城小学校では平成４年、５年に文科省の勤労生産学習の研究指定を受けて以来、学年ごとに役割を分担した継続性のある米作りの農業体験学習として取り組んでおります。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　今、取り組みを聞かせていただきました。それぞれの小学校で、それぞれの特性を持った取り組みをされているということで、非常に感心しております。喜多方市の小学校をみますと、教科書ができていると。そこまでありますので、それも参考にしていただければと思います。

今、日本では非常にすべてが便利になりすぎて、何か失ったものが大きいものもあります。特にいじめ、特に殺人、自殺、犯罪、いろんな事故が毎日新聞に載らないことはありません。心が育っていないと思うのであります。心が満たされていない、そういう思いであります。

そこで、心の教育が特に大事だと思います。言葉では「心の教育」と言いますけれども、どうしたらその心の教育をしたらいいのか、みんな悩んでいると思います。

ある農業高校での農業の授業をテレビを見ましたとき、ニワトリのひなを飼育し、それから親鳥まで成長させ、その親鳥をつぶすというとあれですけども、親鳥をつぶして食べるまでの教育、命をいただくという教育を、そして感謝をしながら学ぶ教育をしておりました。非常に素晴らしいことだと思います。私の小さいときは、うちのじいさんがいつもそういうことをやっていましたんで、何の抵抗もありませ

んでしたけども、今は本当にそういうことがなくなってきております。

農業教育は、将来の就農者を育てるということもありますけれども、それよりも、農業を通して子どもたちの心の教育をするということが特に重要だと思います。その意味から、農業こそ総合学習であると考えております。もちろん英語やパソコン、これも否定しませんが、今、小学校に大事なものは、そういう農業を通した心の教育ではないかと思います。そういう意味で、さまざまな特色のある小学校での活動を聞かせていただきましたけれども、さらにこの菊池市で、農業というものをもう少し体系づけて、教科書的なものを作って各小学校に配っていただければ、さらに、その独自の考え方でやれると思いますので、本市の今後の考え方をもう一度聞かせていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　再質問にお答えいたします。農業を通じ、食育や体験について学習することは、議員がおっしゃるとおり、作物が成長するまでの過程の中で、農作物が生き物であることを知り、命の大切さや、ともに生きることの大切さを学び、「豊かな心」「社会性」「主体性」といった子どもたちの豊かな心を育てる力につながるものと認識をいたしております。

本市におきましては、九州でも有数の農業地帯であることから、郷土愛を育むという観点からも、先に答弁したような農業体験を取り入れているところでございます。

しかしながら、議員がおっしゃられる農業科を必修科目とした場合、その時間をどこで生み出すかということが問題でございます。新学習指導要領の改訂により、これまでの国語や算数などの教科の時数が大幅に増加され、５、６年生では英語活動も導入されるなど、総合的な学習の時間は１１０時間から７０時間に縮小されております。総合的な学習は、それぞれの小学校でその地域にそった学習を行っており、紹介しました野菜づくりや米づくりの体験活動もその中の一つでございます。そのほか、人権教育や地域学習、学校間交流、環境学習、伝統芸能などを取り入れた特色のある学習を限られた時間の中で行っております。

このように、さまざまなことを学ぶことは多くの経験をすることで、特に中学校においては、進学する際の高校選択肢の一つの判断材料にもなるのではないかと思っております。

農業を必修科目とする場合、喜多方市と同様に総合的な学習の時間を活用するしか方法はなく、これまでの特色ある取り組みを止めざるを得ません。議員がおっしゃる農業教育の特区については、授業時数の確保が難しいことから、実施について

は非常に困難であると考えます。

しかしながら、子ども達が成長する中では、議員さんの思いや考えを反映することも大変重要なことであると思いますので、先に述べました現在の農業体験の取り組みに活かすことで進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　今、本市では特区までは難しいけれども、農業の取り組みは頑張っていきたいというお答えだったと思います。

最後に、市長の海外経験をとおして、海外での小中学校の農業教育の取り組みなどご存知でしたら、それを紹介していただきながら、これから子どもたちが、真の国際人としていく、そういうところの市長の見解も、もし考えがおありでしたら、それも聞かせていただければと思います。その２点をよろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　みなさん、おはようございます。今の泉田議員のご質問にお答えいたします。一つにはまず、海外での見聞に関してもしあればということでございましたけども。私の限られた経験の中からということになりますので、これが一般的なことかどうかについては、ちょっと私も自信はございませんけども、私の体験の中で申し上げますと、農業体験であるとか、あるいは食育というものは、私の海外体験の中では、実は見かけたことはなかったんですよ。子どもたちはドイツの幼稚園、それからアメリカ、イギリスの学校に通ったわけなんですが、私の記憶する限り、それから昨日妻にも確認しましたけども、そういったものは記憶にございません。

そこも私自身なりにですね、考えてみますと、そもそも食育以前に、食に対する捉え方が大分違うなという思いがございまして、そもそも共働きというのが、もうかなり前から欧米では一般的でして、そうしますと家庭の食生活というのは、合理性一辺倒なんですよ。よくテレビ等で大型のショッピングカートにどっさり買い込むのをよくご覧になると思うんですが、あれはもう１週間、２週間分を買い込んで詰め込んでいるんですね。ですから、家庭料理の大半というのは実はもう冷凍食品なんですよ。

とりわけドイツでは、これは伝統的なんですけども、夕食には火を使わないんですよ。ですから、パンとサラダぐらいということで、なかなか食を通じて多様性を

楽しんだりとかいうことは、実はそんなにないんですね。あれは、フランス等のレストランの話なんですね。特に一定年齢以下の家庭では、食事というのはむしろファストフードなんかをあてがっているようなところも多いようですね。

ですから、そういう反省が最近ファストフードの反転の「スローフード」という言葉が生まれているようなんですけども、実は、日本はある意味では昔からスローフードの世界だったのかなと思っていまして、日本のように毎日奥さんが夕食の献立を買いに行くなんて社会はほとんどありませんね。

一方、学校生活でいってみれば、アメリカ、ドイツではそもそも給食というのがありませんで、アメリカの場合は弁当持ち込みですね。ドイツの場合は食事をせずに１時ぐらいで切り上げて、もう家に帰ります。子どもたちは、お昼飯はハンバーガーとか、そういうものを、いわゆるジャンクフードを、大体親はあてがっているというのが多いですね。

そういう状況なもんですから、学校で例えば学校菜園をやるなんてことは、まず考えられませんで、そもそも特に都市部の学校は、ほとんどグラウンドというのはありません。それが日本の学校とは大きな違いですね。

そういったところが、海外での私のこのテーマに関する見聞です。

一方で、農業教育、食育というものも、恐らくこの中にも入れていいのかと思いますが、教育部長の今の答弁にありましたように、ただいま現在においては、その授業数確保の意味でなかなか困難だということでございまして、現状においては、今すぐはいたしかたないかなというふうには思っておりますけども、実は、私自身の思いは、泉田議員のお考えに非常に近いというふうに思っております。心の教育というのは非常に大事だというふうに思っていまして、とりわけ農業を通じて、いわゆる作物を通じて、命の教育ということを知ることができるんではないかというふうに、私も実は期待しております。

特に農業を自分でやりますと、大事なのは、食べ物と土地と、大地ですね。それから命の関係、このつながりがわかってくるということが一番大きなことだと思いましてね。一つは自分の自然とのつながりとか、自分が自然の一部であるとかいうことが、ある意味本当に実感できるんではないかなというふうに思います。そこから自然の恵みへの感謝の念というのは本当に生まれてくるだろうなと。そうしますと、それがやがては菊池の大自然への感謝の念ということにつながるわけですから、いわゆる郷土愛というものは、そうやってＤＮＡとして刻み込まれていくんじゃないかと思っていますので。私自身は、今現在では授業数確保が困難な状況ですけども、将来のテーマとして何とかこういう体験学習の中に反映できないかということは、これから検討していきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　はい。ありがとうございました。非常に最後は共感していただきましてありがとうございます。真の国際人については、またのちほどご質問させていただきます。

それでは次に、各種事業の進捗状況についてということで、２点質問をさせていただきます。

はじめに、マイバッグ運動でございます。私は、過去に数回マイバッグ運動について質問をさせていただきました。地球の温暖化はもう深刻な問題になっております。今、熊本県民の一人当たりの１年間に使用するレジ袋の枚数は、約２３０枚といわれております。レジ袋１枚の生産に必要な石油は、おちょこ１杯、１８．３ml。これは日本全体から見ると年間約１５０億万枚、石油の量は２７万 kl、ドラム缶にすると１３５万本になるということでございます。そして、ほとんどレジ袋は、家庭ごみとして捨てられていると。それがまたＣＯ2つながり、悪循環を繰り返していると、皆さんもご存じのとおりでございます。マイバッグ運動を定着するために、レジ袋無料配布を中止するのは急務であると思います。

全国的には東京の杉並区で、平成２０年に全国初の有料化条例を施行されております。熊本県内を見ても、平成２１年から水俣市が有料化を始めた皮切りに、今や県内４１市町村で取り組みをされております。そのうち実施中が２１市町村です。実施に向けて検討中が２０市町村になっているということです。本市は検討中という中に入っております。以前に比べ、一部店舗で始めているところが増えているということで聞いております。そこで、これまでマイバッグ運動の取り組みと現状をお尋ねします。そしてまた具体的には、どれくらいの市民の方がマイバッグを持って買い物に来ているかという持参率がわかればそれを教えていただき、また１枚当たり単価がいくらぐらいで菊池市でおいてあるのか、教えていただきたいと思います。

それが一つ目の質問ですけども、もう一つ、次に二つ目の質問をさせていただきます。台湾宜蘭市との交流について、平成２４年３月議会で質問をした内容でございます。台湾宜蘭市との交流をしてはどうかという質問でございました。宜蘭市との淵源は西郷隆盛の先祖が七城町西郷の地の出身で、菊池一族だったというのを縁を手繰って寄せたものでございます。市長も代わられましたので、少し歴史の勉強と思いまして、少ししゃべらせていただきたいと思います。

西郷隆盛が奄美大島、龍郷町に島流しにあい、当時菊池源吾と名乗っておりまし

た。そのとき、愛加那との間に二人の子どもをもうけ、長女を菊子、長男を菊次郎と名づけました。子どもたちに「菊」の字をつけ、自らも菊池源吾と名乗り、西郷隆盛は菊池一族を誇りにしていたのではないかと思われます。その西郷菊次郎が、１７歳の時、西南戦争に参戦し、今の植木玉名のあたりだと思います。右足を失うという波乱の人生を歩みますが、３４歳の時、台湾総督府参事官、これを命じられ台湾に行きました。その後、台湾宜蘭長、今の台湾の県知事として河川工事、農地拡大、道路整備、産業の発展、農産物の収穫等、教育の普及に至るまで仕事をしまして、地元の村民から深く愛され、尊敬され記念碑まで建てられておりました。

一番の偉業は、西郷堤防という宜蘭川堤防を完成させたことでございます。父親である西郷隆盛の全人生の要約が一言で言うならば、「敬天愛人」という言葉であります。その意味は、「誠意を持って人を愛する道に前進すれば、必ず天の助けあり、道は開ける」という最後の思いであります。その精神を受け継いで、菊次郎は台湾での政治を行ったと思われます。

これは、菊池一族と西郷菊次郎の由縁は前回の質問でも述べたと思いますけれども、その後、昨年、菊池温泉旅館組合と菊池観光協会の代表と議員数名で、前福村市長の親書を持って、宜蘭県と宜蘭市に行ってまいりました。宜蘭県宜蘭市では、西郷隆盛よりも西郷菊次郎の偉業のほうが有名で尊敬されておりました。菊次郎が県知事時代、公務で使っていた建物が、今は記念館になっております。そこにも行ってまいりました。私たちが訪問した折、西郷菊次郎の先祖が、菊池一族の流れであることを伝えましたら、非常に驚きと興味を持たれました。帰国後、宜蘭市長から親書と訪問のお礼と、今後の交流を望んでいるとの内容の手紙が届いております。民間レベルから始めていけば、必ずや交流はでき、いろいろな面で菊池市にとって活性化につながると確信しております。

本市として、今後、宜蘭市との交流をどのよう考えているか質問をします。

この２点をお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境課長（下田俊一君）　おはようございます。それでは、私のほうからマイバッグの進捗状況について、ご答弁させていただきます。マイバッグ持参運動につきましては、平成１０年６月から合併前の旧菊池市が実施していたものでございます。これを合併後、市全域に広めて継続して行っているところでございます。

その活動内容として、主なものは毎月１回、各種女性団体と生活環境推進委員で組織するマイバッグ運動推進市民会議の皆様と一緒になりまして、市内５カ所の店舗の店頭におきまして、夕方１時間程度買い物客へのマイバッグ持参のキャンペー

ン活動を行っております。

お尋ねのマイバッグの持参率につきましては、本市での調査実績がございませんので、マイバッグ運動を推進され、レジ袋削減にも取り組んでいただいておられます店舗がございますので、その店舗が調査した数字を、ご報告させていただきます。

平成２３年から調査が行われておりまして、平成２３年は平均４４．３％、平成２４年は平均５２．６％、本年４月では６５．５％となっており、毎年確実にマイバッグの持参率が伸びているのが伺えます。

このマイバッグの持参率が伸びた背景は、平成１９年６月からこの店舗におきまして、マイバッグを持参される方には、支払いの際に２円の割引を始められました。さらに、平成２４年７月からは２円の割引を廃止され、逆にレジ袋を有料化されたことにより持参率が一層上がったものだと考えられます。

現在、このレジ袋の有料化については、市内の３カ所の店舗で取り組んでおられます。安いところで１円、高いところで３円となっており、レジ袋の削減に大いに貢献されているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　おはようございます。台湾宜蘭市との交流についてのご質問にお答えいたします。台湾宜蘭市との交流につきましては、平成２３年の９月議会定例会におきまして、議員のほうから先ほどるるご説明がございましたが、西郷隆盛の子、菊次郎を縁とした姉妹あるいは友好都市締結に向けた交流をする考えはないかとのご提案を受け、平成２４年度で調査検討を行う予定でございました。

しかしながら、昨年夏から大きな国際問題となっております尖閣諸島の領土権問題におきまして、台湾における尖閣諸島の領有権を主張する漁船団の母港が宜蘭市であったことから、交流についての訪問調査の時期として適当でないとの判断から、昨年度は宜蘭市への調査訪問の実施を見送ったところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　まず、レジ袋についての再質問でございますが、菊池市でも現在３店舗ほど取り組まれているということがわかりまして、安いところで１円、高いところで３円ということで、持参率が上がっているということから、確実に効果が出ているということだと思います。

例えば、大分県では平成２１年に県内のスーパー２１社とレジ袋無料配布を中止

する協定を結んでおられます。昨年２４年度までに持参率を８０％まで目指していると。現在わかりませんけども、一律１枚５円ということになっております。その収益金ですけれども、県では、市町村または学校、例えば「桜ともみじの会」に寄附され、環境保全活動に活用されているという例もあります。マイバッグ運動の取り組みには、現実問題いろいろな課題があると思います。例えば、有料化にすると客が減るのではないかと。また他店との足並みが揃わず、踏み出せない。またマイバッグを持つ習慣が身についていないということが多々あると思います。本市においても、マイバッグ運動を進める上での難しい点が一体何かと。また持参率を上げるために、どのような取り組みを今後考えられているか、まずその点をお聞かせください。

２点目に、宜蘭市のことでございますけれども、昨年１０月、菊池市と奄美大島龍郷町との友好都市締結の調印式がありました。私も参加させていただきましたが、今後、観光や産業、文化などで交流し、お互いの市の活性化に期待されていました。さらに先月は、熊本市で議員連盟が台湾高雄市と交流を目指していくという話が上がっております。除々に環境は整っていると私は思っております。そこで、私が考えるのは、この菊池一族、そして西郷隆盛、西郷菊次郎の縁を結び、菊池市と龍郷町、龍郷町と宜蘭市、このトライアングル的な交流まで将来発展させたいという夢がございます。今、市長がこのことをどう思われているか質問をさせていただきたいと思います。

以上２点、お願いしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境課長（下田俊一君）　議員の２回目のご質問にお答えいたします。本市においても、持参率の難しいことは、先ほど議員が述べられたものと一緒でございます。それとあとは、今後でございますけども、先ほど答弁しましたとおり、マイバッグの持参率を伸ばすためには、レジ袋の有料化が最も効果的だと考えております。

そこで本年３月に、市民代表、店舗代表、市が協働で、レジ袋の削減に向けて具体的な取り組みを検討、推進する「レジ袋削減推進協議会」を設立しております。既に第１回の会議を開催したところでございます。この「レジ袋削減推進協議会」を今後は通じまして、さらにレジ袋の有料化へご協力いただける店舗を増やしたいと考えておりますが、先ほども言いますように、店舗側のご協力とか、市民の皆様へのご理解が得られるかが非常に前提条件になっていますので難しいところでございます。

今後、市民の皆様と店舗側の意見を推進協議会で取りまとめながら、より一層の

レジ袋の削減に向けて推進してまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、私のほうから台湾宜蘭市との交流についての考えということで述べさせていただきます。

台湾宜蘭市の交流の件なんですけども、先ほど総務企画部長のほうからですね、尖閣諸島問題等々がありまして、その漁船団の発着基地であるというふうな事情があったと。これはタイミング、時期的な問題でございますが、それ以外にもですね、先ほどご説明ありましたように、この宜蘭市というのは西郷隆盛の子である西郷菊次郎との縁ということで、これは、なるほどうなずけるところではございますけども。この西郷隆盛つながりということでは、最近に鹿児島県の龍郷町と友好都市を締結したばかりであるということでですね、まず龍郷町との交流も実現させていかないと、これは大変失礼なことにもなりますんでですね。まずそういったところの順番といいましょうかね、ということもあると。それから、こういう形で、増えていくこと自体は友好が増えるということで嬉しいことではあるんですが、反面、ある程度の原理原則みたいなものを持っておかないとですね、無尽蔵にも増えていくことにもなりかねないということで。今ですね、国際交流事業につきまして、今ある現状について１回検証してみようと。内容ですとか、それから手法、それから交流によるところの経済的な効果のみならずですね、人材育成にどういうふうにつながっているかとかですね。そういったものを１回点検させていただければなというふうに思っております。何分、今、私どもの友好都市、姉妹都市というのが、国内も加えますともう既に６カ所ということで、実は、これはもう熊本市と同じぐらいの数なんですね。ですから、これに１つ増えますと、熊本県で一番これが多いというふうなことにもなるわけで、そこら辺も一つ横目で見ながら、バランスのとれた、かつ原理原則に則ったやり方を、少し１回見直してみたいというふうに考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　ただいまご答弁ありましたように、まずは私もすぐ交流云々ではありません。まず民間レベルから、しっかりと積み上げながら、経済効果、いろんな面で皆さんが認めていただきながら、その交流がさらに深まっていけばという思いですので、市長の考えと私も同感でございます。

それで、再々質問ですけれども、レジ袋の件ですけれども、有料化はあくまでもマイバッグ運動を定着するための途中の段階であると考えております。前にも言いましたけれども、温故知新ではないですけれども、レジ袋がない時代は、買い物かごを持って行くなど、当たり前の時代がありました。なくても不便を感じなかった時代でございます。今はあるから、なくなると不便を感じるのであります。意識を変えて、みんなで取り組めばできると思います。レジ袋を断ることは、消費者が自らの意思で取り組み、地球に優しいライフスタイルなのだと思っております。

もう一つ言わせていただければ、レジ袋削減に関連して、過剰包装に問題意識を持っております。例えばボールペン。このボールペンを１本買いに行くのにも、手元に来るまでに二重にも三重にも包装されて、最後にはレジ袋で持って帰ります。異常な世の中だと思っております。例えばまんじゅうを買うとします。まんじゅう一つ一つの中にまず包装があって、そしてその箱の中敷にプラスチックが入って、そしてその上に箱があり、そしてまた包装があり、袋があると。ここまでまんじゅうを食うのに大変なごみを捨てるということです。

最後に市長にお尋ねしますけれども、海外でのレジ袋の様子、また包装の様子など、・・にお話をしていただければと。もう一つ質問がありますもんでから。すみません。大事なことであれば長く結構でございます。

よろしくお願いします。

すみません、今、訂正します。ちょっと言葉が足らずにすみません。要点をお願いしたいと思います。・・を訂正させていただきます。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　では簡単に、ちょっと申し述べさせていただきます。私もそういう問題意識を持って、実は見ていたわけじゃないもんですから、よくわからないんですが、欧米ではもう私は８０年の時から海外に行っていますけど、もうその時点で既にマイバッグは当たり前の世の中になっておりましてですね。包装についても基本的には包装しません。包装を頼むと有料になる場合もございます。それは市民のほうにも定着しておりますんで、特段の違和感もなく済んでおりますし、逆にいうとちょっとあまりに素っ気なく感じるところすらあるぐらいの感じですね。

私の経験では、アメリカが非常に過剰包装で、バッグは紙袋をさらにプラスチックの袋に入れてくれる、スーパーでですね。というぐらい過剰なものはありましたんで、アメリカはどうもかなり時間がかかるというふうには言われているようですね。欧州は基本的にこの種の環境問題のやっぱり先進国なだけに、どこの国に行ってもこういったことが浸透していたようですね。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　できれば菊池市もそういう取り組みを、過剰包装しないような取り組みも考えていただければと思っております。

次にいきます。施政方針について、質問させていただきます。市長の施政方針で、所信表明を聞かせていただきまして、今まで私が議会で質問してきた内容と非常に近く親近感を感じております。特に、選挙公約の「癒しの里づくり」による観光戦略です。私は、平成２３年１２月の議会で「風情ある町並みで観光戦略を」と題しまして、「築地井手のオープン化」と「もみじの里構想」について質問をさせていただきました。築地井手を利用し、護岸整備し、もみじの苗木を隈府中央地区全体に植えたら風情がある町並みができるんじゃないかと。「もみじの里」として観光戦略できると考えました。ですが、あえなくスペースがないということで却下されました。今回、江頭市長がもみじではなく、桜で「日本一のさくらの里プロジェクト」を公約に挙げられましたので、胸が躍っているところでございます。市長がいわれている自然力を生かした癒しの里のイメージを構築し、心に訴えるいろいろな仕掛け、仕組みというものが、私が思うところの築地井手ともみじの里であります。県立大学の前理事長であります蓑茂先生が以前菊池にこられて講演をされたときに、心に残る言葉があります。「美活同源」という言葉でございます。普段は医食同源、そういうようなことを言いますけれども、先生は「美活同源」と言われまして、活力のある地域の風景の景色、美しい所に人が集まる。人が集まれば、また活気が生まれる。その総合作用でその町が潤っていくと。もちろん農村の田園風景も里山の風景も町並みも同じでございます。そういう意味で、癒しの里づくりをするために、具体的にどのような考えがあるか。そして、すみません、一つ例を挙げますと、菊陽町では生け垣条例、景観条例というものを作っておりまして、生け垣に樹木を植えると助成金を出されるというのも聞いております。また、菊池市ではオープンガーデンということで、個人の方、また企業の方が各々一般の人たちに庭を公開しているというようなこともあります。そういう人たちを、バックアップしながら、菊池市に潤いのある癒しの里構想ができないかという思いもあります。

それで、市長にその点をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　「癒しの里づくりの構想」ということで、それで、簡単に概要をちょっと申し上げますとですね。大きく観光戦略の中で、この、人が求めている

ものを、まず探ろうと。つまり今、心の時代を迎えているんでですね。どこの都市も今、観光で人を呼ぼうとしていますから、どこに行っても同じような土産物屋があるわけですね。

ところが、よく分析してみると、今の世の中というのは緑の中で癒しを求めている。そういう目で見ますと、今の主要な観光地というのが、黒川温泉であったり、湯布院温泉であったりするというのは、非常にうなずけるところなんですね。一方で、熱海温泉のような団体向けだったところは、非常に今低迷しているわけなんですね。従って心に届く戦略でいこうと。そのためには一つの仕掛けが必要なわけでして、そのために癒しの里を具現化するためには、「森の中まちプロジェクト」、これを一つまず。これは、特に温泉地としての隈府地区で考えたわけですね。それだけではなくて、やっぱり菊池市全体を癒しの里として交流人口を増やさなきゃいかんということで、今度は桜に着目しまして、菊池川とか合志川、それから旭志のほうの矢護川とか、ありとあらゆる河川のところに、この堤防沿いに桜を植えていこうじゃないかと。菊池市全体を「さくらの里」にしていこうと。

それからもう一つは、ホタルの「ホタル王国プロジェクト」というのを目打っていまして、これは、これも菊池市、昔はもう全域にほたるがうじゃうじゃいたわけですから、それをもう一回再現することで、自然も戻ってきますし、大きな観光資源になるだろうと。人がそこで、今のつながりですね。森があって、桜があって、そして水もあって、それでホタルが住んでいるような里ということで、非常にプラスのイメージを受けるわけですから。それが農業のイメージにもつながっていくということで。これは極めて核になる非常に大事なコンセプトだというふうに考えているんですね。

そういう中で、「森の中のまちプロジェクト」というのは、いわば町部のところを人が散策して歩けるような、そういうゆったりとした観光地にもう一回戻そうということですので、かつ、なるべくお金をかけないでということで考えておりますので。今、ちょうど町中が空き地があったり駐車場があったり、これでは人をとても呼べないわけですね。しかし、これを逆転の発想で民間の協力も得ながら、こういった駐車場、空き地を提供してもらって、その代わりインセンティブとしては、そこの固定資産税を少し軽減させていただくということで、民間にも汗を出していただく。私どもも、例えば苗木なりですね、そういったものを提供する。植えてもらうのは、外の人に来てもらって里親になってもらう。住民の方も協力してやることで、町づくりというのが自分たちの問題に変わっていくだろうと、こういうことでございます。

○議長（山瀬義也君）　質問の時間の６０分となりました。

（「大変失礼いたしました」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１１時００分

開議　午前１１時０８分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

先ほど、泉田栄一朗君の発言につきましては、後日会議録を調査し、不適切発言等があった場合には善処したいと思います。

ここで議長より申し上げます。発言にあたっては無礼な言葉、誤解した発言、他人の私生活にわたるような発言などがないようにお願いをしたいというふうに思います。いいですか。

一般質問を続けます。

次に、中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　おはようございます。まずはじめに、「人・農地プラン」についてご質問いたします。現在、菊池市において「人・農地プラン」が進められているところでありますが、この「人・農地プラン」は、将来の菊池市の農業のため、また地域農業を支える大きな重要な計画であります。しっかりと取り組んでいただきたいと思っているところであります。

ちなみに、青年就農給付金とは、「準備型」、これは、県が認める農業大学や先進農業法人等で研修を受けると最長２年について、年間１５０万円の補助を受けられる制度と「経営開始型」があり、これは、経営開始型というのは新規就農し経営が安定するまでの５年間について、年間１５０万円を給付される制度ですが、この「人・農地プラン」への参加が原則となっております。

そこで、お尋ねいたします。この「人・農地プラン」の概要と、これまで菊池市においてどのように進められてこられ、どのような実績となっているのかについて、お尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　おはようございます。中山議員の質問にお答えいたします。

「人・農地プラン」は、担い手育成や後継者の問題、高齢化の問題など、いわゆる人の問題や耕作放棄地などの農地の問題を解決するために、地域の中心となる経営体や農地集積、地域の５年後の農業のあり方などについて地域の方々で話し合い、

作成する計画であります。この事業につきましては、平成２４年度から始まった事業でございます。

この「人・農地プラン」を作成しますと、青年就農給付金や農地集積協力金、スーパーＬ資金の当初５年間無利子化という国の支援施策を活用することができることになっております。

まず一つ目の青年就農給付金につきましては、先ほど議員のほうからお話がありましたとおり、準備型と経営開始型があり、準備型につきましては就農予定者が農業大学校や先進農家、また先進農業法人等におきまして、概ね１年以上の研修を受ける場合に年間１５０万円を最長２年間給付するものであり、給付窓口は都道府県となっております。経営開始型につきましては、経営が不安定な就農直後の支援や就農意欲の喚起を図るために、独立・自営就農の方に対しまして年間１５０万円を最長５年間給付するものであり、給付窓口は市町村となっております。

二つ目の農地集積協力金につきましては、経営転換協力金と分散錯圃解消協力金がございます。

経営転換協力金につきましては、土地利用型農業から経営転換などをきっかけに「人・農地プラン」に位置づけられております中心となる経営体への農地の集積に協力していただいた方に対しまして、一世帯あたり交付単価が０．５ｈａ以下については３０万円、０．５ｈａ以上２ｈａまでにつきましては５０万円、２ｈａ以上につきましては７０万円を交付することとなっております。

分散錯圃解消協力金につきましては、「人・農地プラン」に位置づけられた地域の中心となる経営体の農地の連担化に協力をしていただく方に１０ａあたり５，０００円を交付するものでございます。

三つ目のスーパーＬ資金の当初５年間無利子化につきましては、認定農業者に対しまして、株式会社日本政策金融公庫が融資する規模拡大や経営改善を図るために、必要な長期低利資金について貸し付け、当初の５年間の金利負担を軽減するというものでございます。

今、申し上げました３つの支援施策を活用するためには、「人・農地プラン」の中に中心となる経営体として位置づけられるか、または「人・農地プラン」を作成した地域であることが条件となっております。本市におきましては、昨年度「人・農地プラン」を集落単位で作成するという基本方針のもと、全集落を対象に説明会や要望調査を実施いたしております。その中でプランの作成を希望された３５集落のうち、モデル的に５集落において話し合いが行われ、現在プランができあがっているところでございます。

また、平成２４年度の支援実績としましては、青年就農給付金につきましては６

名の方に給付金の交付を行い、また、スーパーＬ資金の当初の５年間無利子化につきましては、中心となる経営体としてプラン作成に位置づけられている方について審査検討協議会の審議を経て、プラン作成に先行いたしまして１９名の方に対しまして証明書発行を行っているところでございます。なお、農地集積協力金につきましては、昨年度は実績はありませんが、農地集積に取り組む集落等がございましたら、今後プランを作成し取り組んでまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　今年から脱サラから農業を始めようという青年から、私に青年就農給付金は「人・農地プラン」に参加していなければ給付が受けられないという相談を受けたことであります。また、経営体育成支援事業についてですが、これは新規就農者、認定農業者、集落営農等に多様な経営体の育成、確保に必要な機械や設備の導入などの土地基盤の整備というハード面を支援する事業であります。これもまた「人・農地プラン」に参加しないと対象にならないとお聞きしました。

そこで、お尋ねします。青年就農給付金や経営体育成支援事業などについては、「人・農地プラン」作成が条件となっておりますので、プラン作成できていないところでは事業が受けられない人もおられます。市としてどう対応していかれるのか質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　再質問にお答えします。ご指摘の経営体育成支援事業につきましては、融資を受け農業用機械等を導入し、経営改善に取り組む場合に、その融資残について１０分の３を上限に補助金を交付するものであり、今年度から新たに「人・農地プラン」に関連する四つ目の施策として追加されたものでございます。

また、国におきましては、この経営体育成支援事業以外にも１７の事業が関連施策として現在検討されておりますので、本市において進めてまいりました集落単位でのプラン作成方針では、本年度中に全集落での作成が困難な状況でございます。そういったことから、今年度はプラン作成のあるか、ないかによって関連施策が利用できないなど、地域間の不均衡が生じないようにするため、プラン作成エリアを旧市町村単位へと拡大・変更するなどして、市内全域をカバーできるよう条件整備を進めてまいりたいと考えております。

従いまして、このプラン作成が進めば、議員ご指摘の青年就農給付金や経営体育成支援事業を受けられないといった問題は解消するものと考えております。

さらに、「人・農地プラン」につきましては、今年度までに作成しなければなりませんが、プラン作成後であっても修正や見直し等は可能とされておりますので、その時点で随時対応してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　今の市の対応、本当にありがとうございます。これから農業を始められる方に、少しでも経営が安定するまでの補助は絶対必要だと、私は思います。また菊池市に新規の農業者が増えるためにも、是非必要だと思います。また、経営体育成事業に対しましても３分の１の補助があるのとないのとでは、生産コストにもかなりの影響があります。菊池の農業の発展には是非必要ですので、農家への市の周知・助言、よろしくお願いしたいと思います。

次に、生活保護行政について質問いたします。本日この議会で２１名の質問があっておりますが、泉田議員、私、大賀議員と続けて生活保護について質問が続きますので、よろしくお願いいたします。

現在の市の現状と対応について質問いたします。昨日からの一般質問の中で、合併後１０年後市の財政について大幅に減少し、福祉サービスなどの予算は高齢化などの原因で増加するのが火を見るより明らかであり、行政改革による予算の確保しか考えられないと答弁が出ておりました。

そこで、最近国でも問題になっております生活保護問題であります。私は生活保護の支給の約束事と申しますか、基準がどうなっているのか教えていただきたいと思います。雑談の中では、車に乗るといけない、部屋にエアコンもだめとか、そんな憶測の話ばかりお聞きしますので、その内容についてお聞きします。

また、最近のこの生活保護の推移についてもお願いいたします。なぜ、この質問をするかといいますと、高齢者の増加、１人暮らしの増加というか、体が不自由な方、お年寄りの介護などで仕事に行けないとか、いろんな理由の方がおられる中、若く仕事もできるような人が受給しているというような話、他人名義の車に乗り、パチンコに行っているなど、事実かどうかわかりませんが、このようなことに対してのチェック機能はどうなっているのか質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。泉田議員の答弁と重複する部分もありますが、よろしくお願いいたしたいと思います。

本市の生活保護受給者数は、平成２１年が２２８世帯、２８３人、平成２５年が

３２２世帯、４７７人で、９４世帯、１９４人の増となっております。本年度も４月、５月の２カ月間で１７件の申請があり、増加傾向を示しております。

また、生活保護の基準は、世帯の人数、年齢、医療費など、事例ごとにことなっておりますので一概には申し上げられませんが、保護の決定につきましては、世帯の預貯金、資産、給与、扶養関係などを調査し、保護基準と比較し、決定しております。不正受給への対応策としましては、税務調査や年金受給資格の有無の調査などにより、本人の収入申告との比較を行うことにより、不正受給防止に努めております。

さらに、今回のケースワーカーの増員により、よりきめ細かなチェック機能の充実が図られるものと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　今、生活保護の中で、ケースワーカーがおられるということでありますが、聞いてみますと一人当たりの担当が少し多いのではないかということもあるようであります。これは、不正受給ばかりでなしに、本当に困っておられる方の把握、不正受給のチェックなど大変だと思いますが、是非このケースワーカーを増員していただきたいと思います。

ネットを見ておりましたら、兵庫県小野市では生活保護費をギャンブルに充てるなどした受給者については、発見次第、市に情報提供するよう条例案を市議会に提出しているそうであります。また、不正受給をしても他の自治体に転居すれば、また受給を受けられるなど、それと、これの生活保護に対しましては刑事罰がないというような話も聞きます。逃げ得などという例もあるそうでありますので、チェック機能を果たしていただきたいと思います。

それから、逆に申しますと、水際作戦といいまして、担当職員が受給条件を厳格にあまりしすぎて、なかなかその生活保護を受けられないということもありますので、市におかれましては、これから生活保護に対してはチェックをしていただきたいと思います。

では、次の質問に移ります。企業誘致について質問いたします。現在、私は企業誘致の委員長をさせていただいております。ある要件で企業を回りまして、そこで驚いたのが菊池市の企業に地元の人のいないことであります。びっくりいたしました。この菊池の企業に「何名お宅の企業にお勤めですか」と聞きますと、「１名です」とか「２名」、極端に言いますと「いません」という返事が返ってきました。この菊池の働き先に、何人本当に菊池市の方が勤めておられるのか疑問に思います。

こういうことを市で調査されているのか質問いたします。

なぜ、このような質問をするかというのは、このたび「菊池テクノパーク」ができます。できても税収が上がるだけで雇用につながらなければ、誘致しても他の市から勤めていられても、企業誘致の意味がないと思うからであります。

それから、先だって、ある企業が菊池市からよその市に移転するのではないかという問題になりました。この企業はパートで４００名ほどの人が勤めておられており、この企業の税収が減るばかりの問題ではなく、生活ができない人まで出るのではないかという大問題になりました。他の市町は、企業誘致に対しまして、お金をかけて誘致合戦を行っております。聞くところによると、その企業に対して、「誘致に対して億の金を出す。是非私のところへ来てくれ」というような誘いもあったそうであります。この情報については、商工観光課からの情報でした。

議員の皆さん、なぜ商工観光課というかわかりますか。商工観光課が企業連絡協議会の担当ということであります。それと企業誘致というのは、今まで別の階でおられました。このことがあったか、何かわかりませんけれども、今、商工観光課と企業誘致の課は同じフロアーになっております。大変いいことだと思っておるところであります。

そのことがありまして、菊池市でも企業誘致促進補助金の見直しがあり、増設・移設に対しても補助金が出るようになり、今のところこの企業は移転は考えておられないようであります。この企業は、まだどんどん大きくなる素質のある企業であります。この情報収集に対しては本当に市役所の方が回っておられて、その情報を企業とのつながりを持ち、この情報が入ったというところであります。

このことからして、企業との関係を密に情報を得なければ、いつ企業がこの菊池市から出て行くかというような情報も得られないということであります。執行部におかれましては、すぐ先ほどの補助金、企業誘致、商工観光課を同じフロアーにしていただき、大きな前進だと思います。企業を回り、情報を集めることが最重要であります。なぜ企業訪問が必要か、それは、企業は経営側が悪くなったりするからであります。常に情報収集を、先ほども何度も言いますようにお願いしたいと思います。

今、円安で企業も国内を考えておられる企業もあると思います。これからも、今考えておられる企業を誘致するのも今がチャンスと思いますので、今、市としてどういう考えで企業誘致を考えておられるか質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　質問にお答えします。地元雇用についてということでござ

いますが、新たに本市へ進出した企業につきましては、進出協定書を締結し、その中で地元雇用の最優先につきまして、条文化をいたしております。また、既存の誘致企業に対しましても、地元雇用に対する優遇制度等につきまして、企業訪問時に併せて説明をしているところでございます。

本年５月に菊池ハローワークから入手しました資料によりますと、就労希望者は毎月約５，０００人程度で、そのうち本市在住の就労希望者は約７５０名で、率として１５％ということでございました。

また、本市で２００名以上を雇用されております８企業の正社員・パート合わせまして約２，３００人を対象に調査しましたところ、約６００人が市内在住者で、率としましては３割弱という結果となっております。

次に、企業誘致に対する情報収集をどのように行っているかということでございますが、本市に立地いたしております約１１０の会社に対しまして、月平均８社程度の企業訪問を現在行っているところでございます。訪問の内容としましては、会社の現状や工場の拡張計画のあるなし、並びに関連企業の進出に向けての動向など、さまざまな角度から情報を収集いたしております。また、各業界の動向をいち早くつかむためにも、東京菊池会や各種企業セミナー等にも積極的に参加をいたしております。さらに、本市の立地企業で、東京、大阪、名古屋などの本社に対しましても、企業訪問を行い、関東・関西方面の情報収集に努めているところでございます。

また、本市から熊本県大阪事務所に１名の職員を派遣しております。現在、県と一緒に誘致活動に携わっておりますので、より最新の情報を入手し、企業誘致につなげてまいりたいと考えております。

今後とも、企業誘致を積極的に進めるとともに、既存企業との情報交換を行い、さらなる地元雇用の確保に努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　市長にお伺いいたします。現在、「菊池テクノパーク」がもうすぐ分譲になると思います。現在、ホンダの下請企業においては相当の減産で厳しい状況下におかれております。市長におかれましては、市の企業について、いち早く企業がどんな仕事の内容をし、把握され、把握した企業情報を発信し、企業が菊池に来るようなことをしていただきたいと思いますが、市長の考えをお伺いしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　企業誘致についてでございますけども、私も、実は企業のほうからまいりましたんで、この企業誘致を、実はかつて銀行員時代に、長いこと担当しておりましたんで、そこら辺についてのいろいろなやり方っていうのは、これから役に立てていきたいなというふうに考えているところでございます。

一つ目は、まず全体の認識としては、今、少し円安に戻りましたけども、かつて円高がどんどん進んだもんですから、日本の企業は基本的に工場をどうやって外に出そうかということで、ずっと来ているんですね。ですから、長い目で見ますと、恐らくこの大きな流れというのは当面続く可能性はあるというふうには見ていますので、かつてほどがんがん地方に工場が出てくるということは考えにくいかもしれません。ただ、一方で、先ほど来からおっしゃっているように、工場というものは、やはり雇用機会の創出としては非常にやっぱりパンチ力がありますんで、新しい定住者を促進したり、それから、いろいろな税収にもつながるということでですね。やはり私としては、市の基礎力としては期待したいというふうに考えております。

あとは、工場頼みで経済政策が、工場頼みだけの一本調子になりますと、やや心もとないところも出てきますので、あくまでいろんな地道な総合策をやっていく中の一つということで力を入れていきたいと。

そういう中で、とりわけ最近はアベノミクスの効果でしょうか。担当部署から聞いていますと、工場を検討しているという話が結構頻繁に上がっているように、私は感じております。最近の中で、特に目立つのはアベノミクスの効果を先取りする形で、運送業ですね。ロジスティック関係の業界が先に先に動いていらっしゃるというのが目立つところかなというふうに感じました。そういう中で、とりわけこの「菊池テクノパーク」というのは、まず何よりも立地条件が非常によろしいと。それから、県の事業でもありますので、県としても非常に力が入っているということで、非常にこれは菊池市にとっても大きなチャンスがあると思いますんで、ここは私が非常にめりはりをつけて力を入れていきたいというふうに考えております。

それから、田島、林原・蘇崎の地区でございますけども、ここにはまだ林原・蘇崎については若干のまだ空きもございます。それから田島については、まだ長いこと売れていないわけですね。ただ一方で、ここは植木のほうに多少近い立地でありますんで、今、申したような運搬業、運送業の基地としての訴求力はあるのかなというふうに思っています。実は、工業団地をつくるときのいろいろな取り決めで、基本的にはメーカーということになっているようでございますけども、ここら辺はむしろ西のほうについては、恐らく運送業も視野に入れたほうが、ニーズ取り組みという意味では実効性が高いんではないかと思っていますので。これは弾力的に県ともお話し合いをしながら、是非、柔軟対応できるように話し合いを進めていきた

いというふうに考えているところです。

それから、やはり待っていても、なかなか客が来ません。逆に企業のほうは、これは企業の習癖ですけども、静かに情報をたくさん集めまして、それでピンポイントで２つか３つに絞って一気にだんっと決めちゃうんですね。そうしないと、いろんなところから引き合いが来て、担当部署がたまらないということなんです。ですから、その検討段階に、どうやって私どもの菊池市をアピールしていくかということですので、情報提供というのが非常に重要になってくると思います。

先ほど、社員の大半が市外だったとかいう話もございましたけども、実は、企業のほうは最近正規雇用の比率をどんどん低めていまして、非正規雇用、いわゆるパートさんですね。このニーズが高まっているようでして、特に運送業のなんかの場合は５００名から１，０００名ぐらい大きな倉庫になりますと必要になるらしくてですね。これが確保できるだろうかということを非常に心配されていまして、それがチェックポイントの大きな一つになっているようでございますから。今、担当部署と話を進めていまして、ハローワークとか、そういったところとよく話をして、情報を集めておきなさいと。それをもってですね、いろんな担当部署に、企業に行って、それを頼まれなくても置いてくるようにしているんですね。そうすると反応としては、非常に役に立つ情報であるということを言われたりしておりますんで、こういったふうな工夫をしながらやっていきたいと思っています。

私としても、最大限の努力をやっていきたいと思っていますんで、とりわけこういったものというのはトップで決める色彩が非常に強いもんですから、これこそトップセールスで銀行員時代の人脈等を生かせればというふうに思っていますんで、これからも努力を続けていきたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　市長には、ありがとうございます。昨日から一般質問を聞いておりまして、今、言いました企業誘致も必要だが、地元で新しい企業の創設も必要と市長は言われております。今の市長の答弁を聞いておりまして、やはり企業的な考えが、かなりこの市にも入って来ているんだなと、今、市長のお答えで実感しているところであります。市長におかれましては、福祉関係などのサービスは住民が満足するのが本当ですけれども、市長の手足となる職員の育成を是非お願いしたいと思います。

最後の質問をいたします。合併して８年、４市町村で市の料金が統一されていないのがおかしいと住民から言われております。その中で、下水道のことが、旭志で

合併浄化槽の料金について問題になっております。この料金の見直しはどうなっているか質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　それでは、質問のほうにお答えいたします。現在、本市の公共下水道、集落排水施設並びに合併浄化槽の使用料金算定の方法といたしましては、水量制、人頭制、人槽制と料金体系が複雑で、使用料金が異なっております。この使用料金につきましては、区長会から市民の間での不均衡が生じていると、合併浄化槽の料金の見直しについてのご質問をいただいているところでございます。

現状では、地域間や料金体系によります格差が出ており、是正を図らなければならないと考えております。それとともに、公共下水道・集落排水及び合併浄化槽事業といたしましては、安定した運営が見込まれる料金体系及び使用料金の改定が必要であると考えているところでございます。

現在の料金の見直しを図るために、平成２３年９月に「菊池市生活排水処理施設運営協議会」を設置いたしまして、これまでに５回の協議会を開催してきているところでございます。次の会議も６月に開催される予定でございます。今回の会議では、課内でも検討しております使用料金等の改定案を複数提示いたしまして、ご意見をいただくところでございます。

また、今後の予定といたしましては、市の検討を進めながら、議会並びに菊池市生活排水処理施設運営協議会への報告を行いまして、ご意見等をいただきながら、料金の改定の算定の見直しを慎重に進める予定でございます。改定の時期につきましては、議会の議決、利用者の皆様への周知等で、早くとも平成２６年度の中頃になると考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　中山繁雄君。

［登壇］

○１４番（中山繁雄君）　下水道料金に限らず、ほかの料金等もいろいろ、この市町村合併してもう約１０年近くなりますので、もうそういう統一された料金なりを、見直しをお願いして、終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　ここで、昼食のため暫時休憩します。

午後の会議は、午後１時から開きます。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１１時４５分

開議　午後　零時５７分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　議席番号５番の大賀慶一でございます。通告に従いまして質問をいたしたいと思います。

まず、江頭市長におかれましてはご当選おめでとうございます。菊池市に新しい風をという市民の皆さんの期待を受け止め、これからの市政を運営されることをご期待を申し上げております。

それでは、質問をいたしたいと思います。まず、生活保護者支援対策についてお伺いをいたしたいと思います。このことにつきましては、午前中、泉田議員、中山議員と２名の方が質問されておりますので、なかなか質問しにくうございますけども、私なりの立場で質問をいたしたいと思います。

憲法２５条で、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と高い理念を謳い上げ、これを受けて生活保護法では、第１条に「生活に困窮するすべての国民に、国が最低限の生活を保障するとともに自立を助長する」と規定がされております。それが十分に機能しているかといった疑念もございます。最近は暴力団や収入を隠している人たちによる不正受給が、よくニュースなどで報じられております。そのようなことにより生活保護の適正化が問われております。また、それらのことによりまして、真に救済すべき弱い立場の人が切り捨てられているのではないかと非常に心配でもございます。

そのような状況の中で、今国会に生活困窮者の対策を大きく見直す生活保護法改正案と、生活困窮者自立支援法案が提出をされました。大幅に法案が見直されるのは１９５０年に生活保護法制度が施行されて以降、今回が初めてだと伺っております。この法案は、幅広い支援策を打ち出す一方で、大変生活保護への厳しい視線を受けた引き締め策も盛り込んだ法案でもございます。硬軟両様見直し案であると言われております。現場では引き締め選考を懸念する声があるとも言われております。わが国では、今年の１月時点で過去最多の２１５万人ほどが生活保護を受給しており、生活保護費も国と地方で４兆円近くに上り、国や地方自治体の財政負担に重くのしかかっていると言われております。

本市の状況はと見てみますと、先ほど泉田議員の質問の中でも、部長が答えられておりましたので、数字的なことをちょっと省いておりますが、過去６年間の状況を見てみますと、６年間の生活保護世帯の伸び率は世帯数にして５９．４％、人数

にしまして８９．３％の伸び率であると思います。また、扶助費の決算額を見てみますと、平成１９年度には４億４，１３４万８，０００円、平成２０年度が４億９７１万１，０００円、平成２１年度が４億７，２７７万３，０００円、平成２２年度５億８，３１４万５，０００円、平成２３年度で６億２，９０９万３，０００円、平成２４年度が６億６，９５４万９，０００円で、６年間で実に６１．９％の扶助率の伸びでもございます。ほぼ右肩上がりで、本市の扶助費の支給状況も増加をいたしております。

生活保護受給の増加は、昨今の社会状況等で、厳しい社会状況の中での背景もあると思いますが、本市の厳しい財政状況や、今後、国からの交付金等の減額も確実視されている中において、何とかこれ以上の支出や受給者を増加させないような方策が必要不可欠であると思います。

そこで、執行部にお尋ねをいたします。まず、１点目でございますが、本市における生活保護受給のこれまでの流れといいますか、申請から審査まではどのように行われておりますでしょうか。

２点目に、ここ数年間で不正受給といいますか、保護費の返還に至った件数などはどのくらい、金額、件数はどのくらいあったのでしょうか。

３点目に、県内同規模自治体と比較いたしまして、本市の保護率の状況はどの位置にあるのでしょうか。

４点目に、今回の生活保護法と生活困窮者自立法案の２法案の大幅な改正によって、これまでとはどのように違ってくるのでしょうか。

以上の点をお尋ねしまして、第１回の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えいたします。先の泉田、中山議員への答弁と重複する部分がございますが、よろしくお願いいたしたいと思います。生活保護の相談・申請がありますと、世帯全体の預貯金、資産、給与、扶養義務関係などを調査し、保護の基準と比較し、決定しております。

次に、給与や年金の未申告及び過少申告などの不正受給につきましては、平成２２年度６件、約１５０万円、平成２３年度８件、約２８０万円、平成２４年度２２件、約９２０万円となっております。

また、同規模の市の保護率につきましては、荒尾市１．８０９％、山鹿市０．７８７％、合志市０．４７１％で、本市が０．９７５％となっております。

最後に、法改正に伴い想定される影響、問題点につきましては、平成２５年５月１６日に保護の基準が一部改正され、本年８月、平成２６年４月、平成２７年４月

と３年かけて段階的に基準額の引き下げを実施することとなっており、被保護者の方に混乱が起こらないように事前に通知する予定です。さらに、生活保護法の改正法案が今国会に提出されました。主な改正内容としましては、１点目として就労による自立の促進で、安定した職業に就くことにより、保護からの脱却を促すための給付金の創設。２点目として、不正・不適正受給者対策の強化等で、福祉事務所の調査権限の拡大など。３点目として、医療扶助の適正化で、医師が使用を認めている場合には、受給者に対しジェネリック医薬品の使用を促すことなどです。今回、大幅な改正が行われますが、現時点でどのような問題が発生するのか、不明な部分が多く、大きなトラブルが起きないよう努めるとともに、関係各課と連携をとる必要があると考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　今の部長の答弁で、本市の保護率といいますか、０．９７５％ということで、同規模の市町村に比べ、非常に高いのではないかと思っております。また、今後、保護法の改正により不明な点も多いということでございますので、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

それでは、再質問いたします。今回の改正法で生活保護の引き締め策として、次に述べます４項目が受給要綱として明記されております。

一つ目に自治体の調査権限の強化、二つ目に扶養可能とみられる場合は、自治体が扶養義務者に理由を尋ねる。三つ目に不正受給の罰金を１００万円以上に引き上げ、返還も上乗せする。四つ目に申請手続きで、収入などを記入した書類を提出する。以上のようなことを条文に明記することが盛り込まれており、一層の受給資格が厳しくなっております。

そこで、受給資格回避への支援策も大変重要になってきます。先日、私は就労支援や生活改善指導などで実績を上げておられる北海道釧路市の、先ほど泉田議員の質問でありましたが、釧路市の担当者と電話でお話をすることができました。釧路市では、平成１６年より支援事業に取り組まれておりまして、実に支援項目として５つの項目で２４種の個別プログラムが実施されております。資料をちょっといただきましたので、かいつまんで皆様方にご紹介をしたいと思います。

「就労支援プログラム」として、平成２４年度のこれは取り組みでございますが、５つの項目の中の一番目に、就労支援プログラムの中で、主な点を申し上げたいと思います。就労支援委員による就労支援事業。この内容としまして、独自に就労支援委員、これは嘱託職員、職安ＯＢを配置し、日常的にケースワーカーとの連携を

図りながらきめ細かい就労支援を行う。この事業で、参加延べ人数が２００名の方が参加されております。

次に「民間職業紹介活用プログラム」。この内容につきましては、就労阻害要因のない単身者等で、就労意欲がありながら適職を得られないものに対して、民間の職業紹介業者を活用して支援するということで、延べ人数１７名の方が参加されております。

次に「就業体験的ボランティアプログラム」。その中の一つとして、公園管理ボランティア体験事業ということで、この内容は中高齢者や引きこもり等で、未就労期間が長期であるなどの事情により、就労意欲に欠ける者を対象にボランティアとして、公園管理業務を体験することにより、社会参加と就労意欲の形成を促すということで、延べ人数３４９名の方が参加をされております。次に、これは釧路市独自でありますが、動物園管理整備ボランティア体験事業。これは中高齢者は引きこもりなどで未就労期間が長期である者の事情により、就労意欲に欠ける者等を対象に、ボランティアとして動物園管理整備を体験することにより社会参加と就労意欲の形成を促すということで、延べ４７０名の方が参加をされております。また次に、病院ボランティア体験事業といたしまして、内容が入院患者の話し相手など、病院ボランティアとしての活動を体験し、社会参加意欲の形成を促す。延べ３４８名の方が参加されております。

次に「日常生活意欲向上支援プログラム」といたしまして、地域ネットワークサロンにおける意欲向上事業ということで、これは日常生活の中で孤立しながら、母子世帯等を対象にＮＰＯ法人の協力により、親子サロン、親子料理教室、就職準備講習会などへの参加を働きかけ、他の母子世帯との交流を図り、日常生活への意欲の向上を促すということで、延べ４１４名の方が参加をされております。

次のプログラムとしまして、「就業体験プログラム」でございますが、この一つの事業といたしまして、農園における農作業体験事業ということで、やられております。その中の内容をみますと、さまざまな事情で就労に不安を感じている被保護者。これは稼動年齢層を対象に、農園での農作業の体験をとおして、就労に対する意識啓発と自信の回復を図り、よって自立を支援するということでもって自立を支援するということで、これには約５００名の方が参加をされております。

その他のプログラムとしたしまして、「高校進学支援プログラム」というのがございます。これは、中学３年生を持つ親に対して、子どもの高校進学に対する動機づけを行い、親子の進学意識を高めるとともに入学までの各種支援を行い、子どもの社会的な自立を促すということで、延べ人数１４５名の方が参加をされております。

今、かいつまんで釧路市の取り組みについてご説明をいたしましたが、さまざまな方向から取り組みがなされております。このような就業体験等をとおして、働く意欲を高めていくことが重要なことではないでしょうか。その結果として、釧路市では、２０１２年度は、これらの事業に参加した約９００名の中から８０名の方々が就職をして、生活保護から抜けられたと伺いました。担当者のお話によりますと、「大事なことは就労体験をとおして自信を回復してもらうことだ」というふうにおっしゃっておられました。

そこで、本市におきましても、保護費が年々増加の一途をたどっておりますので、その取り組みについてお尋ねをしたいと思います。

まず１点目に、本市においてもいろいろ支援事業が取り組まれておりますけれども、今までに行われました、例えば本市独自の取り組みについてはどのようなことを行っておられるのでしょうかをお尋ねをいたします。

２点目に、生活保護受給者への就労体験や支援として、本市は有数な農業地帯でもありますので、多種多様な農業体系もございます。それらの農家との連携についての取り組みはできないものでしょうか。

３点目に、就業体験支援といたしまして、地元にございます企業との取り組みはできないものでしょうか。

４点目に、現在、市が外部に委託している事業や直接市で行っている仕事の一部でも生活保護受給者や生活困窮者の人たちの就労支援の一環として提供できないものでしょうか。

以上、４点についてお伺いをいたしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えいたします。本市独自の支援としまして、住宅確保、就労支援員のアイディアで、保護受給者の就労意欲への願いを込めた激励メッセージを貼ったくまモンマグカップを、生活保護受給者に配布されました。

次に、市の臨時・嘱託職員等の募集に対して、受給者の方に応募を勧めております。問題点は、就労の意識づけや、疾病等の状況により、短時間の就労から、段階的に就労時間を延ばしていくことが必要な受給者などさまざまで、一律的な雇用は難しい状況です。

また、受給者の就労における農家及び企業との連携につきましては、現在受け入れ可能な農家・企業に対して受給者に応募を勧めておりますが、受け入れ先の理解を得る必要があり、今後も農家及び企業が求める人材について、受給者の職歴等を考慮しながら進める必要があると考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　私は４点目に、市で行っている外部に委託している事業や職員で直接行っている事業についてのワークシェアリングと言いますか、そういう仕事の分配が就労支援としてできないかということで、質問いたしました。そのことについての答弁はございませんでしょうか。

はい。わかりました。それではまた次の機会にでもいたしたいと思います。

それでは、再々質問をいたしたいと思います。生活保護家庭の子どもの学習支援についてお尋ねをいたします。生活保護世帯の子どもは、一般家庭の子どもに比べますと、学習の機会に恵まれていないと思っております。わが国の統計を見ましたとき、親の経済レベルと子どもの学力の相関関係は、やはりあると言わざるを得ないというふうに指摘されております。学力だけで人生が変わるものではございませんが、一般家庭の子どもは学習塾に行ったり、家庭教師をつけたり、参考書等の書物も買える環境でございますが、生活保護家庭ではそのようなことがなかなか無理なことでもございます。親から子どもへの生活保護受給を引き継がせないためにも、受給者の子どもたちへの支援を行っていくことは、子どもたちに学力をつけさせていくことが生活保護からの脱却の一つの方策ではないかと思います。

そこで、お尋ねをいたしたいと思います。本市では、ボランティア団体やＮＰＯの方々による無料の補習、学習などはどの程度実施されているのでしょうか。また、そのようなとき、学習の場所といたしまして、本市の施設の無料提供などはなされていないのでしょうか。

また次に、市長にお尋ねをいたしたいと思います。先日、２０代の母親と４歳の子どもがアパートで餓死をしていたという大変痛ましい事件が発生しておりました。何らかの事情があったにせよ、本当に心が痛む事件でもありました。餓死ということが、今の私たちには本当に考えられないことでございますが、まだまだ生活に困っている人たちが多くいられることを改めて認識する事件でもございました。そのような人たちを救済するのが我々政治に携わるものであり、行政の仕事であるということは言うまでもありません。そこで最後に、市長にお尋ねをいたします。市長は、長年、大手の企業で貧困には無縁の生活であったと思います。また海外生活も長く経験されておりまして、そこで、海外での生活困窮者に対する支援情報などがおわかりになればお話をいただきたいと思います。また、生活保護行政については、どのようにお考えでしょうか。お話をいただければということで、お尋ねをいたしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。生活保護受給世帯の児童の学習支援につきましては、熊本県自立支援プログラム策定実施推進事業で、子どもやその親が日常的な生活習慣を身につけるための支援、子どもの進学に関する支援、引きこもりや不登校の子どもに関する支援を行い、子どもの健全育成を図ることを目的とした学習教室の開催など、子どもの健全育成支援事業に取り組んでおります。現在３名の方の支援を行っている状況でございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　私へのご質問は、今わかる範囲で、海外での状況ということ、それから生活保護行政に対する私の思いということであったかと思います。

最初のほうのは、なかなか海外でのそのような体験は直接的にはございませんで、参考になることはなかなか申し上げられないんですが、海外の場合で感じていたのは、特にキリスト教系の国においては、今、いわゆるチャリティーというのが普通にもう生活に根ざしておりますので、社会のセーフティネットとしての仕組みの前に、そういった各種宗教団体、任意団体で、チャリティーで一回救っていくということが比較的浸透していたかなというふうには感じております。ただ、そこではどちらかといえば現物での支給といいましょうか、主に食事とかですね、衣類を中心とした、そういう部分的な支援であったかというふうに記憶しております。

それから、私の基本的な考え方ということでございますけども、もう既にお触れになったように生活保護制度というのは、困窮の程度に応じて必要な保護を行って、いわば最低限の生活を保障するという仕組みでございますから、いわば社会のセーフティネットとして非常に重要な役割を果たしていると思いますので、先ほどの餓死があったようなケースというのは、やはりどこかにちょっとそのセーフティネットのところに、小さな穴が開いていたんだなということで、私どもとしては、他山の石として、よくここから学び取っていかなきゃいかんなというふうに感じました。私のこの生活保護行政に関しては、市民の血税を使ってやっていくわけですから、やはり何よりも、本当に必要な方に必要な保護をということが行き届くようにですね。まず、公平・公正に受給を見極めるということがまず第一であろうと。そのためには資格審査等は厳格にやっていく必要があるというふうに考えております。

それから、やはり出口として、必ず自立を助長するような、自立につながるような施策を提供していきたいというふうに考えております。とりわけですね、何事も

そうですけども、医療と同じで、生活保護に至る前の段階から早期に就労等の支援を行って、社会的な自立、経済的自立を促進するというのは、社会コストとしても低くてすむであろうというふうに考えています。先ほど、餓死の件に絡んでもですね、よりきめ細かな相談体制、それからケースワーカーとのそういう緊密な信頼関係の構築というのが、これからますます必要であるなというふうに考えています。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　丁寧にお答えいただきまして、ありがとうございました。

次の質問に入らせていただきます。市長の施政方針についてお伺いをいたしたいと思います。市長は、施政方針の中で、選挙公約に沿った７つの施策について述べておられます。その第２点目の「癒しの里づくり」による観光戦略について。本市の特性である自然力を生かした癒しの里イメージを構築し、心に訴えるような仕掛け、仕組みを通じて、固定客となる菊池ファンを増やすことで、滞在型観光への展開を図っていくとおっしゃっておられます。その具体的な施策の一つとして、先ほど来の質問にも答えておられますように、まちの中の空き地を利用し、緑化し、癒しの空間づくりを行う「森の中のまちプロジェクト」を提唱されております。

一方で、選挙戦の公約の中で、現在あります足湯の見直しを行うと言っておられました。今あります足湯につきましては、ほとんどが補助事業対象でありまして、本市の持ち出し分はわずか数百万円であったと思います。極めて有利な事業でありました。万が一廃止をするとお考えならば、さまざまな問題も発生するのではないかと思います。むしろ市長が提唱されております「森の中のまちプロジェクト」に、足湯と森をマッチングさせた方法が、よりよい癒しの空間ができるのではないでしょうか。本市の温泉は、名湯１００選にも選ばれておりますし、来年は菊池温泉湧出６０周年という節目の年であることからも、本市の温泉・足湯を活用した町づくりには市長が提唱されております「森の中のまちプロジェクト」により一層の付加価値をつけられると思いますが、いかがお考えでしょうか。観光客の皆様にゆっくりと町中を散策される滞在型観光を目指されていくならば、私は森と足湯をマッチングさせた施設を増やすべきだと思いますが、いかがお考えでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまの「癒しの里づくり」の中における、いわゆるポケットパークとの関連というご質問でございました。ポケットパークについては、常々、

町中に不足していた公衆トイレを提供するといった意味合いでは役に立っているのがあると思うんですが、実は、完成後の評価に関しまして、かなり、特に足湯に対しまして、市民の方々から必ずしもかんばしくないご意見を比較的多く聞くもんですから、私は一度討論会の場であったかと思いますが、そんなにそういう声が多いんであれば、一回その必要性というのを本当に市民の皆さんに聞いてみたらどうだろうかと。こういう提言をしたわけでございますんで、恐らくそのことをおっしゃっているかと思います。私は、廃止ということはどの場でも実は申し上げてはおりません。ただ意見を、本当に必要かどうかの意見を見極めるためには、例えば、一定期間１回お休みをしてみて、そこで出てくる、もし不便があるなら「あった」とかですね。あるいは、「痛痒を感じない」とかですね。そういった一つのテストをしてみてご意見を聞いてみたらどうかと、そういう趣旨で申し上げたことはございます。

「森の中のまちプロジェクト」は、ただいまご理解いただいているとおりでございまして、そういう癒しの環境をつくって、それが必ず心に届くはずだと。これを観光資源。それから市民の憩の場として作り上げていこうという構想です。この「森の中のまち構想」が現実化していって、緑の環境になってくれば、この立町と切明にあるポケットパークと、このつながりが出てくる可能性があるなと。そうするとおっしゃるとおり、緑と足湯というのが一つの、また新たな癒しの場ということを提供する可能性は十分にあるだろうなというふうには思っております。ただ、今、足湯だけが独立した状態であるところから、利便性等々の点から恐らく市民の方の冒頭に言ったようなご意見があると思いますんで、そういう「森の中のまちプロジェクト」をまずとにかく具体化していく中で、さっきのテストという言葉を使いましたけども、市民の方のご意見というのは、また変わってくるんではないかというふうには考えています。

ですから、順序としては、そういう段階で考えていくのが一番実効性も高いだろうと思ってますんで、今の段階で「森の中のまちプロジェクト」と切り離して、足湯を新たにつくっていくということは、今の段階では考えておりませんけども、森のなかのまちが出来てくれば、そこでまた状況を見ながら、市民のご意見を聞きながら判断していけばいいかなと、こういうふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　今後の課題でもあるかと思います。是非またそのような市長の構想の中に、これをマッチングさせたプログラムでされることを望んでおります。

再質問をいたしたいと思います。次に、施策の４点目に述べられております教育と子どもの健全育成についてお伺いをいたします。本市の子どもたちが、各方面で活躍できるような学力向上や学校生活の充実を図ることは、本市の将来においても極めて重要なことでもあります。これからは、グローバルに多様な分野で活躍できるような子どもたちを、本市から数多く輩出出来るような教育の充実を、是非行っていただきたいと思います。

そこで、施策の中に述べておられましたスポーツの振興についてお尋ねをいたします。その中で、ジュニアボート選手権大会などの各種イベント大会の誘致を強力に進め、地域経済の活性化につなげていきたいと述べておられました。

そこで、私はボートについて少しお尋ねをいたしたいと思います。昨年私は、全国市町村交流レガッタ大会豊岡大会に議員の代表の一人として参加をさせていただきました。この大会は、１，０００名を超える方々が全国から集われまして、開催中におきましては大変大きな経済効果があったのではと思っております。ボート関係の大会はこのほかにも年間では数多くの大会が各地で開催されております。ボート関係者の専門家からみましても、本市にあります斑蛇口湖ボート場は、流れがなくて風の影響もなく、全国でも屈指のボート場だと言われております。本気で誘致をすれば、多くの大会も開催できるだろうとも言われております。今月も７日から９日までの３日間にわたり、第１１回全日本ジュニアボート大会が開催されました。青森から北海道まで選手約１７０名、役員、応援等を含めますと、数百名の方が本市に来ておられます。

また、その中で私は、前日の歓迎レセプションに出席しまして、ボート関係の全国の会長さんをはじめ、協会の方々と話す機会がありました。その中で、２０２０年にわが国がオリンピックの誘致をいたしておりますが、誘致が決定すれば、本市の斑蛇口湖ボート場も有力な会場の一つだとおっしゃっておられました。大変頼もしいお言葉でありました。

そこで、お尋ねでございますが、各種大会を誘致するには、施設の充実が必要でもございます。このことにつきましては、今までにも数名の議員の方が質問をされておりますが、新市長に改めてお伺いをいたしたいと思います。

まず１点目に、艇庫から湖面までのボートの運搬に、非常に距離も長いし、ボートの重さ、あるいは急斜面であることから危険も伴うと考えられます。艇庫から湖面までのボートのスムーズな運搬についてはいかがお考えでしょうか。

２点目に、私は、斑蛇口湖ボート場は生産を生み出す本市の宝であると思っております。優れたボートコースとして、大変、関係者の方々の評価の高い斑蛇口湖ボート場に積極的に大会を誘致していただきたいと思いますが、どのようにお考えで

しょうか。

３点目に各種大会を誘致するには、ボートに対する市民の皆さんの関心を高めていくことも重要なことでもございます。そこで現在行われております市民レガッタ大会などの市民への周知や、新たに地区対抗大会などの大会を開催するお考えはないのか、以上についてお伺いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ボートに関するご質問でございます。３つございました。第１点につきましては、これは、艇庫からの搬出、搬入方法ということですね。おっしゃるところは確認をいたしました。それで、特にお子さん、女性にとってはかなり体力的な負担になるということはあるようですね。ただ、一方で、艇庫から湖面までは、今、けん引車を改造した形でうまく工夫がなされていますので、今のところはうまくそこまでいっているようですが、そこから先の斜面を湖面へ移動される際のことをご指摘されていると思うんですが、そこを工夫するやり方としては、やはり本格的にはクレーンの設置ということになろうかと思いますが、かなり高額な費用が必要というふうに見込まれているようでございまして、ただいま現在の開催頻度等換算すると、現時点ではすぐそこら辺を具体化していくというのは、ちょっと難しいのかなという感じがしております。

ただ、２点目の斑蛇口湖のボート競技場としての可能性ということについていけば、私は同じような考えを持っていまして、やはり、これは子どもの健全育成はもちろんなんですが、私はさらに、どちらかといえばにぎわいを創出するといいましょうかね。スポーツを使った滞在型観光を進めていく中でも、そういう文脈に非常に合致しますし、とりわけボート場というのは、そんなにどこにでもあるわけではないんでですね。しかも、ボートをやっている方々からは非常に好評であるということから、他の市町村とは大きく差別化を図れるところであろうなというふうに考えていますので、この特色は、これは是非生かしておきたいと思っておりますので、対外的なこのイメージアップをやったり、まさしく今おっしゃった体制の整備、こういったことは考えていかなければいかんだろうというふうに思います。当然ながら、そこは費用対効果の問題も出てきますので、これから各種の大会に対してのいろんな働きかけをして、そこの導入状況を見ながら、費用面も見ながら検討していきたいというふうに考えます。

それから、市民への広がりということでは、実は、これも私はほぼ同感でございまして、このボート競技というのを、この菊池に根づかせるためには、プレイヤーだけではなくて、やはり市民自信がそのことを楽しみとすることに持っていかなき

ゃいけませんから。そのためには、まず、やってみるとだいぶ皆さんも受け止め方が違ってくると思いますんで、そういうことに触れ合う機会を増やすのは、非常にいいことだと思います。

そういう意味では、今回も、全国市町村レガッタ大会に派遣したいという要望がございまして、「市民ふれあいレガッタ大会」を開催して、それの上位入賞チームをそこに派遣しようということを、引き続きこれを続けていきたいというふうに考えております。

また、ご提案のあった４市町村の触れ合いの一つとして、交流の一つとして考えるというのは、ちょっと私はそこは考えていませんでしたので、これはちょっとアイデアとして検討させていただこうかなと思いました。ありがとうございました。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　大賀慶一君。

［登壇］

○５番（大賀慶一君）　大変貴重な意見、ありがとうございました。是非とも斑蛇口湖を利用した本市の活性化といいますか、それを実現していくならばと思っております。今後ともよろしくお願いしておきます。

それでは、次の再々質問をいたします。

次に、施策の３点目の産業振興と新しい仕事と市場づくりについて述べておられます。その中の企業誘致について述べておられますが、菊池テクノパークについて、先ほども中山議員のほうからも質問があっておりましたけども、周辺自治体と密接な連携を図り、積極的な企業進出のＰＲ活動とトップセールスを行い、企業誘致の推進を図っていくとおっしゃられております。この菊池テクノパークは皆さんご承知のように、熊本県が現在県下で唯一造成を行っている工業団地でもございます。また、市長もさっきおっしゃっておられましたように、非常に立地的にもよい状況にございますので、将来の菊池の活性化、あるいは経済の浮揚に大きな鍵を持っていると私は思っております。造成工事やアクセス道路等も徐々に完成に向って進んでいるようでございます。地元民の一人として一刻も早い早期完成を望んでおります。

その中で、市長はトップセールスで企業の誘致を図ると言っておられますので、私も今日までの市長の経験、経歴あたりを考えますと、本当に期待をいたしております。そこで、市長の、先ほども述べておられましたけども、市長の大手企業での実績や海外で培われた戦略を大いに発揮していただきたいと思います。わが国の現在の経済状況では、非常に誘致に対しての厳しい面もあると思いますけれども、最後に改めまして、市長に企業誘致に対する強い思いやりや戦略がございましたらお

話をいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　大賀議員の先ほどのご質問にお答えいたします。「菊池テクノパーク」に対する私の戦略、思いということでございますけども。先ほど、地の利であるとか、私のこの何ていいましょうか、それにかける意気込みというものはお伝えしたところではあります。ですから、ここでは、展望といいましょうか、どういったところを具体的に狙っていくのかというふうな戦略的な話をちょっとさせていただこうと思いますが。

やはり、環境は非常にいい場所でもあるんで、できればたくさんこの火を燃やしたり、煙を出したりということではなくて、やはりクリーンなイメージのする産業がいいのかなというふうには、一つは思っておりまして。とりわけ時代の波に乗った産業というのが、これからの展望を考えた上でもいいと思いますので。やはり、その一つには環境関連の分野。これは一つの推測のシナリオですけども、これからはいろいろと環境配慮ということで、電気自動車とかですね。そういうニーズが大変増えてくるはずでございますので、電気モーターもそうですね。こういったふうな工場であるとか、それと関連する燃料電池といったようなところ。大きな意味ではこの一つ環境分野の関連。

それから、私どもは農業を育てていこうとしているわけですが、特に、最近では農業に企業が参入して、農業の工場化といいましょうかね。多様な気運も高まっておりますので、それを背景とするところの食品関連分野ですね。特に、菊池の場合は水が売り物でありますんで、食品関連分野については、比較的アピールしやすいんではないかという気がしております。

それから、高齢化が進展しておりますので、これから、ある意味では高齢社会に伴ういろいろな売り上げといいましょうかね。ある意味では非常に皮肉な話ですが、安定的に見込めるわけでございますね。ですから、医療・介護機器関連といったふうなところも比較的狙い目であるかもしれないと。

そういった戦略性を持ちながら、なるべく幅広にアンテナを高くということで、積極的にやってまいりたいと。それから何よりも、やはりこれまでの私の培ったネットワークとか、人脈というものが、特にトップダウンで判断するというケースが非常に多いと思いますので、これが生かせたら非常に幸せであるなというふうに考えています。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後１時４６分

開議　午後１時５５分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、中原繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　泉田議員に習いまして、市長、おめでとうございます。衷心よりお祝いを申し上げます。

まず、市長が就任されて２カ月足らず、どうですか、市長席の座り心地は。一言でもご感想をいただければ幸いです。

さて、市長はいわゆる５万１，０００人の市民が乗った菊池丸の船長。このあなたの舵取り次第では、菊池丸はあらゆる方向に行く可能性もあります。あなたが今後、菊池丸をどう進めていくのか、あなたの決意次第だと思います。さらに、この菊池丸の将来像をどのように描いておられるのか、併せてお聞きしたいと思います。

次に、選挙公約についてでありますが、先の市長選挙において、あなたのパンフレットをいただきました。そのとき私が一番に感じたことは、「わあ、よか男ね」と正直率直にそう思いました。よっぽど写真写りの上手な人だろうと。私と比較にもならない。私は写真写りは下手なんですよ。自分の写真見るのも嫌なんです。しかし、ほとんどの人が「中原さん、あたは写真よりか実物のほうがよか男ですよ」と口を揃えて言われるとですよ。これは嘘ばっかてわかっとってもですね、お世辞とわかっとっても、いさぎ悪い気はしません。

そこで、顔のことはどうでもいいですけども、この中に、いろいろこのままでよかっですか、もったいないとか、いろいろ書いて、６点にわたって掲げておられます。さて、これをどのようにして実現していかれるのか、工法といいますか、あなた流の手法をお聞かせ願いたいと思います。

それから、今回のあなたの施政方針を見てみますと、選挙のとき言われたことは、一言ももう載っていない。それは何かというと庁舎問題ですね。「この庁舎は、耐震リニューアルは別といたしまして、その増改築部分の間には道路があります」と。「よって、増改築部分については見直します」というようなことを討論会の席ではっきりと言われましたことを、私は聞いております。

そこで、どこをどのように見直されるのか、具体的によかならばお示し願いたいと思います。

さらに、先ほど、大賀議員のほうから、足湯ポケットパークについて質問があり

ました。ダブらんようにいたしますが、あなたは、ある討論会の席で、「ポケットパーク足湯については、多くの市民が反対をしておる」と。「よって、私はこの維持管理費だけでも５００万円もの菊池市民の税金を使っておる」と言われました。そして「私はストップをする」というふうに言われたからですね。その５００万円という金額、この数字はどこから出てきたのか。まず、その５００万円の根拠をお教え願いたい。先ほどの答弁では、「市民の意見を聞くために一時止めて、もう１回市民の意見を聞き直す」と言われました。これはもうさっき大賀議員が言うたように、有利な補助金を使って、市の持ち出しはほとんどなかったと、そういった事業です。さらにこれは、江頭市長が卒業されました九州大学の教授、藤原教授を中心にプロジェクトを立ち上げられて、その中には議員さんも何名か参加されております。そこで、あらゆる方面から議論・検討を重ねた結果、あのポケットパークというのができたんですね。それを一時ストップするなりということは、どのようなその後影響が出てくるのか。また、その対策として市長はどのように考えておられるのか、以上、お尋ねをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今、たくさんご質問いただきましたんで整理しますと、最初に私の描く将来像。それから公約実現の手法。それから、市庁舎に対する私の考え方。ポケットパークについての方針。こういったところであったかと思います。

最初に、私の将来像の話はパンフレットのところにも触れていたわけではございますけども、質問の数が多ございますから、端的に申し上げていきたいと思います、将来像としては、私、菊池市のこの自然力を生かして、ここから経済活動を作り出していこうと。それで元気にしていこうと。これが一番の戦略でございます。ですから、一つには儲かる農業ということに、いろんな工夫をしていこうと。それから、観光戦略の中で、にぎわいを作り出す仕組みを仕掛けて、それでいろんな観光客をよんで、経済活性化につなげていこうと。この２つが経済活性化面では大きな柱でございます。当然これは２つとも自然力を生かしていくということですから、併せてこの自然環境を守り、そこからまたエネルギーにもつなげていくような、そういう中期的な取り組みもしていきましょうと、こういう提言もしております。

それから併せて、まちづくりは人づくりそのものでもありますので、教育についても力を入れていきたいということを申して。

それから、やはり４市町村合併当初にいろいろな問題がありましたので、この菊池市が永続的に発展していくためには、今のにぎわいを作り出しながら、経済活性化を図ると同時に、公平公正な社会を作り出していく、そういうことを、努力を続

けながら一体化を醸成していかないかんと。

こういうふうなことで、私は、将来像について皆様にこれまでお話をしております。その結果、出てくる、私のほうが追い求める１つの共通の像を持っていたほうがいいもんですから、それを表現した言葉が「安心・安全の癒しの里」と、こういうことでございました。

それから、主な実現のための手法でございますけども、これももう私が公約の段階でかなり細かい具体的な手法まで触れております。農業に関しましては、安心・安全の食材ということをイメージさせるための菊池基準という工夫や、今度はそれを全国の市場につなげていくためのインターネットを駆使したインターネットショップ。それから、六次産業化のための情報機能の提供。それから、観光戦略につきまして先ほど来から申し上げている３つのプロジェクト「森の中のまちプロジェクト」、「日本一のさくらの里プロジェクト」、それから「日本一のホタル王国」。この３本柱で具体的に町づくりを進めていきましょうと。そのこと自体がにぎわいと観光につながっていくはずですと。こういうふうに考えております。それから、二番目の市庁舎問題でございますが、これも先ほど来から、皆様からほぼ同趣旨のご質問をいただいておる中でご説明しておるわけでございますけども、これまでご議論いただいて、議会を経て結論の出ている今のあり様については、これを尊重してまいると。その中で、無理、無駄が起きないように、そういった面での精査を行いますと。それから、市民の方の目線から見てどうなのかというフィルタは、これは非常に大事なことですんで、ワークショップ等々を通じて市民の方々にこれを見てもらって、意見を言っていただく機会をつくっていきましょうと。こういう意味で見直しをさせていただきたいというふうに考えております。

それから、足湯のポケットパークも、まず、これは恐らく誤解だと思いますが、私は５００万円という数字は存じません。説明会では２５０万円という数字は申し上げたことがございまして、これは原点は忘れましたが、当時これにかかる年間の予算額であったというふうに私は記憶しております。

さて、その足湯のポケットパークですが、これも先ほど来から申し上げているとおりで、特にこれは大賀さんのときでしたかね。ご説明しましたが、市民の声で、非常にあまり賛成されないほうの声が非常に多かったもんですから、それであれば１回これを止めてみて、その上で何か不便性があったりですね。どういう声が上がるかを聞いてみたらどうでしょうというご提案をしております。

以上が、今ご質問になったことに対する私の答弁でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　中原繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　市長、５００万円言うた、言わじゃったて、もうこれは平行線になりますから、もうこれ以上言いませんがですね。確か、あれは５００万円というのは概算で５００万円という数字も実際議会でも出たんです。だけん、それかなと私も思ったけども、それはそれとしていいです。まあ、市長、頑張っていただきたい。頑張ってください。

まずですね、やっぱり揺るぎない強い信念が大事なんです。市長。よろしくお願いします。

議長、おれはもうこっから先言うことなかばってん。いっぱい使わなんの。

終わります。ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　次に、城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　皆さん、こんにちは。えらい早く終わりましたので、ちょっとやらせていただきます。

まずもって、江頭市長、激戦を勝ち抜かれて、ご当選誠におめでとうございます。民間企業出身ということで、民間の痛みもわかり、また、海外の経験もされておりますので、この市長とともに市の再建に向けまして、私も市民の皆様の声を議会に届け、さまざまな提案をさせていただき、協力していきたいという思いでおります。また、補選を勝ち抜かれました荒木議員、柁原議員もご当選おめでとうございます。ともどもに活動できること、嬉しく思っております。今後ともよろしくお願いしたいと思います。

それでは、通告に従いまして、質問いたしたいと思います。施政方針の中に、「新市の一体感の醸成について」とあります。市長は、４地区間での相互信頼感の醸成に努める必要があると３点の課題を挙げられ、対話を重視されていると思っております。私も、一般質問で合併した３月２２日を忘れまいということで、毎年、記念のイベントをしてはどうかと。また相互の交流で信頼の回復、また信頼をその場で深めるんではないでしょうかと質問いたしました。スポーツの交流でもよし、老若男女集える催しでも、とにかく交流が大切と考えます。今議会の一般質問の今期を見ておりますと、江頭市長になり新しい風が議場に吹いている感じがいたします。今がその相互理解のチャンスと考えます。来年が合併して１０年になりますので、市長の思いの中に入れてもらえればと考えますが、いかがでしょうか。

次に、「癒しの里づくり」による観光戦略についてのところでお聞きいたします。桜の木について触れておられます。「さくらの里、里親制度」や、「日本一のさくらの里プロジェクト」など打ち出されております。私は４月、ちょうど市長選の最中

ではございましたが、福島県の会津若松と喜多方市へ泉田議員と視察に行ってまいりました。会津若松と喜多方市の概要につきましては、泉田議員が紹介されましたので割愛させていただきます。その折、三春町の滝桜を見学してまいりました。さすがに日本三大桜の一つと数えられる桜だけあって見事でした。私たちが見たときは、三分、四分咲きほどでしたけども、ピンク色が強く、とてもきれいでした。満開でもないのに数多くの方が訪れておられました。また多くの出店も出ておりました。商工会の人や地元の高齢者の方々が、地元の食材を販売されておりました。それから、この周辺には数多くの桜がありました。大径木も多くありました。また近くにはダムもありました。何か竜門を思うようなところでございました。たかが桜、されど桜と思い知らされました。後世に残すためにも、市長の構想は実現していただきたいと思います。かならずや市の活性化にもつながると思います。

次に、本市は市の山を多く保有しておられます。この森を利用しない手はないと思います。しかし、日本の森は、国有林をはじめ、私有林は大概のところが鍵をかけてあります。入れなくなっております。北欧の森では、森の中をきれいに整備し、自由に出入りされて、市民に開放されているそうです。市長も趣味の一つがマウンテンバイクと言われておりました。サイクリングロードを整備したり、森林浴や森林セラピーなど自然をうまく利用して、市の森を生かすことを考えませんか。お聞きいたします。

次に、喜多方市の取り組みを紹介したいと思います。喜多方市は５つの市町村が平成１８年に合併して出来た市でした。そこで行われている事業で「きたかた喜楽里博」と銘打って、合併後の各地域の観光情報発信の一元化と町づくり、地域おこしによる地域間交流の活性化と観光客増を目指して行われておりました。ないものねだりではなく、あるもの探しをしようという方針のもと、各地の宝を探したり、各地域のきらりと光る個性的な取り組みをまとめて、喜多方市は「楽しさいっぱいの里」というメッセージを全国に情報を発信しようという取り組みが「喜楽里博」だそうです。毎年９月から１１月までの３カ月間、毎日どこかの地区で開催されているそうです。「行ってみて、食ってみて、見てみて、触れ合って、やってみて、お徳限定情報グリーンツーリズムトライツアー」など、さまざまなことをされているようです。何か構えてするのではなく、日常していることや、地域のちょっとした祭り、催し物、遺跡の見学、歴史的建造物の見学、グルメ、そして田舎に泊まって体験するなどなど、さまざまなことをされているようです。また、この３カ月以外でも、４月、５月、６月、７月は「花喜楽里」とか、「春喜楽里」とか銘打って、花に関するさまざまなイベントをされているようです。また、８月中旬から９月上旬は夏祭りと、本当に精力的に市の活性化を思い、合併した各地区ごとのことを思

い、活動をされているなと感じました。市政にも参考にならないか紹介させてもらいましたが、喜多方市役所で説明を聞いても実際に見る時間はありませんでした。これ以上うまく伝えることはできません。よければ市長、職員を派遣して、実際に体験してもらい、見てもらえればどうかと思いますが、いかがでしょうか。お聞きします。

そして、最後に「支えあう安心・安全な社会」の中で、この中に、「べんりカーやあいのりタクシーの運行を地域の実情に合わせ行っているが、路線バスの維持、あいのりタクシーの区域限定などについて、効率的な仕組みを構築するための利用状況調査を行ってまいります」と言われております。特に町部の高台に住まわれている高齢者の方々は、ベンリカーを利用しないと買い物も行けない人が多くおられると思います。最近は、便数も減っていると言われておりました。何で減らすのでしょうか。それと、停留所に椅子がなく、立って待たなければならない、椅子を置いてくれないかという相談もありました。どうか言われているように、利用状況と停留所の状況を調べてもらえませんでしょうか。お聞きしたいと思います。

また併せて、あいのりタクシーの状況も調査してみてください。会って話しを聞けば、いろいろと不満などが聞けると思います。状況を見てもらい、効率的な仕組みを構築し、利用者の見方で判断していただくよう、よろしくお願いしたいと思います。

以上、１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまの城議員からのご質問。まず一つには、スポーツを活用した一体感の醸成の件。それから、桜あるいは森といったふうな癒しの里づくりについて。それから交通弱者対策ということでのご質問であったと思います。

最初に、旧４市町村の一体感ということで、スポーツのお話をされたわけですが、この一体感には交流が非常に大事であるというメッセージというふうに、今、お聞きしましてですね。改めて、私もそう思っておりましたので、その意を強くしたところでございます。昨日も工藤議員のご質問等にもございましたけども、そこで申し上げたとおり、スポーツの力というのは、非常にやはり大きいものがあると思っておりまして、それを活用して、この４地域の間での一体感を高めるためにですね。これは、一つの試みでありますが、本年の１０月にはミニバレー、グラウンドゴルフということでの大会を考えております。また、このほかにもきっといろんないいアイデアがあることだと思いますので、これは議員様をはじめ、市民の皆さんからいろんなアイデアを募っていきたいと思います。とりわけ来年度は合併１０周年と

いうことで、非常に訴求のしやすい区切りのいい年でありますんで、これは記念事業と称して、スポーツあるいは各種イベントなど交流を深めるための機会を活用しながら、積極的に地域の一体感の醸成に努めていきたいというふうに思っております。

それから二番目に、桜についての言及もございまして、とりわけ２０１４年に「全国さくらシンポジウム」が菊池で決まったということは、これはまさしく本当に天恵であろうというふうに思っているんですね。桜を言い出したときに、ちょうど願ってもない機会が全国規模のシンポジウムがこの地で行われるということは、本当に幸せなことでございますので、このチャンスを本当に生かしたいというふうに思っております。そして、それを通じて特色を出していきたい。先ほど、三春の滝桜のお話がございまして、これはどちらかといえば、この一本の大きな木が一つこの話題性を持っているわけですね。菊池の場合は、そういう一本桜というものはございませんので、今度は逆に、じゃ、市全体が桜であるというふうなところで特色を出していこうと、こう考えた次第です。幸い城山公園だけではなく、七城、泗水、旭志も含めて、皆さん桜がお好きで、いろんなところに代々桜を植えていらっしゃったというこの基盤がありますんで、それを生かして菊池市全体を桜で埋めようじゃないかと。そこに１つの特色を出していこうというふうに思っておりますんで、インパクトがあるような形で、市民一丸となって仕組みに取り組んでいきたいというふうに思っています。

それから、森の活用について大変興味深いアイデアを出していただきまして、実は私が海外におりましたときに、特にドイツ人とか欧州人は森歩きというのが一番のレクリエーションなんですよ。土日になると、大体森を歩いておりますね。歩ける森なんですよ。ですから間伐が非常に行き届いていまして、暗い森ではないんですね。明るい森なんですよ。なるべく自然を残しながら、歩くのに危険とか不便がないように工夫してあるんです。これが、人間性を取り戻す上で一番のいいやり方なんだということが歴史的に定着していまして、森の周りの駐車場には車が土日はいっぱいになるぐらいです。ですから、私は、おっしゃったこの森林セラピーなども一例でしょうけど、この歩ける森、遊べる森ということになれば、必ずそこにバードウォッチャーとかいう人たちも呼び込めるでしょうし、別途提唱しておりますフットパスともつながってくるんですね。ですから、野道を歩いたり森に入ったり、または野道から隣の集落に入ったりということで、非常に変化のある、魅力のあるフットパスができてくるんではないかと思いますので、今日いただいたアイデアも併せて一緒に検討していきたいというふうに思います。

それから、喜多方市の取り組みについては、大変示唆に富むやり方で、このさま

ざまな取り組みがなされておりますけども、町づくり、地域おこし、あるいは地域間の交流、それから観光客をどう増やすか、それぞれにおいて、当市の持っている課題と本当に共通するものがあるなということで、先行して努力をなさっているいい見本になるなというふうに思いましたんで、是非スタッフの派遣も含めて、現地視察も検討してまいりたいというふうに思います。早速調査は行ってみたいというふうに思います。特に何か構えてやるんじゃなくて、日常やっていること、地域のちょっとした祭りですとか、催し物などを、それを使っていいんだということは非常に参考になった次第でございます。

それから、交通問題でございますけども、私も同じような問題意識を持っておりますので、特にご高齢になって非常に困っていらっしゃる方がいらっしゃるわけでございますんで。一方で、高率的な経費ということも、もちろん考えなきゃいけませんので、まずは足元の実体をよく調査して、それから、さまざまな策を考えていきたいというふうに考えます。それから、椅子の件については、早速ちょっと調べてみておりますが、車道とか歩道の幅員の問題もあるようでして、これまでライオンズクラブのご好意により、ベンチ等は設置されておるんですが、そうでないところというのは、今言ったような車道等の幅員の問題等で、物理的に少し設置する条件が整わないという事情があるようでございますので、含みいただければというふうに思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　今回は始めてでありますので、再質問はするようにしておりませんので、本当によろしくお願いしたいと思います。

次に、子ども医療費ついてお伺いしたいと思います。義務教育まで完全無料化にしてはということで出しております。

平成２３年３月第１回定例会におきまして、その年の４月から実施された中学生まで医療費の無料化拡充について質問いたしました。中学生は一部負担が生じております。通院月額１，０００円、入院月額２，０００円の負担が必要です。「完全無料化にした場合と一部負担の差額はどれぐらいの金額になりますか」と、その際お聞きしております。平成２３年度時点で１学年あたり７００万円として、３学年の２，１００万円の医療費が生じており、市の負担が５８１万円増えるとのお答えでした。周辺自治体の状況を調査してみますと、山鹿市は現在小学６年生まで医療費が無料ですが、「来年度２６年度から、中学生を飛び越して高校生まで医療費を無料にする」と、市長が言われておりますので、執行部は頭を痛めておるそうですけ

ども、できるんではないかと思っております。また、合志市は小学校６年生までのままのようですね。大津町は今年１０月から中学生まで医療費は無料で、町以外の医療機関にかかっても立て替えておく必要もないような条例を昨日出されたということで、今日新聞報道に載っておりました。それから菊陽町は現在中学生まで医療費は無料だそうです。しかし、町以外の医療機関にかかった場合には立て替えておく必要があるということです。熊本県全体を調べたわけではありませんが、本市が他の自治体に先駆けて始めた子どもの医療費の充実が影響を与えてきたためと考えられます。こういう周辺が充実していったということは。しかし、今になれば他の自治体も本市を上回る充実をしてこられておられます。遅れをとっているように感じます。そこで医療費の無料化に至る経過と財政の状況、また子育て支援に対する効果はどうなのか、お聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えします。子ども医療費助成事業は、昭和４８年各市町村に制定されていました「零歳児医療費支給制度」までさかのぼることができます。この制度は、零歳児の疾病等の早期治療を促進し、健康の増進と健全育成を図るため、医療費の一部負担金を全額助成するものでありました。

その後平成４年に、３歳未満児を対象とした「乳幼児医療費助成事業」となり、対象年齢を引き上げながら改正を行ってまいりました。平成１７年の合併当初も、満６歳、いわゆる就学前の乳幼児を対象に医療費の一部負担金を全額助成しておりましたが、平成１９年４月から小学校３年生、平成２１年４月から小学校６年生までと対象年齢を引き上げてきた経緯がございます。さらに、平成２３年４月には「子ども医療費助成事業」に事業名を変更し、対象年齢を中学３年生まで引き上げるとともに、中学生の医療費の一部負担に自己負担限度額を設定し、現在に至っております。

次に、子ども医療費助成事業の状況につきましては、平成２４年度は、対象者数６，１８９人、助成件数９万５，４２０件、助成額１億７，４７６万８，０００円となっております。そのうち中学生につきましては、対象者数９４１人、助成件数６，５０８件、助成額１，２８６万９，０００円となっております。助成額の割合で、全体の７．３％です。現行制度に移行する前年の平成２２年度と平成２４年度の子ども医療費助成額を比較いたしますと、１１．９％の伸びを示しており、金額で１，８５８万８，０００円増加しています。

最後に、効果についてですが、子ども医療費助成制度により、子どもの保健対策が充実し、子育て世代の経済的負担が軽減され、安心して子育てができる環境の一

つが整えられたと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　再質問させていただきます。市民の皆さんと話をする中で、子どもの医療費無料についてはとても感謝されております。市外に住む方からも「菊池は進んでいますね」と賞賛の声をよく聞いております。子どもを生み育てる環境は整ってきていると私も感じています。しかし、このままでは遅れをとるんではないかと思います。しかし、財政的にも平成２７年度から平成３１年度まで５年間で段階的に交付税が減額されるようで大変かとは思いますが、子育てしやすい町づくりで、若い世代が定住しやすい町に、また少子化対策と同時に人口増加につながるものと信じております。

平成２３年３月の質問時に前市長は、「２年おきに平成１９年、平成２１年、平成２３年ということで段階的にやってきております」と。「今後につきましても、この一部負担をお願いしながら、推移を見ながら今後の検討課題として取り組んでいきたい」と回答されております。今年が見直しの２年おきにきていると思います。

市長の施政方針の中で、教育と子どもの健全育成についての項目には、子どもに関する部分は入っていなかったと思います。市長が言われるように、「菊池は宝の山だ」とよく言われます。その中でも、子どもは最大の宝と思います。菊池の将来を担う人材と考えます。そこでどうでしょう。将来に投資する思いで、中学生までの完全無料化にしてみませんか。お伺いしたいと思います。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　子どもの医療費無料化についてでございますけども、今おっしゃったように、近年２年刻みということで、かなりのピッチで負担金の全額助成というのが進んできている状況でございます。これから先でございますけども、今、ご指摘のあったように間もなく市の交付税のほうの算定基準が変わってまいりまして、ある意味では財政収支仕組みが構造的に変わっていくというところを迎えるわけでございますね。そういう中で、医療費については国民健康保険、社会保険問わず、毎年右肩上がりで増加しているということもございますので、そういう中で、実際に本市の子ども医療費助成事業自体も支給額が毎年増加してきております。

一方で、おっしゃる市町村同士の競争環境というのも熟知しているところではありますけども、何分その入りのほうが、これから構造的な変化を起していくという

ところをよく見極めなければいけないというふうに思っておりますので、子ども医療費の助成については、今しばらくその医療費の推移というものを少し見守りたいというふうに考えております。

それから、実は保護者の方からも一部ご意見があったこともあるんですが、実は、この子どもの健康という問題に対して、どういう形でお金を使っていくのが一番効果的かという見方もありまして、医療費に全額注いでいく。これは、要するに健康が損なわれたあとでございますよね。後追いで、こうやって出していくのがいいのか、それとも未然に防ぐために、より丈夫な体をつくる、健康をつくるという意味で、別途、私は食育のほうで学校給食の素材等を何とか安心・安全食材にできないだろうかということを、これから検討していきたいと思っているわけですが、そちらの方に、例えば助成をしていくのか、この費用対効果がどうなのかという観点もあろうかと思いますので、併せてそういったところも、これから研究してまいりたいと思っているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　先ほど言いましたように、子どもは宝ですので、市長言われますように、食育で不健康にならないように、病院にかからないようにというのも大切だと思います。しかし、なってしまったら、もうこれは今の子どもさんのほうが、かえって弱いと思ってですね。前は、土いじりから何からやって、本当に泥も食べてという中で育っておりますので、強い育ちができておりましたけど、今はちょっと違うんじゃないかなという思いがしますので、充実できればしていただきたいという思いでおります。また折々この問題は出していきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

次にいきます。小学校跡地利用についてということで、水源小学校跡地について質問したいと思います。このたび水源小学校跡地へ美少年酒造が移転進出すると話を聞き、願ってもないチャンスと、好意的に受け止めました。廃校になった４つの小学校の中で、一番再利用が難航するだろうなと私は思っておりました。この会社の進出計画の説明の折、質疑、また一般質問の中で、さまざまな意見が出ておりますが、しかし、せっかくの話ですから、相手の会社の要望も聞きながら、１０月操業できるよう市も後押ししてやるべきと考えます。これを逃したら、あとはないと考えても過言ではないと私は思います。執行部もこの機会を逃がさないようにと、また市長も、「タイミングも重要」と昨日の一般質問の中でも言われております。最後まで抜かりなく実現されていただきたいと思います。

民間が進出するということは、なみなみならぬ決意がなければできないと思います。これは市長も民間出身でありますので、おわかりになると思いますけども。実際、私たちがそう考えた場合には、資金繰りからいろいろ考えながらやるわけですけれども、これはやっぱり１つの賭けでありますので、それに対しては、市もある程度の痛みは感じますけども、後押しして、やっぱり活性化につなげたほうが、私はいいと思います。

そういう思いで、次に出しておりますのが、水源小学校へ向う道路のアクセスについてであります。造り酒屋は製造工場ですから、原材料や製品の運搬に大型車が行き来するのではないかと考えます。ここに至る道路は、どこから行っても道路が狭く、大型のトラック通行もままならないと思います。木庭から原本村へ向う道路も、河原から向う道路も、神前地区が狭く通りにくく、グリーンロードから日生野を通って行く道は、県道も市道も狭くて大型車の通行はまず無理です。どこから行っても大変な道です。数年前には日生野地区でトラックが立往生してしまい、クレーン車が来る事態になったことがあるそうです。私が考えますに、河原から上がっとります道を、神前地区を早く整備し、日生野地区の市道を整備し、グリーンロードへ出る道路を整備すれば、一本道がつながると思います。近隣の住民の方々と通行でトラブルが起きないとも限りませんから、早く整備していただけないかと思いますが、いかがでしょうか。

１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　城議員のご質問にお答えいたします。水源小学校の跡地についてのご質問だと思いますが、まず、私のほうから水源小学校跡地の活用につきまして、経過を申し上げさせていただきたいと思います。４月と５月の議会の月例会におきまして、ご説明をさせていただいておりますが、改めましてその内容をご説明させていただきます。

今回の株式会社美少年の進出の発端としましては、平成２４年１２月に会社を合理化し、時代にあった酒造りを行いたいということで、本社と工場を菊池市へ移転したいとの相談がございました。移転先としましては、当初は市内の旅館跡地等を検討されておられましたが、都市計画の用途変更等の手続きに期間を要することが障害となり、計画どおりの移転が困難になることから、同時に閉校した４小学校の調査も行われました。その結果、水質がよく、良質な米を調達できる場所であることの理由から、水源小学校を移転先候補として選定され、進出要望書が平成２５年４月１０日に出されたところでございます。

一方、庁内での検討や、水源小学校校区の代表者で組織されます検討会を昨年１２月に発足し、学校跡地の協議を行ってきております。水源校区では、既に東中学校跡を「きくちふるさと水源交流館」として活用されておられますので、水源小学校の跡地利用につきましては、市に一任したいという意向をいただいたところでございます。その後、地元の対応につきましては、４月１６日に検討会を開催し、株式会社美少年の進出計画を提示し、地元意見の取りまとめをお願いしたところでございます。５月１６日の次の検討会におきましては、地元の意向をお伺いして、主な意見としましては、「とてもいい話なので企業には是非来ていただいて、頑張っていただきたい」という、「そして水源地区をＰＲしてほしい」などとのご意見がございました。また、地元雇用や原料となる米を地元で仕入れてほしい等の要望がございました。このように、特に反対もなく、企業の進出はコミュニティの活性化、地域経済の発展などに寄与するため、誘致を行う方向で進めてもらいたいとの総意でございました。

月例会後の進捗としましては、５月３０日に企業の関係者に来庁いただいて、相互協力や円滑な事業運営を行うため、水源小学校の譲渡に関しまして、仮協定と仮契約を行ったところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　それでは、道路のアクセスについてお答え申し上げます。水源小学校跡地へのアクセス道路につきましては、県道の日生野隈府線と二重峠菊池線の２路線が考えられますが、両路線ともに道路幅員が狭い区間がございまして、大型車両の通行には支障を来たしていることは認識しているところでございます。現在のところ２路線とも県のほうで改良工事を進めている状況でございます。大型車両の通行を考慮いたしますと、少し遠回りにはなりますが、国道３８７号の篠倉から菊池中央地区農免道路で整備しました市道篠倉原本村線を利用するルートが最適ではないかと思っております。

県道の整備に関しましては、今後も県に対し、未改良区間の早期完成に向けた要望を行ってまいりますとともに、接続します市道につきましても検討してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　城典臣君。

［登壇］

○４番（城　典臣君）　検討してまいりたいということで、今ありますけど。

私は、この企業が来るのが造り酒屋だったから、本当によかったなという思いで、しっかり後押ししたいなという思いが１つありました。菊池には２つの造り酒屋が昔はありまして、風情のあるところだなという思いを、私はしておりましたし、また、うちは酒屋をしておりましたので何か関連もありまして。本当にいい時代だったなという思いはします。またその中で、今度そういう造り酒屋の話がきて、私はよかったなと思います。またこれが山手にできるというのが、またいいことだなという思いがします。しゃんむり平地になくても、かえってこういうのはあんまりありませんので、山手にあるというのが、また素晴らしいんじゃないかなという思いがして、私はしっかり応援していきたいなという思いだったところでありました。

また、結局事業をやれば必ず最後は物流になるんですね。ですから、できたものは運ばないといけないということで、先ほどアクセス道路のことを言いましたのも、やっぱり道路がなければ、市長も言われました企業誘致に対してもそうです。やっぱり道路が整備されていなければ、来たい企業も来ません。そういうことで、今度はあとさきになっておりますけども、できることなら１年でも早く整備してあげて、地元の人たちとのトラブルもないようなことを考えたほうがよろしいんではないかなという思いで質問しておるところであります。

ですから、最後に、市長にとにかくこれに対する思いをお聞きして終わりたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　この水源小学校跡地利用に関する思いということで、よろしゅうございますか。先ほども別の場で申し上げさせていただきましたんですけども、本来は戦略的に、この戦略を練り上げた中で吟味というのが理想的でありますが、今回は、確かにこのお酒の話が私どもに、非常に幸運にも接することができたわけでございますけども。そういう中にあっても、やはりこれからの菊池の発展とか、特に中山間地の特性づくりですとかね。永続的な発展とかを考えた場合でも、非常に今回のお酒のお話というのは、何ていいましょうか、筋のいい案件であったなというふうに思っております。既に申し上げましたけど、やはり水処、米処において、お酒がないというのは観光立国を名乗ってやっていく上でも、実は非常にちょっとさびしいことだなと思っていたところですから、こういう話がきたこと自体を非常に喜んでおります。ですから、これを是非、核にして、またいろんな膨らみを持たせていきたいと思っております。昨日でしたか、もう少しちょっと触れました。お酒とくれば、これはもうやっぱり食文化ですから、幸い敷地もございますんでですね。是非、その進出企業のほうには、併せて次のステージとしては、食経営につい

ての付属的な施設も考えていただければということで、関心はあったような感じがしております。

残りの地区もまだございますが、これはまさにまだ時間がございますんで、地元の方とよく協議しながら、じっくりと本当にその地域に合った、それから住民の方々の意向に沿ったものを考えていきたいというふうに考えております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後２時５２分

開議　午後３時０２分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　議席番号１７番の隈部でございます。本日最後となると思いますが、通告に従いまして一般質問をいたします。

江頭市長におかれましては、市長就任誠におめでとうございます。５万１千余名の市民の皆さんの期待が寄せられております。合併して９年目、前市長が築かれました基礎の上に、新しい菊池に風を起して、市民とともに町づくりに取り組んでいただきたいと思います。

また、市議会議員の補選を戦い抜かれました柁原議員、荒木議員おめでとうございます。同僚議員として菊池市のために互いに頑張りたいと思います。

昨日から、図書館についての論議が行われていますが、私は先日伊万里の図書館と武雄の図書館を視察いたしました。また数年前、長野県の川上村の２４時間オープンの図書館を視察の際にお聞きをいたしました。本市の泗水の図書館にも時々行きますが、あたたか味があって、それぞれ特色があります。ただ図書館が本を変えて読む、調べものをする機能から生活の一部である機能へ、図書館が町を変える機能へ変化していることがわかりました。

武雄市の場合、人口５万１，１９８人で菊池市と同じくらいでございますが、説明していただいたのは、「つながる部」のフェイスブック・シティ課でした。これからの武雄市は、共感、共に感じる、共感発信でつながる武雄市を目指すということでした。フェイスブックを使った情報発信ということで、武雄市ＳＮＳ、ソーシャルネットワーキングサービスの活用をされているということでした。平成２１年に武雄ブログを開設され、平成２４年４月にフェイスブック・シティ課を設置、フ

ェイスブック、全員アカウントを取得されているそうです。フェイスブックの採用により、コミュニケーションの活性化、情報提供の機動力を高める、低コストでＳＮＳを導入できる。これは、フェイスブックは無料で利用できるのを使って、ソーシャルネットワーキングサービスはできるということでした。月間アクセス数は、１日ホームページのときには５万件から、フェイスブックページになって約３００万件、６０倍に増えたそうです。子どものうちから、最新の情報通信技術に慣れ親しむことを目的として、公立の小学校としては、はじめてｉＰａｄを導入されているそうです。ご承知のように図書館の運営方法も革新的なレンタルビデオ大手の「ツタヤ」を運営するカルチャーコンビニエンスクラブの運営を委託され、４月に新装オープンし、新たな観光スポットに発展しているそうですけれども、人気の理由として、年中無休で朝９時から夜９時まで開館、ＣＤ・ＤＶＤのレンタルや本の販売を行うコーナーも設置されておりました。また、コーヒーチェーンのスターバックスも営業し、そこで買った飲み物は館内のどの席にも持ち込みが許可されておりまして、４月１日の開館から６月２日までの２カ月間に、来館者は１９万７，０００人、前年比で４．７倍。それから貸し出し冊数も１０万７，０００冊と、前年比２倍に増えているそうです。計画では開架図書数は１０万６，５００冊から２０万冊、職員数が２３名から５４名、年間入場者数が２５万６，０００人から５０万人を見込んでおられるそうです。また、年間貸し出し数も３５万２，０００冊から６８万８，０００冊ということでした。しかし、菊池市は菊池市にふさわしい、菊池らしい図書館を提供することが必要だと思いました。

それでは、通告に従いまして、質問をいたします。まず一番目に本市のグランドデザインについて４点、二番目に農業の活性化について３点、本市の歴史をどのように活用するかで４点、質問をいたします。

前市長は、「グランドデザインは、菊池市の総合計画の中でいう町づくりの理念である豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまちである。そして、「将来像については水と緑をキーワードに、本市の様子を取り入れながら３つの町づくりの目標である」を掲げ、「それぞれの地域の特色を生かした町づくりを計画の中に取り組んで、市民の皆さんと進めていきたい」と申されておりました。

江頭市長が描かれますグランドデザインにつきまして、これまでの経緯や今後の総合計画の取り組みについてお伺いをしたいと思います。また、地域の活性化をどのように進めるかという点におきましては、例えば地域活性化の助成金による活性化、地域福祉による活性化、各エリアによる菊池人育成塾による人材育成による活性化、それから職員の地域担当制による取り組みなどあると思いますけれども、地域の活性化についてお伺いをいたします。

以上、第１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　隈部議員の本市のグランドデザインについてお答えいたします。現総合計画が平成２６年までとなっており、今年度から次期総合計画の策定に取り組むことといたしております。その策定においては、現総合計画に沿ったこれまでの取り組みを検証するとともに、市長の方針も踏まえ、市民の皆様のご意見を伺いながら進めてまいります。

次に、地域活性化につきましては、地域づくり推進補助金の交付により、地域の自主的な取り組みを引き続き支援してまいります。地域づくり施設整備事業、地域づくり活動事業、人材育成事業、菊池遺産の保護及び活用に関する事業の４種の事業に対し、予算の範囲内で補助を行ってまいります。この補助金により、市民の皆様が自ら考え、自ら実践する地域づくり活動を推進してまいります。また、昨年総務省の事業で行われました地域づくりを自らの手で企画し、実践できる人材を育成するための域学連携地域づくり人育成支援事業が地域福祉の観点から、「きくち地域づくり人育成塾」として行われましたように、福祉をはじめ、教育、観光、農業など、さまざまな面から地域づくりのアプローチが可能であり、そこには、それぞれの分野での課題解決や活性化への糸口が存在すると思います。今後も国・県等の施策等を注視しながら、総合的に情報提供や人材育成ができる環境を整えてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　再質問をいたします。総合計画の策定におきましては、現総合計画の取り組みを検証し、市民の皆さんの意見を伺いながら進めてほしいと思います。また、地域の活性化につきましては、市民が自ら考え、自ら実践する地域づくりの環境をつくってほしいと思います。また国や県との施策等を注視しながら、情報提供や人材の育成が行われる環境を整えてほしいと思います。

職員の地域担当制についてお伺いします。私は、これまで職員の皆さんが、地域で活動するために、職員の方々の地域担当制度について質問をしてきました。そのときの回答では、区長と職員にアンケートをとって、方向性を決めるということでした。その結果と今後の動向について、まずお伺いをいたします。

次に、市民広場構想につきまして、市民広場の整備について、基本構想・基本計画（案）が全員協議会の中で説明をされました。今後の取り組みとスケジュールに

ついてお伺いをしたいと思います。また、隈府ばかりよくなるという声がありますので、菊池市民の理解が得られる方法をどう考えておられるか、お伺いをしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　再質問にお答えいたします。平成２４年の６月議会での一般質問を受け、昨年９月に各区長の皆様方と職員に対し、地域担当者制度に係るアンケート実施したところでございます。区長に対しましては、地域の制度に対する意向を調査しましたが、回答率は２１１人中１０２人と回答率４８％でございました。質問の中で、地元の職員への相談状況とその回数をお聞きしましたところ、７４％の方が「よく相談を行う若しくは時々相談する」との回答でございました。「地域の活性化には職員の協力は必要か」との問いに対しまして、７８％の方が必要と思うとの回答をいただきました。

次に、職員アンケートでは、４１３人の職員から提出があり、まず、「現在の区の行事に参加しているか、区の役員を経験したことがあるか」など、現在住んでいる地元への貢献度を尋ねたところでございます。その結果、８０％の職員が区の行事に参加しており、５７％の職員が区の役員の経験があるという結果になりました。

「地域の活性化には、職員の協力は不可欠と思うか」との問いに対しては、９３％の職員が、「必要と思うもしくは少し思う」と回答したところでございます。

自由記入欄では、区長からは「地域担当者制度があれば助かる」という意見の一方、「一番重要なのは、公民館活動などの区の行事へ積極的に参加することである」との意見もいただいたところでございます。また、職員からは、「行政職員として地域に携わり市民をサポートすることは当然であるが、過剰に職員頼りになれば、地域力が衰退する可能性が考えられる」など、制度制定への不安に対する意見も多くございました。それでも、このアンケートの結果といたしましては、本市の職員の大半が地域の一員として活動していることが判明したところでございます。このアンケート結果を分析しました結果、ほかの自治体が実施している地域担当者制度ではなく、地域活動を行っている職員の自主性を伸ばすことにより、本市独自の地域の活性化を図っていくことが適当であると考えています。

２点目の市民広場再整備計画につきましては、今年の２月に菊池市民広場再整備協議会から提出されました報告書をもとに、基本構想・基本計画（案）を作成いたしました。今年度につきましては、この基本構想・基本計画（案）のコンセプトに基づきまして、商業施設や温泉施設などの収益施設の需要予測や収支予測、また民間事業者の参入可能性等につきまして、施設の管理運営を含め、より効率的・効果

的な事業実施に向けた事業手法の調査を行ってまいります。

また、広く市民の理解が得られるかということに関しましては、公平公正な仕組みづくりの一つとして、市民の皆様の声を聞く審議会、委員会などの設置を検討し、市民の皆様への説明責任を果たすよう努めてまいりたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　職員の方々の地域担当制につきましては、菊池では菊池らしい地域活動を行っている職員の方々の自主性を伸ばすことにより、本市独自の地域活性化が図られるかと思います。また、市民広場の整備、基本構想・基本計画（案）につきましては、議員で県立大学の蓑茂先生からお話を聞いた際に、「菊池は熊本市の奥座敷で、菊池全体を庭園や公園として整備してはどうか」というような話をされました。清流公園や鴨川公園、前川公園、泗水の現在できております富の原や桜山の公園、それから旭志は鞍岳一帯の公園の一つとして、そういう構想の中で、市民広場の整備を位置づければどうかと思います。市民の方々への説明責任を果たすよう努めてほしいと思います。再々質問を行います。

江頭市長が、描かれる本市のグランドデザインにつきましては、何人かの議員さんが質問をされましたが、「住んでよかった」「住みたいまち」というのをグランドデザインの中でどう考えておられるか、お伺いをいたしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　私の考える本市のグランドデザインについてというご質問でございました。先ほどこれまでのグランドデザインの中でと、「水と森」でございましたかね。といったふうなキャッチフレーズで、これまでこられたというふうに聞いておりますが、私、人それぞれの解釈があるのはあるんだと思いますが、私はグランドデザインというのを、言ってみれば基本設計図のような形で考えていまして、詳細のところを除いた骨格といいましょうかね。そういったものでお示ししたいと思っているんですが。そういう意味では、これまで使っております「森の中のまち」とか「さくらの里」とか、「ホタル王国」というのは、これはある意味、これがデザインというよりは、これは骨格をつくった上に着せる洋服みたいなもんじゃないかと思っているんですね。ですから、その骨格にあたるものというのは、やはり菊池のこの自然を生かして、一つには農業で先進的な取り組みをやる。ほかにないような安心・安全の農業に特化したですね。そういったものを先進的に進めているようなところで、プラスそこに同じく自然と、それから当市の持っている歴史と

文化というのがございますから、この自然、歴史、文化をミックスした形で、本当に魅力のある、行ってほっとするような環境をつくって、それを観光の大きな柱にすると。そういう、それもある意味ではほかにないような町だと思うんですね。「森の中のまち」ということですから。そういうふうな非常に差別化といいましょうか、特色を出して、農業、観光ということで、まず打ち出していこうと。それが大きな骨格の部分でございますね。こういうことをやっていきますと、当然、自然を本当に守りながら、うまく使っていくということが必要になってきますんで、自然環境ですね。守りながら生かす、これも先進的な取り組みとして自然エネルギーのところで、小水力発電の基地として、これを組み合わせていくことで、いわば緑の力でもって、この市を作り上げていこうと。それが常に農業でも観光の中でも、あるいはその自然エネルギーにおいても、新しいモデルとか、新しい取り組みというと常に菊池市がでてくるような、そういうふうな先進モデルになりたいと思っているんですよ。それを通じてですから、いろんな発信につながっていくと思いますんで、豊かな緑、それから常に市民の知恵を生かして、それが発信力につながっている。そういうふうな町づくりをしていきたいと思っています。ですから、それをイメージで表すと、しばらくすると、ふっとまた行きたくなるようなですね。あるいは、町や自然の中に身を置いて、ほっとやすらぐような、住んでいる人も「本当にここに住んでよかった」と思えるような、そういうふうな意味での自然と文化と歴史が調和した、この「癒しの里」というのをつくっていきたいと思っています。そういう意味で、今、お話の中に、町のあらゆるところに公園化していくんだというお話ございましたけども、ある意味、菊池市全体をほっとするような公園都市にしようというのも一つの表現かもしれないなと、今聞いていて思っておりました。一つちょっと、このグランドデザインというとどうしても、ややイメージの部分にもう入ってきますので、なかなか表現がしにくいところで、ご質問であるんですが、私の今考えている大きな骨格分というのは今言ったようなことでございます。

そういうことで、よろしいでしょうか。失礼いたしました。

○議長（山瀬義也君）　隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　市長の描かれるグランドデザインをお聞きして、何かしら夜明けがしたような感じがいたします。ありがとうございました。

二番目の質問に移りたいと思います。農業の活性化について３点ほど質問をいたします。本市の農業の動向につきましては、平成２３年の９月定例会で質問をしましたが、農業就労人口、販売農家戸数、認定農業者数、集落営農数、新規就農者の状況等、変化したところをお尋ねをしたいと思います。

また、自立経営を目指すための対策や耕作放棄地対策など、農業経営におきます体質強化をどのように進めるか。

それから、本市におきましては、各種農業団体や関連機関との連携を今後どのように進めるか、お伺いをしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　隈部議員の質問にお答えします。平成２４年度におきまして、新規就農奨励金の交付を行いました農業後継者数は２１人となっており、青年就農給付金につきましては６人の方へ給付金の交付を行っているところでございます。また、認定農業者数につきましては、平成２３年度末が６４０人で、平成２４年度末現在は６３４人となっており、６人の減となっております。

なお、以前お答えしました農業就業人口、販売農家戸数につきましては、平成２２年に行われました農林業センサスに基づいてお答えしたものでありますので、その後調査は行われておりませんので、農業就業人口は４，９０９人、販売農家戸数は２，４６４戸、集落営農組織は３３組織数と変わりはないところでございます。

本市におきましては、農業の人材確保や担い手育成のため、新規就農者への支援をはじめ、自立経営を目指し、地域農業を支える認定農業者の育成・支援、集落営農などの組織化や法人など生産組織の育成などにより、農業の体質強化を図っているところでございます。

一方、耕作放棄地対策としましては、農業委員会と連携し、耕作放棄地解消事業の取り組みをはじめ、中山間地域等直接支払制度事業や農地・水保全管理支払交付金事業の共同活動における農地の保全活動等に対しまして支援を行っているとこであります。

なお、農業関係団体との連携につきましては、ＪＡ、酪農業協同組合、畜産農業協同組合等の農業団体との連携なくしては、各種事業の円滑な推進は図れないものと認識をいたしておりますので、経営所得安定対策事業に係る農業再生協議会をはじめ、さまざまな事業・施策において共同で取り組んでおり、今後さらに相互情報交換を行い、情報の共有に努めながら、しっかりと連携してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　ただいま認定農業者数が、平成２３年より６人減少したということを聞きましたが、ちょっと気になりますが、農業の体質強化につきましては、

農業団体との相互の情報交換を行い、情報の共有化に努めてほしいと思います。

再質問をいたします。ＴＰＰに関しまして、平成２３年１２月定例会におきまして、国や県の動向を見定めながら関係機関や関係団体からの情報を図りたいとの見解でありましたが、情報をどう得られているか、お伺いをいたします。

また、今回、県におきましてはＴＰＰ交渉参加による影響が試算をされたところでありますが、菊池市における影響試算について、お伺いをいたします。平成２３年度当時と変更があるかどうかお尋ねをします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　再質問にお答えします。ＴＰＰに関しましては、国からのインターネット配信による情報収集はもとより、随時、県に対して新たな情報等の照会や各関係団体が主催するＴＰＰ問題学習会などにも、積極的に参加して情報収集に努めるとともに、ＴＰＰに関する認識を深めてきたところでございます。

また、ＴＰＰに正式参加した場合の本市に及ぼす影響額につきましては、県が国と同じ条件で試算した場合、最大１，１４７億円の農産物出荷額が減少し、減少率については３７．６％ということで示されましたので、平成２２年１２月及び平成２３年１２月の市議会定例会におきまして、東英俊議員及び隈部議員からの一般質問に対しまして、本市の平成１８年生産農業所得統計の農産物算出額２８２億４，０００万円に当てはめて推計しましたところ、１０６億円が本市の減産額として見込まれるということで、答弁をいたしたところでございます。本年３月２２日に、県が公表しました影響額につきましては、国と同様に関税が即時撤廃され、国内対策を何ら講じないことを前提に試算されたもので、平成２３年の県内農産物算出額３，１１３億円の２７．４％にあたる８５４億円が減産額として公表されたところであります。

なお、市の影響額の算出方法の一つとしましては、前回同様に、県の減少率２７．４％を乗じて試算することも考えられますが、本市における農産物産出額で畜産部門が占める割合は約７０％で、県の平均約３０％と比較しますと、突出しておりますので、市の農産物算出額に２７．４％の減少率を乗じた数値を影響額とすることは実態とかけ離れたものになると考えたところでございます。

そこで、今回の算出方法につきましては、県に準じて、本市でも最も大きな影響が出ると見られる米、小麦、牛乳、乳製品、牛肉、豚肉、鶏肉、そして鶏卵の７品目を対象に、県の算出方法に当てはめて試算をいたしております。なお、市の農産物産出額につきましては、平成１９年以降公表されておりませんので、前回同様に、平成１８年生産農業所得統計による農産物算出額を基礎数値として算出いたしまし

たところ、本市における主要７品目での影響額は、最大で約１６３億円の減少額と試算をいたしております。なお、この数値につきましては、あくまでも国・県の算出方法にあてはめ試算した影響額であるということをご理解をお願いしたいと思います。また、平成２３年度の本市の農産物産出額は、現在のところ公表されておりませんが、県の数値から推計した本市の平成２３年農産物出荷額を基準として、同様の算出方法を用いて試算いたしましたところ、ほぼ同様の数値となっております。

今後のＴＰＰ交渉に関しましては、日本も早ければ７月下旬から１２カ国全体の交渉会合に参加するという見通しであります。政府におきましても特に主要産物である米、麦、牛肉、豚肉、乳製品、甘味資源作物等５品目につきまして、関税撤廃等の例外措置の確保に向け、強力に交渉が進められていくと考えております。しかし、ＴＰＰに関する交渉途中での公表は困難とされておりますので、情報収集は難しいところもありますが、今後とも引き続き、国・県・関係機関の動向に注視しながら研修会等にも積極的に参加し、その情報収集に努め適正な情報提供に努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　ただいまお聞きしますと、平成２３年１２月にお聞きしました試算と比べまして、５７億円も影響額が大きいようでございまして、菊池の特に畜産に及ぼす影響は大きいものと思います。交渉参加に絶対反対をしなければ、本当に菊池の被害は大きいものと思われます。ただ、現在国が公表しております農家の所得を倍増するという計画につきましては、無理な点も多いかと思いますが、予算措置が講じられれば、所得倍増も夢ではないような気がいたします。今後の情報をなるべく多く入手されまして、公表していただくようにお願いを申し上げます。

農家の所得向上対策のために、本市においてはどのような施策があるか、まずお伺いをいたします。

その後、市長が申されております本市の課題解決の方策として、「経済活性化の仕組みづくり、経済の立て直しが一番の課題である」とおっしゃっておられます。菊池の特性を生かした農業と観光を今後の経済活性化の車の両輪と位置づけることを表明しておられます市長の所信をお伺いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　再々質問にお答えします。本市の農業におきましては、総合計画後期基本計画に掲げた主要施策であります「特性を生かした魅力ある農林業

の振興」及び「計画的な土地利用の推進」の実現に向け、その主要施策ごとにさまざまな施策を設定し、推進をいたしておるところでございます。

農業を取り巻く厳しい状況が続く中、農家の所得向上対策のための施策としましては、農産物消費拡大事業、農業経営基盤強化促進対策事業、飼料米増産対策事業、経営所得安定対策推進事業、農地・水保全管理支払事業、中山間地域等直接支払制度事業などなど、土地条件や緊急性及びその事業継続の必要性を十分考慮し、現在取り組んでいるところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　関連しまして、農業に対する私の所信ということでございましたので、お答えいたします。もう何度も繰り返しておりますけども、農業を取り巻く環境というのは大変厳しいものがあると。高齢化問題、それに続く担い手確保の問題、それから耕作放棄地の問題、ＴＰＰの問題等々でございます。かつてない厳しい状況にあると思っております。しかも一方で、作付面積というのは一度にそんなに急激に広がるものではないと。その中から、要するに永続的に上がる収益を極大化していかなければいけないということでございますから、量を増やすか品質を増やすかといった場合に、なかなか量のほうは一度には増えないということでございますから、どうしても品質のほうを上げていかざるを得ない。

今、世の中で求められている品質は何だといいますと、やはりこれだけの健康志向、安全志向の中で、安心・安全の食材というのは、やはり、今もそしてこれからも、ますます強まるであろうと。これは、私は強い思いを持っております。それを使って菊池の農業をより稼げる農業に変えていこうというのが私の基本の考えでございます。ですから、まず品質、高品質のイメージを作り上げていかなければいけない。実際に菊池の農産物というのは、かなり品質レベルは高いと思っているんですね。ただ、残念ながら世の中にうまく知られておりません。ですから、まず、ここは戦略的に、この高品質のイメージを作り上げて訴えていくと。高品質というのは、今申しましたように安心・安全のブランドイメージであります。これをつくり出す一つの具体的な手がかりとして当市独自の安全基準ということで、「菊池基準」と銘打っていきましょうと。世の中の大きな関心を集めるはずでありますと。

それから二番目に、これを知らしめていく手段としての効果的なＰＲのやり方を見直しましょうと。これは関係機関と共同して、今までバラバラだったのをもう少し一体的効果的なやり方に変えていこうと。かつ、菊池全体の持っている、菊池のこの渓谷も含めた自然力ですね。このイメージを売っていくことで、観光との相乗

効果も出てくると。

そして今度は具体的な売り方として、より効率的で広域に向けた販売の仕組みをつくっていこうということで、これは、今まさにインターネットというのは社会的に普及しているわけですから、このインターネットを使ったネットショップ、これをもう具体化していきましょうと。これを、いわば市全体の取り組みとして共通インフラとして、行政がある程度の中心になりながらつくっていくことで、一挙に農業従事者の皆さんに、そういうインフラを提供できるはずだと。これによって市場が一度に拡大するということであります。

それから四番目に、さらに付加価値を上げる方法としての六次産業化というのが、これは避けて通れないと思います。高品質のものを、それだけでも十分付加価値が上がってくるわけですけども、さらに付加価値を上げていくという意味で六次産業化というのを、これは積極的に進めたいと。そのための、特にこれは情報支援体制ですね。これを作り上げていこうと。こういうことを骨子として考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　三番目に、本市の歴史をどのように活用するかについて、４点ほどお伺いをいたします。まず、歴史資料館につきまして、特に菊池氏が活躍した中世の歴史資料館について、着手への計画・構想があるかどうか伺います。これは、以前からずっと言い続けておりますけれども、なかなかいい返事がいただけませんので、よろしくお願いをいたします。また、この完備によりまして、鞠智城、それから菊池市の九州の中世の歴史資料館と続けば、修学旅行の誘致にもつながると思いますので、お聞かせを願いたいと思います。

また、姉妹・友好都市であります遠野、西米良、龍郷町の歴史的検証というのは、前市長からの課題でありますけれども、今後どのように行う計画であるか、お伺いをいたしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　お答えをいたします。まず、歴史資料館につきましては、昨年１２月の議会でも答弁をさせていただきましたが、歴史資料の整理・保存・公開はふるさと菊池市の過去を知り、それを現在、さらに次世代へと伝えるという重要な役割を担っていると考えております。従来から歴史資料館の重要性は認識しておりますし、今後、策定予定の「歴史文化基本構想」の中で検討してまいりたいと

考えております。

次に、姉妹・友好都市との歴史検証についてでございますが、平成２４年度に遠野市、西米良村の担当者と、本市におきまして協議を行いまして、菊池一族のシンポジウムの開催を目指すこととなりました。また、協議の中で龍郷町におきましても参加をお願いすることになり、本年２月に龍郷町を訪問し、快諾を得たところでございます。今年度は３市町村とともに、菊池一族シンポジウム（仮称）の開催に向けて具体的な協議を実施し、来年度のシンポジウムの成功を目指してまいりたいと考えております。このシンポジウムの開催によりまして、歴史の再認識と後世への伝承を図り、菊池市ゆかりの都市との交流の場を設けたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　菊池の歴史を調査研究して、菊池の活性化を図る目的で、歴史教育専門委員の条例が設置されておりますけれども、現在のところ空席になっております。早く選任をしていただいて、この素晴らしい歴史の町菊池、そして九州大学に依頼しております文化資源研究と併せて活用をしてほしいと思いますけれども、選任の考えがあるかどうか、お伺いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　再質問にお答えをいたします。歴史教育専門委員につきましては、平成２３年３月末を持って辞任をされております。その後、後任については補充をいたしておりません。昨年度より古文書関係につきましては、県立大学へ依頼し、専門の教授に整理をお願いをいたしております。そのほかの歴史文化に関することについての問い合わせや、調査、案内については、現在、文化振興係や文化財保護委員で対応を行っているところでございます。

また、本年４月より、生涯学習課の文化振興係に学芸員の資格を持つ職員１名を増員し、体制強化を図っているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　隈部忠宗君。

［登壇］

○１７番（隈部忠宗君）　ただいま歴史教育専門委員についてのご回答をいただきました。西米良、遠野市、それから龍郷町と菊池の歴史を検証するためには、歴史教育の専門知識のある方が調査研究に携わってほしいと思います。例えば、鞠智城を１３００年前に築城されたと聞いておりますけれども、まだまだ菊池市との関わり合

い、関係、あるいは西米良、遠野市とは山伏との関係もあるんじゃないか、行き来していたんじゃないかというようなことも言われておりますし、そういうもっともっと研究してほしい部門もありますし、是非よろしくお願いをいたします。

最後に、本市の歴史をどのように教育に生かされるか、お伺いをいたします。先日、益城町の矢嶋楫子生誕１８０年祭に参加をしました。四賢婦人と言われております竹崎順子、矢嶋楫子、それから徳富蘇峰、蘆花兄弟の母、久子さん。それから横井小楠の妻つせ子さん。この歴史的な人物を益城町にどう生かすかというシンポジウムでした。それから先日玉名では、玉名市ゆかりの人物から、地域の人々の時代を学ぶということで、「玉名のすごい人展」が開催をされておりました。菊池にも素晴らしい人材が誕生しております。もっと菊池の歴史上の人物を教育に生かすべきだと思いますけれども、所信をお伺いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　お答えをいたします。歴史教育をどのように生かしていくかということでございますが、ふるさとに学ぶ郷土歴史教育の推進は、郷土の歴史、伝統、文化を知ることから、菊池を愛し、誇りを持つ精神が確立されることだと思っております。本市では、副読本「わたしたちの菊池市」を作成し、さまざまな郷土学習ができるようになっております。また生涯学習のメニューである出前講座を利用して、小中学校にゲストティーチャーとして出向き、本市の歴史や文化・人物等について講義などを実施しております。

そのほか一般市民に対しましても、歴史探訪講座等で対応しているところでございます。さらに、わいふ一番館において、前衛絵画の先駆者であります故大塚耕二氏の作品の展示や、温泉湧出事業に尽力されました故村川信彦氏の企画展示等、郷土の歴史に名を残されている方々についてもスポットをあて、広く市民に周知する取り組みも行っており、今後も継続をしてまいります。

また、平成２６年度に計画しております菊池一族シンポジウムにつきましても、市民の歴史に対する意識高揚と啓発に非常に有効な事業と考え、取り組んでまいります。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　発言の申し出があっておりますので、発言を許します。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　私の今日の答弁の中で、恐らくちょっと私が記憶違いで発言したかもしれないというところを、ちょっと気づきましたので、訂正をさせていただ

きます。まだ、議場におりますもんですから、原点に立ち返っての確認はできていないんですが、記憶の中では、どうも私が勘違いだったかなということを、今少しそういう感じがしてきましたんで、申し上げておきます。

先ほど、通告番号８番の中原繁議員さんのときの、足湯ポケットパークにおける管理費用ですか、「５００万円」と江頭は言っていたんじゃないかということで、私は、「いや、確か２５０万円というふうに申し上げたと記憶しています」と申し上げました。これは、まだちょっと記憶段階でございますけども、あの場では「５００万円」とやっぱり申し上げたんじゃないかなということを、今、記憶が蘇ってきましてですね。あれは予算額でございました。そのあと決算額が「２５０万円ぐらい」というふうにお聞きしたことがございまして、その数字が私の頭の中で置き換わって、席上で申し上げたのも「２５０万円」だというふうに、恐らく、今、勘違いしていたと思いますので、お詫びをして訂正をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。明日も引き続き一般質問となっております。

本日は、これにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

傍聴席の方も起立お願いします。

お疲れさまでした。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

散会　午後４時００分

第　４　号

６ 月 １３ 日

平成２５年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第４号

平成２５年６月１３日（木曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒　木　崇　之　君
２番	柁　原　賢　一　君
３番	工　藤　圭一郎　君
４番	城　　典　臣　君
５番	大　賀　慶　一　君
６番	岡　﨑　俊　裕　君
７番	水　上　彰　澄　君
８番	東　　英　俊　君
９番	東　　裕　人　君
１０番	泉　田　栄一朗　君
１１番	森　　清　孝　君
１２番	中　原　　繁　君
１３番	樋　口　正　博　君
１４番	中　山　繁　雄　君
１５番	怒留湯　健　蓉　さん
１６番	坂　本　昭　信　君
１７番	隈　部　忠　宗　君
１８番	葛　原　勇次郎　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	坂　井　正　次　君
２１番	森　　隆　博　君
２２番	山　瀬　義　也　君

２３番　　境　　和　則　君

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江頭　実　君
副市長	永田明紘　君
総務企画部長	野口祐成　君
市民環境部長	下田俊一　君
健康福祉部長	宮本誠一　君
経済部長	平野國臣　君
建設部長	松野浩一　君
総務企画部統括審議員	西浦一義　君
七城総合支所長	岩下利昭　君
旭志総合支所長	水上菊也　君
泗水総合支所長	松岡千利　君
財政課長	小川秀臣　君
総務課長兼 選挙管理委員会事務局長	伊藤道俊　君
市長公室長	倉原良則　君
教育長	倉原久義　君
教育部長	中村鉄男　君
農業委員会事務局長	松永隆則　君
水道局長	原　和徳　君
監査事務局長	宮村公男　君

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

事務局職員出席者

事務局長	城　主一　君
議事課長	宮川啓子　さん
議会係長	松原憲一　君

○議長（山瀬義也君）　全員、起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（山瀬義也君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（山瀬義也君）　日程第１、昨日に引き続き一般質問を行います。

はじめに、坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　皆さん、おはようございます。今日は大変なことも質問いたしますので、朝から身を清めてまいりました。実際は、ちょっと汚れたからでありますけれども、１０年先を見据える坂井でございます。

この疲弊した菊池を変えると訴えて誕生されました江頭市長、市民が大変期待をしているところでございます。しかし、簡単に一、二年で、この菊池市を変えるのは容易ではないと思います。どれだけ成果を出せるかでありましょう。１０年間でどれだけ成果を出せるかだと思います。１０年間でどのようにというグランドデザインを出し、それに向かって結果を出すために市民と一緒になってチャレンジすることが大事だと思います。江頭市長、あなたの頑張りに期待をしております。

それでは、新市建設計画にもう一つありました今回の通告の二番目に、庁舎建設に対する質問をいたしますので、庁舎は４０年の計だと思います。本日は４０年先を見据える坂井ということで質問したいと思います。

それでは、新市建設計画について、通告に従って質問をいたします。合併前に、合併協議で入念に協議をして合意してきたその中で、根幹をなすのが庁舎位置と最も重要だったのが新市建設計画であります。

合併後１０年の旧市町村別に建設事業配分がなされております。合併に関しましては、七城を例にとれば、合併しなければ財政が苦しくなるから、「合併すればサービスは高く、負担は低く」が合い言葉だったと思っております。それで住民投票をやり合併したわけでございます。しかし、合併したらどうでしょうか。庁舎位置は変わる、サービスは高いどころか低くなり、負担は高くなっていく、おまけに七城としましては、合併合意を信じていた新市建設計画の執行率、その他の地域と比

べて著しく低い。つまり事業が、他旧市町村と比べて極端にできていないということでございます。七城地区の市民が「合併せんならよかった」との声。江頭市長が言う公平公正でなくてはならない合併合意の約束とかけ離れた執行率と思いますがいかがですか。七城の市民が納得しうる執行率まで上げてもらいたいのですが、ここで質問です。

合併協議での約束である新市建設計画について、市長はどのようにお考えですか。

二番目、現在の新市建設計画で、最新の旧市町村の事業執行率をお示しください。

三番目、８年経った時点で、大変な執行率の差となっていますが、このことについてどのようにお考えですか。

以上を１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　おはようございます。坂井議員の新市建設計画についてお答えいたします。私のほうから旧市町村別の執行状況についてお答えいたします。

新市建設計画の執行状況につきましては、坂井議員より昨年１２月にご質問がございましたが、現在もまだ未調整でありますので、同じ回答となりますことをご了承いただきたいと思います。

新市執行計画の執行にあたりましては、平成１９年２月に全体見直しを行っておりますので、その事業費をもとに、平成２２年度末現在で申し上げます。１０年間の総事業費は約３４７億５，９００万円でございます。そのうち平成２２年度まで実施済額が１７７億９，０００万円、執行率５１．２％となっております。その内訳といたしまして、共通事業約６０億６，７００万円、執行率３７．６％、旧菊池市約６１億７，９００万円、執行率６８．５％、旧七城町約１３億１，３００万円、執行率４６．６％、旧旭志村が約１６億７，５００万円で執行率が６７．１％、旧泗水町が約２５億５，６００万円で執行率が５９．４％となっております。現在、全体計画の見直し作業を行っておりますので、今後、事業費や執行率等が変動することをご了承いただきたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　皆さん、おはようございます。江頭でございます。それでは、

ただいま総務企画部長のほうから、地域別の執行率についてご説明を申し上げたところでございます。私のほうからは、枠配分に関する私の考え、それから執行率の差が生じておりますが、それに対する考えということを申し述べさせていただきたいと思います。

新市建設計画の基礎資料として作成しました普通建設事業計画ですが、これは合併協議の中で、道路ですとか排水路といった生活基盤の整備や、新市において必要だと考えられる、そういう重要な公共施設整備などをまとめた合併後１０年間の事業計画であります。新市の一体性を図るために、それぞれの市町村の標準財政規模の過去３カ年平均の比率に応じた枠配分という考え方を入れて、さらに緊急性や必要性を考慮しながら、均衡ある発展を目指そうということで策定されたというふうに私は理解しておりますので、そういう経緯を考えて、この旧４市町村の合意に基づいて、新市に寄せられた熱い思いが込められた計画だというふうに私としては了解しますので、この当初の計画については十分に尊重する必要があるというふうに考えております。

次に、実際にはこの進捗状況に関してバラつきが生じておるというのは、先ほどの数字のとおりでございます。中でも七城地区においては、その進捗率が非常に低い状況にあるということで、私のほうで分析したところでは、様々な理由はございますけども、主因としましては補助事業等の採択時期の違い、あるいはその事業費の変更、また、用地交渉にかかわるいろいろな問題で難航したとか、ある事業についての同意の推進が進まずに事業着手に至らなかったとか、様々なことが要因であるようでございます。こうしたことが旧４市町村間の進捗状況の差を説明する主因であるかなというふうに思っております。

冒頭に申し上げましたように、旧４市町村から出された事業計画については、合併後１０年間で実施することを前提としたものですので、期間内に完了できる事業であるかどうかという精査を加えながら、残された期間内での緊急性、あるいは重要性、併せて旧市町村間の均衡等の点を考慮しながら事業の見直しを図る必要があるというふうに考えている次第でございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　市長におかれましては、丁寧に調べていただきまして答弁をいただきました。ただ、総務部長、まあ数字を示していただけましたけれども、平成２２年度の数字を出すというのはあまりにもね。今、平成２５年度ですよ。そして、あと今年も含めて２年しかありませんよ。もっとこれは差が出ているはずで

す。何で調べないんですか。差が開く一方ですよ。大変憤慨しております。新市建設計画、今までに幾度となく質問をしてまいりました。前市長「七城の執行率を他旧市町村並に上げる努力をします」といつも答弁をいただきました。本当にありがたく思っておりましたけれども、さっき部長がおっしゃいましたとおり、これは平成２２年度ですけども、平成２３度、平成２４年度と、恐らくもっと差が開いていると、私は思います。間違いないと思います。

そこで質問ですけれども、今年度の新市建設計画事業、今年度ですよ。旧市町村別にどれだけ事業費、予算を計上してあるのかお示しください。

また、これはちょっと難しいかもしれませんが、最新の執行率、今、平成２２年度の執行率を示されましたけれども、今年度の事業費を入れれば大体どれくらいに執行率がなると思われますか。それをよければお示しください。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　再質問にお答えいたします。平成２５年度の当初予算及び本定例会に上程しております予算案における新市建設計画の状況について申し上げます。

平成２５年度新市建設計画の事業費を合計しますと、総事業費は約３３億１，３００万円となっております。総事業費から防災行政無線デジタル整備事業などの共通事業費の約１３億７，５００万円を除く旧市町村の事業費の合計は、約１９億３，８００万円となっております。その内訳としましては、旧菊池市、約７億３，０００円、構成比３７．７％、旧七城町が約２億１，５００万円、構成比１１．１％、旧旭志村が約４億２，９００万円、構成比２２．１％、旧泗水町が約５億６，４００万円、構成比が２９．１％となっております。

それと、もう１点の平成２２年度でお話を申し上げておりますけど、平成２３年度はもっと差が開いているんじゃないか、というお話がございますけども、現在先ほど申しましたように見直し調査をやっているところでございます。その分につきまして、またそれができ次第ご説明をさせていただきたいと思います。

それと、先ほど市長のほうからも答弁がございましたけども、七城町につきまして、差が出ているといいますか、その分については、今、議員のお話のとおりだと思います。私どももそれは認識しております。また、しっかりした数字がお示しできるときは、その時点ではっきりした数字をお示ししたいと思います。

一応、よろしいでしょうか。申し訳ございません。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　手ぬるいんですよ。今年度の事業で七城は２．１億円。よそよりも断然低いんですよ。あと１年で何ができますか。そう思いませんか。用地買収も必要だし、１年ででくるわけないじゃないですか。ますます差が開く一方ですよ。市長は、「１０年を目途に」と言われましたけれども、七城市民としては納得いきません。こんなに七城だけがなぜ低いか。私は、この１０年で執行率の差が縮まるとは思いません。そこでですね、合併特例債も５年延長になりました。七城町のためだけではないですけれども、事業も多少変更をして、事業延長を望みます。今のままでは納得できません。どうですか、江頭市長。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　まず、先ほどもご説明しましたとおり、新市建設計画というのは、この１０年間の計画でございますから、あと１年半ほどしか残り時間はないわけでございます。ですから、当初各地域間で合意形成していただいた今の計画については、残り時間、あまり残されてはおりませんけども、合併当初に予定されていたものをもう１回精査して、極力実施可能なものは取り上げていきたいし、残念ながらいろんな事由でもしできない場合でも、ほかに新たに必要としている事業はないかといったふうな検討もしてまいりたいと思っています。

それ以降についてどうするかということについては、これから皆さんの意見を聞きながら、決めていかなきゃいかんというふうに考えております。いくつか考えなければいけない点がございますけども、一つは合併特例債が今後５年間延長になったわけでございますから、多少そこで時間ができたわけですけども、一方で、ご存じのとおり平成２７年度から合併算定替というのが段階的に縮減してまいりますんで、平成３２年度には完全に一本算定となるということで、今後大幅な財源不足というのが、かなりの角度で予想されるということになりますから、これに備えた行財政基盤の強化を急ぐ必要があるというのは、まず大きな環境の意識としてございます。ですから一方で、１０年過ぎたところで、また新たな見直しをしなければいけないわけですが、そこでは当初の新市建設計画というのが、一応の終了を見ている段階でございますから、その時点では新しい市として全体を見て、各地域も見て、バランスの取れた計画をもう１回見直さなくてはいけないというふうに思っておりますので、その中において、万々が一、この１０年間の間に何らかの理由で実現できなかったものがあれば、そういったものも含めて、新たな目で検討していくということが必要になろうかと思います。

ですから、それは今のやり方を単純に延長するとかいうことではないんではないかと思いますんで、もう１回新しい市として見直す中で、そのことを含めて検討し

ていくと、そういったことではなかろうかというふうに、今考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　１００％他旧市町村並にとは言いません。ただ、七城町民が納得できうる割合までは考えてほしいなと思っております。

続きまして、庁舎の基本構想・基本計画について質問をいたします。これはもう非常に大変な事業でございまして、この庁舎が４５年経っていると。いわゆる４０年、５０年の計なわけでございます。非常に重きを置いて、今日は身を清めてまいりました。そういった気持ちで質問したいと思います。

足湯の件が、今までいろいろ質問なされておりますけれども、私は、前の議会で足湯のことに関しましては反対討論をいたしました。やはり、将来のことを考え、費用対効果、いろんなことを考えてやるべきではないと。しかし、できてしまったことは仕方がございませんけれども、「廃止するか、廃止せんか」というような状況でございます。廃止すれば、補助金の返納につながってまいります。取り返しがつかないことになってしまうわけです。庁舎は、もっと大きな費用を投じますし、市民のいわゆる中枢でございます。大地震があったときの避難場所、そして伝達・連絡、全てがこの庁舎にかかってくると思います。そういった意味を込めて質問をいたします。

庁舎建設については、私が思いますに、場所の選定に関しましても、庁舎建設が合併特例期間中にということで、泗水問題が起きたように、話し合いが足らなかったのではないか。拙速にいったのではないかという感じがいたします。庁舎建設に関しましても合併特例債期間中にということで、十分な協議、市民の声が十分反映されたと言えるでしょうか。やはり、若干拙速に進んできた感がいたします。庁舎の位置も決まり、合併特例債も５年延長になったわけでありますから、何も急ぐことはないと思います。むしろ庁舎建設は、今の庁舎が４５年ですので、四、五十年の計なのであります。慎重に協議すべきものだと思います。

さて、本庁舎は第２案の本庁舎の耐震並びに１案、２案、３案といつも提示されておりましたけれども、第２案の本庁舎の耐震並びにリニューアル工事に合わせ、不足する面積を増築するということで、計画によりますと、庁舎建設費用は総額４２億９，０００万円と計画されております。本庁舎は築４５年の庁舎を耐震リニューアル。リニューアル費用が３億６，０００万円。特に、別館生涯学習センターは本庁舎の増築と説明のあった訳ありの庁舎でありますが、非常に紛らわしい表現だったと私は思います。しかし、新築３階建てになり、延べ面積が庁舎が４，４００

㎡、学習センターも合わせますと９，２００㎡ですかね。３１億６，０００万円との多額の建設費用になりました。この金額を皆さん頭に入れといてください。そんな折、先月の６月６日の熊日新聞、朝刊に、これはほとんどの菊池市民も見られたと思いますが、玉名市新庁舎用地買収を含んで３９億円とのこと。基本設計から何と２０億円減らし、玉名市の人口が６万９，５４１人の庁舎でございます。本市よりも１万９，０００人多い。まして庁舎本体工事は驚くなかれ２８億１，４００万円、延べ面積は玉名の現庁舎の倍の１万１８０㎡とのこと。本市は、リニューアル、本館と別館を合わせて４２億円でございます。また、山鹿市は人口５万５，３９１人で、本市より５，０００人多く、新庁舎は２棟。まず行政棟は地上５階、地下１階で、免震構造。９，７４０㎡でございます。もう一つの市民交流センター別館は地上２階、地下１階で、これは耐震構造。２，８９３㎡であります。２棟合わせれば１万２，６３３㎡で、事業費が４４億４，７００万円であります。山鹿市は２棟とも新築であります。特に、玉名、それに山鹿のこの事例、これは本市、また本市民にとっても衝撃的事例であると思います。

さっきの玉名の本庁舎が２８億円ということ、山鹿が２棟で４４億円、私なりにちょっと考えてみました。現行の本庁舎に５階建本庁舎を建て、これは山鹿並みですね。プール跡地に図書館、生涯学習センター、これも山鹿並みですけれども、建てたと想定して比較をしてみました。今の計画では築４５年で耐用年数も間近になっており、鉄筋コンクリートも４５年経てば、かなり劣化しもろくなり、大きな地震に耐えられるのか。今度の庁舎建設４０年の計でありますけれども、現在４５年も経っているので、今から４０年先は８５年ものとなります。この庁舎で大丈夫なのか、大震災が来て大丈夫なのか。市役所業務、離れたところに２棟分かれておりますので、総合窓口と市民、来庁者に不便はないのか、これが一番です。また業務に関して非効率で不便性はないのか。別館生涯学習複合施設も建てれば駐車場スペースが狭くなり、何といっても新築５階建てを建てれば庁舎スペースは十分とれるのではないか。最後に、庁舎別館生涯学習センター、１階は市役所業務、２、３階が図書館、公民館等生涯学習センターだそうですけれども、１階の大人の市役所業務の中を通って、小学生、中学生、学生が２階の図書館に上がりにくくはないか。利用しやすい図書館、生涯学習センターがよくはないかと思います。

特に、先に述べた山鹿市、玉名市の建築費と比べれば、本市の庁舎いかがなものか。しかも２市とも新築の庁舎であります。市民もシビアで何といっても財政厳しい折、市民の税金、無駄使いもできないと思います。合併特例債期間中ということで、今までは拙速にやってきましたけれども、４５年に一度の庁舎建設、合併特例債も５年延長になり、今までのように駆け込み的に急ぐことはない。

市長は、ここで一旦立ち止まり、どうしたほうが市民のために最善かということでしっかり考えてみてはいかがと思いますけれども、質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のお話でございますが、長期的な観点から、今一度庁舎整備の件を、もう一度足元から見直してはどうかというふうなご提案であったかというふうに理解します。まず、その前に、今、坂井議員のほうで、玉名市庁舎に関する報道を契機としまして、いくつかの比較がございましたが、この点に関しては私どもも、今、情報収集を進めているところでございまして。特に数字というものが、いろんな切り口、いろんなレベルでこの報道されたりしておりますので、契約額であったり、設計額であったりと、それだけでも大分違いも出てまいりますんで、そこら辺は１回私どもとしても、冷静に客観的にちょっと分析をする必要があるなというふうに思っております。今、足元の一つのですね、これはもう本当のざっくりとした試算でしかないんですが、今、手元にある情報だけで見たときに、一番比較しやすいのは、この単価でございますけども、単価で見ますと、どこかが突出して高いとか低いとかいうことでは、どうもないようでございますので、ここら辺は少しお時間いただいてですね、しかし、なるべく早いうちにここを１回整理したいと思っています。

それから、今おっしゃった観点は、とりわけ耐用年数を考えた場合という長期の視点からのお話であったと思いまして、その点については確かに重要なポイントだろうなというふうに私は思っております。ただ、この議会の席上でも、皆さん一番関心の高いテーマの一つでもあるもんですから、今まで同じようなご質問をいただいた中で、私としては、いろんな議論がこれまであった中で今日に至っているというところの到達点、それからそれに至る経緯というのを、やはり尊重してまいりたいというふうには思っておりますので、一方で、これもお約束していますとおり、せっかくこの政権も変わったわけですから、新しい目で見直して、特に視点としては無理無駄がないかといったところにはなってまいりますが、そういった視点と、それから、市民目線で、ユーザーの目線でどうなんだというあたりのところは、これは必ず精査を入れていきたいということでは、これまでご説明してきたところなんですね。今のご提案ですと、簡単に言えばもっと前の状態に遡って、ゼロから見直したらというご提案であって、そのスタートの考え方である耐用年数とか、長い目で見てという意味ではおっしゃるご趣旨もお気持ちもよく理解するところでございますが、なかなかこれまでの経緯等ある中で、簡単じゃない面があるなというふうに思っておるところでございます。

やはり、一番大事なのは、こういったことに関して、市民の方々のご意見というのも、よくそこのところは踏まえていきたいというふうに思っておりますので、今後、住民の方々の声を聞きながら、どこまでの見直しが可能なのか、ちょっと今の時点では、私もおっしゃるご質問の言わんとなさるご趣旨は理解できるんですが、今この場ですぐそういったことでやるということも、ちょっとこれは難しゅうございますし、少しお時間をいただきながらも、ある手の制約の中で、精一杯の検討を続けていくということになるのかなというふうには思っております。そういうふうにひとつご理解いただければというふうに思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　市長は、「市民の意見、市民の声を聞きながら」ということをおっしゃいましたけれども、前回の議会で、新図書館への市民参加に関する請願が出されました。私も、もちろん賛成で賛成討論をいたしました。賛成多数で可決されましたけれども、市民はもっと協議の場をと求めていると私は思います。議会もそれを認めたわけでございます。今回の計画では、どれをとっても私が思いますには、玉名市、山鹿市の庁舎のほうが、本市の計画よりもいいのではないかと。今までになかったこのような参考になる事例も出てきたことだし、第二の足湯にならぬように５０年の計でございます。市長は、「真っ白な紙に市民の皆さんとデザインを描きたい」と言っておられました。選挙公約でございます。どうですか、市長、市民が納得できるよう真っ白な用紙に描くべく一旦、白紙か凍結にするという考えはございませんか。

（「議長、動議。議長、指名ばせにゃんたい、手を上げとるもんだけん」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　まだ、待ちなさい。

（「動議て言いよるでしょうが」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　待ちなさいて、まだ。

（「指名ばせにゃんでしょうが、動議、動議て。はい、動議が先決たい。全てに最優先ですよ」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　動議の内容を少し言ってください。中原繁君。

○１２番（中原　繁君）　ただいまのですね、坂井議員のこの建設に関する発言、取り消しを求める動議を提出します。諮ってくださいよ。早よ。

○議長（山瀬義也君）　今、中原議員のほうから、動議ということですが、賛成者はおられますか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

［賛成者起立］

○議長（山瀬義也君）　賛成者２名以上ですから、動議は成立しました。

（「提案理由」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　それじゃ、ここで暫時休憩します。

（「よかて、続き行こうよもう」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時３６分

開議　午前１１時３０分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

発言の取り消しを求める動議を議題とします。中原繁君から発言の取り消しを求める動議の提案理由の説明を求めます。

中原繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　私も、議員の議会で発言する発言の自由の原則というものは、十分わきまえておるつもりであります。

そこで、私が先ほど動議を出しました坂井議員のこの庁舎建設問題についてのその発言の取り消しを求める動議を出しましたが、皆さんご承知のように、この庁舎建設問題というのは、菊池市にとっても市民にとっても、これは大きなプロジェクトでございます。しかし、当然ながら住民の意見を聞いて、議会としても執行部としても慎重に議論を重ね、検討をし、将来にわたって禍根を残さないような庁舎を建設することが、私は一番の目的だろうと思います。

そこで、坂井議員のこれまでの発言を聞いておりますと、議会としても執行部としても、十分な議論、検討を重ねた結果、議会全会一致だったかどうか知らんけども、議決したわけです。議会というものは、市民全体の意思最高決定機関であることは言うまでもありません。それを構成しているのが市民から選ばれた議員であります。そこで議決した決議事項というものは、当然重いもんです。そこで、坂井議員の一連の発言を聞いておりますと、そのことも全く無視したような、白紙にして元に戻せというようなことは、これは議員として言うべき言葉ではない、私はそういう確信をいたしました。

よって、坂井議員に取り消しを求めましたけれども、不穏当発言じゃないといような議長の指導もありましたので、坂井議員自らが、このことについて十分おれは

反省をしていただきたい。自ら訂正するなり、発言するなり、自主的な意思でやっていただきたい。そこで、採決までは求めません。

以上です。

（「手を挙げとんなはる」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　はい、坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　市長の答弁を求めます。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、坂井議員のご質問、庁舎の整備に関しては一回白紙にした形で協議するのはいかがかというご質問がございました。既に、いくつもの場でご説明しておりますけども、私自身、この庁舎整備方針ですとか整備方法の決定に関して、これまで市議会はもとより地域審議会等ですね、多くの時間と議論を重ねられて現在に至っているということを自分なりに理解して、認識しております。ですから、これまでの様々な過程を十分に尊重して、今現在、承認議決された内容であるとか、その経緯等を尊重してやっていきたいというのが私の基本スタンスでございます。

ただ、これより実際に具体的に、これを実行に移す上では、これはもう坂井議員がおっしゃるように４０年の計であるのは間違いないところでございますので、十分に具体的な検討を重ねて、無理無駄が起きないように、合理性であるとか機能性といった観点から、もう１回目を変えて精査を行うということは、これは意義のあることであろうというふうに考えております。さらに、これまでいろんな市民の方々のご意見も反映されていることとは思いますが、やはり、これから実際に具体化に移すわけでございますから、この段階でもう１回、特に、使い勝手等も含めてですね、ユーザーの視点、市民目線というもので、目を変えて見ていただくということは、これは非常に有効なことであろうと思いますので、こういった形で検証はきちんとやっていきたいというふうに考えている次第でございます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　日本一づくり構想について、質問いたします。まず、施政方針に「さくらの里プロジェクト」、「森の中のまちプロジェクト」、「ホタル王国プロジェクト」、３つの長期プロジェクトに着手し、日本一を目指すとあります。私はこの３つのプロジェクト、非常に素晴らしいことで、市を挙げて努力せねばな

らないと思いますが、私はあえて以前から提案していた、本市で日本一に近い菊池渓谷、七城米、菊池ごぼうなど、日本一に近い産物もあります。せっかくなら市が本腰を入れて、２位、３位のものを日本一にすれば、それはすごい付加価値がつき、リピーターも増え、値段も上がり、他への波及効果も期待できるし、計り知れない日本一効果があると思います。そのためにも、市長が進められる３つの長期プロジェクトに菊池渓谷、農産物を入れた目指せ日本一プロジェクトチーム協議会を立ち上げ大いに頑張ってもらいたいと思いますが、いかがですか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、今の日本一プロジェクトに関する考え方を申し述べます。

菊池におきましては、個別の産品としましては、例えば、七城米におきまして、既に日本穀物検定協会の食味ランキングで最高評価である特Ａを５年連続で受賞するといったふうな、非常に日本一の水準に近いものがいくつかあるというふうに理解しております。これも一重に生産者、関係者の皆さんのご尽力の賜物だというふうに感服する次第でございます。

本市では既に、ＪＡさんですとか各物産館、あるいは市認定の農業者などの関係機関団体で構成しました菊池市地域ブランド推進協議会といった機関において、本市の農産物や加工食品を県内外へ販路拡大していこうということで努めてまいっていらっしゃいます。そういう意味では、これは非常に重要な組織体でございますので、本年度も組織の充実を図って、継続して販路拡大に努めようというところでございます。

ご質問の向きは、こういった個々の商品素材について、せっかくだから日本一を目指すのはどうかと、こういうご提案というふうにご理解しました。個々の産品につきましては、今申し上げたように、既にＰＲ等を行っていく推進組織がございますので、私自身は、改めて個々の産品ごとにプロジェクトチームをつくるというようよりは、それはそれぞれの母体でもって活動強化を行っていただくのがよろしいのかなと思っています。これからは、さらにもっと大きな枠で捉えて、癒しの里のイメージを構築して、この菊池のファンを増やしていくために、「日本一のさくらの里」ですとか、「日本一のホタル王国」といった、こういう長期プロジェクトに着手したいということを申し上げているわけなんですが、言うならば、これは地域おこしにおける私どもの一つの到達点を示す目標像としての日本一。ですから、ここに至る過程というのはこれから非常に大事になってくるんですね。

もう一つ、個々についての商品素材というのは、これは商品ＰＲといったふうな

販売戦略の手段であろうかと思いますので、これはそれぞれ大事なことだと思うんですね。個々の産品については、既にそういったふうな組織体がございますので、それはそちらでやっていただこうと。今度は菊池市全体を１つの商品とする手立てとしての「日本一のさくらの里」ですとか、「日本一のホタル王国」、こういったものはみんなの力を結集するための一つの目標けん引のためのキャッチフレーズとして、日本一というものでやっていこうということで、これはいずれ相乗効果をもたらしてきますけども、せっかくですからボールをみんなで追うんじゃなくて、こっちでやっていること、それからこれから新しくやること、この力をうまく分散しながら、それで全体の相乗効果を上げていこうと、こういう考えで考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　続きまして、児童の安全について質問いたしますけれども、時間があまりございませんので。県道菊池インター線、県道熊本鹿本線と同時に信号設置をお願いしたい。どのようになっていますか、という質問と、県道辛川鹿本線の進捗状況は、というのは割愛させていただきます。

三番目の質問をしたいと思います。県道辛川線がバイパスができないがゆえに元村、そしてまた橋田地域の児童の通行、非常に危険でございます。車を避けるために振り向いたときにカバンが大変すりへって、本当にそのあとが目に見えております。そういうことで、県道辛川鹿本線の着工が早期で無理であるならば、登校時間帯の車通行規制なり考えてほしいと思いますが、いかがですか。答弁お願いします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　おはようございます。坂井議員のご質問にお答えいたします。

通学路の通学時間帯の交通規制につきましては、県公安委員会の所轄でございます。そこで菊池警察署と協議をいたしましたので、その内容をご報告させていただきます。通学通園時の児童・幼児の安全を図ることを目的に、小学校や幼稚園など、概ね半径５００ｍの範囲内で設けていただいておりますのがスクールゾーンでございます。この場合は、歩行者の通行実態や道路構造、地域住民の意見などを総合的に判断して、時間帯の通行規制を含む車両の通行禁止、一方通行や一時停止、速度規制などの交通規制の実施が可能であるとのことでございますが、スクールゾ

ーン以外の道路、議員お尋ねの区間だと思いますけども、時間帯通行禁止等の交通規制は非常に難しいとの回答でございました。道路におきまして、歩行者の安全な空間をできるようにすることは望ましいのですが、現実的に地域住民の生活道路として活用しておられますので、お尋ねの市道坂井橋田線における交通規制は、ちょっと難しいものと考えているところでございます。

お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　それでは、なお、県道の交差点の信号設置や辛川鹿本線の早期着工をお願いしたいと思います。

次に、償却資産税について質問いたします。償却資産税、農業耕作機、ハウス等には農業振興上、七城地区、旭志地区においては課税していなかったと認識しておりますけれども、合併後突然に課税されるようになりました。ここで質問ですけれども、近隣の市町村の償却資産税徴収状況はどうなっていますか。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　お答えいたします。固定資産税につきましては、議員ご承知のとおり、土地・家屋・償却資産がございます。ご質問の償却資産につきましては、地方税法第３４９条の２並びに３８３条により、事業主が事業のために用いることができる資産、いわゆる機械・器具・備品等について、所在市町村長に申告することとなっております。近隣の市町村も調査しております。合志市、大津町、菊陽町、山鹿市、阿蘇市及び熊本市の農業用の償却資産についての減免状況を確認しております。農業用の償却資産についての減免状況は、現在どの市町村も行っておられません。

以上、ご報告いたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　山鹿もやっておりませんですか。本市は畜産も、そして園芸も県内トップレベルの農業の市であり、いうまでもなく基幹産業であります。農業振興は江頭市長の重要施策でもあります。原油、飼料、生産資材、高騰の折、農業経営は大変であります。こんなときこそ合併前のように、償却資産の免税を考えてはどうでしょうか。もしだめなら、せめて５０％の減免とかいう配慮もあってよろしいのではないかと思いますけれども、いかがですか。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　償却資産税の減免というお尋ねだと思いますけども、税は公平な課税が基本でございます。ほかの商業、工業等の償却資産につきましては申告後納税されています。農業用償却資産についてのみ固定資産税の減免することはできないと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　それでは、最後の質問です。

江頭市長の施政方針は、稼げる農業づくり、菊池インターネットショップの具体化に着手、癒しの里づくり観光戦略に向けた「森の中のまち」「日本一のさくらの里」「日本一のホタル王国」の３つの長期プロジェクト着手等々大きな目玉といえると思います。また、都市基盤の整備については、特に３２５号線、３８７号線の整備に関して、引き続き国、県等と連携を図り推進するとのこと。以上２点について、質問いたします。

今までに、癒しの里観光戦略の日本一さくらの里プロジェクトに関して、提言なり質問をいたします。桜を植えるのも簡単にどこにでも植えるという容易なことではないと思います。そこで私の提案ですけれども、観光地として生かしたい竜門ダムですが、今の竜門ダム周辺、癒しの里という魅力が足らないと思います。針葉樹が多く、周辺道路は荒れている状況、遊歩道ですね。竜門ダム遊歩道片道３．９㎞ありますけれども、そこで市が積極的に周遊道路沿線に桜、もみじ、はなみずき、さるすべり等、桜並木の一環として植樹し、市が下草刈等の整備をきれいにすれば、マイナスイオンがたくさんの観光地ダム周辺、歩ける森に即桜並木の誕生になると思います。さくらプロジェクトの第一弾としてお勧めしますが、どうでしょうか。

それから、国道の整備でございますが、国道３２５線の４車線化に関しましては、幾度となく協議会、プロジェクトチームを立ち上げたらとの質問をしてきましたが、なかなか前に進みませんでした。国土交通省に菊池出身の江頭市長の先輩がおられるので、一歩前進ということで、国道３２５号線早期４車線化プロジェクトチームなどを立ち上げたらと思いますが、いかがですか。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、坂井議員のご質問にお答えいたします。

まず、第１点目、さくらの里プロジェクトに関するご質問です。竜門ダムのとこ

ろを、まずスタートとするのはいかがかということでございました。竜門ダムのとこは、散策道がございまして、サイクリングロードとして整備をしている３．９㎞の道路がございます。今、そこにおける植樹の状況でございますけども、散策道の園道とか広場に、平成１４年のダム完成のときから、市民の皆様の記念樹等によりまして、相当数の桜やもみじが植樹されております。管理に関しては、龍門林業研究グループさんに委託して、毎年２回除草作業を行っておりまして、昨年においては、樹木の約１，３００本についての小枝の選定作業等を行っている実績があるようでございます。竜門ダムのところは、特にこういた植樹の推進母体になっていらっしゃるのが、かつて水没された、今でいえば遊蛇口地区の皆さんが中心になって、自分たちのふるさとをしのぶということで長年にわたり進めてこられた事業でございます。ですから、ここともうまく連携をしながら、例えば、なるべく無駄な動きにならないように、既に民間の方々で整備が進展している部分はむしろそちらにお任せして、例えば、その竜門ダムにつながる下流の迫間川の護岸のほうから例えば始めてですね、竜門ダムにつながるということであれば、一つの一体とした菊池のさくらの里としてのつながりといいますか、広がりが出てまいりますんで、そういうふうに、うまく全体構想の中でつながるように、かつ、先ほど申し上げたように１カ所に民も官も重なるというよりは、うまくバランスをとりながら、分担しながら一つのコンセプトの中でやっていけるようにしたいというふうに思っています。

それから、国道３２５号線４車線化につきましては、ご提案のとおりだと思いますので、非常に菊池市にとっても重要な事業であろうかと思います。とりわけ菊池拡幅の完成には相当の年数を要すると思われるんですが、とりわけ菊池市の市街地区ですね。ここはどこを通すかといったようなところで、デザインの仕方で市街地の将来像に大きく影響を及ぼすと考えていますんで、このことは中心市街地の活性化であるとか、方向感であるとか、町づくりのデザインと非常に深くかかわってきますので、時間がかかることでありますから、なるべく早めに着手始めたいというふうに考えておりますんで、都市計画など県と一体となって、早めに着手して推進したいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂井正次君。

［登壇］

○２０番（坂井正次君）　本当に、非常に大事な基幹道路でございます。早めにプロジェクトチームなり、協議会を立ち上げて、推進をよろしくお願いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　ここで、昼食のため暫時休憩します。

午後の会議は、１時から始めます。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１１時５５分

開議　午後　零時５７分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　こんにちは。まずは、江頭市長、市長選にご当選をされておめでとうございます。

今から通告に従いまして一般質問させていただきますが、私なりの観点から質問させていただきます。市長におかれては、就任２カ月ということで、細かい数字等をお伺いするつもりはありません。私も素直な気持ちでいろんなことをお伺いしたいと思いますので、今の心情というか、思いをお答えいただければと思います。

まずは、庁舎基本計画について、現在の計画から事業費等の見直しがあるかということについてであります。この問題については、多くの議員さんから、様々な観点から議論がなされておりますが、私なりの観点からちょっとお伺いをします。

先ほども出ましたが、総額で４２億９，０００円という別館の工事を含めた費用も概算が出ております。現在に至る経緯を私なりにたどっていけば、もともと合併合意事項であった花房台における新庁舎、その建設費が９８億とも、１００億を超えるともいうお話の中で、後世にその負担を残すなという声が上がって、それから庁舎の一時凍結、それがなされ、その後特例債の緩和措置を経て、特別委員会等を開きながら、現庁舎の耐震、リニューアルと。その理由については、畑総事業の土地が取得ができないと。これについても議員さんの中では、そうではないという方もお出でですが、その経緯の中で今日に至るというふうに感じております。ただ、昨日からの議論もそうなんですが、庁舎の一部増築を含む生涯学習センター、図書館等の建設において、様々な議論がなされております。市民を挙げての様々な話し合い、それは、私は大いにやっていただいて結構だと思います。レイアウトの変更もそのうちに入ります。ただ、本来的に一番の、その最初の起こりであった多額の建設費用を用いた庁舎建設は後世に負担を残す、だから考えるという、その話が、いつのまにかお座なりになってはいないかと、そのことを心配しております。立派なものを立てるのは結構でありますが、場所が変われば多額の費用を用いて建設をしていいのか。私は、そのような議論は成り立たないと。我々が議会に一番最初にあったお願いは、そんな無駄使いをしないでくれという原点に立ち上れば、議論の

中に建設費用、その他を十分考慮して話し合われるべきではないかと思いますが、その事業費における市長の考え、私個人はより一層の削減を念頭に議論されるべきだと思いますが、どのようにお考えかお答えをください。

また、市長からも先日出ましたが、これから先は地方自治体として、できるだけ行財政の改革は不可欠であると。確かにそうであると思います。その中で、本庁支所方式の話も出てまいりました。効率を上げるためには、確か泗水の公開討論会でも、その当時の北田候補に江頭市長から質問がなされたと思いますが、確かに効率を上げるためには、本庁支所方式、一日も早く持っていくというお考えはわかります。究極でいえば、本庁支所方式ではなくて本庁方式、そこまで求められる時代が来るとは感じております。しかしながら、その移行時期がいつなのかということについては、私は考慮をすべきだというふうに考えております。現時点においては、逆に言えば、時代と逆行するかもしれません、無駄と言われるかもしれませんが、支所機動の強化をして、人員配置も考え直すべきではないかというふうに考えます。昨年の７．１２の大水害においても、旭志、泗水の支所が孤立をしてなかなか機能がうまくいかなかった。そのことを考えてもそうですし、本庁支所方式に持って行くまでの、これまでの新庁舎を含めた様々な経緯を考えると、泗水、七城、旭志にお住まいの皆様方の住民の合意形成をとるためにも、一旦、人を地元により多く返して、その中で様々な話し合いが行われるべきだと。そのあとに合理化を進めるべきではないかというふうに考えますが、市長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

今日もこの議場に各支所長お出でです。なかなか発言の機会もないんですが、これだけ少ない人数で各支所をまわす中で、支所長をとられるということは、業務的にも非常に厳しい状況ではないかと考えます。総合支所、支所という呼び方は別として、名前ではなく機能をどう充実させるか、これも市長自らおっしゃいましたが、今のネット環境を考えてみれば、電子決裁も可能ですし、実際に電子印鑑等もできているわけですから、もう少しそこら辺のとことは配慮してできないかというふうに思います。その点について、大枠で結構ですので市長のお考えをお聞かせください。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今、２点のご質問をいただきました。一つは庁舎整備にかかわる考え方。それから支所機能の考え方。２点でございます。１点目からご説明いたします。多少重複する部分もございますが、申し上げます。

何度か申し上げましたように、私の基本は、庁舎等整備に関する私の基本という

のは、これまでの議会において、ご議論、議決された経緯を尊重しながら、市民の方の意見も伺いながら、無理無駄が起きないように合理性や機能性の観点で、よく見極めて検証を行うと、こういうことでございます。基本線は大きくは動かすつもりはございません。ただ、おっしゃるとおり、これからある意味では財政的には大変な時代を迎えますので、これまでご検討をいただいた中に、もう既に十分にそういった配慮はなされているとは思うんですが、もう１回見たときに、本当にこれは不要だろうかという意味での無駄を省く、そういった視点でより合理性を追求していきたいと思っています。それから併せて、万が一、市民目線から見たときに欠落しているようなところはないか、そういったところも併せて検討していきたいというのは私の基本でございます。

それから、支所機能の件でございます。これは、当初のねらいである合併効果を上げて、合理的な行財政の体質に切り替えていくということは、これは、樋口議員もはじめ、皆様のご理解のとおりでございますけども、ご質問の向きは、そのスピード感ということだと思います。地域の実情をよく注視しながら、本庁・支所方式という基本線は、これは私どもの合意事項として変わらないわけでございますけども、これを具体化するに際しては、やはり大事なことというのは、どういう機能を残すべきなのか。それは常に市民目線から見て、市民サービスのためにどういったものが最低限必要なのか。こういう観点から十二分に配慮して、慎重に対応したいと思っています。何よりも本庁・支所方式に移したときに、いろいろな住民の方のいろんなご不満が残って、理解を得ないという意味では、それは何のために移行したかわかりませんので。そこら辺は踏まえながら、やはり必要なところがあれば、時間をかけながらやっていく。従いまして、よく状況を見ながら体制であるとか人員であるとかも、実情に合わせて、なるべく無理がないような形でやっていきたいということに心がけたいと思っています。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　お考えはよくわかりました。この生涯学習センターを含めた増築に関しては、建築費が約３０億円ですよね。私なりには、この３０億円がどういう意味を持っているかというと、先ほど申し上げたとおりに、後世に負担を残すなという視点で考えれば、合併特例債を用いたとして、５％の頭金と９５％の起債を起して、７０％の交付税措置ということに関して言えば、大まか約３割が自主財源として必要なわけですよね。３０億円ですから、約９億円。これを大体２０年に分けて払うということなんですが、既に新庁舎の基金が９億円ある。２０年先の借

金を現時点で返せるという意味合いから言えば、僕はここの範ちゅうを出るべきではないんじゃないかなというふうに考えています。ぜひとも、今出ている概算はマキシマムですから、これより膨れ上がることはないんでしょうけど、十分そこら辺のところはお考えをいただきたいと。

あと昨日から、図書館機能についていろいろお話をされております。市長の思いもよくわかります。市長自ら言われたように、個別の組織、団体が全てのものを決めるのではなくて、より多くの市民の方の意見を聞いていただいて、でき得ることであれば、図書館を建てるのが目的ではなくて、市長が子どものころに抱いたように、本を読む楽しさ、そして大切さを教える一つのアイテムとして、後世まで市民みんなに愛されるような図書館機能の生涯学習センターができればと、心から願うばかりであります。

それでは、次の質問に入ります。新市建設計画。そのうちの財政計画、普通建設事業費の１０年の計。先ほど坂井議員からお話がありました。合併当初４２９億円、リーマンショック等で２０％減額をしようということで、３４７億円ですね。まずこの計画がなされました。その進行状況については、それぞれの地区の議員さんの思いもあるでしょうし、現状はなかなかうまくいっていないというのが本音ではないかなというふうに思っています。ただ、実際に振り出せる特例債の額は２１３億円なわけですから、このことに鑑みてみると、現在まで大体約９０億円程度が利用されていますけど、特例債が５年延びたことによって、最終的にどの事業をどこまでやるかというのを１回もう一度整理すべきではないかというふうに考えます。そのことはせっかく地域審議会が１０年間ということで、合併時定められていますので、この地域審議会を中心として、できれば１年間を目途として、再度各地の事業、優先順位等を決めて、どこまでやるかと、年次計画、これを組みなおすべきではないかというふうに考えます。実際にそれができ得れば、その時点で新市建設計画の変更を行えば事業に着手できるわけですから、それはやるべきではないかと。実際、この議会においても、泗水と七城地区、請願の紹介議員さんが多分北田議員さんと隈部議員さんだったかと思いますけど、田島と蘇崎を続く道をつくってはどうかという提案もなされましたが、これらも現地に持ち帰って、再度合併した約１０年前と今では、社会的ないろんな状況も変わってきて、必要なものも出てくると思いますので、ぜひともそのことを審議会等で諮っていただいて、再点検を行っていただきたいというふうに思います。

あと、庁舎予算等がもともとは９８億円として、今度の計画に沿って進むということになれば、大幅に共通枠の減少が見込まれますけど、それらについて、確かについて地域枠というのは、僕はある程度必要だと思うんですが、やっぱりこの江頭

新市政になってハード事業の構築をアグレッシブに進めようとすれば、この特例債の利用というのは、どうしても欠かせない部分だと思いますので、それについては地域枠も若干緩和しながら、必要なところに必要な措置を打っていく。このことも考えるべきではないかと思います。当然、これも地域審議会等の合意がいるわけですから、そう簡単なものではないと思うんですが、ぜひともそのことに取り組んでいただきたいと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のは、新市建設計画に伴う事業の見直しということと、それから特に地域枠ということに対する考え方、こういうご質問であったかと思います。これも、ちょっと繰り返しになって恐縮ですが、新市建設計画の枠配分については、これまでのいろいろな経緯、議論を踏まえた上で、今、成り立っているもんでございますから。残り時間が少し少なくなっておりますけども、合併後１０年間についての計画は、これは尊重して可能な限り多くのものが反映されるようにしていきたいと思います。

１０年以降については、まだ、決まっていない状況であります。先ほどちょっとお触れになったように、これから平成３２年からは、いわゆる交付税が一本算定に移るということで、こうしたふうな将来の財政状況を考慮したときに、例えば、国、県による補助の観点がどうなのかとか、そういう意味での継続事業なり、あるいは緊急性・重要性といった点でどうか。それから併せて旧市町村間の均衡というのもある程度念頭に置きながら、配慮しながら事業を点検して見直しを図る必要があると思っております。

今、町内で調整会議を開催して、こういった下準備といいましょうか、新市建設計画の検討見直しを行っているところでございますんで、今後については地域審議会の意見等も十分踏まえながらやっていきたいと。そういう中で、当然地域の実情といったものは踏まえながらやっていくことは、これは基本だと思います。ただ、地域枠というふうに、いわば財布を分けるような考え方をするのか、それは当初の１０年間そういう考え方で行こうということで来とるんだというふうに理解しておりますが、ここで１０年を向かえますんで、そういったふうなやり方をするのかどうかということは皆さんでよく審議する必要があるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　１０年から先はまた別というお考えということで、なかなか

大変な問題なので、先行してスピード感を持ってあたっていただければというふうに思います。

次に、田島工業団地の取り扱いについてということですね。これは、実は、江頭市長が市長になられる前に、ある宴席でご一緒にして、５分ほどちょっといろんな話をさせていただいた経緯もあるんですが、田島工業団地の概要としましては、大体１４．８ha で、造成工事等含めて１３億２８９万円と。これまでの支払利息が２億５，０７１万４，０００円ということですね。問題とすれば、単価の問題もあるし、軟弱地盤の問題もあるということなんですが、非常に塩漬けになったという感で評価をされていますが、私個人的には、その当時泗水の議会にいるわけではないんですが、泗水町が長年企業誘致に取り組んでこられた中で、花房台の工業団地であるとか、住吉もそうなんですが、よくあの時代に、これは進出企業の僕は役員さんとときどき話す機会が、２０年ぐらい前からあったもんですから、その中で出る中では、僕はお会いしたことはないんですが、当時の荒木斉県議を筆頭に熱心な誘致を続けられて、この地にいるんだということで、戦略としてはどんどん次々と成功されてきた中で間違ってはいないと思います。時代的にバブルの崩壊に差しかかるとともに、田島も大体約８０％ぐらいの確立で、もう企業が決まっていたという中で造成をされたみたいなので、そのことは、そのこととして評価されるべきことかなというふうに考えます。

現状として、金利負担の話が出るわけですが、これについても、今まで金融機関から借り入れていたものを市役所の庁内で基金があるので、そこで土地開発公社基金をつくって金利負担も年間１，２００万円から３８万円ぐらいまで落としたわけですから、この先どう取り扱うというところだと思うんです。私は、特別委員長のときに太陽光の話もありました。２０年で３億円少々でしたか、固定資産税が入るよということではあったんですが、確かに固定資産税の増加を図る、フリーで使える枠を増やすというのも一つの考え方なんですが、地方においては、やはり雇用を伴うかどうかというのが、やっぱり非常に大きな観点だと思っています。その意味においては、どう扱うかというのは、当然昨日も市長が言われたように、タイミングを図るという非常に難しいところもあるんですが、たまたま菊池テクノパーク川辺の工業団地が造成を終えて、今から県が主体的に企業誘致を進めるわけですから、ここに何が入るかで様子が大分変わってくると思うんです。その意味で言うと、確かに太陽光も買取価格４２円から３８円に下がって、それでも原発５基分なんかに、日本では再生エネルギーができるんだという新聞も見ましたけど、これはヨーロッパでは、多分、もう今２０円台なんですよね。結局は消費者にその分が跳ね返ってくるもんですから、これからどうなるかわからないという中では、非常に

微妙な時期かなというふうに思っています。

確かに、じゃ、川辺に昔みたいに家電の組み立てラインが来るのか、自動車の組み立てラインが来るかというと言えば、間違いなくここら辺は海外に出て行く可能性のほうが高いと思うんですけど、コアな部分は国内に残るというところで、ぜひとも、この田島については、今本当にタイミングが難しいと思うんですけど、早く売却するとか、早くどうにかするという感覚よりも、テクノパークとセットで考えていただいて、まず取り扱っていただきたいと。それにプラス昨日は流通業の話も出ましたが、流通に関しては、鳥栖が先進地で、あそこがほとんど大分詰まってきて、土地も高くなっていますし、その流通を含めて、例えばアウトレットモール等でもいいですけど、そういうものも視野に入れて誘致をしていただきたいと。ただ一つ問題になるのは軟弱地盤で４０ｍも基礎が必要というところで、これに関して非常に企業は難色を示しているというところがあると思うんです。これについては、もうここまで来たら、僕は一層本当に雇用が生まれる企業であれば、地盤強化に対する補助制度を考えたり、場合によっては、もう自治体が直接地盤強化の工事を追加でやるべきではないかというふうに思うんですが、基本的にとにかく僕は田島はあまり粗雑に扱ってほしくないというところが、ちょっと本音なもんですから、市長のこれから先の田島工業団地における基本的なお考えを、ちょっとお聞かせいただければというふうに思いますので、よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　お尋ねの田島工業団地の取り扱いについての私の考え方を申し述べたいと思います。ご存じのように、田島工業団地は平成１４年から本格的な用地の分譲を開始したと伺っております。それから約１１年間売却できておりませんが、先ほどお話があったような様々な要件が重なっていることというふうに了解しております。これは企業側から見て、一体どうして工業団地に来ていただけないかなというところを、ちょっと１回指示をしてレビューさせてみました。そうしましたら、先ほどのご指摘のように３点ほどに整理できるのかと思うんですが、一つには工業団地の上空を高圧線が横切っているもんですから、この高圧線の下は建屋を建てることができないんですね。ですから、この高圧線の下はせいぜい緑地とか、駐車場は可能だと思うんですが、そうしますと企業にとっては多くの資産価値のないデッドスペースを抱えるということにもつながるもんですから、そのことが理由の一つのようでございます。

それから２点目に、先ほど来お話なさっている地盤があまりよくないということですね。パンフレットやホームページにも、これは不動産における重要事項にもあ

たるもんですから、既に公表されていることのようで、技術的によるとＮ値５０が深さマイナス４０ｍということらしいんですね。これは、私も技術はよくわかりませんが、簡単にこれを言うと、あまり地盤の強度はよくないということのようです。ですから、自動車のプレス加工業みたいに、強い圧をかけるようなものについては、地盤強度がもっと必要でありまして、そういった企業には向かないということで、進出をさけられる傾向があるようだと。

それから、３点目に地下水の問題もあるようでして、地下水が温泉としての性格を有しているもんですから、飲料に適さない水だということで、とりわけ良質で豊富な水を必要とするような、例えば食品関連企業、あるいは半導体の関連企業などもそうなんですが、こういったところには不向きな工業団地ということになります。

この３つが主な主因のようだなというふうに、私としては、今分析しておる次第でございます。その結果、今のところ一社も企業は立地していないと。実は、この一社も企業が立地していないことが四番目の負の要因になっておりまして、一社もいないところに最初に進出すると、しかもそれが、あとが続くかどうかわからないということになりますと、万々が一、いろんな苦情が起きたときに、周囲からの苦情がこの進出した一社に集中してしまうという恐れもあるということで、特に、イメージを大事にされるような企業にとっては苦情が、万々が一増えると困るということで、大事をとって慎重に構えていらっしゃる。こういうことに、どうもつながっているようですね。

ですから、今お尋ねになった、いろいろなほかへの転用ということなんですが、別の場所でちょっと１回お話しましたように、アベノミクスの動きを先取りする形で、特に運送業のあたりが、非常に物件を物色しているような動きが実際にございまして、特に植木インターから田島工業団地が近いということもあって、立地的にはそう悪くないようなんですね。ですから、まず、私どもとしては、これまでのせっかくのご努力を生かすように、何とか可能性があるんであれば、ここにまず集中して、１回つぶしてみたいと。その上で、まただめであれば次の戦略を考えていきたいということで。おっしゃるとおり、これをなるべく無駄にしないようなやり方で、もう１回生かす道を探してみたいというふうに思っているわけでございます。当然ですが、川辺とのセットという売り方も非常に有効かもれませんので、それはいいヒントをいただいたと思いますので、そういった面でもぜひ検討を進めていきたいというふうに考えています。以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　今特別委員会も、もう何年か開かれて、その議論の中で、一般的にいう損切りですよね。要は、帳簿上の簿価から穴が開く事項ではあるんですが、雇用を伴うのであれば、それは積極的に進めるべきだと思いますので、そこら辺は議会も十分理解をしていると思いますので、ぜひとも前向きに取り組んでいただきたいというふうに思います。

次に、施政方針について、稼げる農業づくり。２点目が、学校の跡地についてでありますが、まず、稼げる農業づくりについてです。

市長自ら、安心・安全の菊池ブランドを確立して、ネットモールの構築などをやって、付加価値が高い農業を目指すということをおっしゃっています。私は非常にいいことだとは思っております。しかしながら、ご存じのとおりに、その中で七城米が多分そうであったかと思うんですが、それに関連する、例えば、ＪＡとか畜連とか酪連、様々な組織とのかかわり方を非常に考えなきゃいけないというところで、そこら辺のところがうまくいくのかなという心配もしております。またネットモールで言えば、各自治体、問題はいろいろ浮き彫りになっているんですが、基本的に買い取りなのか、ネットモールになればインセンティブで商売をするわけですから、体力があるところはいいんですが、なかなか体力がないところはついて行けないという問題も生じますし、何よりも、僕がちょっと一番心配しているのは、強い農業をつくるということは非常に大切なことだとは思うんです。そのブランド力を立ち上げるのもいいんですが、どうしてもその中で、そのブランドづくりに追いついていけないとか、乗っかって行けない農家さんも必ず出てくるんではないかというふうに考えます。政治が持つ大きな役割として考えるのであれば、一方で戦略的に責める農業をやりつつ、いかにしてこの菊池の農業全体を守っていくのかというところも、一つ大きなテーマになるとは思うんですが、施政方針は総論方式なので、多分そこまでは書けなかったと思うんですが、そこら辺のところを市長がどういうふうにお考えかというのを、お聞きしたいというふうに思います。現在でも、特に今年は、ゴボウがいつもの半値ぐらいで、非常に安くて大変だという話を聞きますし、シイタケにおいては、熊本しいたけ、熊椎から出荷したものの中に、何か放射線セシウムが含まれたということで、実際的には、放射線セシウムの比重を考えれば、ここまで飛ぶわけないんですけど、何らかのことがあって風評被害で今値段が半分だそうなんです。例えば、しいたけでいえば、種ゴマ打って物が採れるまで２年間かかるわけですよね。そうなったときに耐えうる体力があるのかと。先ほど、坂井議員からお話がありました。償却資産に対する固定資産税の減免ができないかということで、「税は公平であるので、それはできない」というお答えは、私は何度も聞いています。僕は別の視点から経済部長に対して、その税の公平性を保

つということが一番であるのであれば、機械を買うときの補助金が要綱には１０分の１以上と書いてある。１０分の１とは書いていないですよね。結局固定資産税１０年間払うと、市から受けた１０分の１の補助金を全部市に返すことになるので、市は痛まないじゃないかという論法で来られる方もお出でなので、だったら、そこを合併合意事項で整理したとは言いながら、再度考え直して、その補助金を２割、１割上げれば、純粋な補助金として１０分の１残るんじゃないかという話もさせてもらいました。ここら辺のことも、まず、整理していかないといけないことだと思うんですが、ブランド力を高めることは、今からプロジェクトとして取り組まれると思うんですが、農業全体をどう守って行かれるかという観点について、市長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

あともう１点、学校跡地の問題ですね。これについては、まず地元の意見をということを必ずやります。僕はそのことは一番大切なことだとは思うんですが、いろんな跡地利用に関することを、地元の方とお話をしますと、「地元の言うことというのはおれもわかるよ」と。「ただ、いきなり何をしたいと言われても突発的に出るものではない」という話をされるんです。だから、例えば、いろんな小学校跡地について、じゃ地元も参画して、例えば、金儲けができるものをやるのかとか、どんなものがあるかとかという、全国の事例を、私は執行部のほうから皆さん方にプレゼンをして、そのプレゼンの中から選んでいただくという方法が一番じゃないかと思うんです。地元に任せたら、なかなか答えが出ない。だから、執行部に来たものを出しますからのんでくださいというふうになりかねないもんですから。

例えば、この間、僕の信頼する先輩とお話をしていたんですが、面白い意見がでまして、迫水小跡地がありますよね。様々な企業が今訪れて、下見をされているみたいですが、確かに、あの施設を売ってお金に換えるのも一つのやり方かもしれないけど、これは簡単なことじゃないんですけどね。広域連合で今の４署体制から５署体制も将来的に考えるという話があります。それはなぜか。中山間地における命の値段が同じ広域連合の中で違うということなんです。救急車が搬送する中で、循環器、もしくは脳に関する、それはトラブルは大体１時間から２時間が勝負と言われていますが、中山間地に行く場合は片道４０分程度かかってしまう。往復してドクターヘリに乗せてもなかなか間に合わないということがあると。そうであれば、今、問題になっているのは新しい出張所の建設コストを広域連合でどうみるかという観点からいえば、既に今建屋が建っていますよね。だったら、あそこの建屋に分駐所を入れて、人の命を守るという使い方もあるんじゃないかという方もお出でですし、例えば、今から老人が増えるから、地元を出たくないんだから老人福祉に関する施設を建てたらどうだという話もあるし、いろんな意見がたくさんあると思う

んです。だから、これらのことをぜひとも地元の方にわかりやすく、舞台の上に乗っけて上げて、それから地元の人が本当に何を望むかということを聞いていただく。それが一番やっぱり早い解決の仕方ではないかというふうに思います。ぜひともそういう形で、執行部側からの地元に対するプレゼンをお願いしたいと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま２点のご質問をいただきました。１点は、稼げる農業について、農業者全体の浮揚をどう捉えていくか、またＪＡ菊池等との連携といった点でございます。もう１点が、学校跡地利用についてのご提言ということでございました。

１点目でございますけども、私の考えています一番基本というのは、この品質イメージを上げていくと。それがこれからの時代にもあっていくんだと。それから、販売戦略としてＩＴを駆使した今の新しいやり方を取り入れていくことで、市場が広がるだろうと。こういうことを申し上げております。その際に、それは一部の利益にしかつながらないんじゃないかというご懸念でしょうか。

（「まあまあ、そこまではないですけどね」と呼ぶ者あり）

○市長（江頭　実君）　そうですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○市長（江頭　実君）　全体に広がらないんじゃなかろうかという理解でよろしいでしょうか。

（「広がらないというよりも、やっぱりそこにどうしても乗っかれない人たちが出てきたときの対処ですね」と呼ぶ者あり）

○市長（江頭　実君）　はい。恐らく、例えば、ご念頭にあるのは非常に規模の小さい小規模生産農家であったり、高齢者の方であったりということでございますね。実は、私の考えで、こういうインターネットによる販売戦略を組みあわせることで、実はこの小規模生産農家の方とか、高齢者の農家の方々、こういう方が実際にメリットを享受できるんではないかなというふうに、実は考えているんですね。といいますのは、インターネットのいろんな売り方によるんですが、どちらかといえば、これは大量のものをドーンと市場に売りつける方式とは全く逆でございますんで、個別ニーズに対応しやすいというところがあるんですね。ですから、例えば野菜ができていきますと、安心・安全の野菜がほしいと。ところが野菜というのは旬がどんどん変わっていきますんで、生産者の方々は、どんどん次の作物に移って行くわけですよね。そうしますと、一つ一つ単品を売っていくというよりは、菊池の安

心・安全の野菜パックという形で、パッケージにした形で、例えば２週間に１回、２，０００円お任せで、今週は人参が入っている、来週はできたばかりのキャベツが入っていると、いうふうなパッケージというのも、一つ非常に意味のあるもんだなと思っていまして、そういうところには、実は小規模生産農家さんとか、高齢者の方々がやっているようなものが乗っかりやすいんですね。ところが、それは非常に少量でありますから、自分でお売りになろうとすると、なかなか店舗があるわけじゃありませんから販売のツールがないと。ところが、こういうところに、これは１軒、２軒じゃなくて、幅広にそういう方々を集めれば、インターネットの今言ったようなパッケージに乗っけていくことは、非常にかなってくるわけですね。そういった意味でも、実は、そういった小規模とか高齢者の方々なんかも手軽に取り組むことができると。しかもインフラのところは、ご本人が心配する必要はないわけですから。そういう意味でもご利用いただけるんじゃないかなと思っています。それから、安心・安全というこの品質イメージで売っていこうというわけですから、何もこのインターネットで売っている分だけじゃなくて、菊池というと安心・安全の食品だなというイメージが広がっていく、それをねらいとしていますんで、仮に、インターネットに乗っからないものでも、それは十分にイメージを享受することはできると思いますね。そういう意味では、これもＪＡさんのほうにも、そういう効果はつながっていくと思いますし。それから、じゃ、ＪＡさんはイメージのところだけかというと、そうではなくて、ＪＡさんも今自らインターネット販売でお米をやっていらっしゃいます。今のところは米のみの取り扱いですから、むしろそこは連携する形で、うまくインターネットが回り出せば、ＪＡさんが扱っているものも、菊池基準ということにある程度乗っかってくれば、そういったものもこのルートで扱っていくというようなことは可能だろうというふうに考えているところでございます。

それから、学校跡地の件ですが、基本的には地元の方を、まずお気持ちとかを尊重したいと。これは学校というものが、その地のコミュニティを形成しておりますんで、それがなくなるわけですから、やはりそれが今後住民の方々の交流とか、そういう場自体を失うことにもつながりかねないんで、やはり住民の方々のご意見、お気持ちを尊重したいというのは、そこにあるわけですね。ただ、一方でなかなか地元の方だけじゃ決めきれないんじゃないかという観点は、実際的にはそういうところはあるかもしれません。それは恐らく情報が不足しているからかなというふうに思っていますんで、いろんな、今、都市部の人たちが、例えばどういうものを求めるかとか、あるいは他の地域の活用事例であるとか、あるいは先進的事例であるとか、そういったふうな情報をたくさんこちらのほうで仕入れて、常に供給してい

くようなことをやっていきたいと。その中で案といいましょうかね。事例としてはたくさんのものは紹介していきたいと思っていますが、恐らくそういう中から、いろんな議論が引き出せて、それで皆さんで意見を戦わせる中で、例えばこの地域については、むしろそれをちょっと応用したこういうものは合っているとか、そういうふうなやり方が多分一番地元に合うのかなと思っていますんで、そういう議論を活性化させるような情報、議論を手伝うような助言ですとか、そういう形で入っていければいいなというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　樋口正博君。

［登壇］

○１３番（樋口正博君）　学校跡地については、市長がおっしゃるとおり、やっぱり情報をどれだけ地元の方に流すかというのが一番大切だと思いますので、お願いします。

ネットモールの場合は、先ほど言ったようにインセンティブの取り引きになると、要は出来高になると体力が強いところは残るけど、なかなか集団出荷して、もう現金でもらったほうがいいというところも出てくると思いますので、さらにはネットモール自体が力がないと、物も売れないというところもあるので、ぜひとも全力を挙げて取り組んでいただければというふうに思います。

ただ、たとえ話なんですが、実は私の後輩が随分前に花で農林水産大臣賞を受賞したんです。「じゃ、久留米に持って行って高く売れるな」という話をしたんですが、「いや、僕らは護送船団方式で、みんな地域で一緒にやっているから、自分だけ抜け駆けができないんだ」というのも農業者の一つの心情でありますので、そこら辺のところも推し量りながら、本当に菊池の農業全体が浮揚できるように、市長のご活躍をお祈り申し上げます。

連日、フルタイムで大変でしょうから、ここら辺で終らせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後１時４３分

開議　午後１時５２分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、岡﨑俊裕君。

［登壇］

○６番（岡﨑俊裕君）　議席番号６番、岡﨑でございます。議長のお許しをいただきま

したので一般質問を行います。今回は２つの項目につきまして、通告をいたしております。一つには施政方針について。２点目には県営花房中部地区畑地帯総合整備事業についてであります。

まず、施政方針についてでございますけども、質問に入ります前に、去る４月１４日投開票の菊池市長選挙で見事初当選をされました江頭実新市長にお祝いを申し上げます。おめでとうございます。当選後の４月２４日に初登庁をされた際に、多くの市民や市職員の歓迎の拍手を受けて迎えられた朝、このときのことを、「このように多くの人が集まっているとは思わなかった」と笑顔でいらっしゃいました。新聞紙上に笑顔の江頭実市長が紹介をされていました。特に同級生の皆さんをはじめ、江頭実氏を支援をされました多くの市民の皆さんの喜びは大変大きかったんだろうと思います。それでは質問に入ります。

新菊池市が誕生しまして８年が過ぎました。今回の市長選で、市民は今後４年間の市政運営の舵取りを江頭実市長に託しました。今６月定例会の開会日、新市長として初の施政方針、所信表明に登壇をされ、冒頭、「市長として責務の重大さを感じた」とおっしゃっておられます。正直な思いではなかったかと私は感じました。今、市長がお座りのその席は、今後４年間の江頭市政に対するその重み、市民の期待、将来への夢、希望などが重く重なり合い、市民の思いが積もりに積もった席ではないかと私は思っております。市長、その胸にしっかりと刻んでいただいていることを信じています。私も大きな期待を持って見守っていきたいと思っております。

さて、平成２５年度の主要な施策について、選挙公約にそった７つの施策を述べられ、施政方針、所信表明では本市の持つ課題として、一つには経済の低迷、また財政基盤の構造変化、三つ目には一体感の醸成の３つが示されております。宝の山、菊池市を、次の世代へ引き継ぐため、課題解決の方策、決意として、次の３つの仕組み。一つ目は経済活性化の仕組みづくり。二つ目に効率化の仕組みづくり。三つ目に公平公正の仕組みづくりを挙げておられます。これまでの、質問に対する答弁でも、たびたび仕組みづくりという言葉が出てまいりました。また、非常に私が関心を持った言葉としましては、「菊ネット」、「菊池基準」をはじめ「森の中のまち」、「さくらの里」、「ホタル王国」。さらには、「新しい公共」、「市政の見える化」、「市政政策会議」などがあります。それぞれの行政課題を解決していく上で、さらには行政運営にあたっての重要な視点としては、１点目に市民目線、２点目に連帯感・連携感、３点目に発信力、４点目に活力、チャレンジを挙げておられます。また、「市役所内外の職場の風通しをよくし、市民と職員の問題意識の共有化、一体化の醸成に努める」と言っておられます。また、「予算編成方針

の中では、後世への負担を強いらないよう緊急性や実効性の高い事業を優先に取り組む」とも表明をされました。江頭市長の並々ならぬ市政改革、新しい町づくりへの意気込みを強く感じたところでございます。

市長の任期は４年であります。厳しい言い方というかもしれませんが、新市長として、今後取り組んでいかれる選挙公約及び全ての施策の評価は、市民の皆さんが４年後に判断をされます。今年度は菊池市の新市長として、政策的に各課題事業に取り組む初年度であります。本市の総合計画、あるいは新市建設計画に基づく主要な事業もあります。そこで、お尋ねをしますが、市長が大切にされている「常に市民の目線で」を主眼に選挙公約、さらには施政方針、所信表明をもとに、諸施策を確実に実行に着手される思いだと思いますが、ここでは、もっとも最優先事業の一つだけをお示しいただきたいと思います。

以上、１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　私の本年度の最優先施策についてというご質問でございました。私が本年度の施政方針の中で取り上げた事業というのは、ある意味全て重要施策と考えておる次第でございますけども、その中には、実際に花が開きだすまでには時間がかかるものも当然ございます。そういう中で、あえてその初年度の一つの最優先施策を取り上げてということであれば、私としましては、やはり農業と観光を組み合わせた経済の活性化の仕組みづくりということではないかと思います。やっぱりまず、いろいろ問題を抱えておりますけども、何はともあれ経済面での元気を出していかないことには、なかなか市が前に進まないんではないかというふうに思っている次第です。繰り返しになり恐縮ですけども、そういう中で、農業においては、高品質、高付加価値のブランドイメージをつくるためのいろいろな仕組み、それから販売の仕組み、こういったものを具体化していきます。特に、この菊池基準、あるいはインターネットショップ立ち上げのための様々な準備がございますので、それを今年度中に集中的にやりたいというふうに思っております。

それから、一方で、観光立国の具体的な手立てとしまして、「森の中のまち」、「さくらの里」、「ホタル王国」といったふうな仕掛けを具体化していくわけですが、これは当然中期的な取り組みで、息長くやっていくものではございます。ただ、ともすれば中長期的な取り組みといいますと、何となく取り組み自体を後回しにしていいような、そういうニュアンスについ誤解しがちでございますけども、長期なるが故に今着実に打っていかなければいけない初年度の施策というのもございます。ですから、まず、森の中のまちであれば、具体的に今のまちのあり様をもう

１回調査して、どういったところを、どういう優先順位でつけられていくかなとかですね。あるいは、どういったふうな木が適性としてはあるのかとかですね。そういったふうな基礎的な調査は、もう早速始めておかねばならんというふうに思っております。いずれにしても、こうやって農業と観光が一体化することで、「癒しの里」というイメージができていきますので、そのための施策として今年度、そういうやや基礎的、非常に地道な部分でありますけども、これがまずスタートとして非常に大事なことでございますので、そこにとりわけ集中してやっていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　岡﨑俊裕君。

［登壇］

○６番（岡﨑俊裕君）　今、市長の方から、経済の活性化を第一に、農業、観光業等を主体として、まずはじめに取り組んでいくというようなことでございました。それぞれの施策について、たくさん挙げておられます。非常につぎ込んでいくなかには、中長期的なところもございますけれども、足元をということで、私が思うのは、まずは、市長は始めて市の行政の中に入られました。そうすると、市長がこれから事業を進めていく上で、一番頼りになるもの、頼りにしなければならないものといいますのは、やはり市長の下で仕える職員。特別職を含め各部長、その下に仕えています課長職員であります。その人たちがこの行政を支えているわけです。今度は市長が思っておられるこの施政方針、所信表明で述べておられます各事業については、それぞれの職員の方が関係諸団体、いろんな方たちと調整をしながら、これを実現に向けて、進めていかなければなりません。そういう意味では、まず市長が先にしなければならないのは、職員とのかかわり、コミュニケーション、そういうところを第一に、私はしていく必要が、まずそれがあることであろうと思います。そしてそれを、自分の思っておられる施策に生かせるように職員とタッグを組んで、しっかり意思疎通を図ってしていくことが、まず基本にあるんではないかと思っております。そういうところで市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　庁内のいわばスタッフとのコミュニケーションという点について、ご意見いただきました。私は岡﨑議員のおっしゃるとおりだと思います。先ほどのお尋ねについては、私の最重要施策ということでございましたから、施策面についての観点から申し上げておりますけども、それを支えるための、いわば課題でございますね。課題としてのご質問であれば、まさしくそれはチームワークをとっ

て進めていく以外にはないわけでございますから。もう一つ課題という意味では、この庁内の力を一つにするということと併せて、市民の力を一つにするということについてもやっていかねばならぬ重要な課題だというふうに認識しています。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　岡﨑俊裕君。

［登壇］

○６番（岡﨑俊裕君）　しっかりとその課題を、肝に銘じられまして市政にあたっていただければと思います。当然、職員の皆様方も市長について、しっかりとそれぞれの課題解決のために、また市民福祉の向上のために頑張っていただけるものと信じているところであります。

それでは、２点目の質問に入りたいと思います。通告をいたしております県営花房中部地区畑地帯総合整備事業（担い手育成型）についてであります。はじめに、本事業につきましては、平成１７年３月２２日に、旧菊池市、旧泗水町、旧七城町、旧旭志村の合併によりまして、新菊池市が誕生する以前の同合併協議会から、合併後も含め、新菊池市の新庁舎建設予定地として創設換地により、公共用地確保を含めた事業の展開時点から、今日まで、本事業に多大な影響を及ぼし、今日に至っているのがこの事業であります。現行では１期地区、２期地区と２分割の事業になっておりますけれども、事業実施がなされてきたところですけれども、はじめに本事業の発足当初は、一つの事業としてスタートしたとのことでありますし、現在のように１期地区、２期地区となった経緯についてお示しをください。また、その後平成２４年度までの本事業の進捗状況についてお尋ねします。

一つには、県営花房中部地区畑地帯総合整備事業１期地区の事業経過について。２点目には、県営花房中部地区畑地帯総合整備事業２期地区の事業進捗状況について。３点目に、それを一番目にします。また、県営花房中部地区畑地帯総合整備事業２期地区における本年度、平成２５年度の事業について計画をされているそれぞれの事業内容を明確にしていただきたいと思います。また、花房中部２期地区における平成２６年度からの事業内容についても明確にいたしてください。

それから、合併前の四市町村合併協議会から、合併合意事項の要望を受けまして、県営花房中部地区畑地帯総合整備事業地内、現行の２期地区に創設換地として、非農用地、公共用地が確保されてきたところでありますけど、当該用地の取り扱いについて、市の考えを明確にしていただきたいと思います。

１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　岡﨑議員の質問にお答えします。県営花房中部地区畑地帯総合整備事業につきましては、平成１１年８月に地元推進協議会が結成され、受益面積１５３ha で事業採択に向けた推進が、図られてきたところでございます。しかし、平成１６年８月に地元推進協議会で、一部同意が徴集できないこと、また文化財調査面積が広範囲となり計画期間内の事業完了に支障を来たすおそれがあることなどから、地元推進協議会で検討され、結果としてできるところから事業採択申請行うため、計画区域を２分割して事業の推進を図るということで決定をされたところでございます。その後は１期地区につきましては、平成１７年度、２期地区につきましては、平成２０年度、それぞれ地権者の同意のもと、事業が採択され、別事業として着工をされたところでございます。その結果１期地区につきましては、平成２４年５月換地処分登記が完了し、併せて事業も完了したところであります。２期地区につきましては、平成２４年４月の計画変更により、区画整理及び畑かん６１．９ha、集落道路、地区外排水路等の整備を現在実施中であり、平成２４年度におきましては、区画整理１０ha、１号・２号集落道路及び地区外排水路の工事、文化財調査を実施いたしております。

また、平成２５年度の事業計画につきましては、区画整理１４ha、畑かん２４ha、１号・２号集落道路の舗装工事、文化財調査８，８００㎡。また換地業務として平成２４年度面工事の箇所の一部利用指定等を計画をされております。

なお、平成２６年度以降の事業につきましては、区画整理及び畑かん３７．９haの工事、完了整備工、文化財調査等を平成２７年度までに実施し、平成２８年度確定測量、換地計画書の策定、権利者会議、換地処分登記を行い、平成２９年３月事業完了を予定しております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　私のほうからは、最後の質問にございました創設換地、いわゆる非農用地部分についての考えを申し述べさせていただきます。私どもこの花房台に合併協議会での確認事項に基づきまして、公共用施設用地ということで７．３ha取得することが計画されておりました。この用地は県営花房中部２期地区畑地帯総合整備事業に併せて取得する計画でございまして、用地を確保するにあたっては、地権者、事業参加者の皆様のこの不換地ですとか、特別減歩などの強力をいただいてきておるわけでございます。

こういったふうな経緯等々を踏まえまして、この用地の取り扱いにつきましては、市が買い入れるということ進めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　岡﨑俊裕君。

［登壇］

○６番（岡﨑俊裕君）　再質問をいたします。今、それぞれの事業経過につきましては、ご説明をいただきました。また創設換地分については、市のほうで７．３ha、非農用地分については市で買い上げるという市長のご答弁をいただいたところであります。よろしくお願いを申し上げたいと思います。

県営花房中部地区畑地帯総合整備事業２期地区につきましては、先ほど、ご答弁の中では、事業完了は平成２９年３月の予定であるということであります。まだ、４年も先のことでありますけど、これまでに同様に県営の事業としましては、グリーンロード沿線におきまして、花房東部地区の経営体育成基盤事業。これには旧菊池市と旧旭志村でございます。区画整理２１７ha が平成１５年に完了をいたしております。また花房中央地区の経営体育成基盤事業。これは旧菊池市と旧七城町でございまして、区画整理９６ha、集落排水路が２．７㎞。このことが平成１９年度には完了をいたしておりますし、また花房北部地区の経営体育成基盤事業。これは旧菊池市でございますけれども、区画整理７８．８ha が平成２２年度までには完了をいたしているところであります。

お尋ねしております県営花房中部地区畑地帯総合整備事業（担い手育成型）は、先に挙げました３事業と同じく国営の菊池台地農業水利事業地内の一つの事業であります。ご承知のように、迫間川上流域に建設をされました竜門ダムは、平成１２年１月１８日に試験湛水が完了をしておりますし、平成１４年４月１には現行の管理体制に移行をいたしています。この竜門ダムを水源としまして、土地改良事業が実施をされてきたところであります。菊池台地地区の、うてな、花房、合志の各団地の農地の約４，８００ha と菊池川下流域、玉名平野地区の農地約４，４００ha、合計しますと約９，２００ha の農地に対して灌漑用水が補給をされております。

県営花房中部地区畑地帯総合整備事業２期地区の受益者の皆さん方は１日も早い本事業の完了を強く望んでおられます。市として、事業主体の熊本県と、連携をより強固なものとして、事業推進を図っていただきたいと思います。市として受益者の要望にどう応えていかれるのか、お示しをしていただきたいと思います。また、事業地内、先ほど市長の答弁で、創設換地、非農用地については、市で買い上げるということでございます。現在のところ、新庁舎予定地だったことは、もう消えておりますし、取得の目的についても、まだ明確にされていません。このことについてのお示しをいただければと思っております。当初の取得目的でありました新庁舎から計画が変更されておりますので、新庁舎と含めた複合施設でありましたけれど

も、計画が変更された今、取得目的をですね早急に決定をして、もっとも有利な合併特例債を財源に活用して、公共施設を明確にすることと併せ、新市建設計画の変更にも対応すべき時期に来ているのではないかと思います。市としての対応を明確に示していただきたいと思います。

以上、再質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　再質問にお答えします。花房中部２期地区の事業推進につきましては、市としまして地元推進協議会と協力、連携し、事業の早期完了に向け、推進を図っているところでございます。今後とも事業主体であります熊本県と一体となり、平成２９年３月の事業完了に向け、より一層努力をしてまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　先ほどの創設換地の新たな利用についてということでございますけども、ご指摘のとおり、庁舎問題が今のような決着を見た現在、あそこをじゃあどうするということについては、まだ計画が立っておりません。ですから畑総事業の全体の進捗状況もよく注視しながら、これから検討を着手していきたいと思いますが、庁内はもちろんでございますけども、大変重要な事項ですんで、地元はじめ市民の皆様のご意見も十分に伺ってまいりたいと。それから最終的には議会と協議した上で、よく吟味して利用目的を決定したいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　岡﨑俊裕君。

［登壇］

○６番（岡﨑俊裕君）　創設換地部分の公用地につきましては、現在のところ決まっていないということであります。これは私見ですけれども、熊本県の行政機構の見直しの中で、拠点整備をするというような話が出ておりましたけれども、県北における行政拠点としては菊池市というようなお話も聞いたような気がしています。花房台地の取り扱い、この庁舎、元庁舎用地ですけれども、７．３ha の公共非農用地としている公共用地の取り扱いについては、いろんな角度から検討をしていただければと思っております。県の行政改革の機構の中での県北での位置は菊池市というようなことでございましたので、そこら辺のところも含めたところで、今後、検討されることがあるでしょうか。もう一遍お答えをしていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　お答えいたします。ただいまの県としての行政拠点という意味では、私自身は今特段の情報は持ち合わせておりません。それも含めまして、ぜひ検討してまいりたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　次に、坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　どうも失礼しました。坂本昭信でございます。市長におかれましては、このたびの選挙にご当選おめでとうございました。この困った菊池市をどぎゃんかしてくださいということがあったと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、質問させていただきます。菊池テクノパークについて、お尋ねします。この菊池テクノパークは、私たちの地元から工業団地造成に対する要望書により、工事が行われております。川辺地区の住民の方々、また元地権者の皆様も工事の完成に強い関心を持っておられます。完成はいつになるのか、また国道３２５号線からの取り付け道路の進捗状況はどうなっているかお尋ねします。１回目の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　坂本議員の質問にお答えします。県営菊池テクノパークの推進状況と完成時期につきましては、県に確認しましたところ、平成２４年５月から造成工事に着手し、現在調整池工事をはじめ、擁壁、道路改良、排水路等の工事を含め、本年９月頃の完成を目指して進めているということでございました。

次に、本市が発注しております国道３２５号から、菊池テクノパークへの主アクセス道、市道川辺テクノパーク線の国道３２５号線から、日本精機株式会社まで、及び市道工場団地線の日本精機株式会社から九州柳河精機株式会社第二工場までの約８２０ｍにつきましては、現在用地交渉を進めている状況であり、同意をいただいた箇所から随時工事を発注したいと考えているところでございます。また、関連する市道川辺テクノパーク線の日本精機株式会社から九州柳河精機株式会社までの約５００ｍにつきましては、７月に道路拡張工事を発注することといたしております。また、副アクセス道路の市道菊池テクノパーク線、菊池テクノパークから高永団地までの約２４０ｍにつきましては、改良工事を今年６月末に完了する予定で進めております。

今後とも、県に対しまして、菊池テクノパークの早期完成に向けて働きかけを行っていきたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　ありがとうございました。最近、若者の就職難、交付税の減額などが予想される中にありまして、１日も早く企業誘致ができて自主財源の向上につながることを祈念いたしまして、次の質問に移ります。

災害復旧について質問いたします。いよいよ今年も梅雨入り、雨の季節がやってまいりました。あじさいが似合う季節などと言っている時代ではないと思います。昨年度の北部九州豪雨の被害のことを思いますと、そんな気持ちには到底なれません。河川は氾濫し、道は川となり、住宅は浸水するという痛ましい自然災害が恐ろしいほど、またいやというほど味わいました。本年の梅雨は大丈夫でしょうか。そうした心配がよぎる今日この頃でございます。それに従いまして、昨年度の被害箇所であります旭志の高柳四季の里線の工事状況はどうなっているか、お尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　それでは、ご質問にお答えします。市道高柳四季の里線の災害復旧工事につきましは、竜門ダム関連の農業用水の配水管がある１工区と配水管のございません四季の里側の２工区の２つの工区に分け、実施しているところでございます。１工区につきましては、県が施行します国営、県営の農業用配水管埋設も完了いたしまして、残り市が実施いたします道路の災害復旧工事も道路側溝などの構造物も現在完了しているところでございます。現在は路盤工の施行を実施しております。工事は順調にいけば６月末の完了を予定しているところでございます。また２工区につきましては６月２０日の完了を予定しております。しかしながら、梅雨の時期を迎えまして、天候次第では若干工事の完了時期が延びることも考えられると思います。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　備えあれば憂いなしと言われています。万全の備えをして、今年の梅雨を乗り切りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最後の質問になりますけれども、農林産物の販売拡大についてお伺い

いたします。２点ほどお伺いいたします。一つ目はインターネットショップの事業の取り組みについて。二つ目に農林産物に関する菊池市独自の安全基準である菊池基準の取り扱いについてお尋ねいたします。

江頭市長は、所信表明の中で、低迷する経済に元気を取り戻すことが何よりも急務で、農業と観光を今後の経済活性化の車の両輪としなければならないと言われております。特に基幹産業であります農業が、元気がないように見受けられるわけでございます。やはり農業が元気ですと、菊池市の中心街ももう少しは元気づくんじゃないかなと思う感じがあるわけでございますけれど、農業者にとりまして、作物をつくるのはプロでございますから、かなりのことはできると思います。

しかし、この販売面になりますと、なかなかおぼつかない部分があるのが現状であります。菊池の豊かな農林畜産物を多くの消費者に知ってもらいたい。そういう届けたいという心は、みんな気持ちは一緒だと思っております。

市長は選挙期間中から、インターネットショップを開設することを訴えておられました。そして早速補正予算の中で取り組んでいただいております。この金額は予算書を見ればわかるんでございますけれども、この市長の熱い思いをどのようにしてインターネットショップに持っていかれるかお尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　インターネットショップ事業の取り組みについてということでございますが、具体的に、今年度どういったふうな取り組みをしていくかということを、もう少し子細にお話したいと思いますが、念頭においていますのは、来年度中にこのインターネットショップを開設したいなというふうに考えておりますが、そのためいろいろな研究、準備が必要でございまして、一つには、既に全国の自治体の中で取り組んでいらっしゃる先進的な事例がございますので、まずこれをよく研究しておきたいと思っております。そのほかに、そもそも食材を取り扱うインターネット販売の事業の特性といったものを、様々な業者がおりますんで、そこで事例を収集して、よく整理しておきたいと。とりわけ売れ筋、それからそうではないもの、これが業務の成否を分けてまいりますんで、いわばそういったふうな成功と失敗の事例をより多く集めて分析しておくことが非常に重要であろうというふうに思っております。

それから、ネットショップ特有の業務の流れというのがございますので、ネットショップのその運営についての研究等も図っておきたい。集荷の仕組み、それから配送、それからお客様管理ですね。それからいろいろなインターネットを通じた通知等々行いますんで、個々の仕組みがしっかりしていませんと、かなり混乱するよ

うなリスクもございます。そういうＩＴ周りですね。それからお金が伴いますので、そういう決済周りのところ。こういったところをきっちり分析して、来年度のスタートにつなげればいいなというふうに考えて、具体的な構築に取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　それでは、二つ目の農林畜産物に関する菊池市独自の安全基準である菊池基準の取り組みについてお尋ねいたします。健康志向が高まる中、新鮮で安心・安全な食材を求める消費者のニーズは一段と高まっております。ＴＰＰが論議される中にあって、毒入り野菜やホルモン剤漬けの肉など、外国産より国産で産地は菊池というように、より安心・安全な菊池の基準でつくることが最も大事であると思うわけでございますけれども、どのような方法で基準をつくられるか。また、菊池ブランドづくり実行委員会等がありますが、菊池基準検討委員会等もつくられるんでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今度は菊池基準の取り組みについてのご質問でございました。安心・安全の農産物に対するニーズがこう年々高まっているわけでございますが、既にそれを繁栄する形で、様々な法律ですとか、制度等がもう既に整備されつつあるところでございます。現在本市では、国のほうで、平成１１年７月に制定された法律に基づきまして、いわゆるエコファーマーですね。この認定を行っておりますが、これがただいま現在９２９の経営体があるそうでございます。これは、平成２４年３月末における県内の同じような認定の経営体というのが１万４４３でしょうか、あったというふうに聞いておりますんで、この約９％を本市の農業者の経営体が占めておるということでございまして、まずまず比率的には既に高い取り組みをしているということは言えるのかなというふうに思います。

一方、県の方では、いわゆる「くまもとグリーン農業」ということを打ち出しておられまして、県レベルにおいての安全・安心農産物へのいわゆる認証制度というものが、もう既に見られるわけでございますが、実は、市町村のレベルでは全国的にはまだほとんど例を見ないものでありまして、調べたところ、極少数、私の記憶する限りでは２つぐらいの事例が目に入っておりますけども、まだその程度でございますので、この安心安全のニーズを先取りする形で、いち早く市として、この取り組みを始めることで、これは消費者への安心・安全のアピールに大きくつながっ

ていくんだと。その結果ほかとの差別化につながっていくことだというふうに考えておる次第でございます。

具体的には、この菊池基準というのをどういうふうに作り上げていくかということは、まさにこれからでございまして、ただ、大枠としては、せっかく今、「くまもとグリーン農業」というふうな県のつくった制度があるわけですから、なるべくこれとの整合性がとれるように、その少し細かな基準にしたり、あるいはそこにないもっと上のレベルのものも付け加えていったりというような形で、これからも既にこういったふうな安心・安全、先進的に取り組んでいらっしゃる環境保全型農業者の方々ですとか、それから一般の市内の農業者の組織ですとか、県、ＪＡなどの関係機関団体とよくお話し合いをしながら協議を進めていきたいというふうに考えておる次第でございます。そういう中で、今、ご質問のあった検討委員会のようなものも、今まだ未定ではございますけど、何らかのそういったふうな検討組織が必要かなというふうにも考えています。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　坂本昭信君。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　４年ほど前に、私たちは長野県の川上村に視察に行きました。当地は高冷地野菜の産地で、レタスの栽培が盛んに行われていたわけでございますけれども、農家所得が大体２，０００万円から３，０００万円、素晴らしい農業形態であったということで、大変びっくりして帰ったわけでございますけれども、当地はやはり東京大学を卒業して、レタス後継者になって頑張っている後継者の方々もいらっしゃいまして、なんとまあ素晴らしい村なんだろうと思ったわけでございます。また、川上村の村長さんの話では、「私は公費をもって使って、自分の夢を実現するんだ」と。「それによって、住民の方々に満足を与えたい」というような話をされました。昨日、市長の話を聞いていますと、市長も小さいころ、図書館をつくって、市に寄附したいというような夢を持っていたんだという話を聞きまして、運がいいかわからんけれども、なった突然図書館の話が出てきたと。なんと素晴らしいこの人生なんだろうと、私は感信しているわけでございますけれども、今後、やはりこのように市長は責任感も強いだろうし、責任もあろうし、いろいろあると思いますけれども、やはりリーダーシップをとって、ある程度生きたお金でよりよい予算で最大の効果が出ますように頑張っていただいて、やはり、その何と申しますか、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・正しい行政を行っていただきたいと思うわけでございます。私も、微力ながら是々非々で市長を応援したいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

質問終わります。

○議長（山瀬義也君）　ここで、１０分間暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後２時４４分

開議　午後２時５３分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここで、坂本昭信議員から発言の申し出があっておりますので、発言を許します。

［登壇］

○１６番（坂本昭信君）　私の先ほどの質問の中で、不穏当な発言が出たと思いますので、あとで、議長でしかるべく処置をとっていただきたいと思います。どうもすみませんでした。

○議長（山瀬義也君）　ただいま坂本君から発言中、一部不穏当発言があったので、取り消しの申し出がありました。坂本昭信君の発言につきましては、後日会議録を調査し、不適切発言等が合った場合には、善処したいと思います。

次に、葛原勇次郎君。

［登壇］

○１８番（葛原勇次郎君）　葛原でございます。今回初めての議会であります江頭市長には、新市長就任おめでとうございます。それから、田植えの時期を迎えております農家の皆様方のご苦労に感謝を申し上げたいと思います。日頃より米飯を食とる方々は、この米の意義あることも噛み締めてほしいと、百姓の代表としては思うわけでございますので。私は施政方針についてとしております。市長の所信表明を聞いたあとの質問であります。選挙戦で訴えられましたとおり、所信表明にも言われております。ありがたいことでありますが、「菊池市は素晴らしい素材がたくさん、宝の山である」と言われております。また、安心・安全の癒しの里を目標に課題を総括し３つの「経済の低迷、財政基盤の構造変化、新市の一体感の醸成」を掲げつつ、宝の山である菊池市をあとの世代に引き継ぐため、課題解決方策として、３つの仕組みを挙げられております。「経済活性化の仕組み、効率化の仕組み、公平公正の仕組み」と言われております。「経済活性化の仕組みの中には、世界的大きな潮流は健康志向と自然回帰」と言われております。「このような観点からみれば、宝の山であり、農業と観光を今後の経済活性化の車の両輪と位置づけ進める」とも言われております。「まず、農業は安心・安全、品質イメージと販売戦略として、菊池基準をつくる」。「観光には自然歴史文化資源など、豊富な素材活用」。

ここに温泉が入っていたらば、まだよかったかと思いますが、「癒しの里のイメージをつくり」、長期的には「森のまち」、「さくらの里」、「ホタル王国」等を言われております。中期的には小水力との自然エネルギー、そのほかに菊池の価値を高めるためには、教育の振興の人材育成は永遠の最重要課題とされております。ありがたいことであります。

これからが、質問であります。主要施策について選挙公約に沿った７つの施策を述べられております。その中の癒しの里づくりの観光戦略の中で、アウトドアスポーツによる滞在観光ニーズを取り込むために、中山間地を中心にフットパスやサイクリングロードを計画的に整備して、今後の調整に入ると示されております。魅力を感じますが、少し詳しく知りたいため、今質問をしたいと思います。これが１点でございます。

２点目は、「支え合う安心・安全の社会づくりの中で、交通弱者対策として、利用者の利便性や財政負担の軽減を視野に入れながら、べんりカーやあいのりタクシー運行を、地域の実情に合わせて行っておりますが、路線バスの維持、あいのりタクシーの区域設定などについて、もっと効率的な仕組みを構築するために、利用状況調査を行ってまいります」と示されております。質問といたしまして、今、交通弱者はどのような人を指しているかを聞いてみたいと思いますし、３点目は、効率的な仕組みの考えをお聞かせください。

以上、３つを質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　葛原議員の質問にお答えします。まず、私のほうから「フットパス」の意義につきまして、ご説明をさせていただきます。フットパスにつきましては、イギリスで発祥しました森林や田園地帯、古い町並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと（フット）ができる小径（こみち）ということで意義づけをされております。また、フットパス・ウォークは一般的なウォーキングとは違い、健康のためだけではなく、地域のありのままの自然や歴史、文化を発見しながら、癒しを感じて歩くというということでございます。本年４月、菊池地域振興局で菊池一族散策マップと、七城地域、泗水地域の「フットパスマップ」が作成をされております。菊池一族散策マップにつきましては、菊池武光公騎馬像前をスタートとしまして、将軍木や菊池神社、武光公墓所などを巡る３．５㎞のコースとなっております。また、七城フットパスマップにつきましては、「川の流れとともに時をたどるコース」ということで称されており、七城温泉ドームをスタートし、前川水源や亀尾城跡、碧巌寺などを巡る５㎞と６．５㎞の２

コースが設定をされております。また、泗水フットパスマップにつきましては、「近代産業の足跡と古（いにしえ）の守り神をめぐるコース」ということで称され、孔子公園をスタートとして、泗水社製糸工場跡や福本聖母八幡宮、中林城跡を巡る５．７㎞コースがそれぞれ設定され、紹介をされているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のフットパスに関しまして、少し付言をしておきたいと思います。まず、時代背景としまして、近年におきましては、自然の中で心の癒しですとか、リフレッシュの機会を求めるといった、いわゆる自然回帰、健康志向のアウトドアライフを楽しむ方々というのは、非常に増えてきております。当地の場合はこの自然や景観に加えて、様々な文化や歴史、あるいはその史跡といったものがたくさん点在しております。ですから、こうした点を線でつなぐことで、非常に魅力のあるフットパス・ウォークというのが生まれてくるんではないかと。そういうことで、人を引き付けられるんじゃないかというふうに考えている次第なんですね。例えば、葛原議員のお住まいである迫間地区においても、もう既に、私自身まだ狭い経験ながらも、既にいくつもの心ひかれる素材を発見しているわけなんですね。ですから、これをぜひつなぎ合わせて、菊池市ならではの心に届く観光資産にしていきたいというのが私の政策的な考え方です。こうすることで、癒しを求めて、都市部の方々がこちらのほうにいらっしゃると、菊池のよさが体でわかっていただけると思いますね。そうしますと、その地域、地域の方々との交流が始まりまして、それが思い出につながって、お帰りなって、また評判が広がる。あるいはご自身がリピーターとしてまたいらっしゃるというようなことで、当然こうしたことが、飲食ですとか、宿泊ですとか、いろいろな経済活動につながっていきますので、地域の活性化、経済の活性化にもつながるものだというふうに考えています。そのために、歩きやすい小径（こみち）の整備をやっていこうということで、これは新しく道路をつくるわけでも何でもありませんでね。今あるあぜ道なんかもそのまま生かせますし、竹林を少し整備してその中を通すとか、昨日も出てまいりました森の間伐をやって歩ける森にすると、楽しみもまたたくさん広がるとか、住んでいる方の参画を得ますと、参画する方々も非常に楽しみのある取り組みになってくるんではないかというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　２点目の交通弱者対策についてお答えいたします。交通弱者の意味としましては、概ね２つの意味がございますが、一つは、交通事故の被害にあいやすい人という意味でございます。もう一つは、自動車中心の社会において、移動を制約される人という意味でございます。今回は、自動車、自家用車社会の中で、公共交通を使われる交通弱者という意味でございますので、後者のほうにあたると思います。それでは、この交通弱者にあたるのは、どのような人であるのかの質問でございますが、年齢要件及び高齢や障がいの内容などが原因で、普通免許の取得や更新が困難な人や、身体的に自動車を運転できない方々が一般的に交通弱者と呼ばれています。このような交通弱者について、本市では特に移動手段として公共交通機関に頼らざるを得ない方々や、市民の皆様の生活交通の利便性を確保するため、べんりカーやあいのりタクシーの事業及び隣接する市町への路線バスを維持する運行補助を行っているところでございます。

また、施政方針の中にございます公共交通体系の効率的な仕組みの構築としましては、公共交通は全国の自治体で取り組まれており、その内容は多種多様なものでございます。自治体の地域事情により、それぞれに異なった特徴を有しており、本市としましても、まずは利用状況の把握、分析を進め、本市の実情にあった、さらに効率的な仕組みの構築に努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　葛原勇次郎君。

［登壇］

○１８番（葛原勇次郎君）　歩く方の素材はいっぱいあると思います。今、市長言っていただきました。私たちのほうには石橋にしても、寺跡にしても、迫間川上流にしましては、私の知る限りでも、石橋あたりも５つはあるようでございますし、いっぱい素材はあると思いますし、そういうようなことを利用していただければ大変ありがたいかなと思っております。

それから、サイクリングのほうになりますと、少しは道路が狭もうございますので、道路等々の整備も必要であろうかと思うし、ぜひ要望してみたいと思っておりましたところ、どなたかの質問の中に迫間川流域の護岸から整備していくというような市長のお答えでございましたので、大変ありがたく受け止めておるところでございます。それで、私、この観光戦略からの中山間地の取り組みの中でも、今、サイクリングももちろんでございましたが、滞在型の観光でございますので、私の私見でありますけれども、ダムや菊池渓谷や鞍岳の麓あたりに、何かメインになるような風力水車と申しますか、それを兼ねた展望を、菊池市一帯を展望するような施設をつくりながら、顧客を引いて、中山間地に森の中のキャンプ場とか、具体的に

いえば、水源の駐車場から広河原のほうに行く違う道をつくるとかというようなことではなかろうかなと、私の思いでございましたが、市長のお考えがございますれば、聞いてみたいと思います。

それから、また２点目といたしましては、交通弱者のことを今言われました。私は昨年の６月１４日ですので、１日違いますけれども、交通弱者のための中山間地を通る廃止３路線の復活の考えと、学校が統合するから、スクールバスと路線バスとの併用はできないかという質問をいたしました。その中では、自家用車の到来でバス利用者が少なくなったこと、時代とともに、当時免許取得が卒業と同時に免許を取った方々でも、もう既に７０歳になりますし、実年で取得した方々はもう８０歳から９０歳になる。免許証を返納する時期が来ておるということで弱者になることも申し上げました。「路線バスを利用し、菊池に泊まり、渓谷、竜門ダム、紅葉に行く」と言われたときに、どういうような答えをされるんだろうかというようなことも質問してみました。「子どもたちの健康のためにはバスの停留所まで歩くことも必要であろう。子どもたちと老人の人たちとのあいのりも教育の面でもよくはないか」等々のことを申しあげました。そのときの答弁は「経費がかさむ、べんりカーは３分の１で済む、田舎はあいのりタクシーを勧める」というようなことの答弁でございました。併用につきましては、道路運送法があって、一般乗合旅客自動車運送事業の許可が必要であると答えられております。私は、スクールバスの朝１回と帰り２回程度でございますので、もったいないがゆえに申し上げてみましたし、今、老人福祉センターにバスも一つありますが、そのようなことも朝晩１回でございますので、もったいないということで申し上げてみたところでございます。それで、最近はべんりカーの回る範囲を広くしてほしい旨の要望が上がっていることは、執行部も知っておられると思いますので、菊池市内を全部回るコースの調査、検討はするとされておりますので、廃止路線にもべんりカーの範囲を広くするような考えがあれば、お聞かせいただきたいと思います。

先に渓谷のことを申し上げましたが、渓谷の駐車場の係りの人に会うことができました。最近では、菊池渓谷の駐車場に長く駐車される方がおられるというようなことでございますが、朝９時に来られて４時までぐらいおる。これは森林浴を味わっておられるような方だろうと思いますけれども、そういうようなことであれば、駐車場がいっぱいになりますがゆえにべんりカー等々を回すような考えはないかなということをお聞きしてみたいと思います。そのことを一応お聞きしてみたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　いくつかご質問ございましたので、少し確認をしますと、最初にサイクリングロードに関する件、それから、交通関係であいのりタクシーとスクールバスの活用ということですかね。スクールバスの活用はいかがかということ。それから、べんりカーの範囲並びに活用の仕方についてと、こういうことでございましょうか。

サイクリングロードに関しましては、まず１点、ご質問の中で、迫間川の護岸に整備するとご理解いただいたのは、これは桜の話でございます。私が聞いたときは竜門ダムのところに、サイクリングロードがあって、そこに桜が今整備されつつあると。それとつなげる意味で、例えば例として迫間川からそこに桜をつなげるとどうだろうかということも検討していきたいと、そういうふうに申し上げております。

それから、サイクリングロードのルートですとか、途中での休みながらの展望施設であるとか、そういったところはアイデアとして、ぜひ今後検討の中に取り入れていきたいと思いますんで、また引き続きご意見のほう等お伺いしたいと思います。

それから、交通弱者対策との一環から、スクールバスの活用ができないだろうかというお考えでございますけども、まず、当市の今の公共バスというのは、様々な試行錯誤を経まして、ご存じのとおりの、今のあいのりタクシーというのが主力になっているわけでございまして。これは、従来の路線バスに比べますと、費用が３分の１くらいになっているということで、非常に一つの成功事例として平成２２年だと思うんですが、国土交通大臣表彰までいただいているということで、非常によい先進的な取り組みだったんだなということで、私も大変感銘を覚えております。使えそうなものは、何でも使っていこうという、そのアイデア自体は、大変私は素晴らしいなと。それからスクールバスを活用するというアイデア自体も大変興味深いと思います。特に、生徒と地域のお年寄りの方との交流の場という副次効果もあるというようなことで、大変面白いアイデアだなとは思います。

一方で、現実問題としては、スクールバスを児童生徒と、それから一般の方の利用というのは、併用するということは、いろいろ認可の問題等も絡んでくるようでして、国土交通省による一般乗合旅客自動車運送事業の許可等々の手続きが必要になるとか、それから現実問題は各停留所が今まで以上に、ストップ、止まっていくことになりますので、停留所が増加することで通学時間が少し長くなる可能性があるとか、発着が不規則になる可能性があるとか、いろんな問題もあるようでございます。

一方で、何でも１回検討してみようという意味では、スクールバスに限らず、地

域を走っているデイサービスのような車もありますわけですから、これも恐らくいろいろな許認可で、そう簡単ではないだろうと思いますが、もう１回今の利用の実態、それから特に中山間地ですとか、あるいは高齢者の方が多くなった地域ですね。そこら辺はニーズが少し変化している可能性もあります。今までは車で済んでいたけども、もう車に乗れなくなったとかいうふうな状況の変化もあるかもしれませんので、まずはともかく今の実態調査等を進めてみたいというふうには考えております。

それから、べんりカーというものを、例えば今度は、一つの観光地である菊池渓谷なんかに活用してはどうだというお話でございましたが、昨日も新聞で阿蘇でございましたかね。地元の公共交通手段とそれ用の観光を結びつけて、観光客も利用できないだろうかという試みが、今阿蘇で実際に行われているようでございますんで、そういった事例も少し研究してみたいというふうに思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　葛原勇次郎君。

［登壇］

○１８番（葛原勇次郎君）　実態を調査するということでございますので、よくよく実態調査をして、一番いい方法をとっていただければ、ありがたいかなと思っております。

一つだけ、市長に要望と提案をして終わりたいと思います。どなたの議員かにもお話になっておったかと思いますけれども、市長は、「１０月にミニバレーとグラウンドゴルフによる大会を実施し、市民がわくわくするようなスポーツ大会をしたい」と言われております。大会の考えをお持ちなのは大変いいことでございますが、私の私見といたしましては、小学校９校、中学校５校、各種のスポーツ大会も市の学校のグラウンド、体育館、全域を利用しながら行事を行い、昨日か一昨日かと思いましたけれども、垣根をとる意味においてはスポーツがいいというようなことでございましたが、そのような行事をしていただくようなことでございますが、１０月には、またいろんな行事がございます。商工会のお祭りやら新宮さん、全部併せたところの多祭日、多くの大会の祭りの日とでも銘打って、１日を市民休日として、新たな固定日を定めて、一般も併せて総合スポーツ大会とお祭りを市民挙げて行うようなことにすれば、わくわくするようなことになりはしないかと。幸いに学校は２学期制で、期末の休みもありますので、そこの総合大祭日との試みの要望と提案をしておきます。この日にちの設定等々がいろいろ問題になろうかと思いますけれども、そういうような提案が、これは長いことの念願であるというようなこともありますけれども、これは通告はしておりませんので、私の要望として取り上

げていただければ幸いかと思います。

私の質問は終わります。

○議長（山瀬義也君）　次に、森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　こんにちは。森清孝でございます。まずは、市長のご就任おめでとうございます。時間も押しておりますので早速通告どおりに質問を始めたいと思います。まず、自治公民館につきましてお尋ねをいたします。「自助、共助、公助」というスローガンとともに、自治公民館を活用した行事も多くなってきました。また、高齢者の気軽なよりどころとして地区公民館への期待も大きいものがございます。そんな状況の中で、私の地元で、先日高齢者のお楽しみ会をされた世話人さんから聞いた話がございます。会合も佳境に入ったところ、公民館の使い勝手の悪いトイレを理由に２人、３人と途中で帰られますというような話でございました。一度帰られますと戻って来にくくなりますし、本人さんも辛かろうと、そういう思いでございますという話でございました。なるほど、よく見てみますと、若い人には普通の水洗トイレでも、足腰の弱った高齢者には狭くて和式のトイレは辛かろうなというような話になったわけであります。その話の続きで、それでは公民館改修へと、地元の何人かで話が広がったわけであります。そういうことをもとにしまして、以下、公民館に関する条例や整備補助金交付金要綱等に基づきまして、お尋ねをいたします。市としましては、自治公民館につきまして、その建設年度や規模、仕様、改修歴等につきましてどのように把握されていますか。一定のカルテといえるようなものがあるかないかをお尋ねをいたします。

二つ目、地区公民館条例の定めにある七城の地区公民館とほかの自治公民館の違いはどこにありますか。お尋ねをいたします。また、普通、地区公民館、自治公民館といわれているものは、地区のものと考えてよろしいのかお尋ねをいたします。

三つ目、旧菊池地区には公民館の支館というのがございますが、その生い立ちと現況についてお尋ねをいたします。またその支館の仕組みは、ほかの地域にも拡充されたほうがいいとお考えになっておるのか、どうなのかをお尋ねをして最初の質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　お答えをいたします。本市の公民館数は自治公民館が１７０、旧七城町の地区公民館が３１の計２０１ございます。また、区によっては公民館を持たず、公共の施設や民間の施設等を利用されているところもございます。このうち自治公民館につきましては、区が単独で建設されたものや、複数の区が共同

で建設されたものであり、建設費用につきましても区の自己資金だけで建設されたもの、あるいは公的な補助事業を利用して建設されたものなど、建設の方法は様々でございますが、基本的には区所有の施設であり、どこまで行政が立ち入って実態を把握すべきか判断が難しいところもございます。しかしながら、自治公民館は各区と行政の接点となる重要な施設であり、教育委員会でも、その活動や施設の整備を支援しており、常に実態を把握しておくことが重要だと考え、現在簡易ではありますが、公民館台帳というものを作成をいたしております。台帳の整備状況は、建設年度、床面積、改築状況等でございますが、各区によって把握内容の度合いが違っており、今後、区のご理解を得ながら、さらに台帳の整備を進めてまいりたいと考えております。

次に、菊池市地区公民館条例で規定をしております旧七城町の地区公民館でございますが、この地区公民館は地元負担と過疎債を利用して合併前に建設されたもので、旧七城町が事業主体となったため、建設後に管理運営に関する協定書を地元と結び、区を指定管理者として委託を行っております。なお、この地区公民館につきましては、旧七城町が事業主体であったため、台帳の整備はできているところでございます。

次に、公民館支館についてでございますが、旧菊池市において、校区の人づくりの拠点施設となる校区の公民館として建設を進めたもので、現在、竜門地区、花房地区、水源地区、迫間地区、戸崎地区の計５つの支館がございます。各校区では、校区単位の各種の祭りやフェスティバルやスポーツ大会等が実施されておりまして、建設の目的とした地域づくりの拠点として、十分活用されていると認識をしております。運営につきましては、各校区の支館運営委員会組織に委託しているところでございます。なお、現時点では、その他の地域へ拡大する計画はございませんが、地域からの要望がありました場合には、十分な協議が必要だと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　それぞれ、その自治公民館の生い立ちというのがよくわかりました。ただ、私どもの周りを見てみますと、同時期に大体できた同じような補助事業等でできた公民館があるわけでございまして、それが、同時期にできた関係で同時期に古くなっていると。やがて大改修なり、改築の時期を迎えつつあろうと、このように思います。

そこで、今、改修や改築、建て替えの情報等を、市としてどのようにその状況を

つかんでおられるのか、今までそういう大改築、大改修等があったかどうなのか。最高２００万円の助成というふうになっていると思いますけれども、近場でそういうことがあったとしたならば、その状況をつかんでおられるならお答えを願いたいと思います。

２つ目に、これは福祉の観点からでございますけれども、地区公民館を今後の地域福祉活動の拠点としたいというような福祉のほうの思いもあるようでございますけれども、今の手上げ申請して、査定に合えば助成をしましょうというような、言ってみるならば対処療法的なやり方というよりも、福祉の視点から見た長期的な公民館づくりといいますか、地区公民館づくりという、お金の負担は誰がするかは、また別でありますけれど、そういう計画をつくる必要があると思いますけれども、いかがお考えかお尋ねをします。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　再質問にお答えをいたします。自治公民館の整備につきましては、現在、菊池市自治公民館整備補助金交付要綱を中心とした整備を進めております。内容は、新築、全面改築の場合、事業費の３分の２以内で上限３００万円の補助、改造の場合、事業費の２分の１以内で上限２００万円の補助となっております。また備品につきましても、同要綱の中で整備を進めており、事業費の２分の１以内、上限５０万円とした補助を行っております。

次に、新築、全面改築の過去４年間の実績を申し上げますと、平成２１年度は１件の３００万円、平成２２年度も１件の３００万円、平成２３年度は３件の９００万円の補助となっております。これに、改造を含めますと、平成２１年度は８件の５６１万円、平成２２年度は１２件の５７２万円、平成２３年度は１６件の１，３４６万円、平成２４年度は１２件の４００万円の補助となり、年度により申請数は違いますが、毎年着実に各区の整備が進んでいると考えております。

なお、平成２５年度、本年度でございますけども、申請の状況は新築が１件の３００万円、改造が１１件で５７１万９，０００円、合わせて約８７２万円の補助金申請予定となっております。そのほか、備品の購入申請と合わせますと、総額１，１１８万５，０００円が補助金申請予定となっておりまして、地区の負担はこういった補助金等を除いた分となります。

また、公民館は現在では、公的な福祉サービスの拠点としての役割が増えているということは確かであると認識をいたしております。多くの区では、区民の高齢化が進んでおり、近年ではトイレの洋式化や座いす購入申請が増加しており、市といたしましても、公民館台帳を整備する中で、住民の福祉サービスの拠点としての側

面も考慮しながら、自治公民館の整備を進めてまいりたいと考えております。

しかしながら、自治公民館は基本的には区が所有し、管理運営を行う施設でございますので、整備につきましては、今後も各区でお願いしたいと考えております。

なお、自治公民館整備補助金の説明につきましては、現在、毎年、各地域の支部会議と全体定例会で行っておりますが、さらなる周知を考え、今後は広報紙やＨＰへの掲載も行ってまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　最後は、市長にお願いせねばならないのかと思いますけれども、今、中央公民館の改修という話が、先ほど来出ておるわけでありますけれども、考えてみますと、中央公民館がいくら立派でありましてもですね。それはそれで整備せにゃならんと思いますが、大多数の高齢者や大多数の市民といいますものは、中央公民館まで来る人は割りと少なかろうと、このように思います。特に高齢者に至っては地区の公民館がよりどころというような思いがあるわけでございますので、先ほど台帳の整備を急ぎたいというようなことがございました。平均的なといいますか、効率的な助成、あるいは公平な助成という観点からも所有は区でありましても、それにかかわりのある市でございますから、そういう公民館カルテづくりといいますか、台帳づくり、併せてお願いしたいと思いますが、お考えをどうぞ。お聞きしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今、ご質問のありました点ですが、まず、せっかくの機会ですんで、公民館というものについての、私の今の所見ということをまず申し上げますと、これからますます国から見ますと地域は、地方は地方で生きてくれと。この地域づくりをしていく中で、やはり行政任せとか、そういうことではなくて、やはり行政も住民も一緒になって、どうやって自分たちの町を作り上げていくかと。それは福祉についても同様で、みんなで考えながら作り上げていかないといけないと、そういう時代になっていると思うんですね。そのことが行政のコストも下げますし、本当に実効的な刺さる企画にもつながっていくと思っております。そういう意味では、地域が一つの力になるためには、やっぱりそういう場というものが必要だと思いますので、まさしく今の公民館というものが、これからそういった役割をますます強めていくんだろうなという気がしているんです。そういうものがないと、それでなくてもＩＴの進展に伴って、人と人の触れ合いというのがだんだん希薄に

なっていっておりますんでね。そういうものをつなぎとめる場としても、公民館は非常に大事だと思います。

また、福祉の観点から見ましても、医療費がどんどん高騰する中で、やっぱり予防医学的な観点で、いろいろお年寄りに集まって体を動かしていただくとか、そういったことのいろいろな気づきですとか、啓発ですとか、そういったことも必要ですし、高齢者の方々に生きがいを与える場となってもほしいと思いますし。それから、先ほどから言っている地域の方の触れ合いコミュニケーションの場という意味でも、これから公民館というのは非常に大事になってくるなというふうに考えておりますので、それは行政としても、この負担の分担の仕方というのは、これはこれで今までのルールがあると思いますが、整備等々に関してはしかるべく意識を持って取り組んでいきたいというふうに思っています。

そういう意味では、この台帳、カルテの整備ということに関しても、これは全く民間の施設ということではないわけですから、私どもとしても、やはりある程度全体感は常に見回せるような、そういう仕組みは必要かと思いますので、ひとつ今のご提案を受けて、どういうことができるのか少し検討してみたいというふうに思いますので、まずちょっと今は実体がわかりませんので、実態からちょっと調査をさせてください。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　多くの市民でありましても、昔からの集落に属している方は、その大小によりまして、公民館のないところもあったり、不遇な人もおられるということになりますと、それでいいのかなというような思いもいたしますもんですから、台帳づくりを急いでいただきたいと。豊かな村は何回も、２０年、３０年で改修して、村といいますか、集落はですね、地区は。その地区の差というのも出てきやしないかというふうな心配もございますので、お尋ねをいたしました。

ごみ処理のほうにまいります。ごみ処理につきましては、今まで、それぞれ何人かの方がお尋ねになりまして、答弁があっております。それで、まず江頭市長としましては、広域処理を目指し、環境保全組合菊池全域の加入の方針であること。そのためには、３，１００万円返還しても、ストックヤードの建設はやめますということ。要するに、菊池市としてのスタンスはこれでいきますというような答弁が今までございました。それがわかりますと、改めて質問もないわけでありますが、簡単に２点についてお尋ねをいたします。昨日の日経新聞に平成２９年から「エコヴィレッジつくりましたＲＤＦへ民間委託します」というような記事が出ておりまし

た。大牟田は平成２８年でやめるということでございます。この新聞に載ったということは、何か具体的に話が進んでいるのかどうかを１つお尋ねをいたします。民間ということですから、いろいろあるでしょうけど、答弁のできる範囲でお願いをいたします。

２つ目、エコヴィレッジの期限もございますし、広域に加入したとしましても、工場の稼動の時期もございます。それから、その時期の違いといいますか、処理は処理で毎日やっていかなくちゃならんわけでありますから、つなぎといいますか、加入すること自体もこっちの思い通りにはならんかもしれんですけれども、エコヴィレッジ旭の期限もございます。その辺をどう考えておられるのか、お尋ねをいたします。この２つ。

それから、打ち合わせのときに申し上げておりました九州産廃との関係の中で、基本合意書というのがあったわけでありますが、その数値に関して「７０％ぐらいが未達のことを反省し」というようなことがあったわけでありますけども、それも含めて答弁がありますならば。なければ結構でございます。お尋ねをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　こんにちは。森議員のご質問にお答えいたします。菊池環境保全組合の新環境工場は、議員ご承知のとおり平成３３年４月に稼動予定で計画をされておるところでございます。エコヴィレッジ旭と大牟田リサイクル発電所との契約期間は平成３０年３月３１日までとなっております。本市としては、その後の契約は更新しない考えであります。また、エコヴィレッジ旭の稼動期間は、周辺集落との協定により、平成３１年３月３１日までとなっております。

大牟田リサイクル発電所との契約が切れた後のＲＤＦの処理先につきましては、阿蘇広域行政事務組合と同じ民間業者への委託を検討しているところでございます。

続きまして、九州産廃との基本合意書の７割未達成云々でございますけども、九州産廃との基本合意書では、「１３項目の一部未達成については、疑義は問わない」という形で交わしております。本市全域が菊池環境保全組合に加入することについて、市としては基本合意書を交わして、「１３項目の一部未達成については、疑義は問わない」という形で、会社からちゃんと協定を結んでおりますので、菊池環境保全組合に加入することに対しましては、何ら障害はないものと考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　ごみ処理については、これで終わりまして、施政方針についてお尋ねをいたします。

農工商の後継者育成ということでございますが、このたび江頭市長におきましては、経済の振興というようなことで、いろいろな大きな多岐にわたる構想があるわけでございます。しかし、長い間農業をやっております身からしますと、非常に農業の振興、あるいは商業、工業を含めまして、家族でやっております零細工業といいますか、商業含めまして、非常に思うようにまいらんというのが実態でございます。いろいろ物や施設の補助を受けましても、結局は農業におきましても５０年その道で、戦後５０年やってきたわけでありますけれども、一部には成功された方もおりますけれども、なかなか思うようにまいらんというのが実態であります。

それで、一回りしまして考えましたことは、やっぱり気がつけば、急激に時代が変わっておりますもんですから、隣近所見てみますと、農村におきましても３世代同居というのはものすごく減ってまいっております。家族の荒廃というと語弊がございますけれども、昔ながらの家族という姿が、この１０年ぐらいで様変わりをしております。そういう中で、家族自体が成り立たないような時代になって、仕事の振興といいますか、農業の振興、あるいは商業の振興といいましても、絵に描いたもちになりはしないかと、そういうことを心配するものであります。

そこで、どうせやられるのであれば、今までどこの自治体におきましても申し訳け程度にやっておりました結婚相談といいますか、婚活というのがあるわけでありますが、腰を据えて一つやってみてはいかがですか、という提案と質問であります。

ちょうど通告をしました後に、月刊ガバナンス６月号というのが手に入りまして読んでみますと、人口減少をどうしてくいとどめるかというような特集がございまして、その中で、やっぱり婚活は大切であるというような認識のもとに、いろんな方法で婚活をやっている自治体の紹介があってございました。人を相手に行政が予算を組んで、特に婚活なんていうのは、なかなかやりづらくて、結果も出にくい仕事ではありますけれども、非常に大事な、今となっては大事な仕事ではなかろうかというふうに思います。一頃は農村の花嫁不足というような話でございましたけれども、今は、仕事を問わず、消防団の飲み方等に行きますと、もう適齢期の男性がごろごろしておりまして、実は結婚したいんだという要望はありながら、なかなかチャンスに恵まれないという人がおるわけであります。

先ほど、市長もおっしゃっておりましたように、メールでありますとか、パソコンでありますとか、それに夢中になっている割には、顔と顔を合わせてそういうよ

うな女性と話をする機会がないというのが、一方の現実でござしまして、そういう場所つくりを市として応援してやることはできないかと、こういう質問でございます。よろしくご答弁をお願いします。

失礼しました。続けてあと２つほど。開かれた効率的な市政というのが残っておりましてですね。申し訳けございません。これは、私が議員になってすぐ１度質問したことがございまして、先ほど来、市長はいろんな委員会を立ち上げたい、市民の話を聞きたいというようなことをずっと言うておられたわけでありますけれども、そういう会議に出る場合に、その基となる資料といいますか、討議の資料となる、基となる資料がほしいということで、平成１８年でしたか、平成１９年でしたか武蔵野モデルということで、武蔵野市の例を挙げて言うたことを覚えております。今になって考えてみましても、やっぱりそうだというふうに思うわけであります。各部局にはいろいろ基礎資料というのが揃っておるわけでありますけれども、私ども市民から、「あそこの道路をどうにかしてくれんかい」と言われますと、建設部に行って、「おい、地図はないかい」と言うて、道路の話をします。学校の話が出ますと教育委員会に行って学校の状況聞いたりしますけれども、それやこれや、例えば、保育園から福祉施設まで市の加入する、あるいは加入しないにかかわらず、何かそういう一冊の基本的な情報誌というのがあれば、非常にありがたいなと、こういう思いであります。なかなか口では説明しづらい部分もあるわけでありますけれども、そういう政策情報誌をつくったらいかがですか、つくるべきではありませんかというお尋ねであります。

それから３つ目、交通弱者対策につきましては、私も全く葛原議員と一緒で、以前スクールバスの有効活用という質問をされたときに、よそでできているのに何で菊池でできないかなというふうに思っておりましたが、今答弁がございましたので、もう１つの点としまして、実は、泗水に新興団地の桜山地区というのがあるわけでございますが、あそこに行きますと、「子どもたちの通学のためにひとつ、光の森駅のほうまでひとつどうにかならんですか」というような、ムーバスといいますか、コミュニティバスといいますか、そういうことをしていただくと非常に助かるという話があるわけであります。事情がありまして、私も光の森駅から新水前寺駅までＪＲを使うてみましたけれども、非常にやっぱりおっしゃるとおり百聞は一見にしかずで、利用してみますと、「ああ、子供さんたちはこれがあれば助かるな」というふうな、本当に思うたわけであります。合志市がムーバス化、何ていいますか、「バスを回しておるので、ひとつあちらのほうとも相談はできんですか」というような要望もあっております。なかなか難しいことではあろうと思いますけれども、どうにかならんかということで、質問をいたします。

以上３点、よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　森清孝議員の質問にお答えします。農業または商工業の後継者に限っての婚活の取り組みについては、現在実施いたしておりませんが、本年２月、本市の定住化目的といたしまして、２０歳から４９歳までの独身の男女の新たな出会い、交流事業としまして「エプ婚」に取り組んだところでございます。本事業は、農業、商工業の後継者のみならず、一般の方にも広く参加を呼びかけ、市内外から男性１８名、女性１４名、計３２名の参加があっております。当日は郷土料理づくりや市内散策などを通じて、和やかな雰囲気の中、交流が進んだところでございます。また、このほかにも婚活の取り組みとしましては、個人や団体、民間、企業等でもなされておるようでありますので、できるだけ活用していただければと思っているところでございます。

今後とも、農業や商工業の振興のためには、後継者の結婚を含めた育成は不可欠と考えておりますので、有効な取り組みについて、今後関係機関と協議してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　それでは、私のほうから、開かれた効率的な市政についてと、それから、交通弱者対策についての２点についてお答えさせていただきます。市民の皆様の意見を直接聞く機会において、スムーズな進行ができるよう市の概要等様々なデータを記載した共通の資料を作成し利用してはどうか、とのご質問だと思いますが、現在、市が作成しております広範囲な情報を掲載している資料としては、「市政要覧の資料編」が該当するものと思われます。この資料編は２０１１年に作成したもので、市の自然、人口、産業経済、福祉、労働、保健衛生、環境、教育文化、都市計画、建設、市民生活、防災治安、選挙行政議会、財政、公共施設団体など広範囲にわたる本市のデータを３４ページにわたり掲載しております。

また教育委員会では、「菊池の教育」という冊子を作成しており、菊池の教育理念、重点努力目標、組織、予算、学校数、児童生徒数、施設一覧、研究一覧、施設概要、指定文化財などを２６ページにわたり掲載しているところでございます。これらの資料を有効に活用できますように、内容をなるべくわかりやすくしたような形で作成し、市民の皆様のお声を聞く（仮称）「市民政策会議」等、いろいろな機

会において使用していきたいと考えております。

それから、交通弱者対策についてでございますが、市町村における公共交通のあり方につきましては、その地域の諸条件により、様々な体系がございますが、議員ご提案のスクールバスを活用しましたコミュニティバスは、山都町をはじめ、全国的に増え始めているようでございます。その理由としましては、利便性や財政面など地域により異なりますが、学校の統廃合による事情が大きな要因の一つに挙げられます。

本市としましても、平成２５年４月から小学校の統廃合によりスクールバスの委託料が増えているところでございます。コミュニティバスとしてスクールバスを活用する場合、新たな路線定期運行を行う一般乗合旅客自動車運送事業の許可が必要になることや、通学時間の長時間化、発着時間の固定化ができないなどの不都合が挙げられます。また、これまで龍門、水源地域線をはじめ各地域において、あいのりタクシー事業が定着しており、その体系の見直しが必要になることから、スクールバスの活用はなかなか困難であると思っております。

次に、桜山地区から光の森までの路線バスの運行でございますが、まず、路線バスの運行を新たに行う場合、市内の各所から隣接自治体の駅や交通ハブ施設を結ぶ路線について、事業者との相談になると思います。そのため、運行事業者の採算性の問題、隣接自治体を運行する既存の運行事業者との路線競合の問題等が懸念されるところでございます。現在、桜山地区では、泗水東部地域線として、あいのりタクシー事業を行っておりますが、その利用状況を見てみますと、１日の平均利用者は、片道４名程度の状況でございます。このような理由から、光の森への路線バス等の運行は現状では大変厳しいものと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　後継者育成と市政情報集ということで、最質問をしたいと思います。たまたまといいますか、今回は、市長も交代になられましたもんですから、わかった上での質問になろうかと思いますけれども、実は、後継者づくりといいますのは非常に難しいもんでございまして、もうふた昔半、３０年近く前、２５年、私たちが若い頃のことでございます。県職ＯＢを営農対策室というところで、行政と合併前の農協でつくっとった部屋でございますけれども、県職ＯＢさんを雇いまして、後継者育成を任せられていたその人は、２週間ほど前に会議の通知文を出されます。そして、そのあと２、３日経って、自分でオートバイで家庭を回られまして、「通知は来たかい」と、「こういうことの会議をするもんな」ということ

で回られます。そして、たまたま両親おられますと、その両親と話し込んでいろいろ自分なりの情報を仕入れてまいられます。そして、前の日になって「明日じゃったもんね、来らるっどだい」と、こういうような電話をされる方がございました。最初は、何ていうか暑苦しくてですね。「非常に面倒くさい人だな」というふうに思うとったわけでありますけれども、その人の年になりまして、今つくづく思うことは、やっぱりそのくらいの熱意と執念深さがなければ、なかなか後継者育成といいますか、人をいろいろ扱うということは難しいもんだなというふうな気になりましたもんですから、改めて言うとるわけであります。どこも人々から言われますと「後継者育成やりよります」というような話は出てくるわけでありますけれども、私は、そういう人を１人、非常勤でもいいですから月に１５万円、熱心な人がおられれば、手当てをされまして、４年間やってみられれば、いろんな事業に何千万円か打ち込むよりも、かえっていい効果が出る場合もあるんじゃないかということで、ご提案を申し上げ、市長の答弁を期待するものであります。

いまひとつ、その武蔵野モデルで見ました「暮らしの情報集」といいますのは、確か、そのときも市政要覧の話が出たと思いますけれども、市民参画の条件としまして、やっぱり市民には情報がないと、会議に出てもものは言えないと。事務方が示しまして、実情はこのとおりでございますと、一つ何かご意見があったらお願いしますというような会議になりまして、やっぱり事務局ベースの会議になってしまうと。そういう会議を江頭市長が今から何遍もやられましてもですね、結果はなかなか思うようにいかんのじゃないかというふうに思いますもんですから、前もって市政の情報、例えば、人は生まれてから、保育園、小中学校、そして年寄れば福祉施設等に行くわけでありますけれども、保育園がどこにいくつあって、園児がどれくらいいて、あるいは学校がどうあってどうと、そういう情報というのは、市の職員にとっては当たり前の情報かもしれませんけれども、市民にとりましては、非常にわかれば、「ああ、そういうふうに少ない学校であるならば、将来統合があるかもしれんな」というような考えを持つこともできますし、「ああ、２つの市民ホールがあるなら、どっちか１つになるかもしれんな」というような情報も、ことも考えられるわけであります。老朽化する施設の維持、あるいは利用の少ない施設を今後統合したり、解体したりせにゃならんかもしれません。そういう意味で、一番最初に、公民館カルテの話をしましたけれども、公共施設のカルテづくりあたりを急がれるべきじゃないかと、これも思うわけであります。

最後になりますので、市長の思い、答弁をお聞きしたいと、このように思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　まず、後継者育成の件でございますけども、特に、農業、商業の今の現状を見ていますと、確かにどうやって若者をこの町につなぎとめられるのかという意味では、非常に大きな危ぐを抱いております。ですから、そのためにありとあらゆる努力をやっていきたいと思っておりますが、いわゆる婚活事業について効果等も他事例も見ながら、必要な措置をとっていきたいと思いますが、今現時点において、非常勤をとってまでそれやるかどうかという点については、今ちょっと、今お聞きした話でもございますので、すぐにはちょっと即答はいたしかねます。ただ、何らかのもう少し踏み込んだ対応が必要かなと思うのは一つ。それから、もう一つは、特に商業地域のところは、跡取りだけの問題ではなくて、プラスやはり町ににぎわいがないもんですから、お客がないんで結局店が成り立たない。それでこの町にいてもしょうがないんで、ほかのところに働きに行くということもあるかと思いますんで、婚活についても活性化しなきゃいかん、町についても活性化しなきゃいかんと、この総合策でやっていかなきゃいかんかなと、今思いました。

それから、データブックと言ってよろしいでしょうかね。菊池データブックということのご提案でございまして、意味合いとしては非常に理解いたしました。あとは、今あるものが資料編ですかね。私もちょっと一度だけざっと見た程度ですんで、例えば、今おっしゃったようなことが、もう少し、例えば見やすくすることで何か解決するのか、あるいは、そこに何かを付け加えていけばいいのかですね。あるいは、ミーティングの目的ごとに何かそういうものが簡単につくれるようにデータだけをアーカイブをつくっておけばいいのか、ちょっとそこら辺は、まず、問題提起としていただいて、それを私なりに検討してみます。今、どういうことができるかというのは、ちょっと即答はできませんけども、少しいただいた問題意識というのはよくわかりましたんで、少し考えてみたいと思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　江頭市政が始まったばかりでございます。一つ前例に捉われないで、一つやっていきたいというようなお話も聞いておりますもんですから、まず、できない理由は並べればいっぱいあるわけでございますので、まずやってみようかというようなつもりで、頑張っていただきますようにお願い申し上げて質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。

明日も、引き続き一般質問となっております。

本日はこれにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後４時０７分

第　５　号

６ 月 １４ 日

平成２５年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第５号

平成２５年６月１４日（金曜日）午前１０時開議

第１　一般質問
第２　議案第７９号　工事請負契約の締結について
　　議案第８０号　工事請負契約の締結について
　一括上程・説明・質疑・委員会付託

―――――――――――――――○―――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問
日程第２　議案第７９号　工事請負契約の締結について
　　議案第８０号　工事請負契約の締結について
　一括上程・説明・質疑・委員会付託

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒木崇之　君
２番	柁原賢一　君
３番	工藤圭一郎　君
４番	城　典臣　君
５番	大賀慶一　君
６番	岡﨑俊裕　君
７番	水上彰澄　君
８番	東　英俊　君
９番	東　裕人　君
１０番	泉田栄一朗　君
１１番	森　清孝　君
１２番	中原　繁　君
１３番	樋口正博　君
１４番	中山繁雄　君
１５番	怒留湯健蓉　さん
１６番	坂本昭信　君

１７番	隈　部　忠　宗　君
１８番	葛　原　勇次郎　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	坂　井　正　次　君
２１番	森　　隆　博　君
２２番	山　瀬　義　也　君
２３番	境　　和　則　君

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

説明のため出席した者

市　　長	江　頭　　実　君
副　市　長	永　田　明　紘　君
総務企画部長	野　口　祐　成　君
市民環境部長	下　田　俊　一　君
健康福祉部長	宮　本　誠　一　君
経　済　部　長	平　野　國　臣　君
建　設　部　長	松　野　浩　一　君
総務企画部統括審議員	西　浦　一　義　君
七城総合支所長	岩　下　利　昭　君
旭志総合支所長	水　上　菊　也　君
泗水総合支所長	松　岡　千　利　君
財　政　課　長	小　川　秀　臣　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	伊　藤　道　俊　君
市長公室長	倉　原　良　則　君
教　育　長	倉　原　久　義　君
教　育　部　長	中　村　鉄　男　君
農業委員会事務局長	松　永　隆　則　君
水　道　局　長	原　　和　徳　君
監査事務局長	宮　村　公　男　君

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

事務局職員出席者

事　務　局　長	城　　主　一　君
議　事　課　長	宮　川　啓　子　さん

総務審議員	徳永裕治君
議会係長	松原憲一君

○議長（山瀬義也君）　全員、起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（山瀬義也君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（山瀬義也君）　日程第１、昨日に引き続き一般質問を行います。

はじめに、柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　おはようございます。先般、４月の市議補選におきまして、議席を与えいただきました柁原です。お選びいただきました市民の皆さまの期待を裏切らないよう、また、選挙戦で掲げました３つの公約、１、農商工連携による地域経済の活性化。２、自然環境を活かした田園観光の振興。３、次世代が希望の持てるふるさとづくり。以上の公約の実現に向け、一生懸命その責務を果たしてまいります。先輩議員の皆さん、市職員の皆さま、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

江頭市長、この度は当選、おめでとうございます。菊池市の未来へ向けて、希望を託されました新しい菊池丸の船長として、これから予想されるでありましょう艱難辛苦の荒波に屈することなく、安心・安全の航海を市民の皆さまとともに期待いたしております。

また、旧菊池市時代より３期１２年にわたり、旧菊池丸を操舵いただきました福村三男前市長に対し大変ご苦労様でしたと、この場を借りてはなはだ僭越ですが、謝意を表したいと思います。１２年間、本当にありがとうございました。

さて、多くの尊い命が失われた東日本大震災から２年余りの歳月が過ぎようとしています。やっと復興の木槌の音が聞こえ始めたように思います。また、福島原発事故により故郷を離れ、いまだ３０万人という多数の方々が避難生活を送っておられます。菊池市民の６倍にもあたる方々が、いつ故郷に帰るかも分からない避難生活を思うときに、何ともやるせない気持ちでいっぱいになります。東北から遠く離れた地域、この菊池で暮らしていると、つい東北震災のことを忘れがちになってしまいます。

先月でしたか、当菊池市在住の堀江君が、トラックに菊池産の支援物資を積み、岩手まで運び、２回目のボランティア活動を行っていただきました。遠く離れていても、東北に関心を持ち続けることが私たち市民の努めではないかと思います。

次に、一般質問に移ります。私は、これまで商工会や商店会連合会等の活動を通じ、菊池市の地域審議会やべんりカー検討委員会、その他多くの審議会や委員会に、商工業の代表として、行政に意見の具申を申してまいりました。また、「きくちの灯り万華灯」や「湯ったり菊池の軽トラ朝市」等、イベントの企画・実行に携わってまいりました。このような立場から、街づくりということで次の３点について質問いたします。何点かについては、先日の隈部議員の質問と重複いたしますが、よろしくお願い申し上げます。

１、本年２月に、菊池市民広場再整備協議会よりの答申について、今後どのような工程で事業を進めていくのか。

２、来年、菊池市市政１０年、温泉湧出６０年、九重阿蘇国立公園８０年の節目を迎え、菊池市を広く、全国にアピールする年となるが、記念行事等の対応はいかにされるのか。

３、菊池市の中心市街地の商店街活性化の方策はどのようになされるのか。

以上、質問いたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　おはようございます。

まず、１点目の市民広場再整備の今後の工程ということでございます。そっちのほうからお答えさせていただきます。

市民広場再整備計画につきましては、昨年、ワークショップの開催など多くの市民の皆さまに参加をいただき、菊池市民広場再整備協議会で慎重審議をしていただき、その意見を取りまとめた報告書が、今年の２月に市長に提出されたところでございます。その報告書をもとに、基本構想・基本計画（案）を作成しております。

今年度につきましては、この基本構想・基本計画（案）のコンセプトに基づき、商業施設や温泉施設などの需要予測や収支予測、また民間事業者の参入可能性等につきまして、調査を行ってまいりたいと考えております。今後の工程につきましては、調査結果を受けまして、市民の皆さまの意見を反映しながら、今後の整備方針と工程について決定してまいりたいと考えております。

また、市民広場からの市内観光地へのアクセス手段の改善でございますが、現在、土曜・日曜・祝日・ゴールデンウィークは、観光あいのりタクシーが運行していますので、観光戦略や市民広場の整備に併せまして検討してまいりたいと思いま

す。

２点目の来年度市政１０周年、温泉湧出６０周年の節目にどのような対応をするかという問いでございますけども、来年度は、合併１０周年と菊池温泉湧出６０周年を迎えるとともに、「全国さくらシンポジウム」や名湯百選の地で開催される「健康と温泉フォーラム」、また、本市と姉妹・友好都市締結を結んでいる遠野市、西米良村、龍郷町とともに、「菊池一族シンポジウム」仮称でございますけども、開催を予定しております。これらの記念事業の開催にあたりましては、現在、準備の段階でございますが、今後、観光旅館協同組合や観光協会、商工会等の関係の団体と実行委員会を設立し、連携しながらその企画運営に臨んでまいりたいと考えております。

さらに、菊池桜マラソンやジュニアボート選手権などの各種スポーツ大会や祭り等の既存のイベントにも、合併１０周年と湧出６０周年の冠を掲げて開催するかを検討しております。

なお、市政１０周年の記念イベントは、合併後１０年を迎えます平成２７年３月頃を検討しておりますが、今後、関係各部と協議を重ねながら、他のイベントと連携することで相乗効果が得られると判断できるものにつきましては、関係団体と連携し協議してまいります。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　柁原議員のご質問にお答えします。

本市の市街地の環境整備と商業の活性化に資するため、国の中心市街地活性化基本計画の認定を目指して、これまで関係団体と協議・検討を行ってまいりました。

平成２０年度に中心市街地の空店舗の調査、平成２１年度に経済産業省の支援により、中心市街地活性化の取り組みに対する診断・助言事業を実施いたしております。その後、内閣総理大臣に申請する基本計画素案の事前協議におきまして、観光客の増加につながるような核となる施設が存在しないなどの指摘があり、これを解決するためには、多大な民間資本の投入など、現在の中心市街地では実現できないものも多く、当該計画の認定には至っていない状況でございます。

現在は、認定によらず、これまで基本計画策定の中で顕在化してきた課題の解決や活性化のアイデアを商店街の賑わいに創出するための施策・事業として、商工会などの関係機関と協議しながら取り組んでいるところでございます。

成果が出ているものとしましては、議員には、当初から大変ご尽力をいただいております「軽トラ朝市」があります。年間を通じて、市の内外から多くの集客があ

り、定着化をいたしているものでございます。

次に、昨年に事業化しました市内共通商品券「めぐるん券」があります。この市内共通商品券は、消費活動の市内での囲い込みを促進するものであり、地域経済の活性化に大いに貢献できるものと期待をいたしているところでございます。

現在、めぐるん券は、消費者購入型の額面１，０００円券のみでありますので、今年度は、店舗における割引券や祭等のイベントにおけるチケットとして活用できるよう、事業者購入型の５００円券・１００円券といった小額商品券の導入を図り、商品券の魅力や価値を高めていけるよう商工会へ働きかけを行っているところでございます。

また、昨年度、全国商店街支援センターの事業として取り組みました繁盛店づくり事業を、本年度は市独自のきらりと光る繁盛店づくり総合支援事業として、引き続き商店の魅力の向上に取り組んでまいりたいと考えております。

本事業は、専門家による店舗指導や研修により、魅力のある商店、繁盛店を育成することで、その集積である商店街全体の賑わいを創出しようというものでございます。商店街には、大型店舗では引き出すことのできないお客様や地域とのコミュニケーション能力があり、店舗間の連携など多くの魅力が潜在的にあるものと確信をいたしております。今後、街中に点在しております空き地を利用した市街地緑化など、森の中のまちプロジェクトをはじめ、活力ある商店街づくりに、市としましても積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　市民広場再整備について。この件に関しましては、これまでの答弁でたびたび述べておられます市長の施政方針では、菊池市の活性化の基本戦略は、農業と観光がその基本となっていると思います。菊池市民広場は、北に菊池神社及び鳥居・参道、東に城山・運動公園、南に温泉街、西に県振興局や将軍木、能場、御所通り商店街が位置し、中心部には多種多様に使用されている芝生広場や騎馬像、物産館、夢美術館・駐車場等があり、広さ４ヘクタールもの広場を市街地に持つ都市は、日本では非常に少ないと協議会座長の九州大学の藤原先生が述べておられました。

また、季節的には、３月には神社参道での植木市、夢美術館では、ひな祭りや桜祭り。４月には熊日桜マラソン、よかもん市。８月には夏祭りとして白龍祭りや花火大会。１０月には新宮さんの秋祭り。１１月には菊まつり、ほの宵まつり。また、１年を通してグラウンドゴルフ、アーチェリー大会、ドッグレース等のさまざ

まな活動がこの場所で行われております。市内観光の拠点として、また、情報発信の場所、菊池観光の拠点として、この広場は市の基本構想・基本計画に作成されているものです。

現在、この場所は、県外から阿蘇・菊池渓谷方面に訪れる福岡方面からの観光客にとっては、通過点でしかありません。これらの観光客を滞在型の観光客にするためにも、この市民広場の再整備事業が、これからの菊池の観光という面にとっては、一番急がねばならない施策ではないかと思います。

また、本年度は、国指定登録有形文化財として、御所通りの髙木医院、能場横の松倉邸、南古閑の宮村住宅と石垣が文化審議会より国指定登録有形文化財としての答申がなされており、何らかの記念事業が望まれます。また、これらの建物とかそういうものに表示をするときに、建築物の表示の名盤の作成にあたっては、菊池遺産もそうなんですが、名称だけではなくその説明書きを付け書きしていただきたいと思います。

観光客への案内だけではなく広く市民の方々に知っていただいて、観光にこれを活かしていく、これが必要だろうと思っております。非常に市民広場は、菊池市にとっては有効な財産ではないかと思っております。市長に対して、この広場をどういうふうにとらえていくか質問いたします。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　皆さん、おはようございます。

今のご質問は、市民広場に対する私の考え方ということでございました。市民広場は、昔から市民の皆さんの間で活用の仕方についていろいろと議論があったことでございまして、今現在で十分に利活用されているかというと、実は必ずしもそうではないというのは私の認識でございます。

地形的に市民広場と言いましても、一番市のどん詰まりになっておるもんですから、何かの目的性を持ってそこに来ないと、なかなか通りすがり、通行の途中でちょっと立ち寄ってみようかということにはなかなかならないわけですから、やはり一つには、この温泉街にも近いということもありまして、この町の活性化の一つの基点として位置づける必要があるであろうなというのは一つ。

それから、今、ご説明にもあったとおり、これだけの規模の広場が市内にあるのはなかなか全国でもないことだと思いますので、一つの市民の触れ合い、コミュニケーションの場としての役割も持ってますので、観光で活用したいというニーズと、それから市民の憩い・ふれあいの場というところをどういうふうにハーモナイズ（調和）させていくかというところを、少し意を尽くしていかなきゃいかんかな

というふうに思っております。

これまで非常に思いのある市民の方々が参画いただきまして、いろんな議論を重ねていただきまして、一応その結果としての案が今、出て来ております。一つ、それを核として、検討のたたき台として、これからのさまざまな、もう少し現実的なといいましょうか、実践的な裏打ち調査というのをやっていきたいと思います。潜在力として、例えば、温泉施設といった場合に、今言ったどん詰まりというところがあるんですが、どれだけの集客効果が見込めるのかとか、レストランを望む声は大きいんですが、いわゆる集客と採算がどうなんだろうかとか。一たびつくりますと、また何十年の計ということになってしまいますので、よくそこのところは慎重に踏まえていきたいとは思っております。

いずれにしてもこの菊池の再生の中で、森の中のまち、癒しの里菊池をつくっていく中でも、やはり一つ、中心になる場所だとは思っておりますので、そこら辺を踏まえて、よく市民の方々のご意見を聞きながらまとめていきたいと思っております。

ただ一方で、財政面のところもこれから大きな構造変化を起こしてまいりますので、一つ、この市民広場については、あまり拙速に動くことなくできればじっくり腰を落としてやっていきたいと。市の経済の活性化のほうは、これまで申しているような、いくつかの具体的な策でもって起こしていこうと。市民広場は、私どものやっぱり極めて重要な財産ですから、長い構想の下で一たび方向が決まっても、そこを、財政面もにらみながら少しじっくり構えていくというのが、僕は市民広場というのに対しては、そういう手法でいいんじゃないかなというふうに考えております。そこら辺はまた、皆さんのご意見を聞きながら進めていきたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　どうもありがとうございました。できるだけ早く整備のほうをお願いしたいと思います。

２番目の質問につきましては私が早とちりしまして、１番と２番を一緒に述べてしまいました。いろんな記念事業については、いろんな行政の中にある組織で、これは例えば１０周年に使えるんじゃないか、これは６０周年に使えるんじゃないか、これは温泉に使えるんじゃないか、そういういろんな部署のいろんな行事をされるときに、いろんな各部課と連絡を取ってできればやっていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げておきます。

続きまして３番の活性化の問題ですが、めぐるん券については、今後、菊池市で

の地域通貨の役目を果たすように商工会と協議しながら、１年中使えるようなそういうような券ということで頑張っていっていただきたいと思います。また、繁盛店づくりにつきましては、商店街だけではなく、菊池の観光のためにも、観光業等のそういう方面にも参加できるようにお願いしたいと思っております。それから、旧菊池市だけではなく、泗水、旭志、七城地区においても、こういう繁盛店づくりはできるような方策をよろしくお願い申し上げておきます。これについて、１点目の街づくりに対する質問は終わらせていただきます。

次に、ＴＰＰ（環太平洋連携協定）について質問いたします。これも、先日の隈部議員への答弁の中で、平成２３年度における農産品７品目の試算の、菊池市へのＴＰＰ参加による影響額は１６３億円の減となり、前回の調査に比べて５７億円増加しているとのことでした。本年５月３０日付熊日新聞一面に、「ＴＰＰ参加による県内全産業売上高最大１，５８０億円の減」という見出しで、シンクタンク中央総研の試算が発表されています。この試算における菊池市の基幹産業である農業の影響へは、おおよそ幾らになるでしょうか。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　質問にお答えします。ＴＰＰによる本市全体に及ぼす影響につきましては、市内の農業以外の商工業等にもあらゆる分野への影響が懸念されるところでございます。今、議員言われましたように、５月３０日の熊日新聞に掲載されました中央経済総合研究所の試算によりますと、県内全産業の売上高を最大１，５８０億円。県内総生産を１．５９％低下させる可能性があるということで分析をされております。

本市への影響も大きいと思われますので、算定できないものか中央経済総合研究所のほうに算定方法について確認をいたしましたが、算出過程における根拠においては、不明瞭な部分が多く算定することができておりません。この点についてはご理解をお願いしたいと思います。

また、本市農産物への影響額につきましては、先の隈部議員からの一般質問の中でお答えしておりますので、重複する点につきましてはご了承をお願いしたいと思います。

本市農産物への影響額としましては、本年３月２２日に県が公表しました減少率２７．４％を乗じた試算ではなく、本市で特に大きな影響が出るとみられる米、小麦、牛乳・乳製品、牛肉、豚肉、鶏肉そして鶏卵の７品目を対象に、県の算出方法にあてはめて試算をいたしております。なお、基礎数値につきましては、平成１８年の生産農業所得統計による本市の農産物算出額を用いて算出いたしましたとこ

ろ、先ほど議員からもありましたとおり、最大で１６３億円の減少額が見込まれるという数値が出ております。なお、この数値につきましては、あくまで国・県の算出方法に当てはめて算出した影響額ということでございますので、ご理解をお願いしたいと思います。

今後、ＴＰＰに関する交渉過程の公表は困難ということでされておりますので、情報収集には大変難しいところがございますが、国・県・関係機関の動向等を注視しながら、研修等にも積極的に参加し、その情報収集と適正な情報提供に努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　この５月３０日付の試算におきましては、１，５８０億円の内８８０億円が農業関係の額になります。また、熊本県においての菊池市の農業出荷額の割合は、約４分の１、２５％。単純計算しますと２２０億円の減となります。平成２３年の試算と比べますと、約５７億円さらに増加しております。この２２０億円という額は菊池市の一般会計の予算にも相当します。このことだけを見ても、農業を基幹産業とする菊池市にとっては、ＴＰＰへの参加が厳しいものであることがわかると思います。

続きまして、ＩＳＤ条項についてお尋ねいたします。ＩＳＤ条項とは、ＴＰＰのもつ外国の投資家や企業が、進出国において相手国政府の法律や行政上の不備等で損害を被った場合、協定に基づいて相手国政府に対する損害賠償を国際仲裁機関に訴えることができるという条項です。医療の観点から、なぜ医師会がＴＰＰに反対するのか。国民健康保険制度は守れるのか。この点について、ＩＳＤ条項に絡めてお答えいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　健康福祉部長、宮本誠一君。

［登壇］

○健康福祉部長（宮本誠一君）　お答えいたします。ＴＰＰ導入がもたらす影響につきましては、国民健康保険や医療の分野においても、日本医師会が国民皆保険の崩壊を懸念されるなど、注目をされていることは承知しております。しかし、政府の説明では、公的医療保険制度のあり方そのものは、ＴＰＰ交渉の議論の対象にはなっていない、国民健康保険を揺るがすことは絶対にないとされておりますので、今後の交渉状況を十分に注視してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、国民健康保険は国民皆保険の根幹をなすものであります。制度が恒久化するよう国民健康保険事業の運営に努めてまいりたいと考えてお

ります。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　ここに、「サルでもわかるＴＰＰがヤバイ９つの理由」という資料がありますけれども、ちょっと読ませていただきます。

「日本には世界に誇る「国民皆保険制度」があり、誰でも社会保険や国民健康保険に加入しています。ＴＰＰに加入すると、混合診療(保険診療と保険外診療の併用)が解禁されます。お金持ちは以前より安価に先端医療を受けられるようになりますが、「国民皆保険制度」の崩壊や適用範囲の制限を招き、貧しい人たちが受けられる医療の質を下げることになります。アメリカのように盲腸などの簡単な手術を受けるだけで高額な医療費を払わなければならなくなったり、医療費を払えないためにたくさんの人が死んだりするようになります」こういうことが述べられております。ＩＳＤ条項というのは、このＴＰＰに付随して必ず、ＴＰＰに入ったら必ず守らなければならないという条項でございます。この条項というのは、私がなぜＴＰＰにこういう発言をするかというと、私たちは、商工会の活動を通してきて、大店法という法律がありました。この大店法という法律が１９９２年に確か改正されたと思いますけども、この法律で、日本全国の中小商店街、まさしくシャッター通りになってしまいました。そして、先ほど商店街の方策の中の答弁にありましたように、非常に、町を活性化するというのは非常に難しい状況になっております。

このＩＳＤ条項というのはジワジワと影響を及ぼします。条約を締結して１０年後、２０年後、アメリカの資本が入ってきたとき、また国民皆保険制度が徐々に壊されていくときに、ジワジワとボディーブローのように私たち地方自治を襲ってきます。

また、この条項があることによって、江頭市長が訴えていらっしゃいます食の安全・安心、それから菊池基準、こういうものが撤廃される、そういうふうな危険性をはらんでおります。すぐには撤廃されません。でも、徐々に外国の資本は入ってまいります。そして、菊池の地方自治が犯されていくような状況になっていきます。

例えば、菊池で今、公共工事をやっております。公共工事は、一応菊池市内の業者、熊本県内の業者、そういうふうな一応取り決めでやっております。ところが、これが外国から資本が入ってきて、「菊池市に入札させてください」と言った場合に、菊池市が「熊本県の業者に限っておりますからそれはできません」と言ったときに、仮にアメリカだといたします。この外国の企業は日本国を訴えます。菊池市じゃないんです。日本国に訴えるんです。日本国を訴えて、賠償金をいただきます。

ところが、この賠償金を払うということは、結局、菊池市の持ってる自治、熊本県内で調達します、そういうものを全て変えなさいよということなんです。日本国が負けた場合、日本国が賠償金を払うということは、そういうことになってきます。ということは、徐々にですが、いろんな方面において、菊池市の自治が破られます。日本人は農耕民族ですから、あまり争いは好みませんけれども、アメリカの企業は、利益を追求しますから、必ずこれは起こってくることです。非常に危険性が高いんです。だから、私はこの問題を取り上げました。

最後に、江頭市長にお伺いします。市長は、先日の熊日の記者会見の記事の中で、ＴＰＰは菊池にはなじまない旨の発言をされておられたようですが、ＴＰＰに関する市長のお考えをお聞かせください。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ＴＰＰに関する私の考えはということでございますが、今、新聞報道、言及されまして、私はＴＰＰは菊池には馴染まないということですが、私は明確に、今の菊池市長の立場からはＴＰＰには反対であると。決してこれを推進する立場には立てませんと、こういうふうにお話をいたしました。実は、この菊池市長選挙に出るために、この菊池に帰ってきた後とその前では、実はＴＰＰに対する見方・考え方は違っておりました。以前は、どちらかといえば経済界のほうに身を置いていたもんですから、かつ、海外企業を相手にビジネスをやったりした経緯もあったもんですから、やはり競争というものをかなり意識しておりまして、そういう中で私自身が育ってきたもんですから、競争には競争で勝っていかないかんというつもりでおったんですが、一たびこの菊池に帰って来て、自分なりにお一人お一人農家の皆さんとお話をして実態を見るうちに、菊池市の現状にとってＴＰＰというのはこれはもう黒船どころではないなという気がしました。特に私は、数字のほうからどうしても裏付けをとりたくなるもんですから、自分なりに今の農業の状況とその影響額を簡単に頭の中でざっと試算しただけでも、これはほとんど、特に畜産のところでしょうね。畜産のところはほとんどこれは壊滅的な打撃を受けると言っていいと思います。

それから、詳細は言えませんけれどもやはり、農業経営者というのは単独ではなくていろいろつながっておりますから、その影響というのが実はいろいろ連鎖していくということは十分に考えられるもんですから、それを考えるとこれはもう、何が何でもこれは、ＴＰＰだけは反対していかなきゃいかんだろう。こういうのが、私のまず基本的な考えです。

２番目に、菊池市が反対すればＴＰＰが止まるかということなんですね。それが

なかなか難しいところでして、ですから私どもは、機会あるごとにこれを断固、私たちの考え、実情を申し述べていかなきゃいかんけども、併せて、ＴＰＰは来ようが来まいが、要するに強い農業、足腰の強い農業、それから生き残る農業というのを作っていかんといかんなという思いをますます強くしました。そういう意味では、やはり時代の流れをきちんと捉えて、その流れに沿うというよりはむしろそれを先取りするような形でいくことが一番です。生き残りの確率も高いし、勝者となる確率も高いと思うんです。そういう意味では、私は、今、大きなこの世の中の流れを考えるに、やっぱり安心・安全ということに向かっている。背景には健康志向、環境志向、これは強まることはあっても弱まることはないだろうと強い確信を持っておりますので、そちらに向けて菊池市の農業を大きく舵取りをしていくべきではないか。併せて、そこに現代的な販売手法を持ち込むということで、足腰を強くしていこうということにつながってきたわけでございます。そういうことで、ＴＰＰには明確に私は反対でございます。併せて、反対するだけではなくて、自分たちでそれに向けて体力づくりをやっていこうというのが私の基本的なスタンスでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　柁原賢一君。

［登壇］

○２番（柁原賢一君）　どうもありがとうございました。非常に国の問題ですので、一菊池市の地方議会でこれを論ずるのは非常に厳しいものかと思いますけれども、でもやっぱり知っておくことは大事だろうと思います。

○議長（山瀬義也君）　３回ですから、終わりです。

ここで１０分間、暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時４３分

開議　午前１０時５１分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　おはようございます。議席番号が変わりまして７番になっております、水上でございます。質問をいたしますが、まずは、皆さん祝福されておりますように、江頭市長の当選おめでとうございます。非常に市民の期待が高いと、そのように思いますので、期待に負けないように頑張ってください。

それでは、質問に入りますけれども、１８番目でございますし、１８番といいますと、今まではもう終わりということでございますが、既にそれぞれ質問は３、４名の方が、私の質問と同じものが出ておりますし、質問も答弁もあまり変わらないとそのように思いますけども、通告をしておりましたので通告にしたがって質問をしたいと思います。

まず最初に、環太平洋連携協定（ＴＰＰ）についてお尋ねします。これは、ただいま、答弁のほうが先にきたような感じがしましてしにくくございます。しかし、先日６月７日のことでしたか、江頭実市長は、就任後初めての記者会見をされ、市の基幹産業の農業、畜産、産業への打撃は大きいと述べ、市長としてのスタンスは明らかに反対であると、推進する立場には立てないと明言されております。ただいま、柁原議員の答弁にも当然申されましたとおりでありますが、全く同感であります。また、同じ７日にＪＡ（全農）の萬歳会長は、日本外国特派員協会で記者会見し、農業生産だけでなく、関連産業や医療への影響など多くの問題点を指摘され、国家主権も揺るがしかねない懸念があるとして、日本のＴＰＰ参加にはあくまでも反対だと強調されました。我々も大変心配しております。

菊池地域においても、後継者不足の中に、農業がこれ以上衰退したら農家がなくなると私は思っております。菊池地域のことを思いますときには、特に、畜産が割合を７割ぐらいＪＡでは占めておりますけども、その他農業関係において、先の飼料燃油高騰、これらの影響、またその後の口蹄疫風評被害、これらで営農口座と申しますか、赤字になった部分ですけども、農家が借り換えたのが２５億。そういう実態がありましたので鹿児島あたりとの比較もしてみました。ここは、風評被害に対する寄金を１００億ほど頂いておるということでありますし、同じ隣接してる熊本県、大分県もそうでございますけれども、熊本県においては、わずか５，０００万程度ということでございましたし、その痛みは、農家が借り換えたと。そういう状況であったということでございますし、数名の方と農林水産省等において、その借りた部分、この辺の痛みをどうかしてくれんかという、そういう陳情もしてきたところでございますが、また、これにＴＰＰという世界の大きな波が農家にまた負債という形に起きてくると。その辺を想定しますときに、反対は反対でも、やはり強行に反対を突きつけていくということをしなくてはいかんと、私は思いますので、そういうことを考えますときに、この行政は、関係機関と連携して取り組んだらどうかということで、このところを市長に質問をしたいとそのように思います。

１回目の質問を終わります。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　再びＴＰＰの問題ですが、これに対する私の見解というのは、先ほど申し上げたとおりでございますが、重ねて今度はそれを強く各機会あるごとに、その関係機関等に訴えていくべきであるということは、まさしくそのとおりであると思います。先日も、実は５月に九州市長会というのがございまして、その中でも、九州の各市が強い危機感を持って、断固反対ということで関税撤廃の対象外とするようにということで、政府に対しての強い要請を決議したところでございます。当然私も、大賛成ということで手を挙げさせていただきました。このような機会を常に意識して活用していきたいと思いますし、ＪＡさんはじめいろんな関係機関と手を組んだ形で、このような決議ないしはその声明文といったものを形にして、機会ごとに強く訴えていきたいというふうに思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　ありがとうございました。市長が目指す活性策、農業と観光ということでございますし、ＴＰＰをどうこう言う前に、既に農業は崩壊寸前だと、市の農業が欠落しかかっているような状態であります。目指す活性策の達成はできないかというような思いもありますので、その辺のところも併せて、一つお願いを強く反対のお願いを申し上げたい。

次の２番目に入りたいと思います。次に、下水道についてであります。下水道農業集落排水は、旭志ではできないということで、今まで二度ほどお尋ねをいたしましたが、いずれも合併浄化槽でいくということでしたので、そのように浄化槽でいくということに決定はしておりますものの、旭志においては、浄化槽の設置率が３０数％のうちに、再調査・検討をしてもらいたかった思いでございます。そういうことでございましたので、前回、新市長になってから再度質問をいたしますということで申し上げておりましたので、質問するわけでありますが、新築においては当然、合併浄化槽で設置されると思われます。しかし、単独槽においては、なかなかなかなか進まないと思います。竜門ダム上流においては、地域排水あるいは農業集落排水と思いますけれども、事業ができているとお聞きしております。旭志においては、合志川他いずれも上流にあり、湧水が起きておりますので、今のうちに事業推進をと思っておりましたが、前市政のときにダメと言われましたので、それでは、合併浄化槽の補助率を高め、下水道、農業集落排水との処理用の個人負担分との均衡化を図ってもらいたいという質問をするものでありますが、これも中山議員が先に質問されておりますし、答弁もいただいておるところでございますが、江頭市長になられましたので、新市長の新風を吹かせていただきたいと、そういう思い

で質問をしますので、ご所見があればお聞きしたいと、そのように思います。どうぞ、よろしく。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　中山議員のご質問と重複するかもしれませんけれども、お答えさせていただきます。現在の本市の公共下水道集落排水施設並びに合併浄化槽の使用料金算定の方法といたしましては、水量制、人頭制、人槽制と、料金体系が複雑で料金が異なっているところでございます。この使用料につきましては、区長会からの市民の間での不均衡が生じているということや、合併浄化槽の料金の見直しについてのご質問をいただいているところでございます。

現状は、地域間の料金体系によります格差が出ておりますので、是正を図っていかなければならないと考えているところでございます。それとともに、公共下水道集落排水及び合併浄化槽といたしましては、安定した運営が見込まれる料金体系及び使用料の改定が必要であると考えているところです。現在の料金の見直しを図るために平成２３年９月から菊池市生活排水処理施設運営協議会を設置いたしまして、これまで５回の協議会を開催してきたところでございます。６月にも開催される予定でございますが、今回は、課内で検討しております使用料等の改正案を複数提示いたしまして、ご意見をいただくところでございます。

また、今後の予定といたしましては、市といたしまして検討を進めながら、議会並びに菊池市生活排水処理施設運営協議会への報告を行いまして、ご意見等をいただきながら、料金の算定の見直しを慎重に進めていく所存でございます。改定の時期につきましては、議会の議決並びに利用者の皆さまへの周知等で、早くとも平成２６年の中頃になると考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　ありがとうございました。できるだけ早く、そのように決定をしていただきたいと思います。

３番目に、庁舎について。この件についても数名の方が質問されております。特に中原議員と、この質問の要旨においては同じであります。選挙期間中に江頭市長は、庁舎建設については見直すべきところは見直すというように言われてきたかと思います。見直し方の考え方を持たれているのであるとは思いますが、その以前において、私も庁舎検討の時期に執行部より意見や提案があれば発言してくれと言われましたので、全協や一般質問でも述べましたが、一つは、菊池市の大体の中心が

旭志だったということで菊池ＪＡパシオンですね、３２５号の沿線、旭志・泗水にまたがりますが、そのところの提案や、現庁舎の耐震強化とリニューアルとも言われておりましたので、現庁舎の横に並列に建てたらどうかという質問もした経緯もあります。しかしその後、議論や執行部の提案により、現在の第二庁舎地に図書館を含めた３階建てと決定し、基本設計に入っているのは既にご承知のとおりであります。ただ一つ気がかりの部分は、行政の窓口が分かれるところであります。築地井手と市道を超えなければならないところであり、市民がどちらへ行けばいいのか困惑されるのではと心配しておりますが、決定をしておりますので、市長におかれてはどのような見直しになされるのか、中原議員への答弁とほぼ変わらないと思いますけども、お願いをいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　庁舎の整備の問題でございますけども、今、お話があったように、既にこれまでに考え方を何度か述べさせていただきましたんですが、その前に、これまでの検討の過程を私なりに１回復習をさせていただきました。おっしゃるとおり、各議員からそれぞれのお考えが示されたと。その案の概略についてもおおむね自分なりに精査をさせていただきました。場所の問題、それから建て方の問題、組み合わせ方、そういったものも自分なりには勉強をさせていただきまして、ただ併せまして、同時にそういったことを踏まえて今の案に決着したというさまざまな経緯、議論の過程というのもお聞きしております。ですから、私としましては、これだけの時間をかけて生みの苦しみを経てきたわけでございますので、市議会において、ただ今現在、承認・議決されている内容、基本的な合意内容とそれからその経緯というのを、まず尊重していきたいというのが大原則でございます。

ただ、十分な時間の中で、詳細まで検討することができた状況では必ずしもなかったと思いますので、これから先は、特に合理性の観点ですとか機能性の観点で、無理・無駄が起きないかどうか、そういったことを中心に精査をしていきたいと思っておりますし、併せて、特にこれからユーザーになる市民の方の目線で、使い勝手等の観点からぜひご意見を聞いて、反映できるものはそれを反映させていきたいというのが私の基本的な考え方でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　ありがとうございました。

最後に堆肥舎についてということでございます。固定資産税の減免の質問は前回

しておりましたし、その５０％はどうなったかということで質問するわけでございます。江頭市長は初めてでありますので、前回の質問の大事な部分をちょっと教えておきましょう。

堆肥舎建設においては、国の環境三法により畜産農家は、半強制的につくらせられたと申しますか、おそらく畜産農家においては９５％以上の人たちが堆肥舎建設をしております。ＪＡ菊池管内では、他の１市２町は、この堆肥舎については、固定資産税が１００％減免であるということで、そのことも当然申し上げておきましたが、当然５年後は打ち切りと、５年越しの見直しということでございますので、打ち切りということではありますが、農家の継続の要望が起きると、そのように思いますので、他市町にもおいても継続になるとそのようには思っております。

菊池市は５０％の減免ですから、５年後打ち切りではなく継続でお願いをしたいと。なぜなら、今から起きるであろう畜産、酪農、養豚、養鶏などなどの悪臭公害の処理にも大きな金がかかるわけであります。私も畜産農家でありますので、言いたくもありません、聞きたくもありませんが、苦情も実際は起きておるものであります。市や保健所あたりも言ってはありますが、何も法的には違反はありませんので、市も保健所も指導になかなかつっこめない、そういう状況であります。ゆくゆく処理施設も、国・県の補助を受けてつくらなければならないでしょう。そのときにまた固定資産税が発生するとなれば、当然つくった段階で取得税というのもありますので、額は大きくなればなるほど支払いも大きくなるわけでありますが、そういうものも発生しておる。そういうことで固定資産税が発生するとなれば、つくるにもつくれないと、そういうことになりますので、５０％の減免は５年後も継続していただきたいと、そのように思っております。悪臭の公害処理のモデル事業でも、国・県に働きかけてでも作るようにしていただき、５０％の減免継続に対する答弁をお願いしたいと、そのように思います。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　おはようございます。水上議員のご質問に対しましては、昨年の１２月に答弁しておりますので、その内容については割愛させていただきまして、一応１２月以降、今年になりまして、２月と３月に畜産団体の皆さまと協議をいたしております。その段階で、昨年の１２月に答弁しました内容の、合併前から適応しております１００分の５０を尊重し、現状維持の措置で本市も合志市と同様に平成２９年をもって減免期間を終了したいという形で内容をお伝えし、２月と３月で協議を行いまして、畜産団体の方も内容についてご理解をいただいているところでございます。

ただし、議員おっしゃいますとおり、畜産団体からは、平成２９年度に再度要望書を提出する意向を示されております。その時点で先ほどから問題になっておりますけども、ＴＰＰの問題とかまた新たに新規に堆肥舎をつくった場合どうなるかとか、そういう問題もございますので、その時点での社会情勢等を踏まえまして、十分検討をしてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　水上彰澄君。

［登壇］

○７番（水上彰澄君）　市長からはありませんでしょうか。初めてのことであろうと思いますが、これは、市町村長の特例でできるということでありますので、市長からのお答えもできますならば聞いとくならと、そのように思いますが。なかったらよろしゅうございます。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のご質問に対する私の見解ですが、まだまだ就任後まだ１カ月半でございますので、的確なお答えができないと思います。まずはよく実態を見まして吟味させていただきたいというふうに考えておる次第でございますので、どうぞご理解のほどお願いいたします。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　ここで、暫時休憩します。午後の会議は、１時から始めます。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１１時１９分

開議　午後　零時５７分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　みなさん、恒例になっておりますので、江頭市長におかれましては、本当におめでとうございます。菊池丸の船長として、本当に迅速な即効性のある行政運営の舵取りをよろしくお願いしておきます。それでは、通告に沿いまして質問に入らせていただきます。

今回の質問は、３つの題で挙げておりますが、初めに、菊池市の安心・安全の取り組みというようなことで質問をさせていただきます。

まず、１点目に、通学路の安全対策の現状についてということでありまして、去

る５月２７日の熊日におきまして、危険な県内の通学路ということで、対策的には５割程度というようなことで載っておりました。菊池市におきましては、平成２０年３月議会におきまして、議員の提案で、菊池市の安心・安全都市宣言を決議をしてまいりました。１日の日をその宣言日というような形で今、取り組みをなされておりますが、今、少子化が進む中におきまして、子どもたちの安全な通学路の確保に向けた点検、またはそういった地域間との連携、学校また教育委員会及び保護者、住民代表間での通学路のそういった要望書に対しての点検等の状況等をよかったら１点目にお聞かせいただきたいと思います。

２点目としまして、菊池市内において今年の２月に、やはり通学中に事故も発生しております。そういった点につきまして、教育委員会の安全対策に向けた協議会等がなされておるのかということと、合併後に県、地域に対する要望等が各地区から挙がっておると思いますが、その問題点については、やはりどのような取り組みをなされておるのかということをお示しいただきたいというふうに思います。

３点目に、防災に対する教育現場での指導状況ということでありますが、東日本大震災、そしてまた、昨年の７月１２日、九州北部集中豪雨というようなことでありまして、また最近は、やはり内閣府のほうから示されております南海トラフ関係によります地震、こういったものが３０年以内には７０％の確率というようなことで報道もされております。そういった点に関しまして、やはり子どものころからの防災意識というのは必要不可欠だろうというふうに思いますので、どのような防災に向けての教育等がなされておるか、お示しをいただきたいと思います。

４点目に、安全の面でありますが、交通安全の対策というような状況の中で、菊池市において、市の取り組み、事業、予算等について、どのような予算事業をなされておるかについて、この４点についての、１回目の質問といたします。よろしくお願い申し上げます。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　それでは、お答えをいたします。

まず、１点目の通学路の安全対策についてでございますが、全国で、昨年４月に集団登校中の児童が巻き込まれる交通事故が相次いだことを受けまして、国は、都道府県等に緊急点検を要請し、本市も昨年６月に全小学校に対して通学路の危険箇所を調査したところであります。危険箇所につきましては、学校、ＰＴＡ、地元交通団体関係者、警察署、道路管理者である県並びに市の立ち会いのもと、通学路における安全点検を実施したところでございます。

本市の状況としましては、学校からの要望箇所７２カ所のうち、４３カ所５９．

７％が昨年度に安全対策済みであり、残りの２９カ所が今年度以降に対応する予定でございます。

今回の調査内容に泗水東地区開発整備促進期成会からの要望事項が反映されているかということだと思いますけども、今回の調査に期成会からの要望のうち、３点が危険地域として報告され、その後の現地調査につきましても、地域の交通団体関係者も立ち会っておられますので、地域の意見は反映されていると思っております。期成会要望に対しましては、本年度の期成会総会におきまして、泗水総合支所の関係各課から要望事項ごとに進捗状況等を含め、詳細に説明をいたしたところでございます。今後も県道改良等につきましては、引き続き関係機関に対し早期実現に向けて要望してまいりたいと思っております。

次に、本年２月に発生しました隈府小学校児童の通学中の事故後の対応につきましては、学校では、事故発生の翌日から朝の登校指導を行い、事故再発防止に努めたところでございます。また、保護者の皆さまに対しましても学校より文書にて事故の再発防止の啓発と併せまして、ご家庭での交通指導もお願いしたところでございます。さらには、市内校長会議を開催し、事故再発防止として、通学路の再点検と危険箇所の再確認に併せまして、児童生徒の交通規範意識と危険予測能力等を高めていく指導を行ったところでございます。

次に、３点目の防災認識に対する教育現場での指導状況についてでございますが、これまでも東日本大震災や九州北部豪雨などの大災害が起きる度に、学校安全の充実が叫ばれ、改善がなされてきているところでございます。昨年度、市内小中学校並びに公立幼稚園におきまして、防災意識を高め、具体的な場面を想定した防災計画を作成をいたしました。また、各学校では、年間３回から４回の避難訓練を実施いたしております。本年度も各学校の防災計画に沿って、火災、地震、風水害、不審者侵入等に対する避難訓練や一斉下校訓練等に取り組み、防災計画のさらなる見直しを行っていくところでございます。今後も警察署や消防署等の関係機関並びに保護者や地域の方々と連携協力して、防災認識を含めた学校安全教育がさらに充実していくよう指導してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　それでは、私のほうから交通安全対策について答弁させていただきます。

本市の市民の交通安全対策事業としましては、まず、子どもたちの安全を図ることが第一と考えております。その一つの事業といたしまして、新入園児への鈴付き

リボンの配布をはじめ、新入学１年生への黄色い帽子、新中学１年生への自転車通学生等への反射タスキや反射シールの配布などを行い、交通事故等の防止に努めているところでございます。

また、菊池地区交通安全協会へ交通安全教室の委託等を行い、幼児から中学校を対象として、交通ルール、マナーについての意識の高揚を図る取り組みなどを実施しております。このほか、交通指導員３７名を委嘱し、通学時間をはじめ、各種大会時や交通安全運動期間時に交差点等での交通事故の抑止を図る交通指導をお願いしております。

また、区長さん方からの要望により、道路の停止線等の区画線工事、カーブミラー、防犯灯の設置なども行っているところでございます。事業費につきましては、細かく分けてご説明することが困難でございますので、一括いたしまして安全対策事業費に係る総予算といたしまして、２，０３１万７，０００円でございます。このほか、防犯対策として８１５万８，０００円もございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　今、教育部長のほうから、通学路の安全対策並びに２月に起きました事故等についても、そういった対応をなされておるというふうに説明を受けましたし、災害につきましてもいろんな取り組みがなされておるというふうに思います。要望関係は、泗水のときから出しておった分が、合併当時、村上副市長時代に県のほうの立ち会いもいただいてやってきた分が、ようやく今年、予算つけるかなというようなところで、８年も経っておるというようなこともあります。そういった期間中におきまして、やはり、ちょうど通学路の側溝の溝といいますか、蓋と蓋の継ぎ目が、かなり子どもたちの足の入る程度の広さがあるものですから、一時は鉄板というような形で敷いておりましたが、やはり車の通った後、タイヤの音でうるさいというようなことで、後でプラスチックと交換されたわけでありますが、２年ほど経ちますと、やはりプラスチックが曲がって、今、現状で歩いてみますとやはりちょっと子どもたちは歩きにくいといいますか、盛り上がったりいろいろしておる現状であります。そういったこともありますので、やはり、合併前は、旧市町村の中におきましては、教育委員会自体がやはり５名ずつくらいおられて、地域の各学校ごとの意見も聞けただろうし、現状も認識ができておったと思います。ところが今、合併しまして、菊池市全体で５名、３年前からＰＴＡ関係を１人ということで、今６名の体制になっております。そういうことで、旧町村から１名ずつというような、教育委員さんのようなことでありまして、なかなか要望等が通

っていないというのも現状であります。そういったところにおきまして、やはり教育委員会のトップとして、教育長あたりがやはり報告ばかり受けるのではなくて、現場とそういったところ、各地域、やはりそこに足を運んでいただいて、実際で目で見ていただき、そして地域の意見を聞くというような取り組みをやっていただかないと、やはりなかなか解消できない部分があろうと思いますので、そういったことについて、今までそういったことをやってこられておるなら、その取り組み等をお聞かせをいただきたいというふうに思います。

３点目の安全対策というか交通安全の面でありますが、今、下田部長のほうから、安全協会関係についての報告をいただきましたが、菊池市の免許人口といいますか、大体３万５，０００人ほどおられます。そういう人たちが、年間５００円というような会費で安全協会が成り立っておるわけでありますが、１８年１９年度は、約８割ぐらいの方が納入をされてきております。２４年度は、２人に１人です。５０％というようなことでありまして、ここにおられる方は全員払っておられるというふうに思いはしますけども、その目的が何に使われておるかということが一つの問題であろうと思います。こういった面についても、市としても啓発等についてはピシッとやっていかないと、年々と今、社会状況の中で厳しいわけですから、払わんでよかならもう払わん、払いたくないという人が多くなってきたのも現状であります。その５００円の予算で、いろんな幼稚園から学校、施設、老人会とかいろんな団体に交通講話といいますか、人形劇をしたりそういったこともやる組織も運営をやっておりますし、また、子どもの自転車大会、そういった点についてもやっておるような状況であります。また、黄色い１年生のランドセルカバーとか、チャイルドシートの無料貸し出し、それにいろんなのぼり旗等の予算も上げておるわけでありますので、そういった対策に対しては、皆さん方の協力をやっていかないとなかなか運営ができていけないような状況になっておるというのも現状でありますので、このままでいきますと大体後２年ぐらいで安全協会の基金といいますか、なくなってくるようなことで、菊池市の安全協会を辞めないかんごたる状況にきておりますので、市もそういった安全対策の中において、一体感を持ってやっていくというようなことで、やっていただかないと現状が厳しくなってきておるということでありますので、それに対して、今後どのような方向で取り組まれるか、お聞かせをいただきたいと思います。再質問といたします。

○議長（山瀬義也君）　教育長、倉原久義君。

［登壇］

○教育長（倉原久義君）　まず、最初のほうの教育委員会としての立場から答弁したいと思います。今回の調査箇所につきましては、先ほど教育部長のほうから答弁があ

りましたとおり７２カ所昨年上がってまいりまして、残り２９カ所がまだ残っておるわけですので、このことにつきましては、これから関係機関に対し早期な対応をお願いしているところでございます。従来から通学路の危険箇所につきましては、随時校長先生から相談等があってまいります。その都度、これは早急にできるのか、これは関係機関と相談しながら対応しなくちゃならないのか、そういうことも含めながら随時校長先生とは相談をして、対応をしていってるところでございます。また、保護者や地域の皆さまからのご意見をもとに、学校長が把握し、そして、例えば信号機の設置あるいは道路改良の要望等、随時報告をいただきながら、関係機関に報告のうえ、現在対応しておるところでございます。

先ほど、議員ご指摘の泗水東小学校の校区の通学路の危険箇所、私も改めて現場を確認させていただきました。これまで、泗水東小学校あるいは泗水小学校に行きますときにあの道をよく通って行くわけですが、本当にさほど気にしておりませんでしたが、確かに道路が非常に狭くなっている部分というのがあります。そして路側帯の白線も消えかかっているような部分もございました。改めて今回、確認をさせていただいた中に、やはり通学路の状況というのは大変危険な場所も多く、路側帯の白線などすぐに対応できる分は関係機関とも早急な対応をいただいているというところであります。しかし、道路の拡幅など、相手側の同意が必要なものについては、難しい部分もあるのではないかなというふうに伺っているところでございます。

しかし、子どもたちの命に関わるわけですので、今後とも学校訪問だけではなくて、私も随時、時間等がありましたら、特に本年度新しく赴任されました校長先生方の学校につきましては、足を運んでいろいろな通学路をはじめ地域の状況、あるいは子どもたちの様子、先生たちの様子、そういうのを伺いながら訪問はさせていただいているところです。今後も子どもたちの安全・安心な環境整備のために、関係機関と連携しながら、早期対応をお願いしてまいりたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　市民環境部長、下田俊一君。

［登壇］

○市民環境部長（下田俊一君）　森議員の２回目のご質問にお答えいたします。交通安全協会は、交通安全運動をはじめ、自動車等の運転免許証等の更新に係る伝達や更新事務、または交通事故防止に係る取り組みなどの事業を行われていることは、私どももよく承知しておるところでございます。協会の活動については、主に免許証更新時の免許保持者からの会費及び県交通安全協会・警察協会助成金、その他市町村の補助金等により運営されておることも存じております。本市からは、交通安全

協会費は、活動支援の補助金として年間現在２５万６，０００円を交付しておるところでございます。今後は、交通安全協会と協議を行い、市民の皆さまができるだけ地元で免許証更新をするように周知徹底を図ってまいりたいと考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　教育長におかれましては、できる限り現場を見ていただくということが一番大事だろうと思います。また、災害等につきましても、昨年の７月１２日、泗水中学校とか泗水東小学校あたりは相当な被害を受けて、そういったボランティアとかいろんな体験をして、いい体験をしてる部分もありますけど、そういったところの協力体制といいますかそういったものがちょっと前回なかったものですから、今後そういった面についてもピシッとやっていただきたいというふうに思います。

交通安全関係につきましては、どうしても免許人口からいきますと、大体１，５５０万円ぐらいが大体年会費で入ってくるわけでありますが、今それが７００万台というようなことでありますので、今、そういったいろんな事業をやるためにはどうしても運営上必要なところもありますので、そういったところの関連とも協議をやって、菊池市の交通安全対策というものについてもう少し協力体制をとっていただきたいというふうに思います。

次の質問に入らせていただきます。菊池市の行政内部の機構改革というようなことでお尋ねをしますが、市長も施政方針の中に、開かれた効率的な市政運営ということで掲げてありますように、今までずっと見てきますと、部と課の連携といいますかお互いの責任感、そういったものが少し伝わってきておりません。今、通学路の場合にしましても、教育委員会と建設部、県道関係の絡みもありますので、そういった連携も必要であります。また、菊池のブランド推進関係につきましても、経済部と総務企画部、それにまたＪＡあたりとの連携も必要というようなことになりますし、下水道事業につきましても、どうしても舗装をするときに一緒に配管、布設やり替えとか関係がありますので、建設部と水道局、いろんな連携が必要であります。

この前表彰受けました「きらり水源村」等につきましても、予算関係は総務企画が握り、実際は経済部の中の商工観光課が運営というような形にもなっておりますので、そういった問題そしてまた今後、いろんな中山間地域の問題につきましても、耕作問題につきましても、経済部と農業委員会、そういった連携が本当に必要

でもあります。そういった中で、担当部と担当課の所管がまた議会の構成の中にも異なってくるというようなことで、一体感が見えてないというのが現状でありますので、風通しのよい職場と責任感が見える職場に向けて、そういった機構改革が必要だろうというふうに思います。執行部の内容の中におきまして、効率性というのが見えてきませんと、その上に立たれる方の責任感、またやる気というのもなくなってきますので、そういったことにつきましても今後考えていただけるかなということで、１回、どうしても変えないかんところがあるなという思いでありましたので、市長のほうで、そういった施政方針の中にも掲げてありますので、できますならそういった点について、今後、取り組み等をよかったらお聞かせをいただいたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　森議員の機構改革についてのご質問にお答えいたします。

市町村合併以後の職員削減に対応した組織機構の見直しについては、適宜行ってきたところでございます。本市の組織は部制をしいており、部、課、係で事務処理の単位を階層的に定め、各々の所掌事務を明確に規定しています。長所として、指揮命令系統がはっきりしている、責任・権限が明確である、職務の一貫性が保ちやすい等が挙げられます。反面、短所として、組織が固定化し課や係の間に仕切りができて、課や係間相互の連絡調整並びに仕事のムラや繁閑の差の調整がうまくとれなかったり、課・係の壁があるため有効な人材の活用ができないなど、効率的な処理ができにくい面があるとされております。

議員が先ほど、各部の組織の連携不足等のいろいろご指摘をいただきましたが、本市組織の短所を指摘されているものだと思います。地方分権に伴います権限移譲による事務事業増への対応、自然災害等住民の安全が脅かされる事態などの緊急時における初動体制の強化、高度化・複雑化する行政需要に迅速に対応するには、柔軟で効率的な組織構築と職員の資質向上が欠かせないものと思います。組織の構築にあたっては、機構や適正な人員配置・事務配分を検討する中で、整理統合、事務事業の徹底的な見直しを実施し組織改革を進めてまいります。また、職員においては、さらなる意識改革に努めてまいります。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただ今、森議員のほうから組織の見直しというテーマについて

質疑いただきまして、今、部長のほうからもご説明があったところでございますが、民間におきましてもこの組織の問題というのは、ある意味永遠の課題でございまして、しょっちゅうこの手直しが必要なんです。それはある意味では当然でございまして、この環境とか状況が常に変わっていきますんで、むしろずっと同じ組織ということのほうがむしろおかしいわけですから、常に状況に合った、時代に合ったようなやり方になっているかどうかを見直していきたいというのは、私の基本スタンスでございます。

それから、統合によって組織が大きくなったわけなんですけども、大きくなったことで多分よくなった面もあると思いますけども、ご指摘のように、反面で失われるものというのはやっぱりあるなというふうに考えておりまして、とりわけ、地域への密着性とか、もうお孫さんからおじいさんのことまで全部知ってるとかいったふうな地域のプロというところが失われやすい側面があるかもしれませんし、それから小さな組織ですと見通しが効きますので、いろんな連携がやりやすいということはあろうかと思います。こういったものが失われないような形での工夫をやっていかなきゃいかんなと思います。私もまだ日が浅くて、今持ってる知見でもっていろいろ結論づけるのはなかなか早計だと思いますし、これは、職員の人にも失礼なことでございますので、今しばらく私なりに観察を続けて、その中で、ご意見等も伺いながら変えていきたいと思っておりますが、そういう中で、これは今日はせっかくの機会ですので私の１カ月半しかございませんけれども、感想ということで申し上げるなら、お一人お一人が、職員の一人ひとりは非常に一生懸命やっているなというのをまず感じました。ただ、よく聞く話ではありますけど、いわゆる縦割りというんでしょうか、実際そうかどうかというのはまだ早計だと思うんですが、比較的、横の連携のところがちょっと弱い部分があるかもしれないなという事例が幾つかございました。

それから、組織論というよりも、たまたまここのところ私も残業が多いもんですから遅くなって、帰りには必ずちょっとフロアに寄るようにしておるんですけども、どうもこの特定の部署に残業が多い傾向があるなという気がしてまして、個人ともちょっとお話するようにしてるんですけど、このチームワークの取り方等のところで、なんか工夫の余地があるのかどうか、そういったところは、これからちょっと見ていきたいと思ってます。

それから、人事異動が先般、大幅にあったわけですけれども、かなりの人が異動してまして、いろんなところで私みたいな新米が行って、いろいろ話を聞こうと思いますと「いや、私も４月からです」という人が、１つの係の中に何人もいたりしますので、こういったところはこの業務の継続性･安定性というところが少しよく

見ていかなきゃいかんなという気がしました。

そういう中で、まだ、もう少し観察してからとは思ってますけども、そういった限られた観察の中で、私が今後テーマとして考えていきたいなと思っているのは、森さんからご指摘のあっていますスピード感、これを上げていかんとやっぱり、住民サービスの質が改善していかんというふうに思います。実はスピードを上げることのほうが、むしろこの時間的な余裕がたくさんもってやるよりもある意味このいい結論が出やすいんです、とりわけ真剣勝負でやっていきますので。

それからチームワークあるいは連携ということです。これはご指摘のとおり、非常にこれから役所仕事においても非常に重要になることだと思います。それから、そういう中で、私が登庁日初日に幹部職員の人に対して幾つかのことを申し上げた中で、大いにチャレンジする風土をつくっていきたいということを申し上げました。そういう中で、先ほどちょっと申し上げたかもしれませんが、横の連携を図りながら、プロジェクトチームというやり方が民間では非常にもう主流といいますか、普通にもうするようになってます。普段は自分たちの仕事を縦の中でやってますが、１つの大きなテーマが出てくると、そのプロジェクトチームをつくって横断的にチームリーダーはだれでサブがだれで、自分がこれとこれの役割をやりますとか、一人二役、三役ということをやっていくわけですんで、そういったやり方も少し導入していきたいと。できればそういうところに若い人に申告制にして「やりたいやつ手を挙げろ」というようなやり方も少し取り入れてみようかなと思ってます。

それから、このスピードを上げていくためには、風通しもやっぱり重要なんです。これは悪い情報ほど早く届く仕組みにしておかないと、早い手も打てないということかと思ってます。それから、みんながそういうことで一人二役、三役をやっていく一方で、プロづくりということも少し念頭に置かなきゃいかんなと。地域のプロであるとか、福祉のプロであるとか、そういったふうな特定の分野については、そういう視点も必要だろうなと思います。

それから、目標管理にはなじまない業務が非常に今、多いとは思いますが、ただ、期日というものはこれはどの仕事にもあるわけですから、それぞれの仕事については、必ずいつまでというのを必ずくせになるような、そういうふうな指導の仕方をしていきたいというふうに思っています。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　昨日の森清孝議員の一般質問にもありましたが、通学路関係

の問題というのは、これは小中学校の問題ばかりではありませんし、高校も関係あります。昨日、桜山の件が出されておりましたが、桜山からしますと、泗水の総合支所に行くのも合志の支所に行くのも距離的にはほとんど変わらないというようなことで、大体光の森まで車で１５分、それから大体電車が２０分で新水前寺駅まで行くというような形で、これが高江まで出て、高江からバスで行って、また水道町で市電に乗り換えてというと１時間半ぐらいかかるというような状況で、倍以上かかるような形になるわけですから、合志市との連携というのは、今後企画の中で合志の市長あたりとも連携を取りながら、今後考えていかないと、交通の不便さというのはもう目に見えてきておりますので、そういった面も今後考えていただきたいと思います。

今、江頭市長のほうからいろいろお聞きしましたように、菊池市の場合、私たち町から市になったわけでありますが、要するに明許繰越が多いわけですよね。多いということは、昨年の水害等から特に土木業者とのほうも今一番問題になっておりますのが、去年の単価と今年の単価が全然違うわけです、材料にしても何にしても。繰り越すとはいいですけど、繰り越したときの今度、予算の金額が相当変わってくるというようなこともありますので、できるだけ仕事がピシッとできておれば繰り越すことはないわけでありますので、そういった面についても連携を今後大事にして取り組んでいただきたい。やはりそういった見えるような行政執行を今後お願いをしておきます。

３番目の質問に入らせていただきます。菊池市のゴミ処理ということで、ＲＤＦ施設の終了後に菊池環境保全組合加入というようなことに対しましてやりますが、市長も施政方針の中で、取り組んでいきたいというふうに言われておりますが、今、私もそこのほうの担当をやっておりますので、この議会の中でも、まだ深く認識をされていない部分もありますので、今までの経緯というのを少し説明をしておきます。

１８年の１２月そして１９年の１月に、環境保全組合の組合長家入組合長より、菊池市を含めた新工場建設を進めていきたいという提案がなされております。それから２カ月後、３月８日に九州産廃との１３項目の約束、努力目標というようなことで、その中に泗水町のゴミを九州産廃に委託するということがその年の１０月に発覚し、保全組合のほうとしましては、管理者側に一言の報告もないというようなことで、菊池市は信用できないと。今後は現行の組織で建設計画を進めていくということになりまして、２２年の１２月の保全組合の定例会において、新工場の建設を進めるためには１０年間の包括の債務負担が必要だということで、そこで議決をし、３３年度の３月の完成を目標ということでスタートしたわけであります。建設

予定地が決定する前に菊池市の加入をどうか早くしてくださいというふうに今まで申し上げてまいりましたが、なかなか産廃との裁判というようなこともありましてできなかったと思いますが、今、もう合志市のほうに場所を設定し、そして、さあ取り組もうというときに、昨年の１２月２１日の定例会で福村市長のほうから菊池市を入れてくださいという申し出があったわけであります。ですから、場所が決まった後ですから、なかなか後出しじゃんけんみたいな感じになってきて、場所が決まった後にかててくれというようなことで、そういった問題が一つあります。

それと、そういった問題で今後加入していくためには、信頼感を取り戻さないかんというようなことで、議会のほうからいろんな意見が出ましたので、まとめないかんというような思いで、各合志、菊陽、大津の議員さん方にどうしたら解消できますかと、どういう問題点を抱えておられますかというような意見を提出をしていただいております。その中におきまして、九州産廃との業務の継続性があるのかないのか、それとあと、ストックヤード、これは元リサイクルセンターになっておりまして、これも九州産廃に委託するという１３項目に入っておりましたので、このストックヤードの目的はどういうことかということでありまして、これはこの前解決しておりますが、それとＲＤＦ施設の延長。旭志にありますエコ・ヴィレッジ旭のほうが、一応３０年の３月まではいいわけでありますが、こちらの新工場のほうが３３年の４月ということで、その間の延長ができるのかということであります。

それと、その間ＲＤＦのできた品物を修理する業者はどこにするのかと、以上この４点を解消してくれというようなことであります。そして、今後、菊池市がもし加入する同文議決を得るためには、菊池市の誓約書も欲しいという意見も出ております。そういうようなことでありまして、本当に事務局のほうに大体どの日までにこういうのを解消したらいいかと尋ねましたところ、今年度の１０月末が大体期限というか同文議決をやりたいというようなことでありましたので、１２月、こういった問題が出た後、１月、２月、３月。４月はちょうど選挙がありましたのでやっておりませんが、５月、６月とまた今月も、毎月のように保全組合の議員さんには大変と思いますが、ご出席をいただいて、今、それに一つずつ解決していっておるわけでございますが、まだ解消できない部分もあります。そういうことで、７月、８月で旭志のエコ・ヴィレッジ旭の延長の承諾をとらないかんという問題等もありますし、即効性をもってやらんとなかなか進まないという不安もありますので、それに対しまして、市長の施政方針の中には、前向きに取り組んでいきたいということでありますが、これに対しての計画性、そういったものについてのお考えがあるなら、ちょっとお聞きしておきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今の菊池環境保全組合の全域加入に関するさまざまな諸問題についてというご質問でございます。今、ご指摘のとおり、私もここに来る前、それから就任しましてからも、やっぱり頭の中にあります一番大きい課題の１つがこのゴミ問題でございます。それは、産廃問題の決着ということだけではなくて、むしろ一般の生活ゴミの問題が、ある意味このハンドリングの仕方次第では大きな問題になりかねないような危機を迎えておるわけでございますので、そこのところをまず状況としては、私なりにしっかり危機感を持って今、認識しておるところでございます。この私どもが片付けていかねばならない課題というのは、今、整理いただいたとおりでございまして、菊池環境保全組合さんに対して過去に残念ながらコミュニケーションの不足等々のことから、残念ながらいろいろご心配をおかけして、信頼を欠くようなことがあったやというふうに私も了解しております。ですから、その信頼を取り戻すためには、具体的な課題が明々白々でございます。繰り返しになりますけど九州産廃問題の決着、それからもう解決しましたけれどもストックヤードの問題、それからＲＤＦへの道筋、それからこれはＲＤＦに関連しますけども、大牟田でのＲＤＦの引き受けのその後の展望でございます。これらをこれから１つ１つ着実に片付けていきたいと思ってます。

皆さんはもうご存じだと思うのですが、九州産廃の問題については、一応、この道筋といいましょうか、マイルストーンと呼んでますけど、この一里塚、これはもう決まってまして、今年の１１月にまず１つ目の大きな期日が到来するわけですが、一方で、菊池環境保全組合さんに入れてくれるのかくれないのかの結論が、私どもに宿題があってこれを１０月までに決めなきゃいかんわけですから、九州産廃まで１１月まで時間があるということではないと認識しております。ですから全ての照準を１０月に合わせて、そこから全ての行程を逆算して考えていかないかんというふうに思っております。

そういう中で九州産廃の件については、今、三者の協議をこれから続けていくとなるわけですが、特にご指摘のあったＲＤＦのところです。ここについては、今のところ周辺集落等の協定によって、この稼働期間が平成３１年の３月末ということになっております。一方で、新工場は平成３３年の４月稼働予定ですから、ここに最低でも２年間のズレがございますので、ここのところをきっちりと我々の手で確保しておかなきゃいかんということになりますので、まずは、方策としては、まずこの、今あるＲＤＦのエコ・ヴィレッジ旭、これの稼働期間を最低でも２年延長をしておく必要がある。そこのところをまず固めておかねばならないというのが第一

の大きな課題であろうかというふうに考えております。

いずれにしましても、その他にそれをやるために住民の方々と何回も協議を重ねていかねばなりませんし、１回２回ということではなくて予備的なもの、それから万々が一、時間がかかる場合のさらにその対処策とか、周到な準備が必要だと思っておりますので、この議会で、私もひとつ一段落しますので、これからも早急に具体的なスケジュールづくりに入る予定でございます。その上で、１０月までにきちっとした道筋をつけて、これを菊池環境保全組合の皆さんにお示しをして、安心して私どもを迎えていただけるようにこれから全力でやってまいりますので、以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　市長の意気込みといいますか、聞いて安心しておりますけど、今一番、今後信頼関係を取り戻すためには、合志も菊陽も大津も人口が著しく伸びております。そういうようなことで考え方が違うといいますか、金銭面、そういったものについても、自分たちでも十分やっていけるという自信を持っておられるところでありますので、やはりそういった金銭とか金額面に対しては一切、議会内では発言を控えていただきたいというふうに思います。菊池市を入れない場合が、合志、菊陽、大津あたり１０億ほど高くなるとかそういう評価は出ておりますけど、そういった数字を示すと、逆に向こうのほうは、そういった金銭面じゃないというようなことを先に申されておるような状況でありますので、その点には十分注意をしていただきたいと思います。そしてまた、９月はまた議会というようなことがありますので、７月８月が本当に２カ月間が勝負というふうに考えておりますので、やはり一丸となってやっていかんとなかなか解決しない部分があると思いますので、十分配慮をいただきながら、前向きに取り組んでいただきますことをお願い申し上げます。これで終わります。

○議長（山瀬義也君）　ここで１０分間、暫時休憩いたします。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後１時４６分

開議　午後１時５５分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　皆さん、こんにちは。まずは、江頭新市長、おめでとうござ

います。江頭新市長におかれましては、４月２４日初登庁以来、熊日新聞の市長の動きを見てみますと、日曜日も返上で公務に邁進されておられることに改めて敬意を表するものであります。激務と思われますが、体に気をつけて市民のために頑張っていただきたいと思います。また、市議会議員補欠選挙で当選されました柁原議員、荒木議員にもお祝いを申し上げます。ともに菊池市発展のために頑張ってまいりましょう。よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきますが、今回は新市長に対しての問題提起、要望も含め質問をさせていただきたいと思いますので、市民がワクワクするような答弁をお願いいたします。

まず、市道戸城渡打４号線についてお尋ねをいたします。この路線につきましては、水迫地区・戸城集落と水源地区・渡打集落を結ぶ重要な道路であり、また県道二重峠菊池線の災害時の迂回路としても重要な路線でありながら、長い間改良が止まっておりましたが、市としても整備の必要性を認識し、辺地総合整備計画に追加していただき現在整備が進んでおりますが、現在の進捗状況と今後の計画をお示しいただきたいと思います。

次に、市道古川伊倉線についてですが、この路線につきましても、国道３８７号の交通渋滞を含め、災害時に対する迂回路として、また、産さん滝、千畳河原への観光ルートとしてこれまで何度も質問・要望をしてまいりました。おかげさまで、現在千畳河原から細長橋までは改良が進み、夏は多くの観光客でにぎわっております。今後も整備が進むと思われますが、全体の進捗状況も含め詳しくお示しをいただきたいと思います。

次に、市道七坪小楠野線についてですが、この路線につきましても、これまで何度も質問・要望をさせていただきました。特に七坪集落内については、道路幅員が狭く、小木地区に一般廃棄物処理場が位置していますので、長い間、関係車両が頻繁に通行し、地域住民の生活道路として支障が生じております。市としても、十分整備の必要性を認識して整備計画が進んでおりますが、現在の進捗状況と今後の計画をお示しいただきたいと思います。

以上、１回目の質問とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　ご質問のほうにお答えさせていただきます。

まず最初に、市道戸城渡打４号線につきましては、市道渡打永山１号線までの未整備区間約１２０ｍを今年度整備する予定でございます。残りの県道二重峠菊池線までの区間につきましては、平成２６年度より地元と協議を行いながら整備に取り

組んでまいる計画でございます。

次に、市道古川伊倉線の細長橋から滝集落間のⅠ期工区６４０ｍにつきましては、平成２５年５月に完了しております。また、滝集落から伊倉区までのⅡ期工区の約１，０００ｍにつきましては、平成２５年度より測量設計に取り組み、整備を推進してまいります。

次に、市道七坪小楠野線でございますが、総延長５００ｍのうち、平成２４年度に２００ｍを完成し、平成２５年度につきましては、１４０ｍの整備を計画しているところでございます。残りの１６０ｍにつきましては、平成２６年度に整備を行い、完了する計画でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。それぞれの路線も地元にとっては大変重要な路線でございますので、今後もよろしくお願いしたいと思います。それと戸城渡打４号線については、まだ辺地債事業の計画には入っていないということでございますので、地元ともしっかり協議をして、ぜひともその計画に入れていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、次に農業振興について。農業災害補助制度の拡充の取り組みの状況についてお尋ねをいたします。昨年の九州北部豪雨による甚大な被害を思い出しますと、改めて被害に遭われた方々に対して、心よりお見舞いを申し上げたいと思います。市としても、災害復旧に対して大変努力をしていただき、現在復興が進んでおりますが、今回は昨年９月の定例会において、特に小災害の補助の拡充の検討を質問・要望しておりましたので、現在どのような検討をされたのかお示しをいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　木下議員の質問にお答えします。

平成２４年度の農地の小災害復旧工事の申請件数につきましては１６７件で、復旧工事費総額が２，６９３万円となっております。内訳としましては、復旧工事費が５万円以上から１０万円未満が４１件、１０万円以上１５万円未満が７１件、１５万円以上２０万円未満が１８件、２０万円以上３０万円未満が２２件、３０万円以上が１５件となっており、１カ所あたりの復旧工事費の平均額が１６万１，２６３円となっております。また１５万円未満の復旧工事費が１１２件で、全体の約７割を占めている状況でございます。また、過去の実績につきましては、平成２１年

度の申請件数が１１件で、復旧工事費平均額が１７万1，２６９円、平成２２年度申請件数が９件で、平均額が１３万3，１７８円、平成２３年度申請件数が２５件、平均額が１６万2，４７８円で、昨年度を除く３カ年の農地の小災害復旧工事費平均額は、１５万8，７６７円となっております。

小災害補助制度の拡充につきましては、近隣市町の調査・他産業とのバランス、財政負担などを含め関係各課と協議を行ったところでございます。近隣の合志市、山鹿市におきましては、農地災害に対する市単独の補助制度は設けてありませんが、本市は、特に中山間地域の農地の荒廃等が懸念されますし、小災害復旧工事費の平均が１５万円程度となっておりますので、これら総合的に判断し検討したところであります。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。検討をしていただいておるということでございますが、私どもの地元、先般の災害のときには、全部私も一緒に災害の状況を見てまいりました。その中で、先般申し上げましたように、現在の要項では１カ所の工事費が５万円以上１０万円以下につきましては、３分の１ということで３万3，３００円ですか、その補助がありますけど、その１０万円以上４０万円以下については、基本的にはもう補助の対象にはならないと、そういうことでございますので、現場に応じた拡充策が欲しいということで質問してきたわけでございます。検討をしていただいておりますので、それに対する今後、実際にそれができるのか、お尋ねしたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただ今の小災害復旧事業制度の検討の結果ということでございます。今、ご説明申し上げたように、最近の災害というのが思わぬ所で思わぬ規模で起きておりまして、特に天災によってこの農地や農業用施設が被災して被害を受けた場合、せっかくの代々のご先祖が築きあげた資産が、かなり心理的にがっくりされると思うんです。そういったところで、営農意欲自体を失われるとかいうことは非常にある意味もったいないことでもありますので、私どもとしては、そういった困ったときほど支援というものをできる限りやっていきたいというふうに考えております。

そういう基本スタンスで、先般、関係部署とも討議をいたしまして、先ほど経済

部長のほうからいろいろなデータ、考え方をいろいろ申し述べましたけども、私ども今般、この小災害復旧事業に係る補助対象額を引き上げたいということで、これはもう引き上げますということで明言させていただきたいと思います。私どもの今度の引き上げ策ということで、おおむね被害を受けた方の統計を調べても、かなりのカバー率で被災された方々に何らかのご支援ができるんではないかというふうに思っておるところでございます。ですから、今般の私どもの措置は、「頑張れ、菊池の農業」ということでの応援団として、ぜひそこのところをご理解いただければというふうに思います。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。私どもの地元、中山間地にとっては非常にありがたいことでございます。やはりそういう現場の実情に対応していただくのが一番だと思っておりますので、これで菊池の農業も、そういう小さなことの積み上げが一番大切だと思いますので、本当にありがとうございました。

それでは、次に職員研修、やねだん故郷創世塾への職員派遣について質問させていただきます。やねだんにつきましては、平成２２年７月に菊池市文化会館において、主催は市教育委員会、共催、市社会福祉協議会、市自治公民館活動推進員、市区長連絡協議会による地域づくりのヒントを探す地域づくり講演会「日本一の村から愛を込めて」の演題で、鹿児島県鹿屋市串良町柳谷公民館長（通称やねだん）の豊重哲郎氏の講演会が行われ、その後も私の地元の太田区をはじめ、迫間地区でも鹿児島まで研修に行ったり、その活動を参考に地域づくりに取り組んでおります。

やねだんは、豊重哲郎氏をリーダーとして、地域再生、行政に頼らない感動の地域づくりを目指して、人口３００人の限界集落がボーナスの出る集落へと再生した地域であります。講演会に行かれた方は十分理解されていると思いますが、地域をまとめるためには、まず地域の環境整備をとみずから率先して行い、地域の核となるわくわく運動遊園広場を地域住民の力で作り上げられました。そして、補助金に頼らない地域おこしのために、資金作りにからいもを栽培され、次に土着菌による環境対策、その後は土着菌を利用したからいもによる焼酎造りをと着実に資金作りをされ、収益還元として町内会全世帯にボーナス１万円が実現したのであります。豊重氏は、資本づくりを確実に行いながら人づくりも取り組んでおられます。現在は、村づくり活性化アドバイザーとして年に２回、故郷創世塾を主催され「情熱あるリーダーは必ず人がついてくる。論ずるよりリーダーが率先垂範して見せることが大切」との持論のもと、地域づくりのリーダー育成が行われています。今回と同

じ質問を平成２３年１２月にさせていただいておりますが、前市長の答弁では、故郷創世塾への職員の参加を検討するようにと指示をしているとのことでありましたが、その後職員の派遣は行われておりません。今後、市職員の派遣の考えがあるのか、お示しをいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　職員の研修についてお答えいたします。やねだん故郷創世塾は、対象者を地域振興に携わる熱血漢あふれる者とし、地域づくりのリーダー養成を目的として年２回、５月と１１月、３泊４日の日程で開催されております。本年５月開催の塾生募集パンフレットによりますと、柳谷町内会の豊重哲郎会長をはじめ、国、大学、企業等からの多彩な講師陣による講演が組まれ、大変充実した内容となっております。地域づくりは、少子高齢化をはじめ人口減少が振興している本市におきましても、重要な課題でありますので、本年１１月の派遣に向け、募集をしてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。１１月の研修に向けて考えていきたいということでございますけれども、市長の考えがございましたら、一言いただきたいと思いますが。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今、話題になっておりますやねだんの豊重さんでございますけども、実は私もちょっとやねだんの豊重さんとお話する機会がございまして、非常にその方の考え方、それから実際におやりになってることにある意味大変ほれ込みまして、２回ほどこのやねだんというところに行ったことがございまして、個人的にも接したことがございます。実際におやりになってることを目の当たりにして、これは大変私どもの町づくりに役立つ、示唆に富む内容であるなというふうに考えております。実はある意味、町おこし村おこしの本当に模範のようなところでございまして、そのたびに総務省のほうが、本来なら指導する立場にある方たちが、豊重さんのやってらっしゃる内容を見て「これはすばらしい」というんで、むしろ総務省に招かれて、総務省の役人に対してセミナーをやってくれということで、そういったことをやってらっしゃるほどの方なんです。ですから総務省から見ても非常に頼もしく、かつ実績のある方であるということで、実はやねだんのセミナーにも

総務省から当然、局長なんかが行かれて講師をなさるんです。そういった中で、もし私どものほうから職員を派遣できれば、これはもうまたとない研修の機会であるわけなんです。そういったふうなすばらしい講師陣に加えて、実はそこに来ていらっしゃるのは、多くが私どものような町おこしに燃えてるんだけど、どうしていったらいいんだろうという悩みを持ってる多くの行政マン、これが各市町村から集まってきます。そこで、豊重さんのそういう熱い思いに触れて火が付いて帰って行くわけですから、それから先、その各地各地の特性にあったいろんな取り組みをやっていくわけですんで、そういう人たちが、いろんな創意工夫がそこにノウハウがたまっていきますので、このネットワークが一たびできあがると、おそらく大変な資産になるだろうなというふうに思いますので、その研修の波及効果というのは、ただ単に２泊か３泊でしたか忘れましたけれども、そこで学んだことだけではなくて、後々ずっと続いていく。そこから増殖していくんです。そういう意味でも、非常によい内容のセミナーであるなというふうに、私は大変評価しておりまして、これからの特に若い職員、若手の方々にもなるべく早いうちに、若いうちに行っていただきたい。そういう方が戻ってくると、もう心に火が付いていますから、今度はその火をこの庁舎の中に、火事にならない程度に燃やしていただきたいというふうに考えておりますので、ぜひ活用していきたいと思っております。ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。私も第１０回の卒塾生でございます。それと隈部議員が１１回の卒塾生でございます。その後も、先ほど部長も答弁がありましたけれども、今年の５月も市民の方が３名、それに参加されております。私もその期間中にちょっと激励に行きましたけれども、今、市長が申されましたように、その卒塾生というのがすばらしいネットワークができます。今回は、１１月に派遣していただくということでございますので、先ほど森議員の答弁でもありましたように、やる気のある、本当に若い職員をぜひとも派遣をしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いしておきます。

それでは、次に小川基金についてお尋ねをいたします。この小川基金につきましては、奨学金への活用も含めこれまで何度も質問させていただきました。これまでの経過を少しお話しさせていただきますが、私が平成２１年３月定例会において、入学準備金の制度のことを質問したことが間接的に小川水寶様の娘さんの小川恵美様が知られ、ぜひとも会いたいということでございましたので、平成２１年１２月に東京でお会いをして来ました。小川様は、これまで何度も小川恵美様の代理人、

吉田弁護士が小川基金の使途については、私たち議員にはそれぞれ送付されておりますが、その内容と同じことを述べられ、小川水寶氏は、基金を故郷の青少年の健全な育成のために使用することを願っており、父の意思に沿った奨学金制度を創立等の具体案を決定されることを要望しますとのことでありました。このように小川恵美様の意思は固く、菊池市の将来を担う子どもたちのためを思っていただいていることに敬意と感謝を申し上げてきたわけでございます。その後も議会において、小川水寶氏の意志を継いで奨学金としての活用を要望してきましたが、これまで実現化しておりません。現在の菊池市のおかれた状況の中で、奨学金、私は入学準備金等の必要性を訴えてきたわけでございます。江頭新市長は、小川恵美様とはまだお会いになっていらっしゃらないと思いますので、今後なるだけ早くお会いになっていただいて、小川水寶氏の意志の確認をしていただき、菊池市の未来を担う大切な宝である子どもたちのために、早急に対応ができるように、また、特に入学準備金制度の実施を期待しまして、今後の対応についてお示しをしていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　教育部長、中村鉄男君。

［登壇］

○教育部長（中村鉄男君）　お答えをいたします。これまで、ただ今、議員のほうからもご紹介がありましたように、新たな入学準備金の創設としての小川基金の奨学金活用について、質問やご提案をいただいてきたところでございます。それを受けまして、教育委員会としましても財源的なものがクリアできればという想定で、入学時の学費負担軽減策を含めた新たな奨学金制度の創設を目指し、検討を重ねてきたところでございます。

　これまでも、様々な提案に基づく予算要求等も行ってまいりましたけども、基金条例に基づく運用、相手遺族の思い等、前市長において調整をいただいてきたところでございますけども、現段階では結論をいただくまでには至っておらず実現できていない状況でございます。今後も市長部局と調整の上、財源確保を行いながら新たな奨学金制度の構築に向けて努めてまいりたいと考えております。

　以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　小川基金について、私も一言申し述べたいと思います。小川基金のご寄贈者でございました、今は故人でございますけれども小川水寶様、それからその遺志をお継ぎになってます小川恵美様、まずこのお二方に心から敬意と感謝の念を表したいと思います。本当にありがたいことでございます。

それでこれからの使い道ということでございますけれども、まず何よりも小川様のご意向をまず第一ということで、それに沿った形で敬意を持って有効な使い方をしていきたいというふうに思っております。小川恵美さんとは、２度ほどお電話ではお話をさせていただきまして、来月にはお会いできるように今、算段をしておるところでございますので、実際にお会いした上でさらにご意向のほうをよく伺ってまいりたいというふうに思います。お電話等ででも伺いましたんですけども、小川水寶様それから小川恵美様のご意志が、とにかく「箱物ではなくて、人に投資してくれ」と、こういうことでございました。私はこのことに大変感激して、感銘いたしました。といいますのは、やはり寄付といった場合に、何がしかの形として残るというのは、一つのよりどころになるのかなと、私みたいな俗人はつい考えてしまうんですけども、そんなものは要らないと。とにかく人を育てて、人を宝として、そこに投資してくれというふうなご趣旨のご発言でございまして、大変感激した次第でございます。ですから、なおのことこのご意志を最大限尊重して、人を育てていくことにこのお金を有効に使わせていただきたいというふうに考えております。

これにつきましては、教育委員会はじめ皆さまの幅広いご意見を聞きながら進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。実は、前田中教育長のときに、小川基金人づくり事業、夢実現応援プランということで、教育委員会としては案ができとったということでございますけども、絵に描いた餅になってしまっておりまして、そのときにはもう、ちゃんと入学準備金補助金事業という型で貸付型という形である程度予算を組んでありました。本当に、今市長が申されましたように、寄付をされた小川水寶様、それの娘さんの小川恵美様の意思をしっかり確認をしていただいて、本当に菊池市の将来の子どもたちのために活用していただきたいと思いますので、このこともどうぞよろしくお願いしておきます。

それでは、次に小水力発電についてお尋ねをいたします。この問題につきましては、これまで平成２３年６月、１２月、平成２４年６月の定例会において質問・要望をさせていただきました。また、他の議員の何名かの方からも質問があっております。東京電力福島第一原発の事故で、改めて日本のエネルギー政策が抜本的に見直されることとなり、国も県も再生エネルギーに注目し、地域から自然エネルギーの投資計画がうねりのように起きております。市としても住宅用の太陽光については、これまで１億３，０００万円を超える補助が行われておりますが、私の考えと

しては、これまで何度も申し上げてまいりましたが、中山間地の自然に流れる河川や用水路、特に農業用水路を活用した小水力発電による地域おこしが不可欠ではないかと思います。前市長のこれまでの答弁では、積極的に取り組んでまいりたいと答えていただいておりますが、具体的には何も進んでいないのが現状であります。今回の江頭市長の施政方針では、小水力等の自然エネルギーを活用し、自然の恵みを活かした循環型社会のモデル地方都市を目指すとのことであり、大変喜んでいるわけでございます。そこでお尋ねいたしますが、小水力発電について、現在具体的に取り組んでいることがあれば、お示しをいただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　小水力発電に関する私の基本的な考え方でございますけども、私も施政方針のほうで、所信表明のほうにおきまして、自然エネルギー、とりわけ小水力発電事業というものに対して取り組んでいきたいということを申し上げております。これは、かつて木下さんとも大変意見を交換させていただいて、いろいろ教えていただいたところでもございますけども、やはりこの菊池の特性を考えたときに、この小水力発電というのが非常に理にかなって、かつまた菊池らしさを非常にいかんなく発揮できるやり方だなというふうに、今私は感じております。

水源地、それから龍門の奥からいわば山奥のほうから大きな扇状台地に向かって水が東から西へ流れてまして、とどまるところがないわけです。常に流れがある。これは全てエネルギーでございますから、中山間地はとりわけ流れが強うございますからそのメリットを一番に享受できるでしょうし、それから街中、それからこれは技術的なところを詰めなきゃいけないんでしょうが、田園地帯における用水路もある意味では理論的には無限に使える可能性があるということでございますので、この菊池の農業にとっても非常に付加価値の付く話だと思っております。どうしてもやはり付加価値の高い野菜ですとか、そういった物を育てていくにはビニールハウスが必要になりますが、非常に原油価格が高騰したりしてる。そういう中に、まさにその隣を通っておる用水路から電源を引けて、自然の恵みをそのまま活かしているということができれば、こんなすばらしいことはないんじゃないかと思います。

いろいろ技術的な問題はあるやには伺っております。例えば水利権の問題もクリアしなければいけないとか、水ではなくてむしろ木の枝や落ち葉などそういうゴミのメンテナンスというのが結構ポイントであるとか、特有の問題はあるんですが、まさにこれに向かってどういうふうな解決方法があるのかを専門家の意見も聞きながら取り組んでいきたい。そのために私は、この課題については、中期的に腰を据

えてやっていきたいというふうに考えております。

これからの取り組みでございますけども、その中期的に取り組む中で、一歩一歩着実にやっていかなければいけませんので、１つの検討委員会のような組織を作りたいと思っております。これは、庁内だけで作る組織ではなくて、むしろ河川関係、農業関係の方々にも入っていただいて、いろんな知恵を出しながら意見をまとめていきたいというふうに考えておる次第でございます。また、必要に応じては、専門家等の参画、それからセミナー等々こういったものを積極的に活用していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　大変ありがとうございます。これまで私も何度も小水力については、質問・要望してまいりましたけれども、今ここに、いろんな資料が今、持ってきておりますけど、県のほうも県民発電所ですか、そういうプランニングも考えていらっしゃいますし、水利権は、基本的に私も地元は井堰協議会の総会なんかにも行かせてもらいますけれども、ある程度の資本金も持っていらっしゃいますので、その活用については十分理解ができますし、水利権の問題については、その地元地元で持っていらっしゃいますから、いろんなことは解決ができると思います。やろうと思えばできるということでございます。先ほどゴミの問題もありますけれども、ゴミも全然、工法的にいろんな工法がありますので、そのゴミの問題もクリアするいろんなメーカーがたくさんございます。本当に、市長が申されましたように、私どものほうはもう中山間地でございますので、農業用水路にも傾斜がついておりますので、それも一つのパワーになると思いますので、ぜひとも菊池に非常にマッチした事業になると思います。

今のところ阿蘇とかよそに全部その事業をとられてますし、鹿児島県はものすごく違う意味で先進地であります。菊池は、今のところそういう水力発電は１基もついておりません、基本的には。だからやっぱり市がもうちょっと推進に一生懸命やっていただければ非常にいい事業になると思います。検討委員会を立ち上げていただけるということでございますので、ぜひともこっちのほうはスピード感を持ってやっていただきたいと思いますので、よろしくお願いしときます。

それでは次に、ポケットパーク足湯についてお尋ねをいたします。この件につきましては、これまで何人もの議員より意見が出ておりますが、私は平成２３年９月、その当時の経済建設常任委員会において留保した少数意見を会議規則第１０１条第２項の規定により反対をいたしました。完成後の評価については、市民の方々

からも厳しい意見があるのは事実であり、しっかり受け止めていかなければと思っております。

先般行われた市長選での公開討論会でも、配布されたアンケートの市民の声でも、足湯に対する意見は厳しいものがございました。１０代女性「足湯が多い」、６０代女性「街中に足湯よりも公園が欲しい」、５０代女性「足湯廃止の検討」、４０代男性「足湯の今後の活用方法と、存在利用の有無。ランニングコストは毎月幾らかかっているのか」「足湯を点在させるのではなくて、運動するところ、温泉・足湯・物産館といった一点集中型を望む」３０代男性でございます。等の意見が多数あり、市長選の１つの争点になったのではないでしょうか。江頭市長もその討論会において、足湯については運用を一旦停止して民意を問うと答えておられました。私も同じ考えを持っておりますので、早急にいろいろと対応していただきたいと思いますが、具体的な方法とか時期等が決まっていれば、お示しをしていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　足湯についてでございますけども、私、市長選に先立つ討論会の中で、市民の方々の足湯に対する反応は非常に厳しいものがあるという私の知見を申し上げまして、これほど皆さんのご意見が多いようであるならば、１回お湯を止めてみて運用をお休みしてみて、それでどういったふうな不都合があるのか、それを市民の皆さんに直接お伺いしてはどうだろうかと。そういうことでまず民意を問いたいということで申し上げました。実際にそのとおりのことを１回やってみたいというふうに思っております。

あの施設自体は、県の事業として別途お金をいただいておりますので、あの施設自体を今すぐ例えば取り壊すとかそういったことは今、考えておりません。そうではなくて、１回、どのような通用を感じるのかどうか、市民の方に１回問うてみたいと。その上で、様々な議論が出てくることと思いますが、その結果に応じては、そのおそらく問題になるのは、これから管理費のところであろうと思いますので、例えば夏場と冬場では当然管理の仕方というのは一律ではなくて、メリハリがつくはずでございますので、そういったことで、どういったふうな節減ができるのか。なぜこれが要るかといいますと、今、別途「森の中のまち」という、「森の中のまち」プロジェクトという構想を、これから具体化させていきます。そうなりますと、町の空き地に森の木立ができていきまして、これが構想では、町全体に緩やかにつながっていくことになるわけでございますから、一旦そういう「森の中のまち」ができてくれば、そういう中に立町と切明の足湯というものがつながって位置

づけられてくるということになると、また違った付加価値をもたらすということは想像できるわけでして、そういったところまで見て、また状況状況に応じて判断していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。いずれにしても、あとのランニングコストといいますか費用対効果が、市民にとっては厳しい意見だと思うんです。先般、中原議員のほうからも「１年間の経費の５００万円」という話が一般質問でありましたけど、先般、私が一般質問をさせていただいたときに、建設部長のあれでは、年間に清掃料とかトイレットペーパーとかそういう下水道使用料等を含んで、１年間に２３５万円ということでございます。３６５日で割ってみますと、大体６，４００円以上はかかりますので、それにしてもやっぱり年間のコストは高いんじゃないかなと思っております。１回そういう形で止めていただいて、やっぱり市民に本当に必要なのか必要でないのか、問う必要はあると思いますので検討のほうをよろしくお願いしておきたいと思います。

それでは、次に環境問題、産廃問題の現況と環境整備基金についてお尋ねをいたします。この産廃問題につきましては、改めて江頭市長も菊池市にとって最も最重要課題として位置づけて、取り組んでいただきたいと思います。地元はもちろん、菊池市にとっても、これまでの長い間の苦労を考えると大変な問題であります。私も地元の議員として、これまで欠かさず質問・要望をさせていただいておりますが、施政方針でも述べておられますように、市民の皆さまの産廃問題に対する不安を払拭するよう、問題解決に努めていただきますようお願いしておきます。特に地元の意見をしっかり聞いていただいて、対応をお願いしていただきたいと思います。

今回は、特に環境整備基金について確認を含めお尋ねをしたいと思います。

前市長の最後の答弁では、環境整備基金については、地元に活用するということは確認されており、新しい市政の中で、政策的な判断をしていかなければなりませんということでございますので、江頭市長にもこの件について、引き継ぎが行われていると思いますが、今後どのように取り組んでいかれるのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ご質問は、九州産廃に関わる環境整備基金の運用についてとい

うことかと存じます。環境整備基金の運用につきましては、条例等に基づいて、地域の環境設備等の財源に充ててまいります他、九州産廃の最終処分場の操業短縮協定に伴います補償金の財源、それから旧市営牧場跡地の買い戻しに充てる予定でございます。この地域の環境整備のところに関しては、この市民の皆さんはとりわけ地元の皆さんの要望を十分に伺って、条例に基づいた活用をしていきたいというふうに考えておりますので、申し上げます。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。この環境整備基金の運用については、今は通帳を分けて、九州産廃からいただいた寄付を１つ、それと協力金のほうが１つ、それと自治交付金等で３つに分かれて、それぞれに積み立ててあるそうでございます。これまでの経緯をちょっとお話ししますと、地元のほうとしては、環境整備基金の一部を運用して、地元のインフラ整備とかそういうのに使いたいという要望があっておりましたので、市のほうもそういう形で予算を組んでいただいておったんですけれども、平成２１年だったと思いますけれども、ちょっと辺地債等とのそういう予算等の間違った情報が流れたもんですから、１回２１年に市のほうからの要望を地元の区長会としては白紙に戻して、一旦は使わないという形でなっておりましたけれども、その後、市営牧場の買い取りに、市長が先ほど申されましたように、今度は、今は土地開発基金で買っておりますけれども、後でそれをちゃんと市営牧場跡地は環境整備基金で買い戻すということで、今回、環境整備基金で、地元に使うというのは、この市営牧場買取が初めてでございます。ですから、それをやった後でないとなかなか地元としてはやっぱり、産廃等との関連もございますので、地元としては、なかなか使えなかったというのが現状でございますので、今後は、一旦、市営牧場跡地が環境整備基金で買い戻しということになれば、地元の人たちもそういう形で、いろんな形で手を挙げていただくような状況になってくるかと思いますので、今後も、地元の意見をしっかり聞いていただいて、運用にもしっかりやっていただきたいと思っております。

以上で、質問を終わりますけれども、本当に、あと一人となりましたので、市長も、今まで最高の質問者の数だと思いますので、本当にお疲れでございました。ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　ここで１０分間、暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後２時４５分

開議　午後２時５５分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　皆さん、こんにちは。２１人目の一般質問で登壇をしました無所属の東英俊でございます。議長から発言の許可を得ましたので、一般質問を行いたいと思います。その前に、江頭市長、この度の市長選、大変おめでとうございます。また、重ねまして柁原議員、荒木議員、ご当選おめでとうございます。また、父の日に牛乳を送ろうキャンペーンで、牛乳及びらくのうジュースをとっていただいた市職員の皆さまには、この場をお借りいたしまして感謝を申し上げ、ありがとうございました。らくのう女性部の皆さまを代表いたしまして、御礼に代えさせていただきます。願わくば、来年もまた一つ、市の職員の皆さま方よろしくお願いいたします。

江頭市長就任後、初の定例会であり、私で最後の一般質問でもありますので、激励の意味も込めまして、改めて市長に申し述べさせていただきたいというふうに思います。

この菊池市の現状を憂い、我が故郷をどうにかしなければという思いで出馬をされ、見事当選をされました。今回の選挙のように、市を二分するような定数１を争う選挙は、出馬をした人にしか分からないと思いますが、候補者にとっては、本当に長い選挙戦で感じられ、みずからの大義と信念の思い、強さが試される選挙選ではなかったのかと拝察いたします。また、江頭市長のことですから、今回の首長選挙を戦っていく中で、政治における過去から現在までの菊池の流れ、さまざまな情報を耳にされ、この菊池の現状を招いた根幹部分は何であったのか、お感じになられていることと思います。

今回、「古い体質からの脱却、菊池に新しい風を」をスローガンに多くの支持を得られ、政治家として合併後、２代目菊池市長として歩み出されました。しがらみにとらわれない公約の実現、議会から見ても市民目線から見ても、公平公正な無理・無駄のない市政運営を市民は望んでおります。一部の人のためや税の無駄遣い、偏った市政、私利私欲の政に菊池市民は非常に敏感であり、うんざりしております。市長が、これまでの仕事で培ってこられたキャリア・スキルを十二分に活かしていただき、市政発展のためにご尽力いただきますことをご期待申し上げ、一般質問に入ります。

今回、施政方針、庁舎建設について、公務員倫理規定についての３点としており

ます。

まずは、施政方針についてでありますが、この中で、疑問に感じたことや施策の具体的な内容についてお聞きをしたいと思います。

まず１点目の稼げる農業づくりについての文中で、「新規に市内の農地を借りた認定農業者に対する補助事業を継続し実施します」とあります。まずこの点で、この事業の内容、予算、実績、施策の効果をどのようにみているのか、またどのような理由で効果ありと見ておられるのか。また、ブランド戦略のところで、前年度は、菊池の水を特筆してありましたが、今年はその水戦略はどうされるおつもりか。継続されるのか、継続するなら、前年と同じような戦略なのかお聞きをしたい。また、次に、教育と子どもの健全育成のところで、中身的には、学校給食の提供、学校教育の充実、社会教育の充実、スポーツ振興の４本柱となっており、特に教育環境整備における空調設備の整備におきましては、近年の異常な気温の上昇や中国からの飛来物ＰＭ２．５のことを考えると、早急な整備が求められるわけで、何ら問題はないかのように思われますが、本来のメインテーマである文教菊池の再興についてが、今回全く述べられていないことが非常に気がかりであり残念であります。市教育委員会の指導や現場の先生方のご努力もあり、義務教育期間の中学校までは、本市の学力水準は高い位置にあります。ところが、成績の上位の生徒たちや保護者の方々は、市外の高校に進学させよう、また、進学しようとしている実態。そして、なるべくは地元の高校に行きたがらない生徒たちが多い実態も教育委員会のほうでわかっているはずであります。そこでお聞きをしますが、児童や生徒、そして保護者の勉学教育における高い意識、高い向上心をかき立てるものは一体何であると考えられるか。また、地元の菊池高校の普通科倍率、本年度は確か０．７倍だったと思います。この現状を教育委員会としてどう考えておられるか、またその打開策を考えておられるのか、お聞きをしたいとそのように思います。

次に、都市基盤と生活環境の整備についてでありますが、下水道事業については、集合処理区域外の生活排水処理を進める上で、合併処理浄化槽の設置を市全域に推進していくことに私も全く異論はないわけであります。これに関しては、本年３月の一般質問でも、水洗化率１００％を急ぐようにと提言をさせていただいたところであります。その中で、執行部答弁によりますと、市全体の水洗化率は現在７２％、旧４地区の中で旭志地区だけが３８．２％と著しく低い状況にあることもわかっておるところであります。いわゆる旭志地区の約６割が生活排水が処理されていない状況だということであります。

そこでお聞きをしますが、市長は、所信表明の中で、心に訴えるさまざまな仕掛け・仕組みを通じて、特に日本一のホタル王国などを具体的に進めていくとされて

おられます。当然ホタル王国とは、旭志地区のことを考えておられることだろうと思いますが、江頭市長、さまざまな仕掛けの前に、まずは内外にＰＲするためにも、特に旭志地区の水洗化率アップは喫緊の課題、そのように考えております。どのように思われ、どう対処していくおつもりかをお聞きします。

また、住環境の整備の中で公園整備をうたっておられますので、ぜひお聞きしたい点があります。市長もご存じかと思いますが、たまたま私の住む上木庭地区には、地域住民の方々で、５、６年の歳月をかけて整備をしてきている通称東山公園があります。平地の公園ではなかなか見られない天空の公園で、眺めは抜群であります。しかも、管理整備をしている地域住民の顔写真入りののぼり旗を数多く立て、熊日にも掲載になった公園であります。この公園整備の発端は、地区の若い人たちが、実家や両親がいるにもかかわらず、隈府の街中、アパートに移り住み、若い世代が少なくなっていく中山間地域の活性化の先駆けになればという思いでスタートしたものでありまして、これを進め、そして最終的な到達点が、菊池渓谷に向かわれた観光客をこちらのほうに迂回をさせ、渋滞を回避し、田舎を堪能していただくことであります。そのためにインフラ整備として、県道の拡幅も６年も前から県に陳情を行い、徐々に進んできている状態であります。さらには、東山公園の入口には、上木庭地区に下りてきました中山間直接支払いで建てた保健所の許可が下りた加工所も整備済みであることを申し添えて、そこでお聞きをしたいのですが、木庭橋を渡ったところから水源までのこの中山間地域の活性化のために、一役買うならとして地域の方々が整備をしてきた天空の公園東山公園なのですが、これから先の整備は、地域の力では限界にきておるように感じます。そこで、市として今後調査を行い、他に類を見ない心の癒される公園として、中山間地域の活性化のモデルにもなり得るとするのなら、ぜひとも今後の公園整備を市がサポートするならと考えますが、市長の所見をお聞きしたい、そのように思います。

以上、１回目の質問といたします。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　東英俊議員の質問にお答えします。最初に、私のほうから認定農業者規模拡大推進事業の昨年度実績及び効果についてお答えさせていただきます。認定農業者規模拡大推進事業につきましては、効率的かつ安定的な農業経営を目指す意欲のある担い手を育成するため、農地集積により地域農業の維持発展と経営規模拡大を図ることを目的としまして、過去に賃借権の設定をされていない農地を５年以上の期間で借りられた認定農業者に対しまして補助金を交付するという事業で、平成２０年度からは地域間の単価設定を行い実施している本市の単独事業

でございます。この事業は平成２３年度を最終年度とする事業でございましたが、多様な担い手の育成のため、有効かつ重要な事業であることから、交付単価など事業内容の見直しや内容の充実を図り、平成２４年度以降も継続して取り組んでいるところでございます。

なお、補助金額につきましては、市内統一単価として、田が１０アールあたり７，０００円、畑が１０アールあたり５，０００円といたしているところでございます。平成２４年度の実績につきましては、田が１４件、取組み面積６万６，８７４平方メートルで交付金額は４６万２，０００円。畑が４件で取組面積２万７，９６０平方メートルで交付金額は１３万８，０００円となっております。合計しまして１８件の９万４，８３４平方メートルで６０万円の交付実績となっているところでございます。

また、平成２０年度から平成２３年度までの４カ年間における実績としましては、９２件で取組み面積５５万９，１２２平方メートルとなっており、認定農業者の経営規模拡大、経営基盤の強化が図られ、増加する耕作放棄地の防止策としての効果や農地の多面的機能の維持保全にも効果があったものと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、私のほうから今度は、水を活かした戦略についてご説明申し上げます。皆さんご存知のように、昨年度、菊池渓谷の天然水と銘打ちまして、市におきまして５００ｍｌのペットボトル、これを１万２，０００本製造委託の形で作りまして、主にこれは本市で開催されました県民体育祭が中心だったんでございますけども、この県民体育祭及びその他のスポーツ大会、ウォークラリー等々、基本的には外からお客さんがお見えになる機会を利用して、無料配布をしてＰＲを図るとともに、天然水に関するお客様のアンケート調査を実施したということの実績がございます。今年度については、もう少し付加価値を上げるやり方をしなきゃいかんなというふうに思っております。去年のやり方は、初年度ということですんで、ＰＲ中心になっておりますが、せっかく井戸を掘る等の初期投資が実際に実施されておりますので、これを活かす形で今年度も続けていこうとは思いますが、少しやり方を変えまして、まず１万２，０００本の基本部分については、従来同様に集客ないしＰＲということに使っていきますが、基本的には、福岡都市圏等消費が見込める物産店等において基本的に使っていきたいということが一つと、それから、今まではこれは市が作っておりましたので売れなかったんですけども、今度は実際に製造する業者との間で、一つの工夫をしまして、私どもが菊池をＰＲす

るためのラベル、これを作っておりますけれども、これをある意味では使ってもらう形にしまして、くまモンと同じ、似たような発想だと思います。業者が事業として、自分の事業として菊池市の分とは別に販売をしてもらおうと。そうすると、同じようなラベルのものがただで配られて終わりではなくて店頭にも並ぶと。もし、最初の無料配布で気に入ってもらえれば、それを店頭でも買えますよというふうな、少し広がりのある形に変えていきたいというふうに思っております。

それから、前にご説明させていただきました今年度につきましては、お酒の仕込みが菊池の水を使って始まるということで、これは、幾分幸運に恵まれたということもございますけども、こんなところは少しＰＲに使って重ねていきたいなというふうに考えております。

それから先ほどの小水力発電でございます。こういったところも、この菊池渓谷の観光とか、それから農業とかと併せて、先進的な取り組みをしてると、これからやっていきますよという水づくしで一つの宣伝につながるような、そういうＰＲ路線を少し考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　教育長、倉原久義君。

［登壇］

○教育長（倉原久義君）　私のほうは、子どもたちの向学心、そして高い意識づけ、あるいは意欲づけ、こうした対策をどういうふうに考えているかと。また、菊池高校の０．７５倍であるという現状をどう考えるのかということだろうと思います。

子どもたちの心をどう揺さぶっていくか。これは非常に、いわゆる教師に問われる一番大事なところでございます。本当にこうした意欲づけ、向学心というものは、教師の一声あるいは言葉かけ、これによって大きく変わるということもございます。今年、菊池市内の小学校、中学校に、新しく１４名の新規採用職員が来ております。その中の一人が、自分は中学生のときに、ある先生との出会いによって、教師になろうと思ったという言葉を言っておりました。これは菊池市内の先生です。本当にそうしたことを見ると、やっぱり先生たちの姿、接し方、これによって子どもたちが大きく意欲づけになったり向学心を持つ、そういった気持ちになるんじゃないかなと思っております。

ところが、近年は、本当に大人になりたくないと考えている子ども、あるいは将来の夢を抱けない子どもが増加しているのではないか。あるいは学ぶ意欲を喪失しているのではないか、そういった一般論として語られております。本市におきましては、子どもたち一人ひとりの個を伸ばす授業の創造をとおしながら、児童生徒のよさ、頑張り、こういった取り組みを進めているところでございます。そういうこ

とから、常日頃から、先生たちには危機感を持って学級経営なりあるいは学校運営を考えていかなければならないと思っております。

確かに向学心は、東議員のお話のとおり、本当に生きる力を育成する上でも、基礎・基本の定着とともに大変重要な要素であるとこういうふうに考えております。また、高い意識付けあるいは意欲付け、これを維持するためには何と言っても自己有用感を持たせる、これが一番大切であると考えております。そのためにも、今現在、小学校あるいは中学校では、いろいろな時期折々に、一流選手を招いて、そして一流選手の生き方について学んだり、あるいはさまざまな機会を通して、成功体験、こういうものを多く積ませたりしながら、これから夢を持ちそしてその夢に向かって努力する気持ち、心、そして心身ともに健全な子どもたちの育成に努めていきたいとこういうふうに考えております。

次に、菊池高校の普通科の、平成２５年度の受験倍率についてでございますが、確かに、平成２４年度２５年度、本当に続けて０．７５倍と定員割れとなっております。私自身も菊池高校のＯＢとして、非常に危惧しているところでございます。しかし、このことは菊池高校だけの問題ではなくて、県下全域において少子化による影響もいなめないところであるんではないかなというふうに考えております。本当に、熊本市内に優秀な選手、勉強あるいはスポーツ選手、早くから目をつけられて引っ張られていきます。しかし、そうした夢を持った子どもたち、これも一つの選択肢ではないかなと、これを私たちが止めるわけにはいきません。以前にも答弁したかと思いますけども、高校進学あるいは高校選択というものは、本当に今現在、中学校あるいは小学校のほうでもキャリア教育というものを行っております。いわゆる自分の進路を見極めるそうした活動を行っておるわけですけども、そうしたキャリア教育の中で子どもたちが自分の将来を見つめて、どこの高校に行ったら自分の夢が叶えられる、自分は将来こういうことをやりたいからそのためにこういう高校を選ぶんだ。そうした教育を重ねながら、最終的には、生徒あるいは保護者が高校進学は決めるということになります。

生徒や保護者のニーズに応えるべく、各高校がそのためにやっぱり特色ある、魅力ある学校づくりを進めていただくこと、このことにつきるのではないかなと思っております。再来週、私も菊池高校の学校評議員の一員として、第１回目の評議委員会がございますので、その中でこの０．７５倍という現実を、菊池高校の先生たちがどういうふうに受け止めているのか、こういうものをお聞きしながら、そのための対策をどういうふうに中学校と高校で協力しながら進めていったらいいかと、こういうものを提言していきたいというふうに考えております。

昨年度は、市内のある中学校と菊池高校、人事交流を１年間行っております。い

わゆる菊池高校の先生が市内の中学校のほうに来て、市内の中学校の先生が菊池高校に行って、それぞれ１年間、お互いにそこでの教職を送っております。１年間、菊池高校で子どもたちと接した先生が、今現在、市内の中学校に勤務しておられますが、菊池高校のよさ、現実、将来こういう大学に行っている、そうしたいいところを子どもたちにぜひ伝えていただき、また、中学校で勤務された先生は、また現在、菊池高校のほうに戻って勤務しておられますので、その中で、市内の中学校の子どもたちの現状・実情、どういったものを高校に求めているのか、そうしたものをお互いに共有し合いながら、そして子どもたちの一つの高校の選択肢として考えていただければありがたいかなと思っております。また、菊池高校には、今、ボート部というのがございます。今、菊池市のほうでも、ボート場を活かした地域づくりというものに目を向けておりますが、実は、そういうことも含めながら、菊池高校にボートを指導する先生がいない。こういうのも評議員会の中で、私のほうも言ってまいりました。本当に今年は、新規採用の先生が１人、菊池高校のほうに来ていただきました。大学のほうでボートを経験しておられた先生です。そういうことも提案することによってできること、できますので、これからも大いにそうした評議員会の中で提言していきたいというふうに思っております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　建設部長、松野浩一君。

［登壇］

○建設部長（松野浩一君）　まず最初に、合併浄化槽の普及促進について答弁をいたします。施政方針の中で、観光戦略の一つといたしまして、「癒しの里づくり」によります昔のように市内どこでもホタルが飛び交うような町を目指す「日本一のホタル王国プロジェクト」がございます。ホタルが育つ環境を守るためには、水質を保全することが大切であり、そのためには合併浄化槽等の普及促進が必要であると考えているところでございます。

平成１９年度より、旭志地区におきましては、一部の箇所を除きまして、浄化槽市町村整備推進事業に着手しているところでございます。平成１９年度から２４年度までに１９基の設置があっておりますが、６年間の平均といたしましては、年に１６．３基でございます。普及のほうが進んでいない状況と考えられます。普及が進まない理由といたしましては、集合型処理・浄化槽処理も同様でございますけども、宅内の配管・トイレ等の改修にそれなりの費用が必要となりますので、家屋等の改築や新築時に一緒に整備をされたり、高齢者少数世帯が多く、使用料金には人槽により定額であり、少数世帯には一人あたりの負担に換算いたしますと高額と考えられ、合併浄化槽の設置に踏み切れないのではないかと考えているところでござ

います。

平成２５年の第１回の定例会の質問にお答えいたしましたように、生活環境の向上のためには、市の広報等を通じまして積極的なＰＲを行いまして、全市域を対象に下水道への加入促進及び合併浄化槽の普及促進に努めてまいります。また、水質保全・ホタルの里のイメージダウンになりませぬよう、川の汚れを少しでも減らすため、生活排水対策といたしまして、家庭での汚れを減らす取り組みをＰＲしてまいりたいと考えております。

次に、上木庭地区にございます「東山公園」のご質問でございます。地元の有志の方々のご努力によりまして整備が進められ、地域に根ざしました公園として管理運営されていることは、私も知っているところでございます。市は「東山公園」に対しまして、今までも助成事業として補助を行い、整備活動の一環を支援してきているところでございます。この手作りの公園が地域の皆さまに親しまれ、有効活用できていることを考えますと、地区での運用が好ましいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

すみません、訂正させていただきます。平成１９年度から平成２４年度までの設置の数でございますが、９８基でございます。訂正させていただきます。

○議長（山瀬義也君）　東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　今、５点について答弁がありました。まず、教育長のほうから、この定員割れというものは菊池高校だけの問題ではなくて、全県域ということを言われたんですけど、確かに菊池高校だけの問題ではないんでしょうけど、これは市の活性化のその対策のためにはやっぱり必要じゃないかなと。定員割れしてるような県立高校に、やはり優秀な中学生たちが行きたいというふうに思うはずはない。

また、ホタルの王国の旭志地区をやっぱり今後目指していくとするならば、この旭志地区だけには特化した形でのてこ入れというのが、行政としては絶対に必要ではないかな。このような処理のパーセンテージでは、逆に足下をすくわれかねないかなというふうに感じております。

再質問に移ります。まず、稼げる農業づくりについてですが、市が考えていかなければならない政策や施策を言う前に、まず頭に入れておきたい実態があります。平成２２年における全国農家数、約１６３万戸のうち、農産物販売金額、あくまでもこれは年収ではないんですけども、年間５０万円以下の農家数は、全国で約１４０万戸、全体の約８６％が、年間の販売金額が５０万円以下なんです。また、販売

金額が７００万円以上の農家が、全国で１６万戸、約１割といったところです。いわゆる二極化の状態、そして今や専業農家として日本の農業界をリード・牽引しているのはこの１６万戸の農家で、じゃあこの本市における場合はどうかというところで見てみますと、この本市において、総農家数は３，１７８戸、約３，２００戸です。そのうち販売金額、あくまでも販売金額です、年収ではありませんから。７００万円以上の農家は６４４戸、いわずもがな５０万円以下の農家はかなりの数があります。つまりは、この本市におけるこれからの農業施策を考えていく場合、最も重要なのは、この６４４戸、この農家いかに儲けさせていくか、いかに元気づけていくのか。もうこのような方策でない限りは、この本市における基幹産業は農業だというふうには言えない、そのように感じております。

そこで、市はその牽引役を担っておられる認定農業者の実態を知ることから始めなければならないというふうに考え、認定農業者となる際に、申請時に提出する５カ年間の計画、営農計画を定めた経営改善計画書があります。ほぼ、どこの農家、認定農業者の農家も、２回目の認定申請が終わっているんじゃないかなと。この追跡調査、ヒヤリングをすることによって、問題点の現況把握、計画どおりに進まない理由は一体何なのか。何を農家が望んでいるのか。このようなことがまず、稼げる農業づくりとして、もし執行部また江頭市長が考えられるとするならば近道となり得る。要するに本質の部分から見つめ直していくべきだというふうに考えられると思うんですけども、まず執行部としてどういうふうに思われるか。

また、菊池の水戦略の部分で、これに関しては、答弁は求めませんけども、江頭市長が言われたように、企業との業務提携というような形で言われたかと思います。この菊池の水にとどまらないのかもしれませんが、私なりの提言をさせていただくと、いい素材でも宝の持ち腐れではもったいないわけで、特に各自治体が昨今競争相手となれば、なおさら急がなければならないというふうに感じております。例えば、大手飲料メーカーの企業に話を持ちかけたり、またそれらの企業と業務提携し商品開発。菊池渓谷のイメージそのままで販売まで持っていってもらい、その営業行脚に江頭市長みずからトップセールス。その営業サポートに、県にお願いをしてたまにくまモン登場。また、ＰＢ商品で商品開発をしてるコンビニ各社だったり、もしくは大手のスーパー、それらのタイアップもまたいいというふうに考えられます。またここでも市長みずからトップセールスの営業行脚と。

だから以前から私は、この執行部の中で副市長は二人体制というものを提言をしてきております。これからの企業誘致対策にも、十二分に応用可能な方法論かなというふうに私は感じております。また、以前から再三にわたってこの教育問題、市の活性化のためには、市の県立高校をやっぱり昔みたいな進学校に変えなきゃいか

ん。そのために、中高一貫性をやったらどうかとかさんざん言わせてきていただきましたけども、本市が徐々に衰退してきた原因というのは、県下の進学校としての菊池高校がやはり今までの菊池高校ではなくなってきているというのが一番の大きな要因かなと。

今、泗水地区に、徐々に人口が増えてきておりますのも、まことしやかに言われているのは、済々黌の学区内に泗水地区はあるからというところも聞いておるところであります。

これからの本市の活性化、人口増加策には、文教菊池の再興が絶対といっていいほど切り離すことができない、いわゆる菊池高校の進学校としての再興であります。これまでの言い分は、先ほど教育長の答弁の中にもあったように、あくまでも我々は市の教育委員会だと。菊池高校は県立のため我々は権限がない。教育長が評議員としてそのような組織に加わるのが精一杯として、今回の評議員会の中で、菊池高校のほうに提言をさせていただくという今、教育長は答弁をなされました。がしかし、教育委員会の権能を考えたときに、文部科学省の中央教育審議会、中央教育行政部会まとめの地方分権時代における教育委員会のあり方、そのようなものが平成１８年のほうに答申がなされております。その中によると、都道府県は、市町村の自主性を最大限尊重するとともに、市町村も、主体的に教育行政に取り組むことが必要である。また、都道府県の役割の中でも、市町村への権限移譲もうたわれております。

そこでお聞きしたいと思いますが、菊池高校の内部再編における権限を市のほうからお願いして一部移譲させてもらい、菊池高校に国公立進学クラスもしくは有名私立大学コースクラスの創設、それに関わる教員の配置あたりを市の教育委員会のほうから県にお願いをして、その権限移譲をさせてもらうといった、いろいろな様々な施策が考えつくものと思われますが、いかがお考えになりますか。

まずこの２点をお聞きします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　農業の強化の仕方ということでございますが、これはいろいろな切り口があるわけでございますけども、先ほどのご説明の数字でいけば、販売金額が７００万円以上で６４４戸、ここを集中的に育成していくのがいいんではないかというご指摘でございました。これは中核をなす農家さんでございますから、強いところをより強くというのは、いろんな戦略において基本となる考え方でございますが、これはこれで一つポイントを突いたご指摘かなというふうにも思います。ただ、やはり菊池の農業を支えているのは、それ以外の部分も含めて、裾野の広が

りというのがあって初めて成り立つと思いますので、そういったところも全部含んで、農業の強化を考えていきたいと思っております。

その後者の部分については、昨日ご説明したように、これからも安心・安全の農業と安心・安全の農産物というイメージづくりをしていくことで、そのイメージ自体が菊池の全農産物全体に及んでいくんだと。また単価が上がる方向に持っていく。そういうふうなことで、一つ救っていきたいというようなことを昨日申し上げたわけですが、今日は、先ほどご提案のあった中核農家のところに絞ってちょっとお話をしますと、いわゆる認定農業者という制度がございますが、これはまさしく今おっしゃったような、地域の営農の中心となる方々でございまして、まさに稼げる農業づくりを推進していく上でも、中核となる方々であるのは間違いないと思います。しかしながら競争関係は非常に厳しくなっておりますので、これからの農業というのは生産効率だけではなくて、いかに消費者のニーズに的確に叶った製品を提供していくかというきめ細かさ等も求められているところかと思います。ですからますます農業の中に経営としての視点というのが求められているのかなというふうに考えております。であればこそ、この認定農業者というのがまさしく、この国の制度によって経営として、いろんな経営指標を入れてそれをフォローしていこうという考え方に基づいておりますので、この制度の趣旨をよく活かしながらこの育成にご協力をしていきたいというふうに考えております。

そういう中で、この経営内容をみずから振り返っていくというやり方が極めて効果的だと思うんですが、今、この認定農業者の皆さまは５年ごとに、認定をやっていくような仕組みになっておりますんで、どうしても５年刻みで足下の経営状況を振り返るということになりますんで、今の世の中で５年という刻みでは非常に遅うございまして、むしろ日進月歩のこの農業の競争の中で、もっと頻度を上げて自分の経営状況をチェックしていくということが、強い農業につながっていくだろうと考えますので、いきなり毎年ということではご負担もあろうかと思いますので、例えば、中間時点で１回経営指標をみずから振り返るようなことを推奨していきたいなというふうに考えております。ただ、皆さんお忙しい中でございますから、ただ、そういったことをやってはいかがですかと言うことではなかなか物事が進まないと思いますので、この実効性を上げるために、できればこれをやはり経営の視点からアドバイスするような専任のアドバイザー機能というのもしかるべしかなというふうには思っております。幸いそういう、県においても専任アドバイザーを派遣するような事業も設けられておりますので、今年度は実は残念ながらこのタイミングに間に合っておりませんけども、本市としては一つ、導入に向けて検討していきたいと。そういう形で農業を経営力の強化につなげていきたいというふうに考えて

おります。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　教育長、倉原久義君。

［登壇］

○教育長（倉原久義君）　それでは、お尋ねの県立高校の人事権についてでありますが、市町村立の小・中学校のいわゆる県費負担教職員といいますが、とは違い、県立高校の人事権については、学校設置者及び経費負担をしている、これは熊本県教育委員会の権限であります。先ほど中教審のことを述べられましたけども、これは、一応中教審のほうで、いわゆる中央教育審議会と言いますが、この中で提言されているということでこれが法制になったということではありません。権限移譲については非常に難しいというふうに考えておりますので、学校評議員会の中でも、人事交流についても、また、県教育委員会のほうにも直接私のほうからも、そういう要望はしていきたいと思っておりますので、そういうところでご了解いただければと思います。

○議長（山瀬義也君）　東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　今、江頭市長のほうからも答弁がありました。教育長からも答弁がありました。言いたいことはあるんですけど、何せ時間がない。次に移ります。

庁舎建設についてでございます。これについては、数名の議員さんも聞いておられますし、また、昨日の一般質問でも坂井正次議員、樋口正博議員も聞いておられます。現庁舎の耐震リニューアル及び庁舎機能を併せ持つ生涯学習センター整備に落ち着いた経緯はもう、市長は十分すぎるほど理解をされておられるものと認識をいたします。いずれにいたしましても、平成１７年に新菊池市が誕生して、合併特例期間１０年間の、本来なら１、２年目にできていなければいけなかったはずの菊池市の核、庁舎という本丸が今の今までできていなかったこと、このことが、あらゆる事象の根源であるというふうに見ていいというふうに私は感じております。

江頭市長が、この菊池を前に進めるスピードを加速させていく上でも、自治体間の競争化時代を勝ち残っていかれる上でも、また、市民の心を一つにされる上でも、市長が言われる「菊池から世界へ」の戦略的な必要な箱物ではないかなというふうに感じております。

そこで、執行部は概算の事業予定費用を４２億９，０００万円としておられるようで、この数字を基準に考えを聞かせていただきたいというふうに思います。

昨年１２月の政権交代から、アベノミクス効果によって、若干日本の景気も浮揚

してきたような感じがありますが、最近になってこのアベノミクスにも陰りが見えはじめてきております。ただ、燃油資材高騰というような事態は、今もなお続いておりまして、これが概算４２億９，０００万円の部分にどれだけ影響しているのか、上積み分のコストは幾らと計算をされているのかを、まずお示しください。それと、基本設計・実施設計の完了はいつを予定されているのか。そのスケジュール次第では、来年４月よりの消費税８％は避けられるのか、避けられないのかを端的にお答えください。お願いします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　新庁舎の建設コストに関わるご質問でございますが、まず第１点目、端的に、では申し上げたいと思います。

現状で今、何割ぐらいの変動があるかというのは、なかなか予測しがたいところがございます。アベノミクスに伴いまして、円安が進行しているのは確かですが、これもまた最近、円高に戻ったりしておりまして、なかなか本筋が見えにくいところがございます。ただ、かなりいろいろな企業の経済活動が活発になっておるのは確かでございますので、これに伴いましていろいろな、例えば、普通建設作業員とかこういったものの労務単価が既に、例えば平成２４年と平成２５年で比較してみますと、足下約１割ほど上昇しておるようでございます。また、建築資材でも、代表的な指標であるコンクリートですとか鉄筋、こういったものが実は、去年の年末ぐらいからわずか短期間の間にも、１割から２割上がっておるという事象も発生しております。これは来年にかけてどうなるかというのはまた見えない中ですんで、何とも申し上げにくいんですけども、私どもこの推進する立場からいけば、常にこれはコストオーバーラン、コストが大体水ぶくれしがちでございますから、思わぬ事象等はございますので、これはある程度上がるかもしれないということを前提に、少し新たな目でこの計画を少し見ていかなければいけないなというふうに思っております。

そのために、今度市民の皆さんに入っていただくことで、無理・無駄がないような見直しを始めようというふうに思っておりますので、そこのところも、また一段と厳しい見込みで見立てで進めてみたいと思っております。また、消費税の件ですけれども、実は今、進めております基本設計・実施設計自体が、３月末を予定しております。消費税８％への引き上げというのは、これは４月すぐを予定しておりますので、おそらくこれにはなかなか間に合わないんじゃないかと。むしろそれを予め想定した対策を練らなければいけないんじゃないかなというふうに考えています。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　要するに試算はされていないと。概算の概算で４２億９，０００万円。消費税が８％、要するに３％分４２億９，０００万円と計算したときに、１億２，８００万円ほど、このくらいは上がるのも承知の上だというとこで突っ走るというところで再質問をしたいのですが、次の質問にいかせていただきます。

公務員倫理規定についてであります。この公務員倫理規定につきましては、昨年の１２月の定例会の一般質問で、私が前市長の福村市長にお聞きをしたことであります。この庁内で起きた職員の処遇の問題でありまして、それについてこの菊池市内において、公務員倫理規定がないということであったものですから、この公務員倫理規定を設けたらどうかというところでお聞きをしたところであります。まず最初に、その後この規定はできたのかをお聞きします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　菊池市職員倫理規定を、平成２５年３月２８日付で制定し、庁内に周知を行っております。この規定は、国家公務員倫理法第４３条にも規定されておりますように、地方自治体にあっても、地方公務員の職務に係る倫理の保持のために必要な施策を講ずる必要にあることを踏まえ、本市においても、職員が市民全体の奉仕者であり、その職務は、市民から付託された公務であることに鑑み、職員の職務に対する倫理の確立及び保持に関して必要な措置を講じ、公務に対する市民の信頼を確保することを目的に制定しております。また、昨年は、管理監督者向けの公務員倫理研修も実施し、職員の倫理意識の高揚を図っておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　再質問に移ります。公務員倫理規定ができたということを受けまして、まず１点目。一般質問初日の荒木議員の質問、市議会議員の税情報開示についての中で、江頭市長は、厳罰対象に値すると明言をされております。そこで数点お聞きしますが、今回できた倫理規定には、当然罰則規定も入れ込んであるものと思いますが、どうなっているのか。２点目、職員への周知徹底はどういうような形でなされたのか。３点目、この公務員倫理規定は、役所内の一般職に限らず、市長から委嘱を受けた嘱託職員、臨時職員、非常勤職員の範囲まで及んでいるもの

か。及んでいるか及んでいないのか。どうなっているのか。４点目、あの時点での職員に対する処分の量定は、副市長をトップとする分限懲戒審査委員会で決定された量定であります。今回改めて、この菊池市の新市長となられた江頭市長に、特にお聞きをしてみたいわけでございますが、あの処分の量定は妥当とお思いかどうなのか、以上４点を再質問といたします。お願いします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　再質問にお答えいたします。菊池市職員倫理規定の中には、罰則規定は設けておりませんが、職員が規定に違反する行為があったと認められた場合においては、菊池市職員分限懲戒審査委員会に対し、処分について審査を求め、審査結果の報告を受けたときは、その内容を精査し処分を行うものとしております。

また、職員に対する周知方法につきましては、庁内のネットに掲載し、周知を行ったところでございます。今回制定しました菊池市職員倫理規定につきましては、地方公務員法第３条第２項に規定する一般職の職員について対象としており、臨時・嘱託職員については含まれず、特別職の職員で非常勤の職員については、対象としておりません。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　お答えします。ご質問が平成２４年１１月に行われた懲戒処分についての私の評価ということでございますが、２４年１１月の懲戒処分という結論に至るには、その当時の様々な状況、それから事実関係を精査して、いろんな立場で目を変えて菊池市職員分限懲戒審査委員会の中で審査された結果を踏まえての処分というふうに理解しております。私なりの感想はないわけではもちろんございませんが、これに対しての意見を表明するということは、その当時の結論に至った全ての情報を私が持った上で、その場を理解した発言としないとこれは非常に軽々としたものになりますので、私の私見として述べることは差し控えさせていただきます。私は、先日も述べましたように、これから何を私どもが学びとるかということが、これからの課題であると思っておりますので、もし今後、あのような事例が起きれば、これは私としては厳罰をもって対処する、そういう事例であったかなと思いますので、これからについては、職員の間にこれを周知徹底していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　東英俊君。

［登壇］

○８番（東　英俊君）　再々質問をさせていただきます。この公務員倫理規定の中に、嘱託職員・臨時職員は入っていない。特別職の非常勤職員も入っていないという形であったかと思います。要するに、この行政から給料という形で税金をいただいている方々ですよね。あくまでもこの嘱託・臨時または特別職の非常勤職員という方は、非常勤職員というのは、代表格は各行政区の区長さんたちでもあります。

昨年来、泗水の独立運動及び毎回行われる選挙のときに、区長さんたちのお仕事が、行政区からの推薦状だったりとか、各区の候補者側に推薦状を出した人のビラ配り、応援の運動というような形で、やはり区長さんたちの中には、我々一体何をやってるんだというような方々が非常に多い。やっぱりこれから、江頭市長が前向きにこれからの菊池を閉鎖的ではなくて前向きに進むためには、やはりそこまでのある程度の服務規程そのものと、こういった倫理規定そのものもそのような方々を対象にやっていかなければならないというふうに私は思っております。答弁の時間はおそらくないと思いますので、この６０分丸々使わせていただきましたことに感謝を申し上げて、一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（山瀬義也君）　以上で、一般質問を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第２　議案第７９号及び議案第８０号一括上程・説明・質疑・委員会付託

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第２、議案第７９号及び議案第８０号を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま上程されました議案第７９号及び議案第８０号についてご説明を申し上げます。追加議案書の１ページをお開きください。

議案第７９号、工事請負契約の締結についてでございます。平成２４年度菊池地区学校給食共同調理場建設（建築）工事について。三和建設・生田建設工事共同企業体と工事請負契約を締結いたしたく、議会の議決を求めるものでございます。

次に３ページをお開きください。議案第８０号、同じく工事請負契約の締結についてでございます。平成２４年度菊池地区学校給食共同調理場建設（管）工事について、熊本設備・飯塚建設工事共同企業体と工事請負契約を締結いたしたく、議会の議決を求めるものでございます。内容の詳細につきましては、総務企画部長が説明をいたしますので、慎重審議の上ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案

理由の説明といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　それでは、議案第７９号、議案第８０号について説明をさせていただきます。議案書の１ページをお願いいたします。

議案第７９号、工事請負契約の締結についてでございます。平成２４年度菊池地区学校給食共同調理場建設（建築）工事につきましては、菊池市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第２条の議会の議決に付さなければならない契約は、予定価格１億５，０００万円以上の工事または製造の請負にするとの規定に基づき、議会の議決を求めるものでございます。この工事につきましては、市内業者２社による組み合わせとし、３つのジョイントベンチャーにより、５月２８日に入札を行い、その後の事務処理を終えて６月１１日に仮契約を行ったところでございます。

契約の目的、平成２４年度菊池地区学校給食共同調理場建設（建築）工事。工事の場所、菊池市隈府地内。契約の方法、条件付き一般競争入札。契約の金額、２億６，７７５万円。契約の相手側、三和・生田建設工事共同企業体。代表者、菊池市隈府７７５　三和建設株式会社代表取締役、川瀬和洋。以上、議案第７９号の説明とさせていただきます。

次に３ページをお願いいたします。議案第８０号工事請負契約の締結についてでございます。これも先ほどと同様に、議会に付すべき契約として提出するものでございます。この工事につきましては、２社による組み合わせとし、９つのジョイントベンチャーにより５月２８日に入札を行い、その後の事務処理を経て６月１１日に仮契約を行ったところでございます。契約の目的、平成２４年度菊池地区学校給食共同調理場建設（管）工事。工事の場所、菊池市隈府地内。契約の方法、条件付き一般競争入札。契約の金額、１億６，８００万円。契約の相手方、熊設・飯塚建設工事共同企業体。代表者、菊池市大琳寺７８の１　熊本設備株式会社菊池営業所所長、中島喜久男。以上、議案第８０号の説明とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で、議案の説明を終わります。これから質疑を行います。質疑はありませんか。

中原繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　議案第７９号と議案第８０号、これは学校給食共同調理場の建築と管工事です。お尋ねすることは両方とも一緒ですので、それなりにお答えをいただきたいと思います。

まず、条件付き一般競争入札ということで今回実施されておりますが、その条件とはどんな条件を付してあるのか。次に、この建築のほうの工事請負金額の予定価格並びに指名業者、入札状況を教えていただきたいと。併せて、これには最低制限価格が設けてあったのか。もしあったならばその金額をお知らせ願います。これは８０号も同じでございます。

以上、お尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　中原議員の質疑にお答えいたします。

まず、議案第７９号についてお答えいたします。条件付き一般競争入札に参加できるものは、２社による任意に結成された特定工事共同企業体で、次の条件を満たす者として、菊池市に建設業法に基づき配置された本店を有すること。その次に、平成２３、２４年度の建築一式工事の格付けがＡランクであること。次に、共同企業体の代表者が満たす条件としては、構成員のうち中心的役割を担う者で、その出資割合が７０％以内であり、構成員中最大であること。次に、共同企業体の構成員、子が満たす条件としては、その出資比率が３０％以上であることを条件付けています。

次に、議案第８０号の条件についてお答えいたします。条件付き一般競争入札に参加できる者は、２社により任意に結成された特定工事共同企業体で、次の条件を満たす者として、まず１点目が、熊本県内に建設業法に基づき配置された本店を有すること。２点目が、平成２３、２４年度入札参加資格審査申請書を菊池市に提出し、申請業種である管工事で入札参加有資格者名簿に搭載されている者。３点目が、建設業法第１５条による特定建設業の許可を有すること。４点目が、管工事の経営審査点数Ｐ点が８００点以上という設定を行いました。

次に、共同企業体の代表者、親が満たす条件としては、構成員のうち中心的役割を担う者で、その出資割合が７０％以内であり、構成員中最大であること。次に共同企業体の構成員、子が満たす条件としては、その出資比率が３０％以上であることを条件付けています。

それと、最低制限価格でございますけども、まず議案第７９号の建築工事の分でございますけども、２億3，１２０万2，１２５円です。失礼しました。それと参加業者でございますけども、まず１社目が、吉安・緒方特定建設工事共同企業体。それと２社目が、八方・三牧建設工事共同企業体。それと３社目が、三和・生田建設工事共同企業体でございます。

それと、議案第８０号でございます。こちらは管工事のほうでございますけど

も、最低制限価格は、１億４，８９５万９３２円でございます。業者が９社でございます。まず１社が、上田・協電建設工事共同企業体。２社目が、新星・熊本大電建設工事共同企業体。３社目が、熊電・東栄建設工事共同企業体。４社目が、誠工・コゥテック建設工事共同企業体。５社目が、旭・中央建設工事共同企業体。６社目が、熊本利水・清水電気建設工事共同企業体。７社目がダンレイ・八丁建設工事共同企業体。８社目が熊設・飯塚建設工事共同企業体。９社目が公栄・三和建設工事共同企業体でございます。

以上、お答えいたします。

（「予定価格は」と呼ぶ者あり）

○総務企画部長（野口祐成君）　失礼しました。まず、議案第７９号の建築工事のほうでございますけども、２億７，２００万２，５００円でございます。それと議案第８０号の管工事でございます。予定価格が、１億９，８８２万２，７５０円でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　追加議案の７９号、８０号セットになっておりますので同じように質問いたします。子どもたちの全人教育のために、五感に働きかけるべき食育の願いを考えるときに、食の大型化、つまり二千食を一度に作るという共同調理場の大型化については、前市政においても複数の議員の方々がたびたび様々な角度から問題提起がされてきましたが、それらはクリアされたでしょうか。一つの質問です。

○議長（山瀬義也君）　議案の範囲内で答弁してください。答弁者は。

（雑談あり）

○議長（山瀬義也君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後４時１２分

開議　午後４時１６分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　私のただ今の発言については、質疑の範疇を超えるとみずから判断されるところもありますので、あとは委員会において審査をしたいと思

います。よろしくお願いします。

○議長（山瀬義也君）　他に質疑はありませんか。

森隆博君

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　議案の７９号、８０号の工事場所、これの明確性というとが、ただ隈府地内だけでいいのですか。できるなら明確に場所を指示するべきじゃないかと思います。

（雑談あり）

○議長（山瀬義也君）　総務企画部長、野口祐成君。

ちょっと静かに。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　森隆博議員のご質問にお答えいたします。工事場所ですけども、全ての入札関係ですけど、菊池市この隈府地内ということでやっているところでございます。場所で言いますと、隈府小学校の敷地内でございますけども、表示としては隈府地内という、そういう表現を行っております。

以上、お答えいたします。

（「場所ば動かんとよございます」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　他に、質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで質疑を終わります。

次に、委員会付託を行います。議案第７９号及び議案第８０号は、総務文教常任委員会に付託します。

平成２５年　第２回菊池市議会定例会追加議案付託表

付託委員会	議 案 番 号	件　　名
総 務 文 教 常任委員会	議案第７９号	工事請負契約の締結について（平成２４年度菊池地区学校給食共同調理場建設（建築）工事
	議案第８０号	工事請負契約の締結について（平成２４年度菊池地区学校給食共同調理場建設（管）工事

○議長（山瀬義也君）　以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

次の会議は、６月２４日の午前１０時から開き、議案等の採決を行います。

本日はこれにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

散会　午後４時２０分

第　６　号

６ 月 ２４ 日

平成２５年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第６号

平成２５年６月２４日（月曜日）午前１０時開議

第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決
第２　議事第５号　選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙
第３　議案第８１号　副市長の選任につき同意を求めることについて
　上程・説明・質疑・討論・採決
第４　議案第８２号　教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて
　　議案第８３号　教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて
　　議案第８４号　教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて
　まで一括上程・説明・質疑・討論・採決
第５　議案第８５号　監査委員の選任につき同意を求めることについて
　上程・説明・質疑・討論・採決
第６　議案第８６号　公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて
　上程・説明・質疑・討論・採決
第７　議案第８７号　固定資産評価員の選任につき同意を求めることについて
　上程・説明・質疑・討論・採決
第８　議案第８８号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
　上程・説明・質疑・討論・採決
第９　報告第１１号　菊池市土地開発公社経営状況報告について
　　報告第１２号　有限会社きくち観光物産館経営状況報告について
　　報告第１３号　有限会社ファームきくち経営状況報告について
　　報告第１４号　有限会社七城町特産品センター経営状況報告について
　　報告第１５号　有限会社七城町振興公社経営状況報告について
　　報告第１６号　有限会社七城町銘柄米センター経営状況報告について
　　報告第１７号　有限会社旭志村ふれあいセンター経営状況報告について
　　報告第１８号　有限会社有朋の里泗水経営状況報告について
　まで一括上程・報告
第１０　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

―――――――――――――――○―――――――――――――――

追加議事日程（第６号の追加１）

第１　議員提出議案第２号　菊池市議会議員の報酬の特例に関する条例の制定について
　上程・説明・質疑・討論・採決
第２　意見書案第２号　環太平洋戦略的経済連携協定（ＴＰＰ）交渉参加の撤回を求める意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決
第３　報告第１９号　専決処分の報告について（公用車車両事故）
　上程・報告・質疑

―――――――――――――――○―――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第　１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決
日程第　２　議案第　５号　選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙
日程第　３　議案第８１号　副市長の選任につき同意を求めることについて
　上程・説明・質疑・討論・採決
日程第　４　議案第８２号　教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて
　　議案第８３号　教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて
　　議案第８４号　教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて
　まで一括上程・説明・質疑・討論・採決
日程第　５　議案第８５号　監査委員の選任につき同意を求めることについて
　上程・説明・質疑・討論・採決
日程第　６　議案第８６号　公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて
　上程・説明・質疑・討論・採決
日程第　７　議案第８７号　固定資産評価員の選任につき同意を求めることについて
　上程・説明・質疑・討論・採決
日程第　８　議案第８８号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
　上程・説明・質疑・討論・採決
日程第　９　報告第１１号　菊池市土地開発公社経営状況報告について
　　報告第１２号　有限会社きくち観光物産館経営状況報告について
　　報告第１３号　有限会社ファームきくち経営状況報告について
　　報告第１４号　有限会社七城町特産品センター経営状況報告について
　　報告第１５号　有限会社七城町振興公社経営状況報告について
　　報告第１６号　有限会社七城町銘柄米センター経営状況報告について
　　報告第１７号　有限会社旭志村ふれあいセンター経営状況報告について
　　報告第１８号　有限会社有朋の里泗水経営状況報告について

まで一括上程・報告

日程第１０　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

出席議員（２３名）

１番	荒木崇之	君
２番	柁原賢一	君
３番	工藤圭一郎	君
４番	城　典臣	君
５番	大賀慶一	君
６番	岡﨑俊裕	君
７番	水上彰澄	君
８番	東　英俊	君
９番	東　裕人	君
１０番	泉田栄一朗	君
１１番	森　清孝	君
１２番	中原　繁	君
１３番	樋口正博	君
１４番	中山繁雄	君
１５番	怒留湯健蓉	さん
１６番	坂本昭信	君
１７番	隈部忠宗	君
１８番	葛原勇次郎	君
１９番	木下雄二	君
２０番	坂井正次	君
２１番	森　隆博	君
２２番	山瀬義也	君
２３番	境　和則	君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（０名）

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江頭　実	君
副市長	永田明紘	君
総務企画部長	野口祐成	君

市民環境部長	下田俊一君
健康福祉部長	宮本誠一君
経済部長	平野國臣君
建設部長	松野浩一君
総務企画部統括審議員	西浦一義君
七城総合支所長	岩下利昭君
旭志総合支所長	水上菊也君
泗水総合支所長	松岡千利君
財政課長	小川秀臣君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	伊藤道俊君
市長公室長	倉原良則君
教育長	倉原久義君
教育部長	中村鉄男君
農業委員会事務局長	松永隆則君
水道局長	原和徳君
監査事務局長	宮村公男君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

事務局職員出席者

事務局長	城主一君
議事課長	宮川啓子さん
総務審議員	徳永裕治君

○議長（山瀬義也君）　全員、起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

午前１０時００　開議

○議長（山瀬義也君）　ただいまより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決

○議長（山瀬義也君）　日程に従いまして、日程第１、去る６月１０日及び１４日の会議において、各常任委員会に審査を付託しました議案第５８号から議案第８０号までについて各常任委員長から審査結果の報告があっておりますので、これを一括して議題とします。

ただいまから各常任委員会における審査の経過及び結果について、各常任委員長の報告を求めます。

最初に、総務文教常任委員長、東英俊君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（東　英俊君）　おはようございます。総務文教常任委員会に付託されました案件について、委員会における審査の経過並びに結果についてご報告いたします。

去る、６月１４日に本委員会に付託されました案件は、条例案件７件、予算案件１件、財産譲渡案件１件、工事請負契約案件２件の１１案件であります。

まず、議案第５８号、菊池市長等の給与の特例に関する条例の制定について申し上げます。

本案は、国において、平成２４年度４月から平成２６年３月までの２年間、我が国の厳しい財政状況及び東日本大震災に対処する必要性に鑑み、一層の歳出削減が不可欠であることから、国家公務員の人件費を削減するため、「国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律」が施行され、内閣総理大臣はもとより、一般職の職員の給与を削減しており、また、地方公務員についても、その法律を踏まえて必要な給与の減額措置を講ずるよう、平成２５年１月２４日に閣議決定されたことを受け、本市の特別職の給料についても、これに準じた取り扱いをするために条例を制定するものであり、併せて、平成２３年に、職員の不祥事を受けて制定した「菊池市長等の給料の特例に関する条例」の廃止を行うものである、との説明を受

け、質疑を行いました。

質疑の主なものとして、本年７月１日から来年３月３１日までの、市長、副市長、教育長の減額の総額分は幾らかなのかとの質疑に対して、執行部より約１７８万円であるとの答弁がありました。

別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第５９号、菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について申し上げます。

本案の提案理由は、議案第５８号と同様であり、質疑を行いました。主なものとして、一般職と管理職の期間中の減額分の総額はとの質疑に対して、一般職４，３９０万円、管理職２７２万円で合計の４，６６２万円となる。

また、本会議で、市長は、否決してもペナルティーはないと言われたが、本当にそうなのかとの質疑に対して、ペナルティーはないとしているが、地方財政計画上の交付税算定措置に勘案され、歳入において減額されるとの答弁でありました。

また国が、給与相当分の交付税措置を行った場合、市民サービスに支障を来さないよう財源確保のための財政調整基金の取り崩しは可能かとの質疑に対して、それは可能であるとの答弁でありました。

反対討論として、この通達が国から要請があった後に、地方６団体は国に対して異議申し立てを行っていること、さらには、条例の中身の削減数値というよりは、基本的に地方分権の根幹にかかわる部分であり、人勧も通されていないこと、デフレからの脱却というものの道理に合わないこと、国と地方のラス指数の比較そのものに問題があることの理由で反対討論がありました。

採決の結果、一人の賛成者もなく、原案は否決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第６０号、菊池市総合計画策定条例の制定について申し上げます。

本案は、本市の総合的かつ計画的な市政の運営を図るため、市の総合計画を策定することに関し条例で定める必要があるとの説明を受け、質疑を行いました。主なものとして、社会情勢や時代の変化が速い中、基本構想は、また１０年間の構想でいくのかとの質疑に対して、地方自治法も改正されており、必ずしも１０年という考えはないとの答弁でありました。

別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第６１号、菊池市総合計画外部評価委員会条例の制定について申し上げます。

本案は、執行機関の付属機関として設置する委員会については、地方自治法第１

３８条の４第３項の規定により条例で定める必要があるとの説明があり、質疑を行いました。主なものとして、総合計画策定審議会委員と今回の外部評価委員会のメンバーが重複したがよいと判断する理由はとの質疑に対して、同じ審議をする上で、その問題点を共有・把握したうえで、新しい問題に入った方がよいと判断するとの答弁でありました。

また、民主党政権時の事業仕分けのようなものに感じるが、との質疑に対して、あの事業仕分けとは違って総合的に評価していってくれる評価委員会を目指している。その点では熊本市がうまくいっているので、そちらを参考にしながら進めていきたいとの答弁でありました。

別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第６２号　菊池市庁舎等整備市民検討委員会条例の制定について申し上げます。

本案は、議案第６１号同様、執行機関の付属機関として設置する委員会については、地方自治法第１３８条の４第３項の規定により条例で定める必要があるとの説明を受け、質疑を行いました。主なものとして、条文の第２条（所掌事務）の３項目が、委員に選ばれた市民が、また一からの見直しも可能だと捉える可能性もあるように感じるがとの質疑に、執行部より、基本構想・基本計画は議会の承認議決も得ているので振り出しに戻ることはなく、あくまでもその延長線上の機能性、合理性、無理・無駄の部分を限定した市民観点を聞いていくとの答弁がありました。

賛成討論として、委員会審議の中で懸念された条例案の所掌事務の部分、そして、この条例の目的も市長みずからの答弁できちんと確認をできた。

採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第６５号、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について申し上げます。

本案は、条例別表の公平委員会の項に識見委員を追加し、報酬を年額から日額へと改め、同別表に菊池市総合計画策定審議会委員、菊池市総合計画外部評価委員会委員及び菊池市庁舎等整備市民検討委員会委員を追加するため、条例の一部を改正する必要があるとの説明を受け、質疑を行いました。主な質疑として、それぞれの委員会の識見委員とは、どのような人を考えておられるのかとの質疑に対して、執行部より、公平委員会では、弁護士、総合計画策定審議会と総合計画外部評価委員会では、大学教授、庁舎等整備市民検討委員会では、建設・建築関係に詳しい専門家との答弁がありました。

別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決

定をいたしました。

次に、議案第６８号、菊池市立体育館条例及び菊池市営グラウンド条例の一部を改正する条例の制定について申し上げます。

本案は、菊池市立小学校の一部統廃合に伴い、河原体育館、迫水体育館、龍門体育館、河原グラウンド、迫水グラウンド及び龍門グラウンドを社会体育施設へと移管したため、条例の一部を改正する必要があるとの説明がありました。

別段、質疑、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第６９号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）について、付託分について申し上げます。

今回の補正で、人件費については、４月１日の人事異動に伴い調整を行ったものであるとの説明でありました。

歳出について、特に主なものとしては、企画費の委託料２，１３５万７，０００円で、１、総合計画策定業務委託料５１０万３，０００円は、２５年、２６年度の２カ年間にかけての策定業務を行うため本年度分を計上している。

２、市民広場再整備事業委託料７５８万１，０００円は、基本構想、基本計画（案）については、精査中であるが新たに施設の採算性、交通量など民間導入の可能性等を調査するものである。

３番目、きくち夢・元気づくり戦略委託料５００万円と旅費の１９２万円内の１７０万円、報償費の３０万円については、市長の戦略的施策に使用、臨時的なものに対応したい。施政方針にあったように癒しの里づくりの中の「森の中のまちづくり」「さくらの里」「ホタル王国」等の調査等の旅費が主なものである。

４番目の都市再生整備計画策定業務委託料３６７万３，０００円は、社会資本整備の中で、経済対策の一環になるイノベーション事業（補助率５０％）の要件である図書館等が該当するようなので、今年度申請を行うためのまちづくり計画の委託事業であるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、1 点目、市民広場再整備の計画はあるのか。２点目、市民広場の入り口・民地・体育館、県施設等の全体的な活用を考慮し、能場や将軍木等の面で捉えるべきではないか。３点目、４つの委託業務が提案されてはいるが、説明を聞いていると各々が独立しているように感じ、一貫性（いわゆる菊池市全市的な捉え方）ではないように感じられる。点と点で終わってしまい、それがつながらない方が無駄だと感じるが、できれば上がってきた案に対して職員の意見の場を確保していくべきと思うが、との質疑に対して、現在、市民広場基本計画（案）を策定し、その計画の中では、温泉施設、飲食施設、物産館の要望があったので、専門家による調

査を行い市民広場で採算性が取れるのかどうか、また交通量の調査も行い、実現性について検討していきたい。

また、市民広場構想で点と点ではなく面で捉えることは重要と思う。その場所を起爆剤にし、市民の集いの場になるよう検討したい。

また、本市の将来の構想、基本コンセプトを伝え、設計を依頼することが大事だと感じている。責任者がイメージを伝え節目、節目に庁内で点検をし伝えていくことが重要だと考えている、との答弁がありました。

別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第７８号、財産の譲渡について申し上げます。

本案は、小学校跡地の活用にあたり、地域経済の発展に資するため財産を譲渡することについて、地方自治法第９６条第１項第６号の規定により、議会の議決を求める必要があるとの説明があり、質疑を行いました。

委員より、評価額を下げてでも財産を譲渡する理由は、との質疑に対して執行部より、当初、市は５，２００万円を提示をし、業者側からは３，０００万円の申し出だったが、協議の結果３，６００万円に落ち着いた。約１，６００万円の減額とはなったが、将来的な市のＰＲと地元の活性化につながると判断をした、との答弁がありました。

別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第７９号、工事請負契約の締結について（平成２４年度菊池地区学校給食共同調理場建設（建築）工事）について申し上げます。

本案は、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得、または処分に関する条例第２条の規定により、議会の議決を経る必要があるとの説明を受けました。

特に質疑はなく、反対討論として、アレルギー体質の子どもへの特別食に対する除去の対応等がクリアされているとは思えないこと、また、もともと調理場の集約、大型化には反対であった、との反対討論がありました。

採決の結果、賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第８０号、工事請負契約の締結について（平成２４年度菊池地区学校給食共同調理場建設（管）工事）について申し上げます。

本案も、議案第７９号と同様の提案理由であります。

これに関しても議案第７９号と同じ反対討論がありました。

採決の結果、賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

以上、本委員会に付託されました案件の審査の経過及び結果の報告といたします。

議員各位におかれましては、速やかにご賛同を賜りますようお願いを申し上げ、総務文教常任委員長の報告といたします。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　次に、福祉厚生常任委員長、葛原勇次郎君。

［登壇］

○福祉厚生常任委員長（葛原勇次郎君）　おはようございます。福祉厚生常任委員会委員長報告を行います。

本定例会において福祉厚生常任委員会に付託されました議案は、条例１件・予算案件３件であります。現地調査を踏まえ、２日間慎重審議を行いましたので、その経過と結果を報告いたします。

議案第６６号、菊池市ひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定については、改正の理由として、国の児童扶養手当法施行令の改正に伴い、本市条例の一部を改正するものであるとの説明でありました。内容については、父または母が配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の規定による保護命令を受けた児童を支給対象に加えるための条例改正であります。

委員より、今回保護命令を受けた児童が新たに加わるが、これまではどう対応していたのかとの質疑に、執行部より、これまではＤＶ防止法に基づく保護命令に関する医療費についてはこれといった策はなかった。今回の児童虐待防止法の対象者については、子ども医療費助成制度がありますので、そちらから受けるようになっていましたとの答弁がありました。

委員より、その要件に該当する児童はどれだけいるのかという質疑に、執行部より、ＤＶの保護命令による児童扶養手当を支給した例はないとの答弁でありました。

次に、議案第６９号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）中付託分について、その主なものを申し上げます。

安全対策費の中の工事請負費１，２３２万円については、道路区画線、カーブミラー、ガードレール設置事業であるとの説明を受け、質疑を行いました。区長さんからの要望が上がっている交通安全施設整備の達成率はどのくらいかとの質疑に、執行部より概ね９０％は整備できている。危険な箇所から順番に整備しているとの答弁でありました。

次に、防災管理費の中の工事請負費１０億３，１５８万３，０００円については、現在のアナログ放送をデジタル化にする事業で、合併前設置していた機種が異なっているため、緊急時の放送ができない状態であるので統一化をし、市内全域で同時に放送できるよう整備する。まだ使える施設設備については使っていくとの説明でありました。

委員より、現在、泗水地域と一部の地域に設置している戸別受信機を市内全域に設置するようにできないか。また、市内全域に設置しないと地域格差になる。費用をかけてでも戸別受信機を設置してほしいとの質疑に、執行部より、戸別受信機を市内全域に整備するとなると多額の費用が必要となる。どの整備の方法が適しているか、今後十分検討していきたいとの答弁がありました。

委員より、合併特例債は使えないのかとの質疑に、執行部より現在計画している緊急防災・減災事業債が最も有利な起債であるとの説明でありました。

委員会からの要望といたしまして、災害時に正確に、いち早く対応できる施設整備が必要である。整備に係る費用はかかってでも、また、戸別から多少の負担をいただいてでも、戸別受信機の設置を強く要望いたしました。

次に、環境衛生総務費の中の負担金補助及び交付金１，１２５万円は太陽光発電施設設置補助金であり、今回７５件分の補助金であるとの説明でありました。

委員より、今回の補正額で１年分の対応はできるのかという質疑に、執行部より申請が多くなった場合は補正でお願いをしたい。全世帯の１割を目標にしているとの答弁がありました。

委員より、業者が空いている遊休地に太陽光発電施設を設置しているが、把握しているのか。山を切り開けば環境も変わるので心配しているとの質疑に、執行部より把握していないので調べたいとの答弁がありました。

次に、生活保護総務費の中の委託料１３２万８，０００円は生活保護の補助基準見直しに伴う電算委託料であるとの説明がありました。

委員より、今回の補助基準見直しの内容を説明してほしいとの質疑に、平成２５年度から平成２７年度まで３回に分けて基準を減額する。１度に減額すると不都合が生じるので段階的に行うとの答弁がありました。

委員より、この見直しで減額されて、本当に困っている方を見極めて行ってほしいとの意見に、難しい部分だが、菊池圏域のモデル事業で生活困窮者対策を行うようにしている。その方にあった就労先を見つける、またはボランティア活動や清掃活動等の事業を進めたいとの答弁でありました。

委員より、福祉課に異動になった職員が相当苦労されている。職員同士でカバーして過去の業務を整理して、正常な状態にできないかとの質疑に、執行部より生活保護に係わる職員が苦労されていることは承知している。本年度は２名職員を増員している。いろんな角度から検討したいとの答弁がありました。

委員より、今の職員の状況を是非改善してほしいとの要望がありました。

委員より、市が行っている業務のうち、生活困窮者に回すことはできないかとの質疑に、執行部より、嘱託職員の募集があったら紹介している。公園管理等は業者

に委託しているので難しいところであるとの答弁がありました。

また委員より、今回の制度見直しで生活保護費が減額されていくので、職員が巡回する中で実態をつかんでいかれるので、減額されるまでの間に受給者にどう対応していくのかを考えなくてはならない。アルバイトや再就職を希望されている方がどれだけいるか疑問であるとの意見がありました。執行部より生活保護を受給されていて、就労されている方は何人もおられる。就労認定してお金が手元に残るので全てが収入認定ではないとの答弁がありました。

今定例会でも、生活保護受給関係の一般質問が多く出され、議員のこの問題に対する関心も高く、執行部から詳しい答弁があったところであります。

次に、児童福祉総務費の中の報償費７５０万円は第３子以降の子どもを養育する場合に支給される、すくすく子宝祝い金の追加分７５件、１件１０万円であるとの説明がありました。

委員より、現在は口座振込みになっているが、市長が直接手渡しして、写真を撮り、市のホームページやきくち広報に掲載すれば市のアピールになるのではないかとの意見に、執行部より対象者が１００件以上になるので可能であれば応えたいとの答弁がありました。

次に、児童福祉施設費の中の工事請負費８，２５６万１，０００円は、老朽化している菊之池保育園の改修工事費であり、主な工事内容としては、園舎内、外装改修、外こう工事、園舎増築工事で、財源は合併特例債と一般財源で行うという説明がありました。近年入園する園児も増加しているとのことでした。

委員より、今まで備品等については、長年辛抱して使用してきたとの説明でありましたが、公立保育園の施設整備については、もう少し目配りが必要ではないかとの質疑に、執行部より、今回、現場を確認したら根本的に改修する時期と考え、大規模改修をすることにしたとの説明がありました。

同じく、児童福祉施設費の中の負担金補助及び交付金のうち３，９３３万９，０００円は、保育士等処遇改善について、保育士の人材確保の一環で改善に取り組む民間保育所に対して、保育所運営費とは別に交付される補助金であるとの説明でありました。同じ項目の中の８，５７２万５，０００円は保育所施設整備補助金であり、旭志の北合志保育園園舎改修であるとの説明があり、委員より、保育園の施設台帳等はあるのか、管理しているのかとの質疑に、執行部より、保育園の整備については年次計画で把握している。順次整備して行っていきたいとの答弁がありました。

次に、議案第７０号、平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第１号）及び議案第７６号、平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）については、職員の人事異動に伴う人件費の補正であります。質疑はあ

りませんでした。

審査の結果、全議案とも討論もなく、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上、本委員会に付託されました案件の審議の経過と結果についてご報告をいたします。議員各位におかれましては、速やかにご賛同賜りますようお願い申し上げまして、委員長報告といたします。

終わります。

○議長（山瀬義也君）　次に、経済建設常任委員長、泉田栄一朗君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（泉田栄一朗君）　あらためまして、おはようございます。ただいまから委員長報告をさせていただきます。

経済建設常任委員会に付託されました案件は、条例３件、予算案７件でございます。現地調査も踏まえ慎重に審議いたしましたので、委員会における審査の経過及び結果についてご報告をさせていただきます。

議案第６３号、菊池市特定用途制限地域における建築物等の制限に関する条例の制定については、都市計画特定用途制限地域において、住環境を特に乱すおそれのある特定の建築物等を制限し、良好な環境の形成及び保持のため条例制定するものとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、風俗に関するものを規制するということで、居住環境保全地区にはカラオケボックスも規制してあり、騒音への配慮かもしれないが、今のカラオケボックスはそんなにうるさいわけではなく、逆に住民からするとカラオケボックスのひとつでもあれば憩いの場にもなるのではという質疑に対し、執行部より、その辺が非常に難しく、開発する側と住居を構える方々とに気持ちの違いがあり、今回は豊かな住環境を保つために規制するものとの答弁がありました。

また、委員より、今後考えられるのが、第一種住居地域に変更した場合の周りの迷惑施設の対応と、幹線道路沿いの賑わいを持たせないといけない部分とがあり、充分考えて進めてほしいとの意見がありました。

次に、議案第６４号、菊池市行政、文化、教育拠点特別用途地区建築条例の制定については、都市計画特別用途地区の行政、文化、教育関連施設について、建築物の建築の制限緩和及びその敷地または構造に関して制限し、周辺住環境への配慮を図りながら今後の機能充実を図るため条例を制定するものとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、周辺住宅地に迷惑はかからないのかという質疑に対し、執行部より、新たに行政文化施設が必要となった場合は、その周辺に影響はないことはない。し

かし、住民説明会も行っており、反対意見はなかったとの答弁がございました。

また、執行部より、第一種中高層から第二種に用途を変えたことで、庁舎関係は不適格から適格になるが、まだ不適格となっている文化会館や屋外のプールの観覧場があり、また、県の建築審査会を通って建設は可能である学校給食調理場が不適格になるため、これを緩和するものとの補足説明がありました。

次に、議案第６７号、菊池市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例の制定については、大規模集客施設の立地規制について近隣商業地域と商業地域にも広げるため条例改正するもので、これにより都市計画区域内は全域制限を受けることになるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第６９号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）中付託分について、その主なものを申し上げます。

農業費において、委員より、工事請負費の旭志ふれあいセンターのイベントホール調理設備設置工事についての内容をとの質疑に対し、執行部より、旭志ふれあいセンターの横にイベントホールがあり、毎月料理教室やイベントが開催されているが、水道もガスもなかったので、今まで携帯用のカセットコンロを使って調理をされていて、安全面や衛生面でも指摘されていたため、水道とガスコンロの設置工事をするものとの答弁がありました。

さらに、料理教室の開催ということであるが、市長は施政方針でも農産品を言われている中で、多くの議員からも生ものだけでなく二次加工品が売れることで一番付加価値が高まると言われているが、公の二次加工施設がないので、できれば今後その拠点づくりを積極的に考えてほしいとの要望がありました。

ブランド推進費において、これまで地域ブランド推進協議会で行ってきたものを今年度から人員を変更し、ブランドづくり実行委員会ということで第三セクターの実際販売をされるところの物産館等を会員に入れて進めるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、年々予算は増えているが、菊池のブランドを売り込むにはＪＡや農家と連携をして取り組むことも必要ではないか。目標を持ってやってほしいとの意見がありました。

委員より、インターネットショップ構築事業委託料についてはだれが管理をして運営していくのか。職員なのか、外注なのかとの質疑に対し、執行部より、他の自治体やネットショップ関係での全国での事例の調査検討を行いたいとの答弁がありました。

また、委員より、農業者の方々がいろんなものを一所懸命作られて出荷される。ただ最終的にはその物の判断を下すのは消費者だから、その観点を忘れてしまうと

簡単に物は動かない。バイヤーなどの第三者的な目にさらされることによって、厳しい基準に勝ち抜いたブランドが生まれると思うので、そこは留意してほしいとの意見がありました。

都市計画費について、緊急輸送道路沿道建築物耐震改修等補助金６００万円は、国が３分の１、市が３分の１、申請者が３分の１ということで補助の限度額を１２０万円として５件分計上している。建築物が危ない状況である場合には、耐震改修を勧めて緊急輸送道路の確保に努めるものとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、緊急輸送道路とはどこなのかとの質疑に対し、執行部より、まず、主なものは国道があるが、菊池市にとっては山間部においても主要となる道路があり、陸の孤島にならないように市で独自に計画しているものがあるとの答弁がありました。

公園費において、委員より、来年のさくらシンポジウムに向けての菊池公園整備事業について、現在ソメイヨシノが主であるが、いろんな種類のさくらをゾーン分けして植えることによって１カ月、２カ月楽しめるようなさくら整備を考えてあるかとの質疑に対し、執行部より、公園の長寿命化計画の中でワークショップも行われ検討がなされており、基本はそれをメインと考えていくが、樹木の種類まで含めた図面を作成しており、ソメイヨシノ以外にも種類が点在しているので、今後は計画的に進めていきたいとの答弁がありました。

また、委員より、鴨川公園改修事業の大型遊具で２，５００万円というものは相当な金額だが、そんなにかかるのかとの質疑があり、執行部より、金額が大きいため慎重に調べたが、二次製品であり安全性や機能性を研究されており、定価も高い。入札にはなるがこの金額で計上しているとの答弁がありました。

次に、議案第７１号、平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号)、議案第７２号、平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第１号)、議案第７３号、平成２５年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号)、議案第７４号、平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号)、議案第７５号、平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）ですが、そのほとんどが人事異動に伴う人件費と共済組合負担率の変更であるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第７７号、平成２５年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）について、委員より、債務負担行為の水道事業業務委託で平成２６年度から３０年度まで計上してあるが、年間金額は平成２０年度から外部委託してあったものと比べると上がっているのではないかとの質疑に対し、執行部より、水道の使用者数が増えていることによる事務量の増の分と過去の金額はプロポーザル方式での落札金額で

あるが、実際の設計としては年間５，０００万円近くになること、さらに来年度消費税の引き上げも予定されているためとの答弁がありました。

また、委員より、プロポーザル方式でしているということだが、ある程度は基準を示して、節約できる部分は節約できるよう考えてほしいとの意見がありました。

以上、慎重審議しました結果、当委員会に付託されました議案第７７号を除く議案第６３号、議案第６４号、議案第６７号、議案第６９号及び議案第７１号から議案第７５号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

また、討論のあった議案第７７号について申し上げます。

議案第７７号、平成２５年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）については、第５条債務負担行為で水道事業業務委託の平成２６年度から３０年度までの限度額２億５，０００万円については、２０年度から２２年度までの３年間の債務負担、２３年度から２５年度までの３年間の債務負担の金額からすると増額ということで、これには納得できないので反対するとの反対討論がありました。

採決の結果、賛成多数により可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、本委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、経済建設常任委員長の報告を終わらせていただきます。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　以上で、各委員長報告を終わります。

ただいまの各常任委員長の報告に対し、質疑を行います。質疑はありませんか。

森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　総務文教常任委員長の報告に対しまして、ちょっと質疑をしたいと思いますが、議案の第５９号、５８号も関連しておりますが、この中で公務員の給与削減に伴います交付税の減額、菊池市の減額分、また、その減額に伴います住民サービス等についての影響等についての審議があったのか、なかったのかを第１回目の質疑といたします。

○議長（山瀬義也君）　総務文教常任委員長、東英俊君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（東　英俊君）　森議員の質疑にお答えしたいと思います。

議案第５９号の市のペナルティーはないとしたところでの地方交付税の減額措置というところで、市民サービスが低下するのではというところは委員会で議論をされたのかというところであったかと思いますけれども、議論はされました。

（「それともう１点、交付税の削減額。菊池市が削減される分です」と呼ぶ者あり）

○総務文教常任委員長（東　英俊君）　その明確な数字は答弁はされておりません、執行部より。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　交付税の削減額は審議されなかったということで、委員長報告の中には一般職の４，３９０万円ほどが減額という報告でありましたが、この条例の中にありますように、給与の削減に伴いましては今まで交付税の削減不足分は臨債というようなことで、臨時財政対策債というのを充てて今日までやってきておるわけでありまして、さほどの影響はないというふうなそういった審議もなかったのかなと、これをもう一度よかったら聞かせていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　総務文教常任委員長、東英俊君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（東　英俊君）　森議員の再質問にお答えします。

話し合いはありました。委員長の報告の中でもしましたように、市民サービスにおける財源の不足分というものも、今までは臨財債という部分もあったんでしょうけども、財調のほうからの取り崩しも可能であるというところの答弁を受けたというところの委員さん方の判断だということでご認識をいただきたいというふうに思います。

○議長（山瀬義也君）　ほかに質疑はありませんか。

森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　総務文教委員長の東君にお尋ねをいたします。

今、森議員のほうからもありましたけれども、この議案第５９号でございますけれども、職員給与削減について、この審議の中で東日本災害の復興の財源にするというふうな建前でございますけれども、本市より今現在も復興のために職員を派遣しておるという話を聞いておりますが、そのようなことも説明なり質疑があったかどうか一つ。いま一つ５８号との関連でありますけれども、同じ趣旨で市の三役の給与は引き下げ可決されておりますけれども、それとの関連で整合性がないんではないかというようなお話し合いはあったのかなかったのか、この二つをお尋ねいたします。

○議長（山瀬義也君）　総務文教常任委員長、東英俊君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（東　英俊君）　森清孝議員の質疑にお答えをしたいと思います。

東日本復興の財源措置というところで、この本市より職員派遣をしておるというような質問はあったかどうかというところでありますが、派遣職員の有無に関しては質問はあってはおりません。ただ、本市としては、３月１１日に東日本大震災が発生した直後に、本市から５，０００万円の義援金を送っておるというようなところも勘案すべきではないか、というような意見はあったというところはまずご報告いたします。

それとあと議案第５８号の市長等の給与というところの整合性というところで議論はあったかということでございますけれども、議論は委員会の中では特別、委員会の中ではありませんでしたけれども、委員会の協議会の中では市長みずからですね、この議案というものは提出権がございまして、その提出権を市長みずから下げてくれというところだとなれば、それはまた話は違うんじゃないかと、要するにその整合性というところとは関連はしないんではないかなというふうに捉えたというところで、ご認識をいただきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　ほかに質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで質疑を終わります。

これから、委員長報告が否決であります議案第５９号、菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定についてを除き討論を行います。

東裕人君。

まずは、議案第５８号及び議案第６０号から議案第８０号までについての討論でありますので、よろしゅうございますね。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　では５９号を除いて、議案第５８号、第６９号、第７８号について反対討論を行います。

まず、議案第５８号、菊池市長等の給与の特例に関する条例の制定についてです。

これはお話がありましたが、国家公務員給与の削減分と同様の削減を前提に、地方交付税を削減することを国が押しつけたものに対応する条例であり、その意味で後ほど議論されるであろう議案第５９号の地方公務員給与削減と、いわばセットの議案であります。

委員長報告でも提案理由は５８、５９と同じと言われていたように、これは一体として捉える必要があると思います。そのうち５８号ですが、地方交付税削減を国が決めて、地方に給与削減を迫るという過去に例を見ないやり方に対し、地方六団

体からは地方自治の根幹に関わる問題、断じて行うべきではない、決して容認できないとの反対の声が一斉にあがっています。

また、総務大臣は国会審議で繰り返し、強制ではない、ペナルティーは考えていないと答弁しているものであります。このような過去に例のない地方自治への重大な介入に応じるべきではありません。地方六団体の言葉を借りれば、自治体が自主的に決める公務員給与への国の介入は、自治の根本に抵触する。地方交付税は地方固有の財源であり、国が政策誘導に利用することは許されない。まさにそのとおりであり、私はこの立場からこの議案に反対をします。

次に、議案第６９号、平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）についてです。

補正予算では、歳出の問題も幾つかありますが、今回は歳入の問題、水源小学校の土地建物の売却収入の問題をあえて討論とします。

水源小学校の土地、建物の売却価格が適正か。これは質疑で聞き、後で述べる議案第７８号でも質疑で疑問を呈しました。その疑問は、先ほどの委員長報告でも解消されるには至りませんでした。この土地、建物の売却価格の算出の問題に疑義があります。例えば、建物の件については、議会にはあたかも撤去費用が直ちに発生するかのように説明し、撤去するかどうかわからない費用を差し引いたところで算出をする。しかも台帳に載っていないプールの差引額は丸々値引き分となっているのであります。市の公有財産をこのようなやり方で値引きをして売却する、私はこれは適正な歳入の計上ではないと考えますので、これをあげて反対としたいと思います。

次に議案第７８号、財産の譲渡についてです。

これも水源小学校を企業に売るための議案であり、今述べた補正予算の歳入といわばセットになっているものであります。土地については、企業が要らないという土地の評価額を全体の評価額から差し引いて売る。しかも説明では原野法面と言いながら、実際グラウンドも一部含めたところの土地、それを差し引く。結局、値引きするために便宜上里道で分けて企業にとって有用・不用としただけにすぎないのであります。そして、全体の評価額から値引き分の土地の評価額を差し引くというのは、私は公有財産の処分のあり方として適正ではないと考えています。仮に企業にとって有用・不用という分け方に固執するなら、値引きではなく企業が要らない土地をただであげる無償譲渡の議案があるべきであります。ところが、差し引き計上されていると、これでは認められません。

さらに財産の処分の議決の前提である譲渡の必要性、妥当性についての審査・議論もこれまで行われていません。議会には、跡地利用については４月以降と説明し

ながら、実際は全て水面下で進め、議決だけ求める。それを認めろというのは、私たちに追認しろと言っているようなものであり、私は受け入れられません。

以上、今回の議案は公有財産の処分のあり方、やり方からも評価額、売却価格の算出の方法と、その結果からも、そして議会への提案の経過からも私は認めるわけにはいかないので反対をします。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　ただいま議案第５８号、議案第６９号、議案第７８号に対する反対討論がありましたので、まず議案第５８号に対する討論を行います。

議案第５８号に対する賛成者の発言を許します。ありませんか。

議案第５８号について、ほかに討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで議案第５８号に対する討論を終わります。

次に、議案第６９号について反対討論がありましたので、議案第６９号に対する討論を行います。

議案第６９号に対する賛成者の発言を許します。

議案第６９号については、ほかに討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで議案第６９号に対する討論を終わります。

次に、議案第７８号について反対討論がありましたので、議案第７８号に対する討論を行います。

議案第７８号に対する賛成者の発言を許します。

議案第７８号について、ほかに討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで議案第７８号に対する討論を終わります。

ほかに討論はありませんか。

怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　私は、議案の第７９号と８０号に対して反対の立場で討論をいたします。

議案は工事請負の可否を問う議案ではありますけれども、これを発注するに至る過程における諸課題が解決されていないということをもって反対の理由といたします。

そもそも私は旧菊池市の自校別学校給食のシステムは、文教菊池の一つの柱として非常に評価が高いことをお伝えしてきました。また、特に国の食育基本法が制定

された以降は、食育のねらいをお伝えし、食の産業は別として、子どもたちの五感に働きかけ、命と魂をはぐくむべき学校給食の大型化は、教育的価値を著しく阻害する旨を述べてきたのみならず、財政状況に照らし、完全自校方式が今日困難ならば１点集中にせず、幾つかに分散することも提案してきました。これまで数回にわたり本議案にかかわる具体的な問題として、学童保育の存在へ十分な配慮を行わなかったこと、手づくりが減り半調理品が増えること、地域の納入業者の継続参入が保障されないこと、されていないこと、多岐にわたるアレルギー疾患への除去食等の対応が心配されること。また、搬送及び搬送途中の諸課題等々があることを指摘してきましたが、それらに対して当局の危機感は希薄で、当初から今日まで明確な改善が行われてきたという確認が得られていません。さらには昨年１２月の時点で、本年の４月

○議長（山瀬義也君）　怒留湯さん、討論は範囲内でお願いしたいと思います。

○１５番（怒留湯健蓉さん）　はい。そういうことでありますので、本年４月に市長がお代わりになることは周知上の事実でありましたが、それにもかかわらず３月議会骨格予算に追加して、この大型センター化の予算が計上されたこと。本来ならば新市長のもとで肉付け予算として考えられるべきであったことは、非常に経過として問題であると思われます。

以上のような理由により、私の反対の意思を表明いたします。

同じ議案８０号についても同じ理由によって反対の意見を表明いたします。

○議長（山瀬義也君）　ただいま議案第７９号、議案第８０号に対する反対討論がありましたので、まず議案第７９号に対する討論を行います。

議案第７９号に対する賛成者の発言を許します。

議案第７９号について、ほかに討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで議案第７９号に対する討論を終わります。

次に、議案第８０号について反対討論がありましたので、議案第８０号に対する討論を行います。

議案第８０号に対する賛成者の発言を許します。

議案第８０号について、ほかに討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで議案第８０号に対する討論を終わります。

ほかに討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで討論を終わります。

これより議案第５８号及び議案第６０号から議案第８０号までについてを採決します。

ただいま討論がありました議案第５８号、議案第６９号、議案７８号、議案第７９号、議案第８０号を除き一括採決します。

お諮りします。議案第６０号から議案第６８号まで及び議案第７０号から議案第７７号まで以上の１７案件については、各常任委員長の報告は原案のとおり可決であります。

各常任委員長の報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、以上１７案件については、各常任委員長の報告どおり可決することに決定しました。

次に、討論がありました議案第５８号、議案第６９号、議案第７８号、議案第７９号、議案第８０号について起立により採決します。

お諮りします。議案第５８号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立をお願いします。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立少数です。よって、議案第５８号は否決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第６９号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立をお願いします。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第６９号は可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第７８号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立をお願いします。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第７８号は可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第７９号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立をお願いします。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第７９号は可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第８０号について原案のとおり可決することに賛成の方は起立をお願いします。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第８０号は可決することに決定しました。

次に、総務文教常任委員長報告が否決の議案第５９号、菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について討論を行います。

討論はありませんか。

怒留湯健蓉さん。

まずは原案に賛成者の発言を許します。

森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　議案の第５９号の菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定でありますが、これについては賛成側から討論を行いたいと思います。

この議案説明のときから申し上げておりましたように、菊池市は特に２市２町で構成しております広域連合、そしてまた、環境保全組合、養生園組合と、そういった中で菊池市の関連する職員さんも働いておるわけでありますが、そういった中において、各合志、菊陽、大津はこの条例を認めておるわけでありまして、菊池市だけ認めないということになりますと、給料の格差というのも出てくるんじゃなかろうかと。やはり統合性、一体感を考えた場合に、やはりこの条例は認めるべきであるということで賛成の側から討論といたします。

○議長（山瀬義也君）　次に、反対者の発言を許します。

怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　私は、議案第５９号、菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定についてに対して反対の立場で討論をいたします。

本議案上程の経緯は、国家公務員給与の臨時削減、これは平均で７．８％となっていますが、これを地方公務員にも要請することを１月２４日に閣議決定をして、７月からの給与削減を前提とした地方交付税を削減する予算案を国会に提出されて、それが３月２２日の衆議院本会議で可決され、その後の２９日でしたか、参議院本会議で可決成立という流れになっています。

国家公務員の給与削減は、再三出ますように東日本大震災の復興財源とするため、政府との労使交渉で苦渋の決断として受け入れたものですが、このとき国家公務員と同様の引き下げを地方に強要することは考えていないとの閣議決定もされていま

す。そもそも国家公務員給与の臨時的削減措置は、先進諸外国には保障されていますが、我が国の公務員には保障されていない労働基本権を付与し、自立的労使関係を構築することが、その代替えの措置として約束されているものですが、それがまだ果たされていないばかりか、来年の３月できっちり元の給与体系に戻すかというと、これも絶対的な保障があるわけではないと言われています。

こういった背景において、国がやろうとしている今回の一方で地方交付税を削減し、他方で地方公務員の給与削減を要請するという行為は、事実上の強制にほかならず、極めて大きな問題を含んでいると考えます。

まず憲法第９２条は、地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基づいて法律でこれを定めるとしています。これが地方自治法の第４節等であると思われますが、さらに地方交付税第３条２項は、国は交付税の交付にあたっては、地方自治の本旨を尊重し、条件を付けたり、またその使途を制限してはならないとされています。

今回の閣議決定では、速やかに国に準じて必要な措置を講ずるよう要請すると「要請」としていますが、特に問題であるのは、その要請に地方交付税削減という手法を用いたことです。地方交付税は、先ほどの討論にもありましたように、自治体の固有かつ共通の財源であり、国の政策目的達成の手段として、その使い道を自治体に強要することは、国の政府と地方の政府は対等であるとうたった地方分権、地方自治の本旨に反するものです。

次に、地方公務員の給与労働条件というのは、人事委員会勧告を基本として、自治体労使の自主的な交渉、協議を経て条例規則等で定められることとなっています。今回の措置は、ラスパイレス指数という統計指数に、それを根拠として給与削減を一方的に自治体に要請するものですが、これは相互関係を積み上げてきたこれまでの労使自治の良好な関係を損なうものです。

また、ラスパイレス指数の比較にも問題があります。この場合、地方公務員は、１年目の係員からトップクラスの局長、部長級までが対象であるのに、国家公務員のほうは本省の課長クラスまでがその対象であって、その上の次官や局長、審議官等８００人を超えるといわれる本省、次長以上の幹部職員は比較対象となっていません。こういう仕組みであることからすれば、ラスパイレス指数が１００を超える地方があるのはむしろ当然であって、したがって、その比較方法の問題を抜きにしてラスパイレス指数を絶対視することは問題です。

次に、小泉政権の三位一体改革以降、この１０年で地方交付税は都道府県全体で約１．６兆円、市町村全体でも約１．６兆円削減されているといいます。本市も地方交付税が削減されるなか、集中改革プランや合併などを経て、職員数の削減や給与

カット、保育園や老人ホームの民間移譲等で人件費の削減には相当きつい思いをしてきました。これらのことを考えると、今回の国の要請は、これまでの本市の努力を全く評価しないものになってしまいます。

次に、国はデフレからの脱却として財界に対しては異例といえる賃金要請を行っていますが、国家公務員については、今議案のとおりであって、そこには大いなる矛盾が存在します。政府が最大かつ喫緊の課題としているデフレからの脱却は、個人消費が拡大しなければそれは無理であろうという見方は衆目の一致するところです。公務員給与を含む公的支出の削減は、公的部門からの受注の減少や公務員の消費活動の抑制にもつながり、民間消費や設備投資が減少し、景気の足を引っ張ることが考えられます。

また、公務員の給与を参考にして賃金を決定している民間も多く、公務員の給与が下がれば、これら民間給与にも影響を与えて、地域経済に対してマイナスの影響は避けられないと考えられます。

以上、主な理由ですが、これを述べて私の反対討論といたします。

○議長（山瀬義也君）　次に、賛成者の発言を許します。

荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　議案第５９号、菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について賛成討論いたします。

だれもが給与が減ることは嫌なことです。私も嫌です。しかし、自主財源が３０％ほどで、ほとんどを交付税に依存している財政状況の菊池市が、国の要請に従わないということは、例えるなら親の給料が減って大変なのに子どもが小遣いを減らすなと言ってるのと同じで、わがままと言われても仕方ありません。

また、本市は厳しい財政状況下において合併後一度も職員給与の自主的なカットはしておりません。過去には人事院勧告が右肩上がりの時代もあったわけです。３月にボーナスが出てたときも、１２月の差額が給与より多いときも、そんなよいときもあったわけです。よいときは国の方針に合わせ、都合が悪くなったら地域主権なんて言っていたら我が日本国は成り立ってきません。

以上のことから、議案第５９号の賛成理由といたします。

○議長（山瀬義也君）　ほかに討論はありませんか。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　反対討論、５９号について反対討論を行います。

先ほど５８号でも言いましたように、この５８号、５９号はセットであるという

のは先ほど述べました。そのときの討論と同じく、強制でもない、ペナルティーはない、地方が一斉に反対の声をあげている公務員の給与削減には応じるべきではないというふうに思います。

それから、災害支援、被災地復興という話もありましたが、この国の押しつけは、震災後ずっと昼夜分かたず復興・復旧に従事をしている被災地の公務員の給料もカットをするものであります。総務大臣は、そうしたことや、これまでの地方の行革の努力などと給与削減は別と、こういうことまで言って地方に給与削減を押し付けようとしている。私は、そういうことには応じるわけにはいきません。

それから、先ほど賛成討論でありましたが、自主財源が３割の中で給与削減に反対するのはわがままだ、どうのこうのという討論もありましたが、それは公務員といえども労働者であって、労働者の賃金や生計費その他を考えたときに、そういう議論を持ち出すのは私は少しちょっと乱暴ではないかなということも付け加えて、これは反対をしたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　ほかに討論はありませんか。

工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　議案第５９号に対して賛成の討論をしたいと思います。

反対の理由はいろいろ出てきますけど、私も賛成の立場で考えますと、市長をはじめ職員の皆さんも苦しいなか、この議案をですね、提案されております。私はその気持ちをですね、しっかり組んで、それをもって賛成したいという思いで賛成討論としたいと思います。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　ほかに討論はありませんか。

（「賛成でもよございますか」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　はい、どうぞ。森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　２つの考えのもとに賛成をいたします。

１つは、新しい江頭市長が初めての議会でございます。そういう中で、敵味方分かれて選挙を戦ったものでありますけれども、こういう提案をなされました。そして、みずからの給与もカットするということをまず出されて、職員給与削減案であります。市長当選のはなむけとしても通してあげたいと、こういうのが１つでございます。

あと１つは、やがて参議院選挙もあるわけでありますけれども、私は自由民主党候補を応援するつもりでございます。今まで国が国がというふうなお話もあったわ

けでありますけれども、国といえば今政権を担当しているのは自由民主党であります。それぞれ立場の違いによって考え方はあろうと思いますけれども、安倍さんも今、非常にご苦労なさっておりますから、その加勢の意味でも菊池市から４，６００万円という職員の皆さんの報酬を期限を決めて持ち出すということであれば、非常に力の一助になると、こういう点から賛成をいたします。

○議長（山瀬義也君）　ほかに討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで討論を終わります。

これより採決します。採決は起立によって行います。

議案第５９号、菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について、本案に対する委員長の報告は否決であります。したがって、可をはかる原則により原案について採決します。

議案第５９号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立をお願いします。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立少数です。よって、議案第５９号は否決することに決定しました。

ここで１０分間、暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１１時２９分

開議　午前１１時３７分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第２　選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第２、選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙を行います。

お諮りします。選挙の方法については、地方自治法第１１８条第２項の規定によって指名推選にしたいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、選挙の方法は指名推選で行うことに決定しました。

お諮りします。指名の方法については、議長が指名することにしたいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、議長が指名することに決定しました。

選挙管理委員には、堤慎一君、中村道夫君、森継義君、古閑昭二郎君を指名します。

お諮りします。ただいま指名しました方を選挙管理委員の当選人と定めることにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、ただいま指名しました堤慎一君、中村道夫君、森継義君、古閑昭二郎君、以上の方が選挙管理委員に当選されました。

次に、選挙管理委員補充員に、松岡義清君、西田俊一君、増田和典君、安武昭二君を指名します。

お諮りします。ただいま指名しました方は、選挙管理委員補充員の当選人と定めることにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、ただいま指名しました松岡義清君、西田俊一君、増田和典君、安武昭二君、以上の方が選挙管理委員補充員に当選されました。

次に、補充の順序についてお諮りします。

補充の順序は、ただいま指名しました順序によって行いたいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、補充の順序は、ただいま指名した順序に決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第３　議案第８１号　副市長の選任につき同意を求めることについて

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第３、議案第８１号を議題とします。

本案件について、地方自治法第１１７条の規定に係る議員は除斥する必要がありますが、第１１７条に関係する議員はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　皆さんおはようございます。

それでは、上程いただきました議案第８１号、副市長の選任につき同意を求めることについて、ご説明申し上げます。

追加議案書その２、第１ページをお開きください。

今月３０日をもちまして、永田明紘副市長の任期が満了するため、その後任の副市長につきまして、地方自治法第１６２条の規定に基づき選任いたしたく、議会の同意をお願いするものでございます。

ご承知のとおり、本市は解決すべき多くの課題を抱えております。これらに対応していくためには、市長を補佐する副市長の職務は大変重要であります。こうしたことから、人格・識見ともに優れ、その職務にふさわしい適任者の人選を進めてまいりました。

その結果、長年熊本県職員として勤務されておりました菊池市泗水町田島２４０３番地、木村利昭氏、昭和２６年１１月１日生まれを選任いたしたく、ご提案申し上げます。

木村氏は、平成２４年熊本県理事兼東京事務所長を最後に県庁を退職されまして、同年より熊本県立図書館長を務められております。行政経験豊富であり、地方自治に幅広く精通された御仁でございます。議員各位の満場一致のご同意をお願いするものでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　以上で、議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第８１号については、会議第３７条第３項の規定によって委員会付託を省略したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。採決は起立により行います。

お諮りします。議案第８１号について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立をお願いします。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第８１号は同意することに決定しました。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第４　議案第８２号から議案第８４号まで一括議題

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第４、議案第８２号から議案第８４号までの３議案を一括議題とします。

本案件について、地方自治法第１１７条の規定に係る議員は除斥する必要がありますが、第１１７条に関係する議員はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　議案第８２号から議案第８４号、教育委員会委員の任命につき同意を求めることについてご説明申し上げます。

追加議案書その２、第３ページからになります。

教育委員会委員は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び菊池市教育委員会の委員の定数を定める条例に基づきまして、６人の委員をもって組織され、運営がなされております。

そのうち３名の方、坂井博明委員、佐々木輝男委員、石原克子委員が本年７月７日をもって４年の任期が満了いたします。今回、その後任につきまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第４条第１項の規定に基づき任命いたしたく、議会の同意をお願いするものでございます。

教育委員会委員は、人格が高潔で教育・学術及び文化に関し識見を有する者とされております。また、委員のうちに保護者である者が含まれるようにしなければならないとされております。

これらを十分に検討いたしました結果、１期４年の経験と、これまでの実績から議案第８２号の菊池市七城町橋田８４番地、坂井博明氏、昭和２８年１月５日生まれ、及び議案第８３号、菊池市泗水町吉富２１０番地１８、佐々木輝男氏、昭和１９年７月５日生まれ、このお二人を再度任命いたしたく、ご提案を申し上げるものでございます。

また、ＰＴＡ役員としての実績から保護者代表として、議案第８４号、菊池市泗水町永４２１２番地２、坂崎聡子さん、昭和３６年５月２８日生まれを新たに任命いたしたく、ご提案を申し上げるものでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　以上で議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第８２号から議案第８４号までについては、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。採決は１議案ずつ起立により行います。

お諮りします。議案第８２号について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第８２号は同意することに決定しました。

次に、議案第８３号について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第８３号は同意することに決定しました。

次に、議案第８４号について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第８４号は同意することに決定しました。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第５　議案第８５号　監査委員の選任につき同意を求めることについて

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第５、議案第８５号を議題とします。

本案件について、地方自治法第１１７条の規定に係る議員は除斥する必要がありますが、第１１７条に関係する議員はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　議案第８５号、監査委員の選任につき同意を求めることについて、ご説明申し上げます。

追加議案書その２の第９ページを開きください。

今年７月７日をもって、４年の任期が満了する宮川貞雄委員の後任につきまして、地方自治法第１９６条第１項の規定に基づき選任いたしたく、議会の同意をお願いするものでございます。

監査委員は、人格が高潔で地方公共団体の財務管理、事業の経営管理、その他行政運営に関し優れた識見を有する者とされており、十分検討いたしました結果、再度宮川貞雄氏を選任いたしたく、ご提案申し上げるものでございます。

同氏は、税理士、行政書士としての豊富な経験と、これまでの監査委員としての実績から適任と考えております。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　以上で議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第８５号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。採決は起立により行います。

お諮りします。議案第８５号について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第８５号は同意することに決定しました。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第６　議案第８６号、公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第６、議案第８６号を議題とします。

本案件について、地方自治法第１１７条の規定に係る議員は除斥する必要がありますが、第１１７条に関係する議員はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　議案第８６号、公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて、ご説明申し上げます。

追加議案書その２の第１１ページお開きください。

公平委員会は地方公務員法の規定に基づき３人の委員をもって組織されております。その職務は、職員の勤務条件に関する措置の要求及び職員に対する不利益を審査し、並びにこれらについて必要な措置を講ずる委員会でございます。

今回、本年７月７日をもって、４年の任期が満了する針鐵男委員の後任につきまして、地方公務員法第９条の２第２項の規定に基づき選任いたしたく、議会の同意をお願いするものでございます。

委員は、人格が高潔で、地方自治の本旨及び民主的で能率的な事務の処理に理解があり、かつ人事行政に関し識見を有するものとされております。

また、公平委員会の審査手続きにおいては、民事訴訟等に準じた者となっておりまして、現在処理すべき事案も出ております。適正な事務処理を行うため、十分検討いたしました結果、法的専門性を有する識見者として、弁護士の熊本市中央区島崎１－３１－１－８０３、田中裕司氏、昭和４６年６月２０日生まれを選任いたしたく、ご提案申し上げるものでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　以上で議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　公平委員についてお尋ねいたします。

田中裕司氏を選定された方法と、過去に田中裕司氏が菊池市の案件を取り扱ってたかどうか、菊池市と利害関係があったかどうかお尋ねいたします。

（「議長、暫時休憩お願いします」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１１時５５分

開議　午前１１時５７分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまの荒木議員のご質問は、田中氏を選任したときの方法、それから２点目に、田中氏は過去に菊池市の訴訟案件を扱ったことはあるかということであるかと思います。

まず第１点目でございます。田中氏を選んだ方法並びに理由でございますけども、この任期に伴いまして、まずどのような方がいらっしゃるかということを調査いたしましたが、それと同時に今現在、私どもが足元で抱えている状況についても、もう１回整理を行いまして、実は、平成１７年の市町村合併以来、平成２２年度までは勤務条件に関する措置要求、あるいは不利益処分に関する不服申立て等の通知はございませんでしたが、平成２３年度以降、職員の苦情処理事案が上がるなど、公平委員会が処理すべき具体的な事案が出てきておりまして、その実際の審査手続きは、民事訴訟等に準じたものとなっておりますので、法的専門性を有する弁護士を委員に必要だというのがまず一つでございます。

それから、この事案の継続性等々も必要でございますので、そういう意味で田中氏が適任という判断をいたしました。

それから、田中氏の過去の実績ですが、当市は別途顧問弁護士を雇っておりますので、田中氏が個別の案件に関与したことは過去にはございません。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　今のご答弁によりますと、菊池市のほうから、こちらのほうか

ら田中氏にお願いをしたということで間違いないかと思いますが、本来ですね、私は弁護士の方に２、３人ほどに聞きました。各市で公平委員会、どういう形で選ばれてますかということを聞きましたら、弁護士協会に推薦依頼を出して、そして上がってくる弁護士の方を、大体その方を選任するというような形をとっておられるそうです。この田中裕司氏、前教育長の田中教育長のご子息ということは間違いないですか。再度ご答弁をお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　田中裕司氏が、前ですか、教育長の田中氏のご子息であるかどうかという点については、私は承知しておりません。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　最後にお尋ねいたします。

私、先ほど申しました弁護士協会のほうに推薦を依頼されたか、されてないか、それをお聞かせください。よろしくお願いします。

（「暫時休憩お願いします」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後零時０１分

開議　午後零時０２分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　公平委員会の委員に弁護士を入れる点について、弁護士協会に紹介を依頼したかという点につきましては、そのような事実はございません。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　ほかに質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第８６号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　議案第８６号、公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて、この議案について反対討論をいたします。

本来公平委員は公平でなくてはなりません。市側から要請した弁護士であれば、市側に偏った委員に選任されるのは、選任されると言っても過言ではありません。

よって、私は本来なら弁護士協会に推薦状を出し、推薦されて過去に菊池市の案件も扱っていない、そして、菊池市と関係ないそういう方が公平委員に選ばれるべきだと思っておりますので、この案件に関しましては反対いたします。

以上です。

○議長（山瀬義也君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

ほかに討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで討論を終わります。

これより採決します。採決は起立により行います。

お諮りします。議案第８６号については、原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第８６号は同意することに決定しました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第７　議案第８７号　固定資産評価員の選任につき同意を求めることについて

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第７、議案第８７号を議題とします。

本案件について、地方自治法第１１７条の規定に係る議員は除斥する必要がありますが、第１１７条に関係する議員はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　議案第８７号、固定資産評価員の選任につき同意を求めることについてご説明申し上げます。

追加議案書その２、第１３ページをお開きください。

固定資産評価員は、地方税法の規定に基づき、市長の指揮を受けて固定資産を適正に評価し、かつ価格の決定を補助するために設置することとされ、固定資産の評価に関する知識及び経験を有する者のうちから選任することとされています。

本市では、菊池市固定資産評価員規則により、これまで税務課長がその職を兼務しております。

今回４月の人事異動に伴い、税務課長に異動がありましたので、新たに中川正己税務課長を地方税法第４０４条第２項の規定に基づき選任いたしたく、議会の同意をお願いするものでございます。

よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　以上で議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第８７号については、会議規則第３７条第３項の規定によって委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。採決は起立により行います。

お諮りします。議案第８７号について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第８７号は同意することに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第８　議案第８８号　人事擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第８、議案第８８号を議題とします。

本案件について、地方自治法第１１７条の規定に係る議員は除斥する必要がありますが、第１１７条に関係する議員はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　続きまして、議案第８８号、人権擁護委員候補者の推薦につき同意を求めることについてご説明を申し上げます。

追加議案書その２、第１５ページをお開きください。

現在、本市の区域には１４名の人権擁護委員さんが法務大臣の委嘱を受け、人権擁護活動に従事されております。

その中のお一人、菊池地区の岩崎義郎委員が本年９月３０日をもって３年間の任期が満了いたします。

今回、その後任の候補者の推薦につきまして、熊本地方法務局長より依頼がありました。推薦にあたっては、人権擁護委員法の規定により、人格・識見高く、広く社会の実情に通じ、人権擁護について理解のある者とされております。

十分検討いたしました結果、菊池市隈府６５６番地５、山内理至氏、昭和２７年２月２３日生まれを新たに推薦いたしたく、人権擁護委員法第６条第３項の規定に基づき、議会の意見を求めるものでございます。

同氏は長年の行政経験の中で、人権問題に関しての理解と認識が豊富であります。今後とも積極的に人権擁護活動に取り組んでいただけるものと確信をしまして推薦するものでございます。

よろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　以上で議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第８８号については、会議規則第３７条第３項の規定によって委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。採決は起立により行います。

お諮りします。議案第８８号について、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立を願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　起立多数です。よって、議案第８８号は適任とすることに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第９　報告第１１号から報告第１８号まで一括上程・報告

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第９、報告第１１号から報告第１８号まで８件について、一括議題とします。

ここで執行部から説明の補足のため、資料配付の要請がありました。

会議規則第１５７条の規定によって資料を配付することを許可しております。

資料は、お手元に配付のとおりです。

提出者の報告を求めます。

総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　お疲れさまでございます。

１７ページをお開きいただきたいと思います。

報告第１１号、菊池市土地開発公社経営状況報告につきまして、地方自治法第２４３条の３第２項の規定によりご報告いたします。お手元の資料の議案の１９ページからになります。

第３９期決算報告書によりご説明をいたします。２１ページをお開きください。

事業報告書でございますが、（イ）の用地の年間取得造成及び（ロ）の用地の年間売却はともにございませんでした。

２２ページをお願いいたします。貸借対照表でございます。まず資産の部でございますが、１の流動資産といたしまして、（１）普通預金から（８）の未成土地までの合計が２４億６，０４３万５，２２１円でございます。（５）公有用地から（８）未成土地までの内訳を２７ページに記載しておりますので、後ほどご覧いただきたいと思います。

２２ページにお戻りいただきまして、２の固定資産合計は、２５万２，７５６円

でございますので、資産合計は２４億６，０６８万７，９７７円となります。

次に、２３ページの負債の部でございます。

１の流動負債は、（３）の前受金が２１９万２，０００円となっております。２の固定負債（１）の長期借入金は、１７億８，０００万円でございます。２８ページに借入金の内訳を記載しております。菊池市土地開発基金からの借り入れとなっております。２３ページにお戻りいただきまして、１の流動負債と２の固定負債を合計しました１７億８，２１９万２，０００円が負債合計でございます。

次に、資本の部でございます。

１の基本金は、市からの出資金で１００万円でございます。２の準備金合計は、（１）前期繰越準備金に（２）当期損失を差し引きました６億７，７４９万５，９７７円となります。したがいまして、負債資本合計は２４億６，０６８万７，９７７円となります。

次に、２４ページの損益計算書をご説明いたします。

１の事業収益につきましては、（３）の附帯等事業収益といたしまして、小畠団地を雇用促進住宅菊池宿舎の駐車場として雇用振興協会に賃貸している分の収益１７万円でございます。２の事業原価につきましてはありませんので、１７万円が事業総利益となります。この事業総利益に３の一般管理費１１０万８，４９２円を差し引きました９３万８，４９２円が事業損失となります。４の事業外収益は９５万５，２５６円でございます。５の事業外費用は、支払利息で３５万６，９７５円でございますので、事業損失に事業外収益を加え、事業外費用を差し引きました３４万２１１円が経常損失となります。６の特別利益及び７の特別損失はございませんでしたので、当期損失は３４万２１１円となります。

２６ページが公社の財産目録でございます。２９ページに監査報告書を添付いたしております。

次に、３０ページをお願いいたします。

続きまして、平成２５年度菊池市土地開発公社の事業計画、予算資金計画をご説明申し上げます。３２ページをお願いいたします。

平成２５年度の事業計画でございますが、１の土地取得造成の管理費としまして、林原工業団地で２０万円、蘇崎工業団地で９５万円、田島工業団地で１２０万円、小野崎住宅用地で１０万円を計上いたしております。２の土地売却等は販売目標としまして2件、３，０５８万４，０００円を計上しております。

次に、３３ページでございます。平成２５年度の予算でございます。予算につきましては、第２条の収益的収入及び支出で事業収入として所有土地の売却、公有所有地に係る賃借料、受取利息等の収入を計上しております。支出では消耗品、草刈

りの経費、支払利息等の支出を計上いたしております。

次に、３４ページの第３条、資本的収入及び支出につきましては、長期借入金といたしまして、１７億８，０００万円を計上しており、同額が収入合計となっております。資本的支出につきましては、土地造成事業費で２４５万円、公有地取得事業費はございません。長期借入金償還金で１７億８，０００万円を計上いたしております。また、第４条の借入金の限度額は、１９億１，０００万円と定めております。

次に、３５ページが平成２５年度の資金計画となっております。

以上、報告第１１号、菊池市土地開発公社の経営状況報告とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　経済部長、平野國臣君。

［登壇］

○経済部長（平野國臣君）　それでは、報告第１２号、有限会社きくち観光物産館経営状況報告について、報告第１３号、有限会社ファームきくち経営状況報告について、報告第１４号、有限会社七城町特産品センター経営状況報告について、報告第１５号、有限会社七城町振興公社経営状況報告について、報告第１６号、有限会社七城町銘柄米センター経営状況報告について、報告第１７号、有限会社旭志村ふれあいセンター経営状況報告について、並びに報告第１８号、有限会社有朋の里泗水経営状況報告についての７件につきまして、地方自治法第２４３条の３第２項の規定により報告をいたします。

報告につきましては、事前に議長の許可を得ておりますので、本日配付させていただきました補足説明資料、平成２４年度第三セクター経営状況概要書により、一括して報告をさせていただきます。なお、概要書の数値につきましては、円単位としておりますが、資本金につきましては、千円単位といたしておりますので、ご了承をお願いいたします。

それでは、補足説明資料、平成２４年度第三セクター経営状況概要書をご覧いただきたいと思います。

最初に報告第１２号、有限会社きくち観光物産館の経営状況について報告をいたします。

平成２４年度の事業実績としましては、福岡での商談会や市内外でのイベントに積極的に参加され、販路開拓や特産品のＰＲ販売を実施されております。また、ヤーコンの産地化に向けた取り組みや、新商品としてのキクイモを加工しましたキクイモ粉やキクイモ茶のＰＲ販売を継続して取り組まれております。

決算状況は、貸借対照表の資産合計が４，１００万７，１７７円、負債合計が１，７４９万７，１７０円、資本金９６０万円と利益剰余金１，４１１万７円から自己株

式２０万円を差し引きました純資産合計が、２，３５１万７円で、負債、純資産の合計が４，１００万７，１７７円となっております。

また、売上総額につきましては、１億６，０６７万７，０１７円で、対前年度と比較しますと９５．５％となり、経常利益が１６６万１８２円で、税金等を差し引きました当期純利益が１４１万７，８８２円となっております。

下段の表をご覧いただいたと思います。平成２５年度の事業計画としましては、独自のイベント展開やマスメディアを活用した情報発信の強化により、さらなる収穫アップと地産品のＰＲを行います。また、生産者と消費者の交流を図るとともに、従業員の研修や意識改革にも積極的に取り組みます。

さらに、本年買い上げ客数が３００万人に達することが見込まれておりますので、記念行事を計画をされております。売上総額を対前年度比１０９．５％の１億７，６００万円とし、経常利益を１７２万円と見込まれております。

次に、報告第１３号、有限会社ファームきくちの経営状況について報告をいたします。

平成２４年度の事業実績としましては、米部門におきましては、新品種の本格作付けや、新たな取引先の開拓により、安定的な販路の確立に取り組まれております。また、花き部門におかれましても、順調な販売実績を上げられております。新規就農者に対する研修、指導などを就農支援につきましても継続して取り組んでおられます。決算状況は、貸借対照表の資産合計が５，２９７万２，１３３円、負債合計が３９２万７，７７４円、資本金５，１１５万円と利益剰余金マイナスの２１０万５，６４１円を合わせました純資産合計が４，９０４万４，３５９円で、負債、純資産の合計が５，２９７万２，１３３円となっております。

また、売上総額につきましては、７，１４３万６，０７２円で、対前年度と比較しますと１２０％となり、経常利益は２１３万７，５７６円で当期純利益が１９２万８，３２４円となっております。

下段の表をご覧いただきたいと思います。平成２５年度の事業計画としましては、米の販路拡大になお一層取り組むほか、施設園芸におきましても花きなど部門ごとの収益目標を設定し、売上増を目指すとされております。また、ファームきくちの特色を生かした就農支援策により、将来の担い手の育成・確保に継続して取り組むとされております。売上総額を対前年度比１０５．７％の７，５５０万円とし、経常利益を６７６万円と見込まれております。

次に、報告第１４号、有限会社七城町特産品センターの経営状況について報告をいたします。

平成２４年度の事業実績としましては、イベントの開催やインショップでの商品

販売並びにゼリーなど加工品の販路拡大に加え、福岡方面等の商談会にも参加をされております。また、新たな試みとしてコンビニエンスストアでの野菜販売を始められております。従業員に対しての研修・講習会なども積極的に開催をされております。なお、施設の老朽化等による全面改修工事を、平成２４年度で実施をいたしております。

決算状況は、貸借対照表の資産合計が２億４，８７５万６，１８９円、負債合計が１億６８５万７，２２７円、資本金７，５００万円と利益剰余金、６，６８９万８，９６２円を合わせました純資産合計が１億４，１８９万８，９６２円で、負債、純資産の合計が２億４，８７５万６，１８９円となっております。

また、売上総額につきましては、１１億３，３０２万１，０４４円で、対前年度と比較しますと９３．３％となり、経常利益は１，３８５万５，４１７円で、当期純利益が９４０万５，７４２円となっております。

下段の表をご覧いただきたいと思います。平成２５年度事業計画といたしましては、農産物の安定確保のために生産及び品そろえ体制の充実を図るとともに、商品構成も売れ筋商品の絞り込み、テナント業者の新商品開発など、さらなる販売強化に取り組むとされております。また、インショップやコンビニエンスストアとの連携販売を継続・拡大するとともに、市内の第三セクと連携し、市内外のイベント参加によるＰＲ活動を継続していくとされております。

売上総額につきましては、対前年度比１０２．９％、１１億６，６００万円とし、経常利益を２，２６０万３，０００円と見込まれております。

次に、報告第１５号、有限会社七城町振興公社の経営状況について報告をいたします。

平成２４年度の事業実績につきましては、九州北部豪雨の影響により、７月の宿泊者が激減をいたしておりますが、経費の見直しや休館日を減らすなどの対策とあわせまして、インターネットによる宿泊予約に力を入れられた結果、インターネットからの宿泊予約者数は、対前年度と比較しますと４３％の増になっております。

また、売上げ増の対策としまして、奄美・北海道フェアなどのほか、周年イベントについても積極的に開催をされております。なお、オープン１５周年と合わせまして、入場者６００万人を達成をされております。

決算状況は、貸借対照表の資産合計が１億５，８９５万２，７９６円、負債合計が５，２３０万９，９３６円、資本金８，０００万円と利益剰余金２，６６４万２，８６０円を合わせました純資産合計が１億６６４万２，８６０円で、負債、純資産の合計が１億５，８９５万２，７９６円となっております。

また、売上総額につきましては、４億３，５８５万１，５４１円で、対前年度と比

較しますと９８．９％となり、経常利益は１，２６９万３，８５３円で当期純利益が８９１万１，７９６円となっております。

下段の表をご覧いただきたいと思います。平成２５年度の事業計画としましては、地域密着型の温泉保養施設としての役割を基本に、新しい宿泊プラン等の設定によりインターネット予約の充実を図るとともに、本施設をスタートとするフットパスウォークの周知を強化することにより、新たな集客につなげるとされております。また、地域食材を使った新メニューなど、レストランコーナーの充実を図るとともに、従業員の接客スキルアップも継続していくとされております。

売上総額につきましては、対前年度比１００．９％、４億３，９８３万８，０００円とし、経常利益を１，１６４万８，０００円と見込まれております。

概要書の裏面２ページをご覧いただきたいと思います。

次に、報告第１６号、有限会社七城町銘柄米センターの経営状況について報告をいたします。

平成２４年度の事業実績につきましては、継続して特別栽培米の生産指導や特Ａプロジェクトの推進により、全国食味ランキングで５年連続７度目の特Ａを獲得、あわせて環境にやさしい熊本グリーン農業生産宣言を取得されております。

また、各種イベントでの販売促進など、営業活動にも積極的に取り組まれております。決算状況は、貸借対照表の資産合計が１億１，１６３万１，６０８円、負債合計が４５６万８，５２６円、資本金８，４００万円と利益剰余金２，３０６万３，０８２円を合わせました純資産合計が１億７０６万３，０８２円で、負債、純資産の合計が１億１，１６３万１，６０８円となっております。

また、売上総額につきましては、６，９８４万３，７７８円で、対前年度と比較しますと８６．８％となり、経常利益が１，２９４万１，５８２円で、当期純利益が１，０５８万６，３８２円となっております。

下段の表をご覧いただきたいと思います。平成２５年度の事業計画といたしましては、継続して地域と一体となった安全・安心な米づくりに取り組み、特に特別栽培米としての品質向上とブランド化の確立を図るために、本年度も６年連続８度目の特Ａ獲得を目指すとされております。また、関係団体との連携を深め、販売促進や宣伝活動にも積極的に取り組むことにより、付加価値を高め、管内農家の所得の向上を図るとされております。平成２５年度の売上総額を対前年度比６７．９％、４，７４１万９，０００円とし、経常損失を２５２万８，０００円と見込まれております。

なお、損失の主な要因としましては、平成２５年度の銘柄量を米相場の下落に合わせた金額に設定をされている一方、農家所得の安定確保を図る点から、銘柄米奨

励金については、ある一定額を設定されたことからの損失見込みということでございます。

次に、報告第１７号、有限会社旭志村ふれあいセンターの経営状況について報告をいたします。

平成２４年度の事業実績につきましては、精肉コーナーにおかず処「旭志村」が新設され、メンチカツ、コロッケ、ハンバーグに加え、食彩館で製造されました惣菜の販売を始められております。また、野菜コーナーにおきましても、年間を通じて豊富な品ぞろえによる販売ができたことなどから、ふれあいセンター全体の年間売上高が初めて５億円を突破いたしております。決算状況は、貸借対照表の資産合計が、１億７４万２，４１９円、負債合計が５，１４８万１，１６８円、資本金２，４３５万円と利益剰余金２，４９１万１，２５１円を合わせました純資産合計が４，９２６万１，２５１円で、負債、純資産の合計が１億７４万２，４１９円となっております。

また、売上総額につきましては、５億１２６万６，９８５円で、対前年度と比較しますと１０８．２％となり、経常利益は９０２万９，８０３円で、当期純利益が５６７万８，５６２円となっております。

下段の表をご覧いただきたいと思います。平成２５年度の事業計画としましては、旬野菜の品ぞろえを更に強化することにより、季節感、鮮度感や清潔感、ボリューム感を演出し、生産者とともに産直野菜売り場づくりに取り組むとされております。また、精肉コーナーにおきましても、旭志牛、りんどうポークのさらなるＰＲの強化と、地元牛を使用した新商品の開発に加えまして、食彩館ならではの味にこだわり、地元産品を使ったメニューの強化にも取り組むとされております。

売上総額を対前年度比１０１．８％、５億１，０５０万円とし、経常利益を１，１００万円と見込まれております。

最後に、報告第１８号、有限会社有朋の里泗水の経営状況について報告をいたします。

平成２４年度の事業実績につきましては、生産計画修正システムをフルに活用し、徹底した出荷品のロス削減が図られております。また、地元農畜産物を使用した加工商品の開発や道の駅弁当の新作づくりのほか、各種団体と連携したイベントの開催や出店等が行われております。

さらに新たな販路の開拓として大阪のスーパーとの間で野菜を中心に取り引きを始められております。決算状況は、貸借対照表の資産合計が８，８０３万８，１９１円、負債合計が３，５１５万４，４７１円、資本金１，６００万円と利益剰余金３，８３２万３，７２０円から自己株式１４４万円を差し引きました純資産合計が、５，２

８８万3，７２０円で、負債、純資産の合計が8，８０３万8，１９１円となっております。また、売上総額につきましては、３億7，７５５万8，８３１円で、対前年度と比較しますと９４．１％となり、経常利益は４４４万9，５４９円で当期純利益が３１５万4，５４９円となっております。

下段の表をご覧いただきたいと思います。平成２５年度の事業計画としましては、野菜の出荷期間を長期化するためのシステムづくりや生産者のほ場訪問や栽培講習会などの実施並びに高齢生産者に対する出荷支援などに取り組み、道の駅弁当と合わせ主力商品としての売上げ強化を図るとされております。

また、消費者ニーズに合わせた品ぞろえや、都市圏を含めた商品情報の発信により、販路開拓を行うとされております。

販売総額を対前年度比１００．２％、３億7，８４０万円とし、経常利益を５１０万円と見込まれております。

以上で、報告第１２号、有限会社きくち観光物産館から報告第１８号、有限会社有朋の里泗水までの７件の経営状況についての報告とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で報告を終わります。

報告第１１号から報告第１８号までは、地方自治法第２４３条の３第２項の規定により報告にとどめます。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第１０　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

○議長（山瀬義也君）　次に、日程第１０、委員会の閉会中の継続審査並びに調査についてを議題とします。

総務文教常任委員会

1　一般行財政、企画開発、地域振興、情報処理、教育等に関する諸問題の調査について

福祉厚生常任委員会

1　福祉、環境、市税、防災、健康管理等に関する諸問題の調査について

経済建設常任委員会

1　農政、林業、商工振興、観光開発等に関する諸問題の調査について

2　土木、都市計画、公共下水道、水道等に関する諸問題の調査について

議会運営委員会

1　議会運営等に関する諸問題の調査について

議会広報特別委員会

1　議会広報に関すること

企業誘致促進特別委員会

1　企業誘致に関すること

議会改革検討特別委員会

1　議会改革に関すること

議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長から所管事務調査事項について、議席に配付の閉会中の継続審査並びに調査申出一覧表のとおり申し出があっております。

お諮りします。議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることに決定しました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

追加日程第１　議員提出議案第２号　菊池市議会義委員の報酬の特例に関する条例の制定について

○議長（山瀬義也君）　次に、追加日程第１、議員提出議案第２号を議題とします。提出者の提案理由の説明を求めます。

工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　議員提出議案第２号、菊池市議会議員の報酬の特例に関する条例の制定について提案理由の説明をします。

私たち市議会議員は、市民から選ばれた代表であります。市民の負託を受け、市民の声を議会に届け、行政を動かし、真に市民の幸せを実現する使命と責任を担っております。

本定例会において、国家公務員の給与削減支給措置を踏まえた国からの要請により、市長等の給与及び一般職の職員の給与を減額する条例が提出されています。この削減された財源は、東日本大震災の財源に充てられるとのことであります。

被災地では震災から２年が経ちますが、いまだ人的、物的被害の大きな傷も癒えておらず、将来への不安と困難な生活を強いられている方がたくさんいらっしゃいます。日本国民全員が不屈の精神で頑張っている東北の人々の真の痛みをわかち合い、ともに復興を成し遂げるという強い気持ちを持って行動することによって、もっとよい日本、もっとよい東北をつくり上げていかなければいけません。地方議会の二元代表の一翼を担う議員各位には、本市及び日本国の厳しい財政状況を認識され、市議会議員、市長、全職員一丸となってこの厳しい局面を乗り越えるべく、率先して報酬を減額し、市民に覚悟を持った姿勢を示さなければなりません。

議員各位におかれましては、提案理由の趣旨を十分ご理解のうえ、賛同いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（山瀬義也君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　議員提出議案第２号、菊池市議会議員の報酬の特例に関する条例の制定について、提出者の工藤議員にお尋ねをします。

まずはわかりやすいところからお聞きしますが、提案理由の文章の３行目はちょっと文章はおかしいとは思いますが、それは別にして、まず１回目に３点お尋ねをします。

この議員報酬問題は、議会全体にかかわる問題です。当然です。この問題について、合意形成の手順を踏んだ上での提案なのかどうかお聞きします。

それから２点目に、いろいろこの会期中にも市長給与、職員給与の削減議案が出た際に議員の話もあって、５％、３％、いろんなお話もあったはずです。そうした中で、今回１０％削減するとした根拠は何なのかお聞きします。

否決はされましたが、市長の減額分１０％と同じ１０％では、果たしてこの提案理由で先ほど述べられたような強調された覚悟を持った姿勢、それが１０％なのかどうか２点目にお聞きします。

３点目に、提出者の工藤議員にお尋ねしますけど、ではどれぐらいの水準が菊池市の議員報酬として適正だと工藤議員は考えておられるか、これは提出者の議員報酬問題での見識という点から併せてお聞きしたいと思います。３点お聞きします。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　お答えします。この議案提出にあたっての議員における合意形成ですね、意見の集約。先だって全員協議会の中で、そういうお話がもうちょっとできるのかなと私自身は思っておりました。実際それができておりませんので、合意形成についてはできていないというふうに思っております。

次に、削減の率のお話だったかと思いますけど、１０％これは今東議員言われたように、市長、副市長、教育長のパーセントに準じて同じようにパーセントを私は考えたところです。

３点目、議員の報酬について、私自身はですね、まだいろいろ考えている最中でありますし、今議会改革の特別委員会が行われておりますので、その中での議論をまだ注視したいし、その中の議論として私も議論に加わってきたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

（「１０％削減で工藤議員が提案理由で強調された覚悟を持った姿勢というふうに言えるのかと。１０％でいいんですかと、覚悟と言うんであれば、２０％とが３０％とかあるじゃないですか」と呼ぶ者あり）

○３番（工藤圭一郎君）　十分、私はこの１０％というのはですね、言葉で言いますと、その覚悟ということにつながるというふうに私は思っております。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　１０％で提案理由にもありましたし、今言われましたけど、覚悟と言えば聞こえはいいわけですが、提出者も賛成者の皆さんも６月１９日の議会の全員協議会で、議員定数１４と報酬は月５０万円、こういうことも言っていたわけですよ。こっちでは１０％削減で市民に覚悟を示す必要があると言いながら、あとあと定数を減らして、報酬月給５０万円にするというのはなかなか通らないんじゃないかなというふうに思いますけど、これが皆さんの見識なのかどうか再度お尋ねします。今は１０％減らすけど、あとで定数を減らして５０万円するというふうに、それであれば、議案に書けばいいんじゃないかなというふうに思いますが、そこら辺はどうですか。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　お答えします。今の東議員のお尋ねはですね、私の認識からするとですね、まだ審議のまだ始まりのうちの意見の一つなのかなというふうに私は考えておりますし、そのいろんな意見をですね、これから特別委員会、委員はじめ委員長でいろんな議論をされて、それから方向性をこれからまだ示されるようなお話でしたので、私はそういう意味での意見の一つかなというふうに認識しております。

○議長（山瀬義也君）　東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　これからという話もありました。今ちょうど先ほどの１回目でも工藤議員も議会改革特別委員会が審議中と、注視するし、発言もするという話もあったし、今もそういう話もありました。言われたように、現在議会改革検討特別委員会が開かれておって、議員報酬を含めたところの定数について議論をされている真っ最中であります。特別委員会の審議中に、その審議事項について、期間限定とはいえ１０％という金額を明示して、最終日にこれを議案と出して採決しろというのは、議会のルール上問題がないと考えているのかどうか最後にお尋ねをします。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　私は全く問題ないと思っておりますし、今回市長をはじめ職員の皆さんの気持ちに敬意を払うつもりも大いに含まれておるこの議員案の提出であります。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　このご提案に大変びっくりしておりますけれども、単純な質疑です。

今は言うまでもなく、議会改革特別委員会が設置されて、そこではいろんな角度から審議することが心がけられていますね、隈部委員長は非常に気を遣っていらっしゃいます。全体の配慮も行われながら、定数ばかりではなくて、処遇についても、報酬についても、慎重な審査の最中ですが、この時期のご提案というのが、そこに反映させるというおつもりでお出しになっているのか。それとも全くそれとは別枠で提案されたのかをまず１点目としてお聞かせください。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　お答えします。今の議会改革特別委員会の議論とは別で私は考えておりますし、先ほども言いましたように、今回の執行部からの市長をはじめ一般職員の給料削減、それをかんがみての議員提案でありました。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　もう一つ単純な質問ですけれども、別枠ということでおっしゃいました。提案されている賛同者と合わせて４名のほかに賛同する人はいなかったのでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　お答えします。全ての議員さんにお諮りしたわけではありませんので、この賛同者だけの賛同であります。

○議長（山瀬義也君）　怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　はい、わかりました。先ほど来出てますように全員協議会等では、４人のほかに報酬のカットの方向をいう意見も聞かれましたけれども、そういう人への働きかけというのはお考えでなかった、されなかったんでしょうか。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　はい、考えておりませんでした。すいません。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

中原繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　工藤議員にお尋ねしますが、今、東議員、怒留湯議員と多少重複することもあります。ご了承願いたいと思います。

特別委員会、議会でつくりましたね、これは議員の皆さんが議決をしたことであって、やっぱり議会で決めたことはある程度それは尊重するのが議会の議員の務めじゃないかなと、ところで私はその特別委員会のですね、その結論を待たずして、この種の提案をされるということはいかがなものかなと思います。

それともう一つ、いつか知りません、忘れましたが、全協のときに、この議論の中であなたははっきりですね、議員報酬は５０万円と言われた。聞いたのは私一人じゃないと思います。そして、片やこういう１０％削減と今度出される。どっちがあなたの本心、心は本当なのか。それがちょっと疑うところです。

それともう１点、提案理由の中で、上から３行目です。「地方議会の二元代表の一翼を担う議員各位には」と、まあ云々と続いておりますが、二元代表てあんまり聞き慣れない言葉です。果たしてどういう意味なのか、私はわかりませんので、この３点について、特に今の二元代表のことについて具体的にですね、詳しく教えていただきたいと思います。

○議長（山瀬義也君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○３番（工藤圭一郎君）　最初が特別委員会との整合性というか、そういうところだったかと思いますけど、同じお答えになるかも知れませんけど、この特別委員会での今審議の中身と、この提案とはですね、私は別だというふうに考えて今回は議員提案しております。

それともう１点、全員協議会で定数を１４にして報酬を５０万円にしたらどうかという私の意見を言われたかと思いますけど、私は極端な例で一つその意見として言いました、確かに。ただもう１点、真逆の意味でですね、そのときは言ってはおりませんけど、人数を倍にして、報酬を半分にカットとか、そういう意見も持ってはおります。私が全員協議会で言った意見がですね、このことと符合するものとは私は考えておりませんので、まだ特別委員会でですね、これからしっかり議論をしていく中で、一つの意見としてあってほしいなと思いますし、いろんな意見を皆さんで出されて、本当にこの菊池市の議会がどういうふうにあるべきかというのを議論するべきだろうと思っております。

最後に言われました二元代表制のことなんですけど、私もあまり詳しく考えて言葉を選んだわけじゃありませんので、中原議員にとっては、いい答えにはならないかもしれませんけど、私はしっかりとですね、地方の議会も自立してやっていく上で考えなきゃいけない、そういう意味での二元代表制という言葉を使ったつもりであります。

以上、お答えします。

○議長（山瀬義也君）　中原繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　全協で言ったことは極端な例として、５０万円と言ったということでありますがですね、やっぱり公式な場所でですね、やっぱり議員が発する言葉というのは、これは責任を持たにゃいかんわけですよ、意見としてじゃなくて、これはあなたはっきり明言したからですね。その辺の私は理解ができんと、片や１０％削減なんて出てくるからですね、それがわからんだったんです。

二元代表というのは、もうわからん、今の説明では私もわかりません。皆さんわ

かったですか。わからんでしょう。もうよかです、これで。

○議長（山瀬義也君）　ほかにありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで質疑を終わります。

議員提出議案第２号については、会議規則第３７条第２項の規定によって委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。まずは反対のほうから。

東裕人君。

［登壇］

○９番（東　裕人君）　反対討論を行います。議員の報酬については、どれぐらいが適正か、どれぐらいが住民の理解を得られるのか、そういう議論は今まさに特別委員会で始まったばかりであります。その審議中に期限の定めがあるとはいえ、１０％削減を採択すべきというのは、これからの特別委員会の審議の中身や方向性、そして審議をする委員の権限を侵しかねないというふうに思います。それが１点。

それから、合意形成のプロセスの問題で、先ほども言いましたが、この期限を定めてだったら３％だったらどうだろうか、５％、いろいろ議論があります。ところが最終日に、こうした形で１０％削減という提案が出される。そうすると、この大事な議員報酬の議論が、そういう方向でこの場でどちらかというふうになっていくと、よろしくないと、こういうやり方は合議体である議会の議論、合意形成のプロセス上、私はふさわしくないと思います。ということで反対をします。

報酬問題は、特別委員会の議論を踏まえ、また、いろんな外部識見なども踏まえて議論するときが必ずくるわけですから、その時しっかり審議しようじゃないかということも強調して反対討論とします。

○議長（山瀬義也君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

荒木崇之君。

［登壇］

○１番（荒木崇之君）　議員提出議案第２号に賛成の討論をいたします。先ほど来、全員協議会での報酬もしくは議員定数の話が出ておりますが、それとは別の問題であります。あのとき、６月１９日に話されたのは、次回の選挙において定数をどうするか、報酬をどうするかであって、現在の報酬が適正かどうかという議論は一切なされておりません。なので、今の反対討論とは意味合いが違ってくるんじゃないかと思っております。

また、合意形成がなされたかということでありますが、これは議会会議規則第１４条の１の１項にのっとって出しておりますので、何ら問題ないと私は思っており

ます。

そして、私たち議員の報酬は生活給ではありません。否決になりましたが、職員、そして市長、これは生活給です。まず、私たちが「隗より始めよ」で削減して、少しでも痛みが市民にいかないようにしなければならないと思います。それを市民に示してこそ信頼される議会がなされるものと思っておりますので、何とぞ皆さんご賛同いただきますようお願い申し上げます。

以上、賛成討論といたします。

○議長（山瀬義也君）　ほかに討論はありませんか。

怒留湯健蓉さん。

［登壇］

○１５番（怒留湯健蓉さん）　私は、反対の立場で意見を申し上げたいと思います。報酬のことですので、非常に取り扱いに苦慮する問題ではありますけれども、ちょっと聞いておりまして、これはやっぱりここで賛意を表明するべきではないという判断に立ちました。それはひとえに、現在議会改革特別委員会で調査・審議中の課題と重なると思われるからです。議会改革特別委員会は９月議会までには結論を出そうと今、鋭意取り組まれています。当然、議員みずから痛みを負うことを念頭において、その定員数のみならず歳費にも踏み込んで審議が繰り返されていくものと思われます。こういう状況下、議会改革特別委員会のメンバーではない議員の皆さんの意見も聞く必要があるとして、特に委員長は気を遣われて再々全員協議会を設定していただいて、全議員の意見聴取に努めておられます。

先般の全員協議会において、議員の定数、報酬について、実に多彩な討論が展開されました。今お述べになりましたので、それはここでは控えますが、これらの貴重な意見を議会改革特別委員会は今後直ちに集約して収れんさせていく段階に入られると思われます。報酬についても、ここに書いてある来年３月３１日で区切るものではなく、恒久的なものとして定数とあわせて市民の良識・世論に受け入れられる数値が示されることになると思われます。それはまた順当な手順というものであって、その結論を見るのはもう目前であることから、私は議会改革特別委員会を信頼し、そこへ委ねることこそ、菊池市議会の連帯と地域の融和を推進する力になっていくと確信します。

以上の理由をもって反対討論といたします。

○議長（山瀬義也君）　中原繁君。

［登壇］

○１２番（中原　繁君）　反対でよかっですか。

私も議員提出議案２号については、反対の立場で討論をいたします。

先ほど荒木議員のほうから、先の１９日の全協の席での議論は「改選後の」と言われました。とんでもない話なんです。改選後、果たしてこのメンバーが全員当選してくるとは限らんです。だれの保証もないんですよ。今のことをして、特別委員会はですね、９月の議会までに結論を出すと言っとるんです。隈部委員長がはっきり言っておりますよ。だからこそ私は議会の議決というのを尊重しなければならない、議員だからこそ、この種の議案の提出はなじまない。

以上のような理由で反対であります。

○議長（山瀬義也君）　ほかに討論はありませんか。

森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　賛成の立場から討論を行います。私は、議論を聞いておりまして、近頃の議会はひところ問題になりました・・・・・・・・・・・に似てきたような感じがするわけであります。とても言葉は巧みでありますけれども、周りから見ますと、とんでもない議論を進めておられる。つい最近では、中身は違いますけれども、・・・・・・ございました。その内輪では非常にまともな議論がされておると思いますけれども、一歩離れてみますと非常にちぐはぐな議論といいますか、おかしい議論というふうに思います。

この議案につきましては、タイミングというのも非常に大事であろうというふうに思います。先ほども申し上げましたけれども、政府から要望がございまして、それを受けまして市長が自分も身を削るというようなことでございまして、職員もお願いすると、こういう提案がございました。それを見て私ども議員は、先ほど提案者が申し上げましたように、二元代表制の一翼を担うわけですから、まずは足元から自分たちもそれじゃあ協力しましょうという提案であります。いろいろ言う必要もございませんし、この心情をくみ取っていただければ何も反対する理由はないと、私はこのように思います。それぞれ立場が皆さんございますから、いろいろ言いたいことはありましょうけれども、まずは県議会も、あるいは熊本市議会もというようなことは毎日新聞に載ってくるわけであります。細かい議論は必要ないと、私はこのように思い、賛成をいたすものでございます。

議員諸兄の賛成をよろしくお願いします。

（「議長、議長て言いよるでしょうが、議長」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　中原繁君。

○１２番（中原　繁君）　ただいまの森清孝議員の発言の中で、・・・・・・と言われました。あの福島原発でどれだけの人間が迷惑をこうむって厳しい生活を強いられているのか、これを愚弄する言葉じゃないですか。議長どう思われますか。これは

取り消すか、訂正を私は求めます。

○議長（山瀬義也君）　暫時休憩いたします。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後１時１１分

開議　午後１時２３分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（山瀬義也君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここで、森清孝君から発言の申し出があっておりますので、発言を許します。

森清孝君。

［登壇］

○１１番（森　清孝君）　先ほどの私の討論の発言中で、不穏当な発言があったかと思いますので、議長でしかるべくご処置願いますようにお願い申し上げます。

○議長（山瀬義也君）　ただいま森清孝君から発言中一部不穏当発言があるので、取り消しの申し出がありました。森清孝君の発言につきましては、後日会議録を調査し、不穏当発言等があった場合には善処したいと思います。

ほかに討論はありませんか。

森隆博君。

［登壇］

○２１番（森　隆博君）　議員提出議案の第２号につきまして、賛成のほうから討論を行います。

先ほどから反対討論の中にもいろいろ出ておりますが、議会改革の特別委員会のほうの問題は、やはり議員定数だけの問題でありまして、議員の報酬は報酬審議会が行うものでありまして、これはまた別の問題ではなかろうかなというふうに思うわけでありますが、まずは今回のこの職員から給与の削減等につきまして、５８号、５９号は、目的がやはり東日本大震災の復旧に向けた財源に充てるため、国からの要請といいますか、要求であったと思います。

そういうことで、私が一番心配しますのは、やはり菊池郡、合志、菊陽、大津、そういったところは完全に認めてきておるわけでありまして、やはり広域連合、また私たちの環境保全組合、養生園組合も、ここ一日、二日で全部定例会があり、また、その案件が提案されております。そういった中で、やっぱり賛否を問うていかにゃん部分もありますし、今回のこの議員の削減額といいますのは、期限は切ってありますけど、大体１０％、３万３，８００円ほどになります。その削減を行いますと、大体今の上天草市が５．８％だったですかね、議員の報酬の削減をやっております。その金額と同額ぐらいになってまいりますし、合志市が今もう５万７，０

００人近い人口になっておりまして、合志市が３０万３，０００円ぐらいの報酬額というようなこともあります。そういった面から考えますと、やはり菊池市の場合も１市２町１村で合併したわけでありますが、菊池市だけが市ということで報酬が高かったわけでありまして、あとの２町１村は本当に厳しい金額で町村議会の報酬でありました。そういうようなことから合志市も上げたいけど、なかなかまだ町の報酬から比較すると上げにくいということで大変だろうというようなことでありますし、また大津、菊陽につきましても、やはりそのような状況で続いております。ですから、やはりそういった一部事務組合を構成する中で、審議をする中においてもやはりこういった議員からの姿勢といいますか、そういったものをきちっと示しながら、やはりいろんな条件を取り込んでいくときだろうというふうに思いますので、私はこの報酬に関する条例については賛成といたします。

○議長（山瀬義也君）　ほかに討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　これで討論を終わります。

議員提出議案第２号は、討論がありましたので、起立により採決します。

お諮りします。議員提出議案第２号については、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（山瀬義也君）　賛成少数です。よって、議員提出議案２号は否決されました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

追加日程第２　意見書案第２号　環太平洋戦略的経済連携協定（ＴＰＰ）交渉参加の撤回を求める意見書

○議長（山瀬義也君）　次に、追加日程第２、意見書案第２号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

泉田栄一朗君。

［登壇］

○１０番（泉田栄一朗君）　それでは、意見書案第２号、環太平洋戦略的経済連携協定（ＴＰＰ）交渉参加の撤回を求める意見書でございます。

上記の意見書案を別紙のとおり、菊池市議会会議規則第１４条第２項の規定によって、経済建設常任委員会より提出をさせていただきます。

提案理由としまして、政府はＴＰＰ交渉参加を表明したものの国民に全容を説明せず、さまざまな立場から不安や懸念の声があがっている。とりわけ本市においては、農業を基幹産業としており農産物分野において、多大な損害が危惧されている。このような現状のまま交渉参加に突き進むべきではなく、地方の声を十分に把握し、

慎重に判断すべきである。

よって、ＴＰＰ問題での国民の不安に応えるため、交渉参加の撤回を強く求めるものであります。提出先及び意見書につきましては、お手元の資料に記載のとおりであります。議員各位におかれましては、意見書の趣旨にご賛同いただきますようお願い申し上げ、提案理由といたします。

以上でございます。

○議長（山瀬義也君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

意見書案第２号については、会議規則第３７条第２項の規定によって委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。

お諮りします。意見書案第２号については、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　異議なしと認めます。よって、意見書案第２号は原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

追加日程第３　報告第１９号　専決処分の報告について（公用車車両事故）

○議長（山瀬義也君）　次に、追加日程第３、報告第１９号を議題とします。

提出者の報告を求めます。

総務企画部長、野口祐成君。

［登壇］

○総務企画部長（野口祐成君）　議案追加その２の１６９ページをお願いいたします。

報告第１９号、専決処分の報告についてでございます。

地方自治法第１０８条第１項の規定に基づき、議会において指定されている事項について専決処分を行いましたので、報告するものでございます。

次の１７０ページをお願いいたします。

専決第１３号の専決処分書でございますが、車両事故による損害賠償額の決定について、専決処分を行ったものでございます。専決日は、平成２５年６月１４日でございます。

事故の発生日は、平成２５年４月３０日、相手方につきましては記載のとおりでございます。事故の概要は、公務で菊池市泗水町吉富の市道農高横線を走行中、その三差路において前方から右折してきた相手方車両の右フロントフェンダーに接触し、損害を与え、その過失割合により損害額を負担するものでございます。

損害賠償の額は、５万５，３３９円でございます。決定事項は記載のとおりでございます。

以上、報告第１９号の説明とさせていただきます。

○議長（山瀬義也君）　以上で報告を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（山瀬義也君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

以上をもって本日の議事日程は全部終了し、今定例会に付議されました事件は全て議了しました。

これをもちまして、平成２５年第２回菊池市議会定例会を閉会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

閉会　午後１時３４分

地方自治法第１２３条第２項の規定によりここに署名する。

菊池市議会議長　山　瀬　義　也

菊池市議会議員　水　上　彰　澄

菊池市議会議員　東　　英　俊

付　　録

平成２５年第２回定例会付議事件一覧及び審議結果表

（６月７日・６月２４日議決）

議案番号	件名	審議結果
議案第５２号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （平成２４年度菊池市一般会計補正予算　第１１号）	原案承認
議案第５３号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （平成２４年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算　第３号）	原案承認
議案第５４号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （平成２４年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算　第５号）	原案承認
議案第５５号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （菊池市税条例の一部を改正する条例）	原案承認
議案第５６号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （菊池市国民健康保険税の一部を改正する条例）	原案承認
議案第５７号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （和解及び損害賠償額の決定について）	原案承認
議案第５８号	菊池市長等の給与の特例に関する条例の制定について	原案否決
議案第５９号	菊池市一般職の職員の給与の特例に関する条例の制定について	原案否決
議案第６０号	菊池市総合計画策定条例の制定について	原案可決
議案第６１号	菊池市総合計画外部評価委員会条例の制定について	原案可決
議案第６２号	菊池市庁舎等整備市民検討委員会条例の制定について	原案可決
議案第６３号	菊池市特定用途制限地域における建築物等の制限に関する条例の制定について	原案可決
議案第６４号	菊池市行政、文化、教育拠点特別用途地区建築条例の制定について	原案可決
議案第６５号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第６６号	菊池市ひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第６７号	菊池市特別用途地区内の建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第６８号	菊池市立体育館条例及び菊池市営グラウンド条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決

議案番号	件　　名	審議結果
議案第６９号	平成２５年度菊池市一般会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第７０号	平成２５年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第７１号	平成２５年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第７２号	平成２５年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第７３号	平成２５年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第７４号	平成２５年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第７５号	平成２５年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第７６号	平成２５年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第７７号	平成２５年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第７８号	財産の譲渡について	原案可決
議案第７９号	工事請負契約の締結について	原案可決
議案第８０号	工事請負契約の締結について	原案可決
議案第８１号	副市長の選任につき同意を求めることについて	原案同意
議案第８２号	教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	原案同意
議案第８３号	教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	原案同意
議案第８４号	教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	原案同意
議案第８５号	監査委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意
議案第８６号	公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意
議案第８７号	固定資産評価員の選任につき同意を求めることについて	原案同意
議案第８８号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意

議員提出議案		
議員提出議案 第２号	菊池市議会議員の報酬の特例に関する条例の制定について	原案否決
議　　事		
議事第５号	選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙	各４人選挙
意　見　書　案		
意見書案第２号	環太平洋戦略的経済連携協定（ＴＰＰ）交渉参加の撤回を求める意見書	原案可決
報　　告		
報告第　４号	繰越明許費繰越計算書について	原案報告
報告第　５号	継続費繰越計算書について	原案報告
報告第　６号	専決処分の報告について（公用車車両事故）	原案報告
報告第　７号	専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）	原案報告
報告第　８号	専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）	原案報告
報告第　９号	専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）	原案報告
報告第１０号	専決処分の報告について（市道管理瑕疵）	原案報告
報告第１１号	菊池市土地開発公社経営状況報告について	原案報告
報告第１２号	有限会社きくち観光物産館経営状況報告について	原案報告
報告第１３号	有限会社ファームきくち経営状況報告について	原案報告
報告第１４号	有限会社七城町特産品センター経営状況報告について	原案報告
報告第１５号	有限会社七城町振興公社経営状況報告について	原案報告
報告第１６号	有限会社七城町銘柄米センター経営状況報告について	原案報告
報告第１７号	有限会社旭志村ふれあいセンター経営状況報告について	原案報告
報告第１８号	有限会社有朋の里泗水経営状況報告について	原案報告
報告第１９号	専決処分の報告について（公用車車両事故）	原案報告

菊 池 市 議 会 会 議 録
平成２５年第２回６月定例会

平成２５年８月発行

発行人　菊池市議会議長　山 瀬 義 也
編集人　菊池市議会事務局長　城　　主 一
作　成　株式会社アクセス
電　話 (096) 372-1010

菊 池 市 議 会 事 務 局

〒861-1392　菊池市隈府888
電　話　(0968) 25-2325